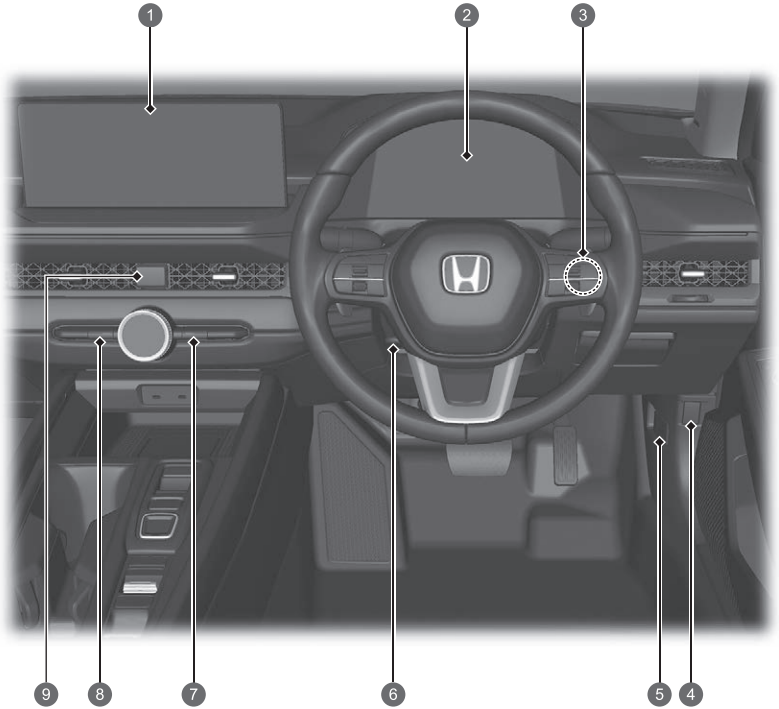
ACCORD

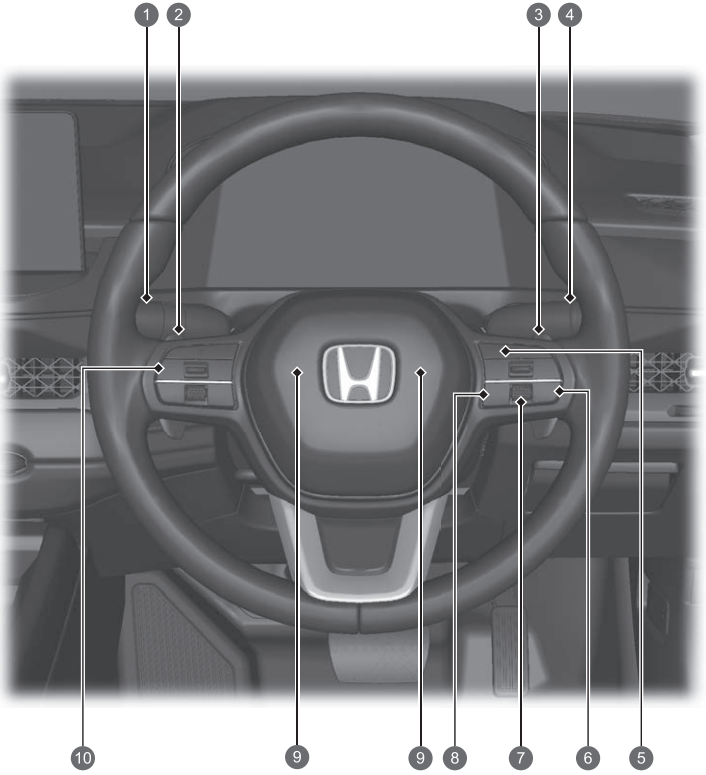
オーナーズマニュアル

クイックガイド
安全なドライブ
計器の見かた
各部の操作
オーディオ
運転
メンテナンス
万一の場合には
資料
索引

ビジュアル目次



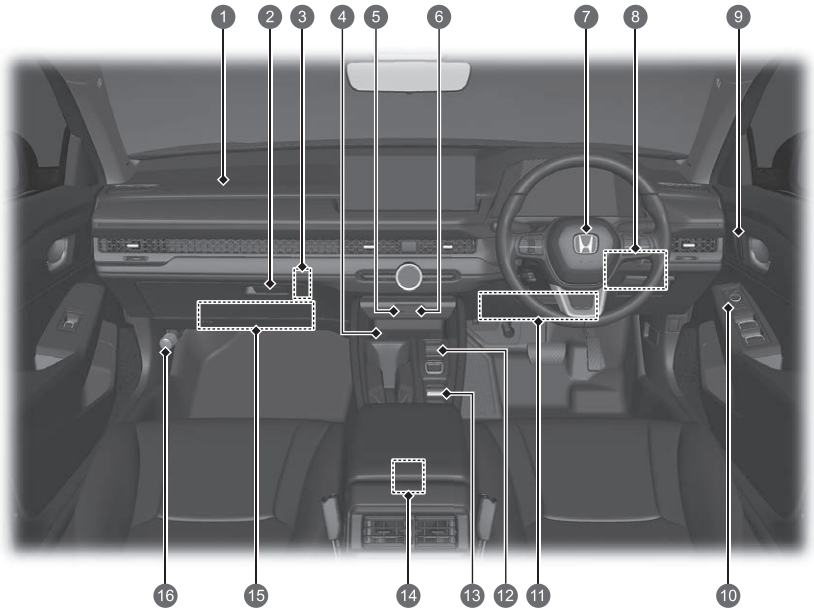
❶ ディスプレイオーディオ P. 221
オートエアコン P. 210
シートヒーター P. 207
❷ メーター P. 102
警告灯 P. 83
表示灯 P. 93
マルチインフォメーションディスプレイ P. 106
❸ POWER スイッチ P. 161
❹ トランクオープナー P. 153
❺ ボンネット解除ノブ P. 619
❻ ハンドル位置調節レバー P. 177
❼ リヤデフロスター/ ヒーテッドドアミラースイッチ P. 174
❽ デフロスタースイッチ P. 213
❾ 非常点滅表示灯（ハザードスイッチ）



❶ ワイパー/ ウォッシャースイッチ P. 172
マルチビューカメラシステム P. 574
❷ 減速セレクター(−) P. 355
❸ 減速セレクター(+) P. 355
❹ ライト /方向指示器(ウィンカー)スイッチ P. 163, 164
❺ 渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)スイッチ* P. 458
スイッチ* P. 458
❻ LKAS スイッチ* P. 493
スイッチ* P. 516
❼ ライトセレクターホイール P. 107
❽ ディスタンススイッチ P. 477
❾ ホーンスイッチ(周辺)
❿ オーディオリモートコントロールスイッチ P. 227
レフトセレクターホイール P. 129, 227
発話スイッチ P. 227

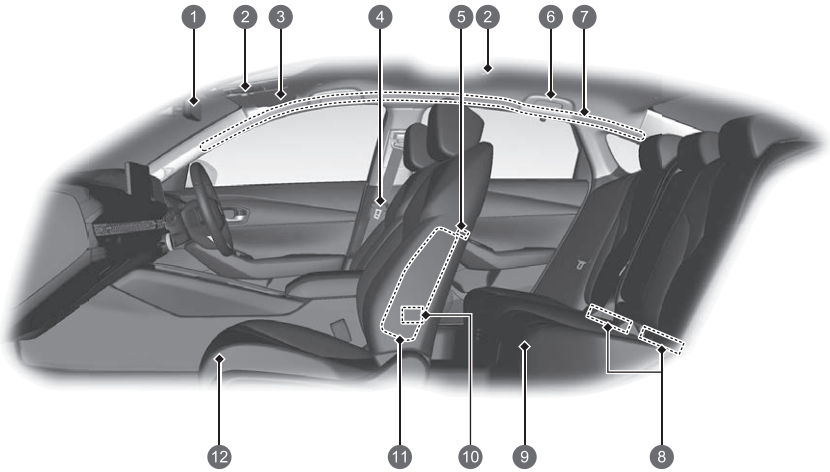
この「✤」はタイプやオプションなどにより、装備が異なる場合に付きます。

ビジュアル目次



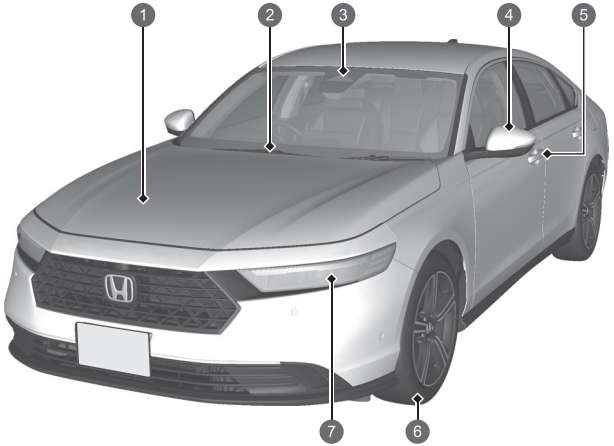
❶ SRS エアバッグシステム(助手席用) P. 46
❷ グローブボックス P. 194
❸ ETC 車載器※1
❹ ワイヤレス充電器 P. 203
❺ USB ジャック P. 226
❻ 充電用 USB ジャック P. 226
❼ SRS エアバッグシステム(運転席用) P. 46
❽ 室内運転席側のヒューズボックス P. 685
❾ メモリーボタン P. 175
セットボタン P. 175
❿ ドアミラー調節スイッチ P. 179
マスタードアロックスイッチ P. 148
パワーウィンドースイッチ P. 157
⓫ 運転席ニーエアバッグ P. 49
⓬ シフトポジションスイッチ P. 350
⓭ ドライブモードスイッチ P. 359
e ボタン P. 10
Honda パーキングパイロットスイッチ P. 587
パーキングブレーキスイッチ P. 550
オートマチックブレーキホールドスイッチ P. 555
⓮ アクセサリーソケット P. 202
⓯ 助手席ニーエアバッグ P. 49
⓰ 非常信号灯 P. 649

※1 : ETC 車載器については、別冊の取扱説明書をご覧ください。

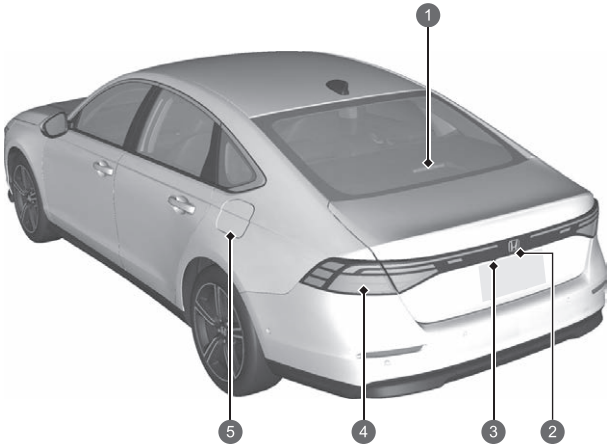


❶ ルームミラー P. 178
❷ 室内灯 / マップランプ P. 192, 193
❸ サンバイザー
バニティミラー
❹ シートベルト P. 39
❺ リヤシートヒータースイッチ P. 208
❻ グラブレール
コートフック P. 198
❼ サイドカーテンエアバッグシステム P. 55
❽ ISOFIX/i-Size 取付装置 P. 72
❾ リヤシート P. 186
❿ 充電用 USB ジャック P. 226
⓫ サイドエアバッグシステム P. 52
⓬ フロントシート P. 182

ビジュアル目次



1. エンジンルーム内のメンテナンス P. 618
2. ワイパー P. 172, 625
3. フロントセンサーカメラ P. 545
4. ドアミラー P. 179
   ドアミラーウィンカー P. 163, 623
5. ドアの施錠 / 解錠 P. 135
6. タイヤ P. 628, 650
7. ヘッドライト P. 164, 623
   デイタイムランニングライト / 車幅灯 P. 164, 166, 623
   ウィンカー P. 163, 623
   アクティブコーナリングライト P. 167, 623



1. ハイマウントストップランプ P. 624
2. トランクの開閉 P. 152
   番号灯 P. 164, 624
3. マルチビューカメラシステム P. 574
4. 制動灯 P. 624
   尾灯 P. 164, 624
   ウィンカー P. 163, 624
   後退灯 P. 624
5. 給油のしかた P. 611

Honda Total Care プレミアム

Honda CONNECT を搭載したクルマと緊急サポートセンターやスマートフォンがつながることで、お客様のカーライフがさらに安心・ストレスフリーになるコネクテッドサービスを受けることができます。ご利用になるにはお申込み・ご契約が必要です。Honda Total Care プレミアムの詳しいサービスの内容、およびご契約については Honda Total Care プレミアムのホームページをご覧ください。
https://www.honda.co.jp/hondatotalcare/premium/

また、本書では、Honda Total Care プレミアムのサービスをご利用されるうえで、車両側の特有部分について説明があります。サービスをご利用になる際は、ホームページの詳細説明とともに本書の内容もご参照ください。
サービス内容並びに仕様について予告なく変更、または終了することがあります。

■車両特有部分について

●緊急通報 P. 693
●トラブルサポート P. 695

e:HEV

e:HEV 車は、モーターとガソリンエンジンを搭載しており、その両方を動力源として使用します。そして、モーターは高電圧バッテリーやジェネレーター(発電機モーター)から供給された電気により駆動します。高電圧バッテリーは、エンジンとジェネレーターによる発電、または回生ブレーキにより充電されます。充電された程度に応じて、電力のみで走行することができます。

モーター、ガソリンエンジン、ハイブリッド(モーターとエンジン)による走行の、合計 3 種類の走行状態があります。どのような運転が適切かをシステムが判断し、走行状態を自動的に選択します。さらに e ボタンを使って、手動で EV 走行に切り換えることができます。

- **エネルギー効率について**

通常のガソリンエンジン搭載車と同じように、この車の燃費や航続可能距離は、運転のしかたによって大きく左右されます。急加速や高速で走行すると、動力源がエンジンへ切り換わりやすくなります。また暖房負荷や冷房負荷が高いとき、航続可能距離が短くなります。いずれの場合も高電圧バッテリーの残量は早く低下します。

- **バッテリーのタイプ**

2種類のバッテリーが装備されています。エアバッグ、ライト類や電気アクセサリーを使用するための12Vバッテリーと、モーターの駆動と12Vバッテリーを充電する高電圧バッテリーです。

■ハイブリッド車について

高電圧部位や高電圧配線部は電磁シールド構造になっています。
従来の車や家電製品と比べて電磁波が多いということはありません。

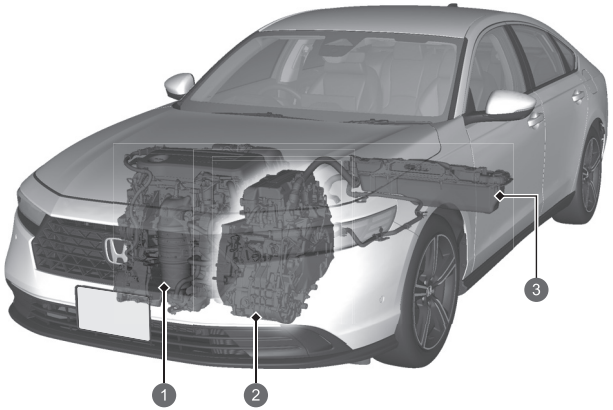
e:HEV の構成部品

エンジン – ジェネレーターを回します。状況によっては車軸を直接駆動することもあります。

ジェネレーター – エンジンを始動します。エンジンが作動中はジェネレーターで発電してモーターに電力を供給したり、高電圧バッテリーを充電します。

モーター – 車軸を直接駆動します(状況によってはエンジンと連動します)。また回生ブレーキで得た電気を高電圧バッテリーへ供給します。

高電圧バッテリー – 電気をためておき、モーターに電気を供給します。
高電圧バッテリーの特性を理解しておくことが、EV 走行の距離を伸ばすことにつながります。P. 373



❶ エンジン
❷ ジェネレーターとモーター
❸ 高電圧バッテリー



走行モード	EV 走行	ハイブリッド走行	エンジン走行（直接駆動）	回生
走行状態	停車中または低速走行中 • モーターの動力のみで走行	走行中かつ強い負荷がかかっているとき（加速中や登坂中など） • モーターの動力で走行 • エンジンが作動してジェネレーターを回し、電気を供給することでモーター駆動を補助、または高電圧バッテリーを充電します。	高速走行中かつ負荷が少ないとき • 主にエンジンの動力で走行 • 高電圧バッテリーからの電力供給によりモーターアシストします。また、モーターを発電機として作動させ高電圧バッテリーを充電します。	減速中かつアクセルペダルも操作していないとき • モーターが回生ブレーキで得た電気を高電圧バッテリーへ供給します。
パワーフローモニター				
モーター	停止 / 作動	作動	発電 / 作動	回生
ジェネレーター	停止	発電	出力なし	停止 / 出力なし
エンジン	停止	作動	作動	停止 / 出力なし
高電圧バッテリー	放電	充電 / 放電	充電 / 放電	充電

• **ハイブリッド車特有の音について**

パワーシステム起動時や走行中に、次のような音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

聞こえるとき	状況
エンジンの始動・停止時	トランスミッションの作動音が車両前方から聞こえます。
加速時	モーター作動音、エンジン作動音がエンジンルーム内から聞こえます。
減速時	エネルギーを回生するために、モーター回生動作音がエンジンルーム内から聞こえます。 また、低速走行でブレーキを踏んだときやブレーキシステムが切り換わるときにブレーキ装置から、音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
エアコン、ヒーター作動時	コンプレッサーやヒーターシステムの作動音がエンジンルーム内から聞こえます。

e ボタン

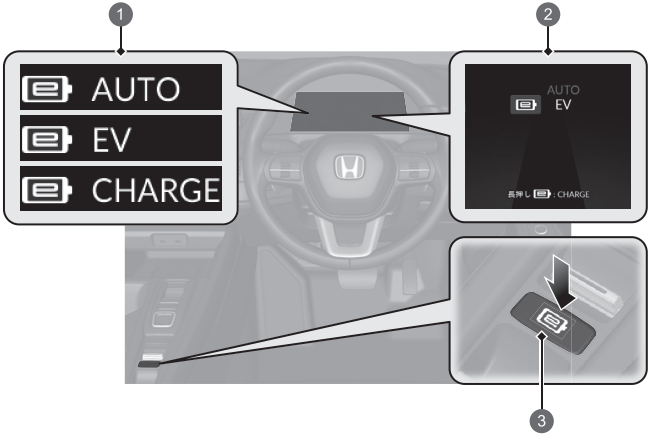
AUTO モード

モーター、エンジン、またはハイブリッド(モーターとエンジン)の走行モードがあります。どの走行モードでの走行が適切かをシステムが判断し、走行モードを自動的に選択します。

EV モード

EV モードにすると、EV 走行になりモーターの動力のみで走行します。
e ボタンを押して EV モードを選択すると、EV モードになり EV モード表示灯が点灯します。もう一度、e ボタンを押して AUTO モードを選択すると AUTO モード表示灯が点灯します。

走行状態や車両状態によっては、EV モードが自動的に解除されたり、e ボタンを押しても、EV モードを選択できないことがあります。
このとき、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、ブザーが鳴ります。



❶ AUTO/EV/CHARGE モード表示灯
❷ マルチインフォメーションディスプレイ
❸ e ボタン

CHARGE モード

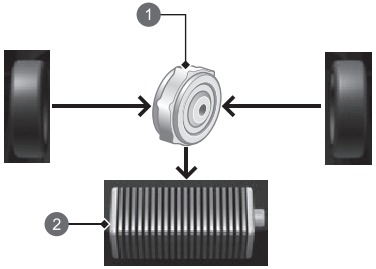
CHARGE モードにするとエンジンが始動し、高電圧バッテリーが充電されます。
e ボタンを長押しすると、CHARGE モードになり CHARGE モード表示灯が点灯します。もう一度、e ボタンを長押しすると AUTO モードが選択され AUTO モード表示灯が点灯します。e ボタンを押すとモード選択ができ、選択されたモードに切り替わると選択されたモードの表示灯が点灯します。

走行状態や車両状態によっては、CHARGE モードが自動的に解除されたり、e ボタンを長押ししても、CHARGE モードを選択できないことがあります。
このとき、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、ブザーが鳴ります。

回生エネルギーと回生ブレーキ

減速時または下り坂では、モーターは発電機として働き、加速時に使った電気を取り戻します。
この回生ブレーキ機能は、エンジンブレーキと同じような働きをし、減速セレクターを操作して、減速の強さを変更できます。

回生ブレーキが作動しているとき



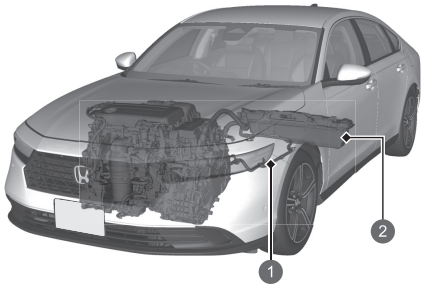
❶ モーター
❷ 高電圧バッテリー

エンジンは自動で停止 / 始動します

エンジンが自動的に始動や停止します。そのため、停車時にエンジンが停止状態から始動することがあります。特に、次のようなときは、エンジンが自動的に停止しないことがあります。

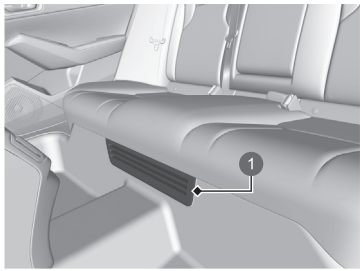
- 急加速、登坂、高速走行時など、瞬間的に駆動力が足りず補助が必要なとき
- 暖房負荷や冷房負荷が高いとき
- 高電圧バッテリーの温度が高いとき、または低いとき
- 高電圧バッテリーの充電状態が非常に低いとき

ご使用時の注意



❶ 配線
❷ 高電圧バッテリー

冷却風取り入れ口をふさがない



❶ 冷却風取り入れ口

冷却風取り入れ口がふさがれると高電圧バッテリーの温度が上昇するおそれがあります。高電圧バッテリーを保護するために出力が制限され、パワーシステム警告灯や 12V バッテリー充電警告灯が点灯することがあります。

高電圧システムには触れない

高電圧システムを分解や配線取り外しなどを行うと感電するおそれがあります。点検・修理は、必ず Honda 販売店にご相談ください。

事故が起きたとき

●感電に注意する
▶車体が大きく破損・変形するような事故が起きたときは、感電するおそれがあります。高電圧部位やそれらを接続する配線(オレンジ色)には、絶対に触れないでください。

●高電圧バッテリー液に触れない
▶高電圧バッテリー液がもれているときは、バッテリー液が目や皮膚に付くとその部分が侵されますので、十分に注意してください。万一付着したときは、すぐに清浄な水で数分間洗浄した後、ただちに医師の診察を受けてください。

●火災が発生したら電気火災用消火器を使用する
▶少量の水での消火は、かえって危険な場合がありますので、水はかけないでください。

●Honda 販売店で修理を受ける
▶車体が損傷を受けたときは、必ず Honda 販売店で修理を受けてください。

高電圧遮断システム

事故などにより車体が衝撃を受けたときに、高電圧遮断システムが作動する場合があります。システムが作動すると、高電圧システムが自動的に OFF になり、走行可能状態になりません。高電圧システムを再始動するには、指定の Honda 販売店にご連絡ください。

高電圧バッテリーは、リチウムイオンバッテリーを使用しています。廃棄処分については特別な取り扱いが必要です。廃車するときは、Honda 販売店にご相談ください。

安全なドライブ P. 36

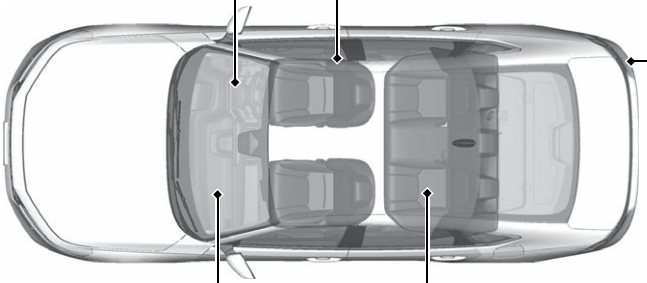


●正しい運転姿勢でシートベルトを着用してください。
●同乗者にも必ずシートベルトを着用させます。
●妊娠中のかたは腹部を圧迫しないようにシートベルトを着用してください。

運転を始める前の確認 P. 37

●運転前にフロントシートの位置、ヘッドレスト、ハンドルの位置、ミラー類の角度を調節します。

シートベルト P. 39



排気ガスについて P. 79

●車の排気ガスには有害な一酸化炭素が含まれているため、ガレージなどの密閉された場所ではパワーシステムを起動しないでください。

お子さまの安全 P. 62

●シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。



エアバッグ P. 46

●万一の衝突の際に、乗員への衝撃を緩和するために、エアバッグが装備されています。

計器の見かた P. 80

警告灯 P. 83 / 表示灯 P. 93 / メーター P. 102 / マルチインフォメーションディスプレイ P. 106 / ヘッドアップディスプレイ P. 122

●メーターデザインを変更することができます。
メーターデザイン P. 121



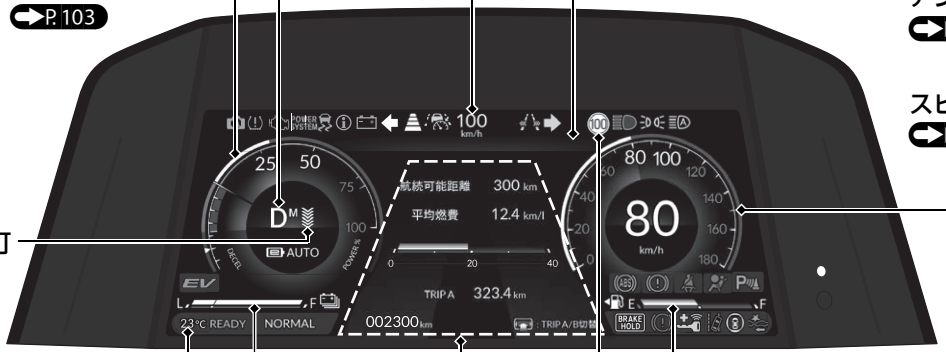
ヘッドアップディスプレイ P. 122

シフトポジション表示灯 P. 94
（トランスミッション警告灯 P. 85）

渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール（ACC）設定車速表示 P. 105

パワー表示（POWER） P. 102
チャージメーター表示（CHARGE）/
減速度表示（DECEL） P. 103

アンビエントメーター P. 103



スピードメーター P. 102

減速セレクター表示灯 P. 94

外気温表示 P. 104

燃料計 P. 102

高電圧バッテリー残量計 P. 103

標識認識機能表示 P. 104

マルチインフォメーションディスプレイ P. 106

各部の操作 P. 132

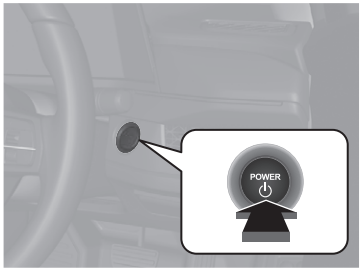
時刻を合わせる P. 133



人工衛星からの情報を利用していますので、時刻合わせは不要です。

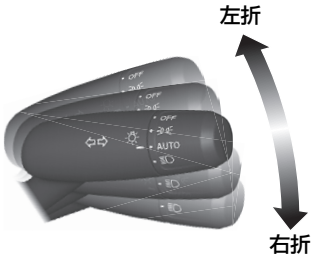
POWER スイッチ P. 161

スイッチを押すと、パワーモードが切り換わります。



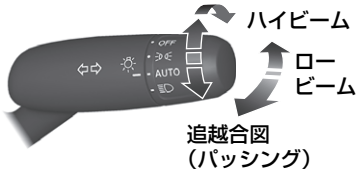
ウィンカー P. 163

方向指示器(ウィンカー)スイッチ



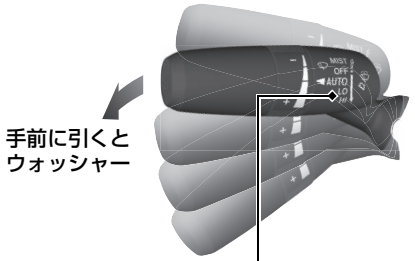
ライト P. 164

ライトスイッチ



ワイパー P. 172

ワイパー/ ウォッシャースイッチ

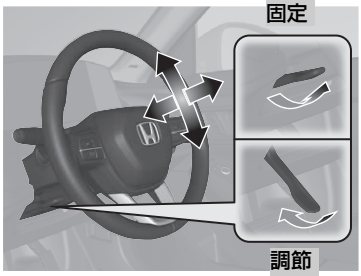


- OFF　停止
- AUTO　自動作動
- LO　低速
- HI　高速

ハンドル位置の調節

P. 177

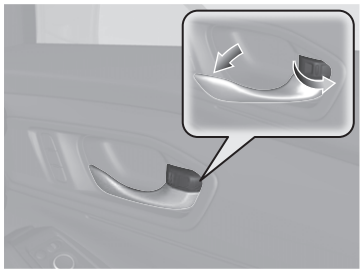
●ハンドル位置調節レバーを押し下げ、ハンドルの位置を調節します。



運転席ドアハンドルでの解錠

P. 147

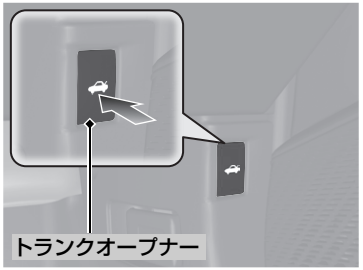
●運転席ドアは、内側のハンドルを引くと施錠していてもドアが開きます。



トランク

P. 152

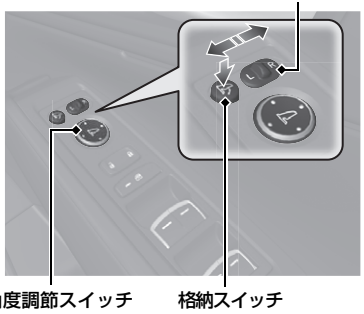
●トランクは、トランクオープナーを押すか、Honda スマートキーのトランク解錠ボタン、トランクオープンスイッチを押して開きます。



ドアミラー

P. 179

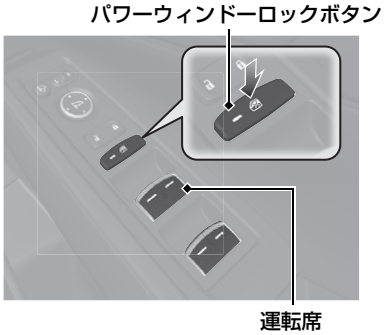
●パワーモードが ON モードのとき、左右のドアミラーの格納または角度の調節ができます。



パワーウィンドー

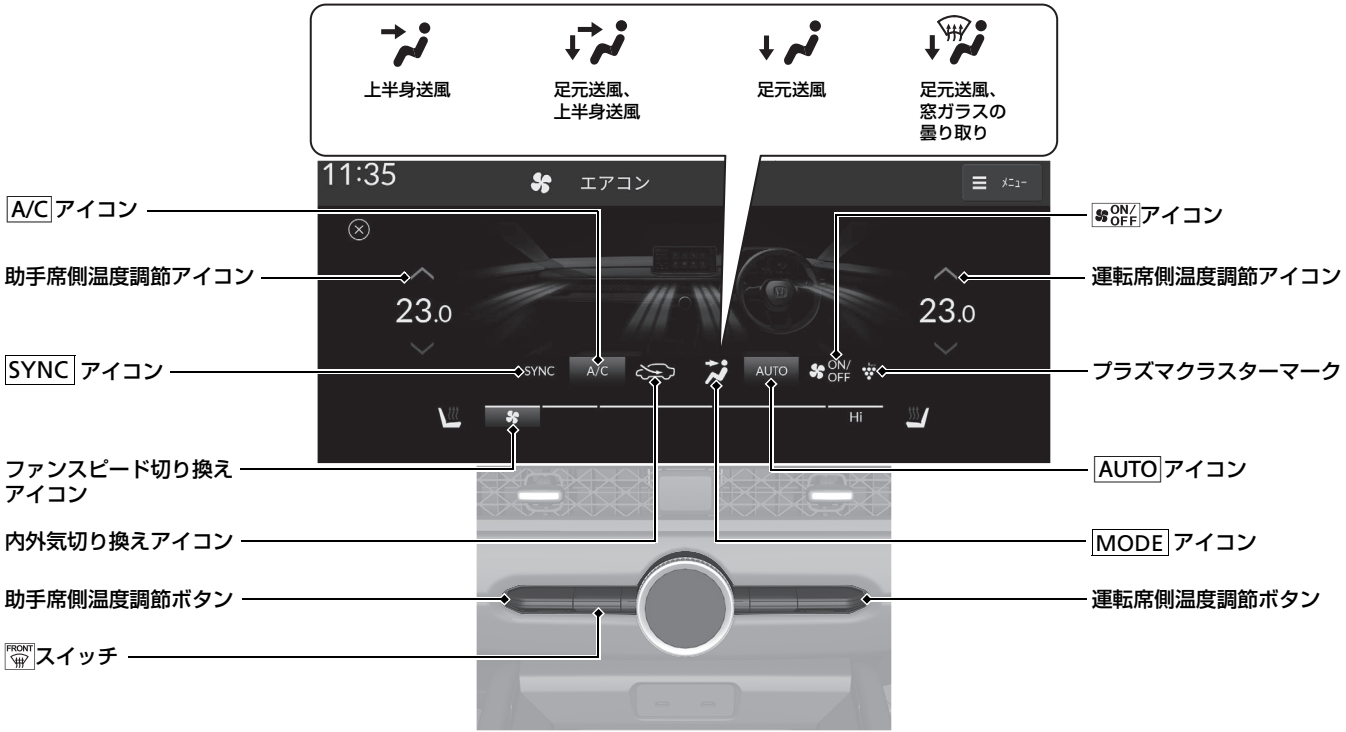
P. 157

●パワーモードが ON モードのとき、ウィンドーの開閉ができます。
●パワーウィンドーロックボタンが OFF のとき、全てのウィンドーが操作できます。
●パワーウィンドーロックボタンが ON のとき、 運転席以外のウィンドーが非作動になります。



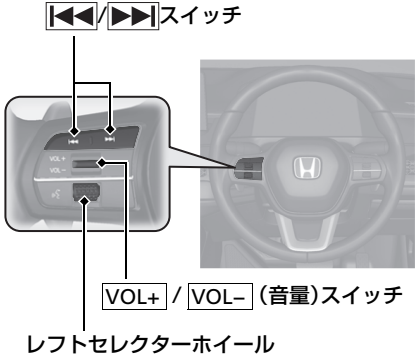
エアコン P. 209

●AUTOを押すと、オートエアコンが作動します。
●ON/OFFを押すと、止まります。
●前面ガラスの曇りを取るには、FRONTを押します。



オーディオ P. 219

オーディオリモートコントロールスイッチ P. 227



●VOL+ / VOL– (音量)スイッチ
上下に押す事で音量の調整を行います。

●|◀◀/▶▶|スイッチ
FM/AM、テレビ視聴時
|◀◀/▶▶|スイッチを押す：プリセットされている放送局を変更します。
FM/AM 視聴時
|◀◀/▶▶|スイッチを長押しする：前後の放送局へ自動選局を開始します。
USB デバイス、Bluetooth® オーディオ、有線接続による音楽再生時
▶▶|スイッチを押す：次の曲へスキップします。
|◀◀スイッチを押す：現在、または前の曲の先頭に戻ります。
USB デバイス再生時
|◀◀/▶▶|スイッチを長押しする：前後のフォルダーへスキップします。
Bluetooth® オーディオ、有線接続による音楽再生時
|◀◀/▶▶|スイッチを長押しする：早戻し / 早送りをします。

●レフトセレクターホイール
上下に回すことで、再生ソースを選択し、再生ソースを切り替えることができます。
▶以下の順でソースを切り替えられます。
戻る > **電話** > **FM** > **AM** > **交通情報** > **USB** > **Bluetooth** > **Apple CarPlay** > **Android Auto** > **TV** > **表示設定**

ディスプレイオーディオ P. 221



システムアップデートについて

本システムのソフトウェア更新が利用可能になると、メーターまたはディスプレイオーディオ画面に通知が表示されます。ディスプレイオーディオ画面での更新を実行する手順は、当取扱説明書に記載されています。その他のアップデート方法については、Honda 販売店にお問い合わせください。システムアップデートにより仕様が変更された場合、当取扱説明書に記載されている内容と一部異なる場合があります。

■実行手順

➔ システムアップデート ➔P. 241

運転 P. 338

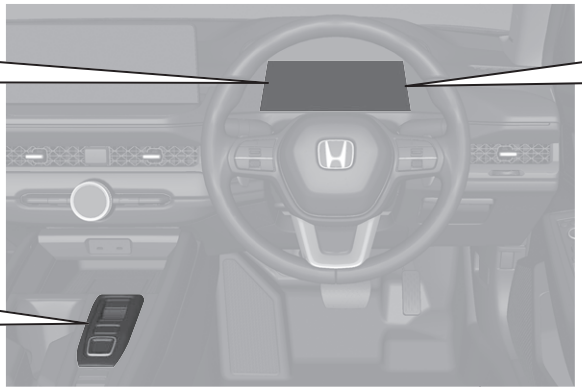
電子制御シフトポジションスイッチ P. 350

●パーキングスイッチを押し、ブレーキを踏みながらパワーシステムを起動します。

シフトポジションの選択

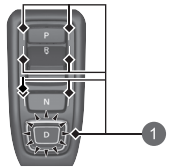
シフトポジション表示灯
選択されたシフトポジションが表示されます。

D

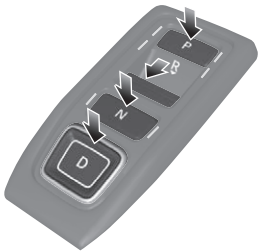


READY 表示灯
点灯時は走行可能です。

READY



❶ シフトポジション表示



P パーキング
駐車またはパワーシステムを起動するとき

R リバース
車を後退

N ニュートラル
駆動力が伝達されない状態

D ドライブ
通常走行

- 一時的に減速セレクターを使用するとき
- 減速セレクターを使用するとき（SPORT モード走行時）

減速セレクター P. 355

ハンドルにあるセレクターで、アクセルペダルを離したときの減速の強さをハンドルから手を離さずに、6 段階で変更できます。

減速セレクターを一時的に使うとき

●SPORT モード以外のときにセレクターを引くと、減速の強さが表示され、一時的に減速セレクターを使用できます。

減速セレクターを固定して使うとき

●M が表示されているときは、減速セレクターの状態に固定されます。
－のセレクターを引き続けるか、ドライブモードを SPORT モードにすると M が表示されます。
M を消灯させるには、ドライブモードを SPORT モード以外にするか、SPORT モード以外のときに M が表示されている場合は、＋のセレクターを引き続けてください。



－のセレクター

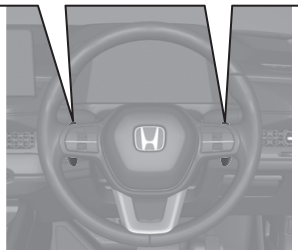


＋のセレクター

減速セレクター表示灯



減速の強さ



CMBS の ON と OFF

P. 389

- CMBS は、運転者のブレーキ操作を支援し、衝突回避を支援したり衝突被害の軽減を支援したりするシステムです。
- パワーシステムを起動すると自動的に CMBS は ON になります。
- CMBS の ON と OFF を切り換えるには、マルチインフォメーションディスプレイの安全支援情報を使用します。

安全支援情報 P. 116

VSA の ON と OFF

P. 367

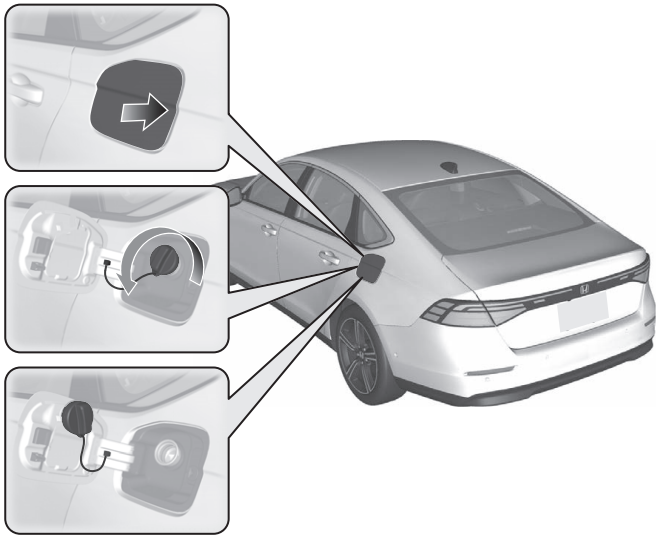
- VSA とは、急激な車両の挙動変化を抑制しようとする装置です。
- パワーシステムを起動すると自動的に VSA は ON になります。
- VSA を停止(OFF)状態にするには、マルチインフォメーションディスプレイの VSA モード設定を使用します。

VSA モード設定 P. 119

ガソリンを入れる P. 611

指定燃料：	無鉛レギュラーガソリン レギュラーバイオ混合ガソリン(E10/ETBE22)
タンク容量：	48 リットル

1. 運転席ドアを解錠する。P. 147
2. フューエルリッドの右端を「カチッ」と音がするまで押し、手を離すとリッドが少し浮き上がる。
3. リッドを開けて、ツマミをゆっくり回し、キャップを開ける。
4. キャップをホルダーにかける。



Honda SENSING 360*/Honda SENSING 360+* P. 374

衝突被害の軽減、衝突事故の回避、運転者の負担を軽減するために、運転者のアクセル・ブレーキ・ハンドル操作などを支援します。

Honda SENSING 360*/Honda SENSING 360+* には、次の機能があります。

衝突軽減ブレーキ（CMBS） P. 384

自車が、前方の車両（二輪車含む）のほぼ真後ろから追突するおそれがあるときや、対向車両に正面から衝突するおそれがあるとき、前方の交差車両に衝突するおそれがあるとき、歩行者および人が乗車し移動している自転車（移動する自転車）に衝突するおそれがあるときに運転者に警告したり、運転者のブレーキ操作の支援や、衝突回避の支援、衝突被害の軽減を支援したりするシステムです。

踏み間違い衝突軽減システム P. 398

踏み間違い衝突軽減システムは近距離衝突軽減ブレーキ、誤発進抑制機能、後方誤発進抑制機能の 3 つの機能を持ったシステムです。フロントおよびリヤバンパーに設置してあるソナーセンサーによって、自車が、壁などの障害物に衝突するおそれがある場合のブレーキ制御や壁などの障害物があるにもかかわらずアクセルペダルを必要以上に強く踏み込んだ場合のパワーシステムの出力抑制により、衝突回避を支援したり衝突被害の軽減を支援したりするシステムです。

急アクセル抑制機能*

P. 404

アクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる急加速を抑制するとともに、音と表示で知らせる運転支援機能です。

前方交差車両警報 P. 409

レーダーセンサーやセンサーカメラにより前方で交差する車両の接近を運転者に知らせる機能です。

Honda SENSING 360+ 装備車

カーブ路外逸脱早期警報

P. 415

高速道路や自動車専用道（一部を除く）で自車が高車速でカーブに進入するおそれがあるときに、運転者のブレーキ操作を促すシステムです。

路外逸脱抑制機能 P. 421

システムが車両の車線逸脱、草、砂利などの道路境界や対向車両への接近の可能性を検知すると、路外逸脱を回避するように運転を支援し警告で知らせる機能です。

歩行者事故低減ステアリング P. 430

歩行者と白線（黄線）を検出し、ステアリング操作を支援することにより運転者の衝突回避操作を促します。

車線変更時衝突抑制機能

P. 438

車線変更などの操作時に後方の側方車両との衝突のおそれがあるとき、表示と警報音で運転者の操作を促し、ハンドル操作を支援する機能です。

Honda SENSING 360+ 装備車

降車時車両接近警報

P. 446

駐停車中に自車側方を通過する車両がいることを知らせ、降車を支援するシステムです。

渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)

P. 456

先行車との車間距離を測定して、高速道路の渋滞時に適切な加減速を行い、設定車間距離を保持しながら、運転者がアクセルやブレーキを操作せずに走行、停車出来るよう支援するシステムです。

車線維持支援システム(LKAS)

P. 489

左右の白線(黄線)をとらえ、電動パワーステアリングの動きをアシストし、車線維持走行を補助するためのシステムです。

トラフィックジャムアシスト(渋滞運転支援機能)

P. 503

左右の白線(黄線)をとらえ、車線の中央を走行するようにハンドル操作をアシストし、渋滞時に車線維持走行を補助するための機能です。

Honda SENSING 360+ 装備車

ハンズオフ機能付高度車線内運転支援機能

P. 512

高速道路や自動車専用道本線上で渋滞追従機能付 ACC、LKAS が作動しているときに、高精度地図や全球測位衛星システム GNSS、各種センサーの情報を用いてシステムが自車の位置を特定すると高度な車線内運転を支援します。

Honda SENSING 360+ 装備車

レコメンド型車線変更支援機能

P. 515

高速道路や自動車専用道本線上で、ハンズオフ機能付車線内運転支援が作動している場合、前方の遅い車両や後方から速い車両が接近すると、システムが車線変更のタイミングを通知します。車線変更時には、方向指示器(ウィンカー)点滅・加減速・ハンドル操作を支援します。

車線変更支援機能

P. 522

高速道路や自動車専用道(一部を除く)で、方向指示器(ウィンカースイッチ)を操作すると車線変更に伴なうハンドル操作を支援します。

先行車発進お知らせ機能

P. 530

信号待ちなどで、先行車が発進したことに気づかず停止し続けたときに、音と表示で運転者に知らせるシステムです。

標識認識機能

P. 534

走行中に認識した道路標識情報をメーターとヘッドアップディスプレイに表示し、運転者にお知らせする機能です。

Honda SENSING 360+ 装備車

ドライバー異常時対応システム

P. 540

ドライバー異常時対応システムは、運転者の体調急変等により運転を継続することができないと判断した場合に車線逸脱と加速を抑制して減速・停車させるシステムです。

アダプティブドライビングビーム

P. 169

夜間走行時にフロントセンサーカメラで前方車両のライトや街灯などを検知し、状況に応じてハイビームとロービームが自動で切り換わります。また、先行車や対向車への眩惑を軽減するため、ハイビームの配光が自動で調整されます。

ブラインドスポットインフォメーション P. 369

隣接する車線後方に他の車両が走行していることを知らせ、運転者の車線変更などの操作の際の負担を軽減するシステムです。

パーキングセンサーシステム P. 565

車両前方のフロントセンターセンサーおよびフロントコーナーセンサーと車両側面のサイドセンサーと車両後方のリヤセンターセンサーおよびリヤコーナーセンサーが障害物を検知し、障害物と車両の距離を警報音と表示で知らせます。

後退出庫サポート P. 570

駐車場などから後退で出庫するときに、リヤバンパー左右にあるレーダーにより車両後方の左右から接近する他の車両を検知し、運転者に知らせる機能です。

Honda パーキングパイロット P. 587

駐車や出庫で運転を支援するシステムです。カメラおよびソナーによって駐車スペースの検知、駐車や出庫するための経路生成を行います。 また、駐車や出庫の際の加減速、ハンドル操作やシフトチェンジ操作を支援します。

Honda SENSING 360 装備車

ドライバー注意力モニター P. 450

運転者のハンドル操作に応じて居眠り運転や不注意運転を検知します。システムが検知したハンドル操作に応じて、マルチインフォメーションディスプレイ内に運転者の注意力レベルを表示します。

Honda SENSING 360+ 装備車

ドライバー注意力モニター P. 454

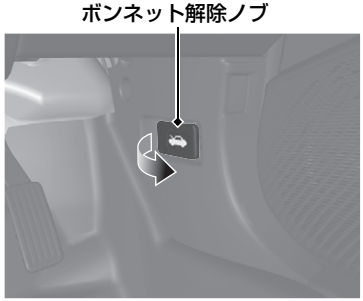
ドライバーモニタリングカメラが運転者の運転状態を検知し、状態に応じてメーターに休憩や注意を促します。

メンテナンス P. 614

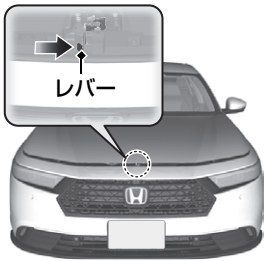
エンジンルーム P. 618

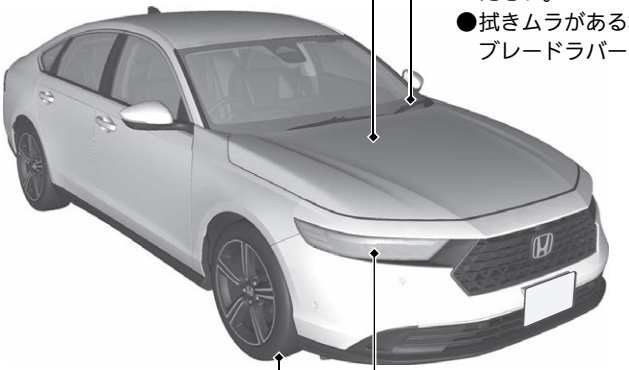
●冷却水、ウォッシャー液の補給を行います。
●12V バッテリーを点検します。

❶ 運転席足元のボンネット解除ノブを引く。



❷ ボンネットのレバーを右に押してロック機構を解除し、ボンネットを開ける。





ワイパーブレード

P. 625

●フロントワイパーアームを起こす場合は、ワイパーアームをメンテナンスポジションにセットしてください。
●拭きムラがある場合は、ワイパーブレードラバーを交換します。

タイヤ P. 628

●タイヤ、ホイールを点検します。
●降雪地域では、スノータイヤが必要です。

ライト P. 623

●ヘッドライト電球などの点検、交換はHonda 販売店に依頼してください。
●ヒューズの交換については、「万一の場合には」を参照してください。

万一の場合には P. 647

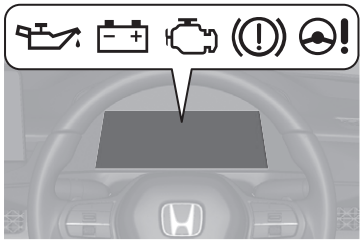
パンクした P. 650

●安全な場所に停車し、パンク修理キットで応急修理します。



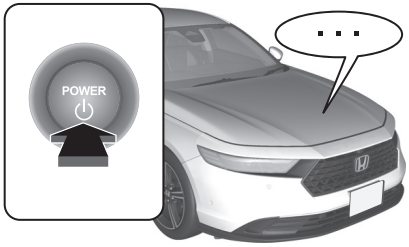
警告灯が点灯した P. 676

●詳細を確認し、取扱説明書にしたがってください。



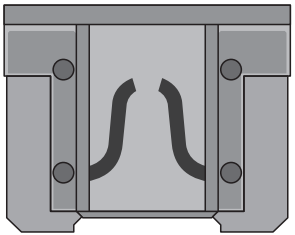
パワーシステムが起動しない P. 665

●12V バッテリーあがりが考えられます。救援車のバッテリーを利用してパワーシステムを起動します。



ヒューズが切れた P. 683

●室内とエンジンルーム内にヒューズボックスがあります。切れているヒューズを取り換えます。



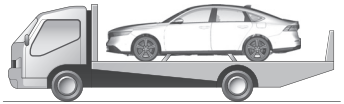
オーバーヒートした P. 673

●安全な場所に停車し、蒸気が出ていなければボンネットを開けてください。



けん引してもらいたい P. 690

●必ず専門業者に依頼してください。



こんなときは

Q ブレーキペダルを踏んだら ガタガタと振動した

A

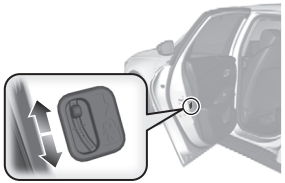
- ブレーキペダルを踏んだとき、ペダルが小刻みに動くことがあります。
  これは ABS が作動しているときの現象で異常ではありません。
  そのまま、ブレーキペダルを強く踏み続けてください。

ABS(アンチロックブレーキシステム) P.559

Q 後席ドアが車内から開けられない

A

- チャイルドプルーフが施錠の位置になっていませんか？
  後席ドアを外から開け、チャイルドプルーフのレバーを解錠の位置にしてください。



Q ドアを解錠したはずなのに施錠されている

A

- Honda スマートキーシステムで解錠してから、約 30 秒以内にドアを開けなかった場合は、自動的に再度施錠されます。



Q 運転席ドアを開けるとブザーが鳴る	**A** • パワーモードをアクセサリー モードにしていませんか？ • ライトを消し忘れていませんか？
Q ドアを閉めた後、車から離れるとブザーが鳴る	**A** • ドアが閉まりきる前に降車時オートドアロックの作動範囲から離れていませんか？ ➔ 施錠するには（降車時オートドアロック機能） P. 141
Q 走行するとブザーが鳴る	**A** • 運転席または助手席シートベルトを着用していますか？
Q パーキングブレーキスイッチを押してもパーキングブレーキが解除できない	**A** • ブレーキペダルを踏んでスイッチを操作していますか？
Q アクセルペダルを踏んでもパーキングブレーキが自動で解除できない	**A** • 運転席シートベルトを着用していますか？ • シフトポジションがP、N以外になっていますか？
Q 車を後退させるとき、後方を確認するために運転席ドアを開けるとシフトポジションがPになって車が停止した	**A** • 運転席シートベルトを着用していますか？ 運転席ドアを閉めて、改めてシフト操作を行ってください。 ➔ 自動パーキング選択制御 P. 353

Q 走行中にブレーキを踏むと金属的な摩擦音がする	**A** • ブレーキパッドが摩耗して使用限界になっているおそれがあります。Honda 販売店で点検を受けてください。
Q レギュラーガソリン仕様車にプレミアム(ハイオク)ガソリンを使用しても大丈夫ですか？	**A** • プレミアムガソリンをお使いになることもできますが、この場合、本来のエンジン性能が大きく変わることはありません。

安全に関する表示

「運転者や他の人が傷害を受ける可能性のあること」を回避方法と共に、下記の表示で記載しています。これらは重要ですので、しっかりお読みください。

⚠危険	指示にしたがわないと、死亡または重大な傷害に至るもの
⚠警告	指示にしたがわないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの
⚠注意	指示にしたがわないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

下記の表示を使って記載しています。

アドバイス
お車が故障や破損することを防ぐためのアドバイスや、環境への配慮のために守っていただきたいこと。

車両データの記録

■車両データの記録について

この車には、車両の操作や制御、車両に搭載された各機能の作動履歴などに関するデータを記録する機能が装備されています。
各機能の作動時や操作状況により、主に次のようなデータを記録します(車内の映像や音声は記録しません。)。

- 車両の状態(車速など)
- 運転状態(アクセル、ブレーキ、ステアリング等の操作状況)
- SRS エアバッグシステムの作動状況
- 衝突軽減ブレーキ作動時の前方カメラ画像
- 車両の故障診断情報

■データの取り扱いについて

Honda および Honda が委託した第三者は、記録されたデータを、不具合解析のための技術的診断や、Honda の車両の研究開発、品質向上のために、取得し利用することがあります。

Honda は、取得したデータを、以下の場合を除き、第三者に開示または提供することはありません。

- お車の使用者の同意(リース車、レンタカーの場合は借主の同意)がある場合
- 警察、裁判所、政府機関等からの、法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行う等、所有者や使用者、お車が特定できないように加工したデータを、研究機関等に提供する場合

ワイヤレスによるシステムアップデートについて

この車のアプリケーションは、お客様のオーディオ装置及び接続されたデバイス固有の Honda ソフトウェアの更新を自動的に Honda のサーバーへ問い合わせます。アプリケーションは、次の内容を定期的に Honda のサーバーに送信します。

車両および接続されたデバイス情報、車台番号、モデルタイプ識別番号、ハードウェアおよびソフトウェアの部品番号、シリアル番号、ソフトウェアバージョン、設定言語、インターネットプロトコルアドレス、データ処理のログ(アラートまたは更新の表示、更新のダウンロードとインストール、ソフトウェアステータス等)

お客様の個人情報

Honda に送信された前述の情報がお客様の個人情報となる場合、当該情報は、個人情報保護法に従って扱われます。

Honda は、送信された情報をソフトウェアのアップデートに利用するほか、Honda のプライバシーポリシーに従って取扱います。詳細については、Honda Web サイト(https://www.honda.co.jp/privacy/hm/)を参照してください。

目次

安全なドライブ P.36

安全なドライブのために 37　シートベルト 39　エアバッグ 46　ポップアップフードシステム 59
お子さまの安全 62　排気ガスの危険性 79

計器の見かた P.80

警告灯と表示灯 81　メーターとインフォメーションディスプレイ 102

各部の操作 P.132

時刻の設定 133　ドアの施錠と解錠 135　トランクの開閉 152　セキュリティシステム 155
ウィンドーの開閉 157　ハンドルまわりのスイッチ操作 161　ミラー類の調節 178
シートの調節 182　室内装備品 192　エアコン 209

オーディオ P.219

インフォテインメントシステム 220　ディスプレイオーディオ 221　エラーメッセージ 326
情報 327　商標、使用許諾について 334

運転 P.338

運転の前に 339　運転操作 342　Honda SENSING 360*/Honda SENSING 360+* 374
ブレーキ操作 550　駐停車操作 563　マルチビューカメラシステム 574
Honda パーキングパイロット 587　給油 611

メンテナンス P.614

メンテナンスの前に 615　エンジンルーム内のメンテナンス 618　電球の交換 623
ワイパーブレードラバーの点検と整備 625　タイヤの点検と整備 628　Honda スマートキー 633
エアコンのお手入れ 636　清掃 638　アクセサリーと改造 645

万一の場合には P.647

工具、非常信号灯 648　パンクしたとき 650　ジャッキの取り扱い 663
パワーシステムが起動しない 665　12V バッテリーがあがったとき 670
オーバーヒート 673　警告灯の点灯 / 点滅 676
ヒューズ 683　けん引 690　フューエルリッドが解錠できないとき 691
トランクが開かないとき 692　緊急時や車両トラブルのとき 693

資料 P.696

仕様 697　オープンソースライセンス 698

本書に記載されているイラストは代表例です。実際の車両と異なる場合があります。
車の仕様などの変更により、この本の内容と実車が一致しない場合がありますのでご了承ください。

安全なドライブ P.36
計器の見かた P.80
各部の操作 P.132
オーディオ P.219
運転 P.338
メンテナンス P.614
万一の場合には P.647
資料 P.696
索引 P.700



安全なドライブ

この章には、安全運転のために必要な重要情報が記載されています。運転を始める前によくお読みいただき、運転者と同乗者の安全を確保してください。

安全なドライブのために 37
シートベルト
シートベルトについて 39
シートベルトの着用 42
シートベルトの点検 45
シートベルトのアンカーポイント 45
エアバッグ
エアバッグの種類 46
SRS エアバッグ 46
ニーエアバッグ 49
サイドエアバッグ 52
サイドカーテンエアバッグ 55
エアバッグシステム警告灯 57
エアバッグのお手入れ 58
ポップアップフードシステム
ポップアップフードシステムのしくみ ... 59
ポップアップフードシステムのお手入れ .. 61
お子さまの安全 62
乳幼児の安全 63
大きなお子さまの安全 77
排気ガスの危険性
一酸化炭素について 79

安全のための確認事項

安全なドライブのために、走行前に下記の項目を確認してください。

- ドア、トランクは完全に閉まっているか？
  ▶すべてのドア、トランクが完全に閉まり、正しく施錠されていることを確認してください。
  ➔ **車内での施錠 / 解錠** P.147
- 運転しやすい姿勢にシート位置を調節しているか？
  ▶正しい運転姿勢がとれるよう、シート位置やヘッドレストの調節をしてください。
  ➔ **フロントシート** P.182
- 同乗者のシートも、安全が保たれるよう調節しているか？
  ▶ダッシュボードからできるだけ離れた位置までシートを下げてください。
  ➔ **フロントシート** P.182
- 乗員全員が正しくシートベルトを着用しているか？
  ▶運転者と乗員が正しくシートベルトを着用していることを確認してください。
  ➔ **シートベルトの着用** P.42
- エアバッグシステム警告灯などが点灯していないか？
  ▶エアバッグに関する説明をあらかじめお読みいただき、シートの位置などを調節してください。
  ➔ **エアバッグ** P.46
- お子さまの安全を守るために、チャイルドシートやシートベルトを着用しているか？
  ▶お子さまが同乗する場合は、お子さまの年齢や身長・体重に応じてチャイルドシートやシートベルトなどで安全を確保するようにしてください。
  ➔ **お子さまの安全** P.62

次ページに続く

安全のための確認事項

ドアやトランクが開いていたり、完全に閉まっていないと警告表示がマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。
ドア、トランクをもう一度正しく閉め直してください。警告表示は消灯し、正常な状態に戻ります。
➔ **マルチインフォメーションディスプレイ** P.106

- 坂道で駐車するときは、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを[P]にしているか？
  ▶ さらにタイヤに輪留めをすると効果があります。
  ➡ **シフト操作** P.350
- 車から離れるときは、お子さまや介護を必要とされる方、ペットを車内に残していないか？
  ▶ 炎天下などでは車内が高温になることがあります。車内にお子さまや介護を必要とされる方、ペットを残したままにしないようにしてください。

シートベルトについて

シートベルトは、シートに体を固定することで安全を確保するための安全装置です。

■三点式シートベルト

体の動きに合わせて伸縮し、強い衝撃を受けるとベルトが自動的にロックします。
すべての席に三点式シートベルトが装備されています。

■シートベルトの着用

シートベルトの着用にあたっては、以下の点に注意してください。

- 運転者は正しい運転姿勢で、シートベルトを必ず着用
- 同乗者にも必ずシートベルトを着用
- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、必ずチャイルドシートを使用
- 1本のシートベルトを2人以上で使用しない
- ベルトにはクリップや洗たくばさみなどでたるみをつけない

シートベルトについて

⚠警告

シートベルトは乗員全員が必ず正しく着用する。
シートベルトを正しく着用しないと、エアバッグが装備されていても、衝突したときに重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

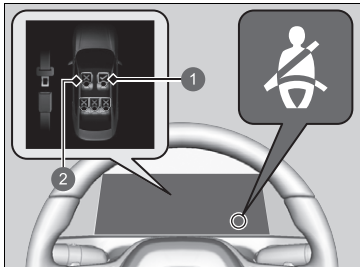
乗車中は正しい姿勢を保つ。
正しい姿勢ですわらないと、衝突したときに傷害を受ける危険性が高くなります。

シートベルトを着用した状態で事故にあったときは、Honda 販売店で点検を受け、ベルトが破損していたり、正しく作動しない場合は、ベルトを交換してください。

シートベルトがロックした場合、一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ベルトをゆっくり引き出してください。

次ページに続く

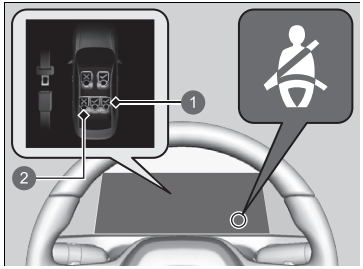
■シートベルトリマインダー



❶ シートベルト着用
❷ シートベルト未着用

■フロントシート

パワーモードをONモードにしたときや走行したとき、運転席または助手席のシートベルトを着用するまでシートベルトリマインダーが作動し、ブザーや警告灯でお知らせします。
マルチインフォメーションディスプレイにも警告が表示されます。



❶ シートベルト着用
❷ シートベルト未着用

■リヤシート

後席の乗員がシートベルトを使用していない場合、マルチインフォメーションディスプレイにシートベルトの装着状態が表示されます。

- 後席の乗員がシートベルトを外したとき。

運転中にリヤシートベルトを外すと、ブザーと警告灯でお知らせします。

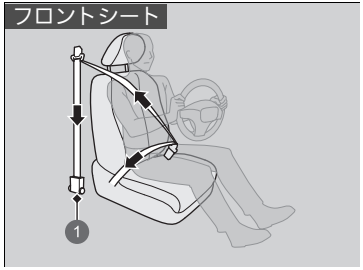
シートベルトリマインダー

- 助手席または後席に荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅しブザーが鳴ることがあります。
- 助手席または後席にお子さまや小柄な方を乗せたりクッションなどを使用すると、センサーが乗員を検知せず正常に作動しないことがあります。
- 後席に荷物を置いたまま、背もたれを倒さないでください。
  センサーが正常に機能しないか、破損する可能性があります。
- 運転席、助手席または後席のシートベルトを着用せずに走行した場合、停車するとブザーは止まります。また、走行している場合でも一定時間を超えるとブザーは止まります。

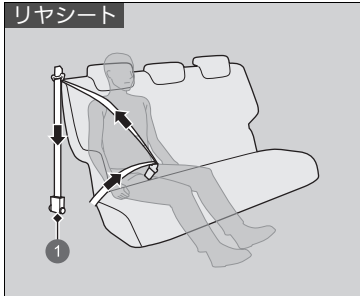
シフトポジションを[R]にしたときは後退位置警報装置のチャイムが鳴るため、シートベルト非着用の警告ブザーは鳴りません。

■シートベルトプリテンショナー

フロントシートおよびリヤシート外側2座席にはシートベルトプリテンショナーを装備しています。
シートベルトプリテンショナーは、一定以上の前方向や側面からの衝撃を受けると自動的にシートベルトを引き込み、拘束します。



❶ シートベルトプリテンショナー



❶ シートベルトプリテンショナー

シートベルトプリテンショナー

⚠注意

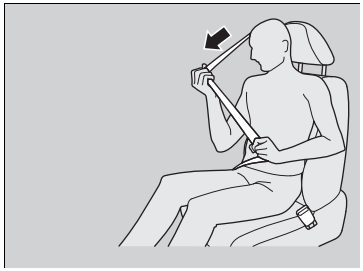
シートベルト引き込み装置の取り外し、分解などはしない。
誤作動や故障の原因となります。

シートベルトプリテンショナーは、一度作動すると使用できません。
衝突によりシートベルトプリテンショナーが作動するとエアバッグシステム警告灯が点灯します。
衝突したときは、Honda 販売店で点検を受け、作動済みの場合は交換してください。

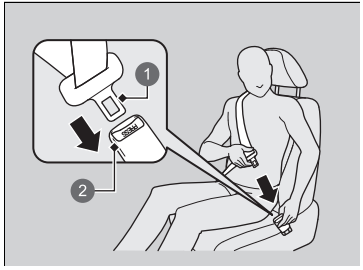
側面からの衝突により、両側のシートベルトプリテンショナーが作動します。

SRS エアバッグとシートベルトプリテンショナーはかならずしも同時に作動しません。

シートベルトの着用



1. 正しい姿勢でシートにすわる。
2. シートベルトをゆっくり引き出す。



3. タングプレートをバックルに差し込む。
▶ このとき、ベルトにねじれや引っかかりがないようにしてください。

❶ タングプレート
❷ バックル

▶シートベルトの着用

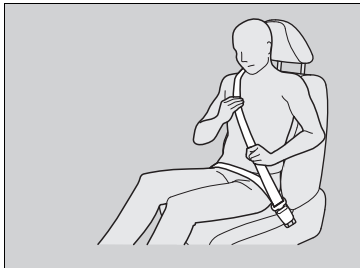
⚠警告

シートベルト着用時にアームレストに引っかけない。
万一のときにシートベルトの機能が発揮できず、重大な傷害を負うおそれがあります。

シートベルトを十分に機能させるため、バックルおよび自動巻き取り装置の内部に異物を入れないようにしてください。

シートベルトが完全に引き込まれた位置でロックされた場合、一度シートベルトをしっかりと引っ張り、そしてもう一度巻き取らせることでロックが解除できます。
シートベルトロックを解除することが出来ない場合、そのシートに着座しないでください。

シートベルトについて P.39
シートベルトの点検 P.45



4. シートベルトが正しく着用できているか確認する。
- ▶肩ベルトは鎖骨の中心を通るように合わせ、首やあごに当たらないようにしてください。
- ▶腰ベルトは腰骨のできるだけ低い位置に合わせてください。
- ▶ベルトにたるみやねじれがないようにしてください。

5. ベルトを引っ張り、バックルが固定されていることを確認する。

シートベルトの着用

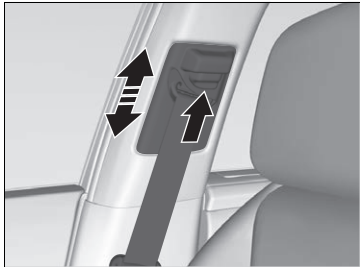
⚠注意

肩ベルトは腕の下に通したり、首の後ろに回さない。
シートベルトを正しく着用しないと、本来の機能を果たさず衝突時などに、けがをするおそれがあります。

シートベルトを外すには、バックルの赤色の PRESS を押してください。
そのとき、ベルトが完全に収納されるようベルトに手を添えてください。

シートベルトの分解、改造はしないでください。正常に作動しないおそれがあります。

■ショルダーアンカーの高さ調節



フロントシートのシートベルトは、座高に合わせて、ショルダーアンカーの高さを調節してください。

1. ショルダーアンカーの解除ボタンを押しながら、アンカーを上下に動かす。
2. ちょうどよい高さで解除ボタンを離し、ショルダーアンカーを固定する。

ショルダーアンカーの高さ調節

⚠注意

調節後は、ショルダーアンカーが確実に固定されているか確認する。

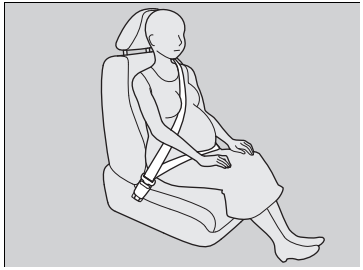
安全性を高めるため、肩ベルトが肩から胸にかかっていることを確認してください。

ベルトが首やあごに当たるときは、下げて調節してください。

次ページに続く

■妊娠中のかたのシートベルト着用のしかた

妊娠中のかたが運転または同乗するときは、ご自身と赤ちゃんを守るために、常に三点式シートベルトを着用してください。



▶妊娠中のかたのシートベルト着用のしかた

⚠注意

妊娠中のシートベルト着用は、医師に確認する。
万一のとき、腹部、胸部、肩部などに圧迫を受けることがあります。

妊娠中のかたは以下の点を注意してください。万一の衝突時にフロントエアバッグによって、ご自身と赤ちゃんが傷害を受ける危険性が軽減されます。

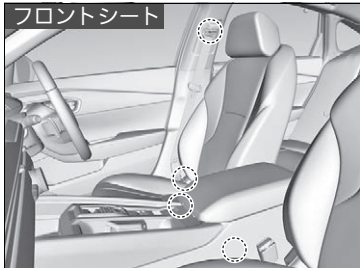
- 運転するときは上体を起こして、運転に支障のない範囲でシートをなるべく後ろに下げる
- 助手席にすわる場合も、シートはできるだけ後ろに下げる

シートベルトの点検

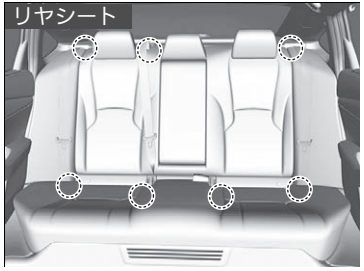
シートベルトを安全にお使いいただくために、定期的な点検を行ってください。点検の確認ポイントは下記のとおりです。

- すべてのベルトをいっぱいまで引き出し、ほつれ、破れ、焼けこげ、すり切れがないか？
- バックルが確実に固定されるか？
- ベルトがスムーズに巻き取られるか？

シートベルトのアンカーポイント



シートベルトを交換する場合、図の中で示されるアンカーポイントを使用してください。
フロントシートには三点式シートベルトが使われています。



リヤシートには三点式シートベルトが使われています。

シートベルトの点検

ベルトがスムーズに巻き取られない場合、ベルトが汚れていないことを確認してください。
ベルトが汚れているとスムーズに巻き取られない場合があります。まず、ベルトに汚れがないか確認してください。汚れを落とすと動きが元に戻ることがあります。

ベルトが破損していたり、正しく作動しない場合は、ベルトを交換してください。

エアバッグの種類

エアバッグは、パワーモードが ON モードのときに車体が衝突による衝撃を受けると膨らみ、運転者および同乗者の受ける衝撃を緩和させます。
エアバッグには下記の種類があり、衝突の方向や条件などにより作動が異なります。

- **SRS エアバッグ**：フロントシートの前方向エアバッグ
- **ニーエアバッグ**：ハンドルの下とグローブボックスの下にあるエアバッグ
- **サイドエアバッグ**：フロントシートの横方向エアバッグ
- **サイドカーテンエアバッグ**：窓側の天井部両側についたエアバッグ

SRS エアバッグ

運転席と助手席についています。前方向からの衝突により、SRS エアバッグが膨らんで運転者と助手席の同乗者の頭と胸部への衝撃を緩和します。

SRS：サプリメンタルレストレイントシステム(Supplemental Restraint System)の略で、シートベルトの補助拘束の意味。

■格納場所

運転席側はハンドルの中央、助手席側はダッシュボードに SRS エアバッグが格納されています。どちらも「SRS AIRBAG」と表示されています。

■作動のしくみ

SRS エアバッグが作動するのは、一定以上の衝撃で前方向から衝突したときです。このとき、センサーが衝突による急激な減速を検知し、コントロールユニットのはたらきにより運転席と助手席の SRS エアバッグが膨らみます。

エアバッグの種類

⚠警告

エアバッグ装備車でもシートベルトは必ず使用する。
エアバッグは、衝撃を緩和するためのシステムで、シートベルトの補助拘束具です。エアバッグ装備車であっても、必ず正しくシートベルトを着用してください。シートベルトを着用しないと、衝突時にエアバッグの効果が十分に発揮されず、重大な傷害や死亡などの危険性が高くなります。

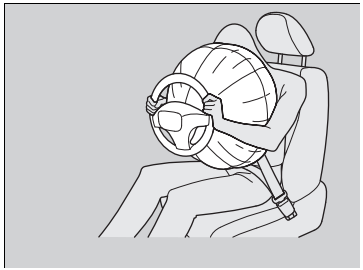
⚠注意

エアバッグが膨らんだ直後は、構成部品に触れない。
エアバッグの構成部品が熱くなっているため、やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

エアバッグは非常に速い速度で膨らみます。
エアバッグとの接触により、すり傷、やけど、打撲などを受けることがあります。

この車にはイベントデータレコーダー(EDR)が装備されています。
SRS エアバッグが作動したとき、もしくは一定以上の衝突が発生した場合に車両データを記録します。
➡ **車両データの記録** P.32

■ SRS エアバッグの作動



前方向から衝突すると、シートベルトが乗員の下半身と胴体を拘束し、SRSエアバッグが頭と胸部を保護します。

運転者の視界を妨げたり、ハンドル操作の邪魔にならないように、SRSエアバッグは膨らんだあとすぐにしぼみます。

SRS エアバッグは、次のような場合に作動します。

- 20～30km/h以上の速度で、きわめて厚い固定されたコンクリートの壁に真正面から衝突したときと同等か、それ以上の衝撃を受けたとき
- 車両の前方左右約 30 度以内の方向から強い衝撃を受けたとき

衝撃を吸収できるもの(車やガードレールのように変形するもの)に衝突した場合、作動するときの車速は高くなります。

次のような場合、車両下部に強い衝撃を受け、SRS エアバッグが作動することがあります。

- 縁石や地面の突起物に衝突したとき
- 深い溝や穴に落ちたとき
- 高いところから落ちたとき

SRS エアバッグの作動

⚠警告

インストルメントパネルに手をついたり頭や胸を近づけた状態で乗車しない。
SRSエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠注意

ハンドルやインストルメントパネル上面に、ステッカーを貼ったり、ものを置いたりしない。
SRSエアバッグが正常に機能しなくなったり、エアバッグが膨らんだときに置いたものが飛んで運転者や同乗者がけがをする原因になります。

エアバッグが膨らむときに、空中に粉が舞うことがあります。
この粉は無害ですが、場合によっては一時的に不快感をおぼえることがあります。
安全を確認後、ただちに車外に出てください。

次ページに続く

次のような場合、SRS エアバッグが作動しないことがあります。
- 電柱、立ち木などへの衝突
- トラックなどへの潜り込み
- 部分的な衝突や斜め方向からの衝突

車体の部位によって衝撃の吸収度合いが異なりますので、損傷状態の大小とSRS エアバッグの作動は必ずしも一致しません。

シートベルトだけで乗員を保護できるような低い速度での衝突や次のような場合、乗員保護の効果がないので作動しません。
- 横方向からの衝突
- 後部からの衝突
- 横転または転覆

事故の状況、形態によっては、SRS エアバッグが作動することがあります。

SRS エアバッグの作動

⚠注意

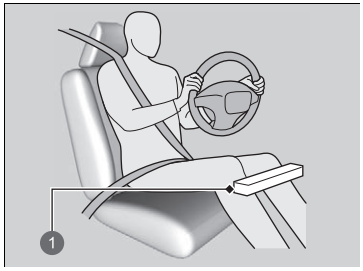
SRSエアバッグの分解、取り外しはしない。
不適切な取り扱いは故障や誤作動の原因となります。

車体が衝撃を十分に吸収できた場合、システムは作動しません。

ニーエアバッグ

運転席、助手席それぞれの膝の前にあるエアバッグです。前方向からの衝突により、エアバッグが膨らみ、運転者と助手席の衝撃緩和を補助します。

■格納場所



❶ 格納場所



❶ 格納場所

ニーエアバッグは運転席のハンドル下側、助手席はグローブボックス下側に格納されています。

どちらも「SRS AIRBAG」と表示されています。

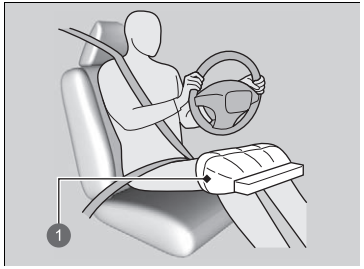
≫ニーエアバッグ

⚠注意

ニーエアバッグ格納部やその周辺にステッカーなどを貼ったり、アクセサリーなどをつけたりしない。
ニーエアバッグが正常に機能しなくなったり、エアバッグが膨らんだときにものが飛んでけがをする原因になります。

次ページに続く

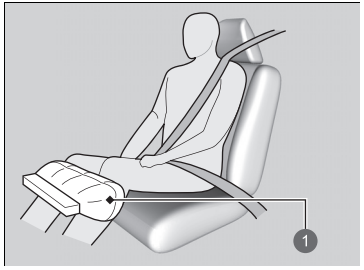
■作動のしくみ



❶ ニーエアバッグ

運転席または助手席のSRSエアバッグが膨らむと、ニーエアバッグも膨らみます。

衝突がSRSエアバッグを展開するほどの衝撃でなくとも、ニーエアバッグだけ膨らむことがあります。



❶ ニーエアバッグ

■作動条件

次のような場合、車両下部に強い衝撃を受け、ニーエアバッグが作動することがあります。

- 縁石や地面の突起物に衝突したとき
- 深い溝や穴に落ちたとき
- 高いところから落ちたとき

次のような場合、ニーエアバッグが作動しないことがあります。

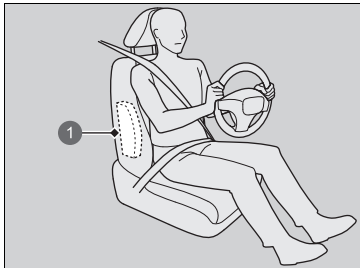
- 電柱、立ち木などへの衝突
- トラックなどへの潜り込み
- 部分的な衝突や斜め方向からの衝突

車体の部位によって衝撃の吸収度合いが異なりますので、損傷状態の大小とニーエアバッグの作動は必ずしも一致しません。

サイドエアバッグ

フロントシートの背もたれの外側にあるエアバッグです。
側面からの衝突により、エアバッグが膨らみ、運転者と助手席の同乗者の胸部への衝撃を緩和します。

■格納場所



運転席、助手席ともにシートの背もたれ外側に格納されています。
どちらも「SIDE AIRBAG」と表示されています。

❶ 格納場所

▶サイドエアバッグ

⚠注意

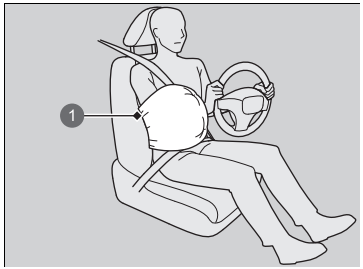
ドアやその周辺にアクセサリーなどを取り付けたり、ものを置いたりしない。
正常に作動しなかったり、作動時にこれらのものが飛ぶことがあります。

サイドエアバッグ収納部に衝撃や無理な力を加えない。

サイドエアバッグは、シートベルトを着用し上体を起こしてシートに深く腰かけているときに保護効果を発揮します。
サイドエアバッグの保護効果を維持するために、シートベルトは正しく着用してください。

サイドエアバッグがシートカバーによっては、正常に機能できなくなります。
フロントシートへのシートカバー装着にあたっては Honda 販売店にご相談ください。

■作動のしくみ



センサーが一定以上の衝撃で側面方向から衝突を検知し、コントロールユニットのはたらきにより検知した側のサイドエアバッグが膨らみます。

❶ サイドエアバッグ

■作動条件

次のような場合、車両下部に強い衝撃を受け、サイドエアバッグが作動することがあります。

- 縁石や地面の突起物に衝突したとき
- 深い溝や穴に落ちたとき
- 高いところから落ちたとき

次のような場合、サイドエアバッグが作動しないことがあります。

- 乗員付近以外の側面への衝突

サイドエアバッグは乗員の受ける衝撃の大きさによって作動するようになっていますので、車両の損傷状態の大小とサイドエアバッグの作動は必ずしも一致しません。

サイドエアバッグ

⚠注意

ドアに寄りかからない。
サイドエアバッグの格納部に手や顔を必要以上に近づけない。
後席の同乗者は、フロントシートの背もたれを抱えない。
サイドエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け傷害を受けるおそれがあります。

サイドエアバッグの分解、取り外しはしない。
不適切な取り扱いは故障や誤作動の原因となります。

エアバッグが膨らむときに、空中に粉が舞うことがあります。
この粉は無害ですが、場合によっては一時的に不快感をおぼえることがあります。
安全を確認したら、ただちに車外に出てください。

次ページに続く

低い速度での衝突や次のような場合、乗員保護の効果がないので作動しません。

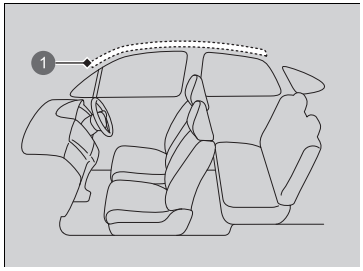
- 正面衝突
- 後部からの衝突
- 横転または転覆

事故の状況、形態によっては、サイドエアバッグが作動することがあります。

サイドカーテンエアバッグ

窓側の天井部にあるエアバッグです。側面からの衝突により、エアバッグが膨らみ、乗員の頭部への衝撃を緩和します。

■格納場所



❶ サイドカーテンエアバッグ収納部

運転席側、助手席側ともに窓側の天井部に格納されています。
どちらも「SIDE CURTAIN AIRBAG」と表示されています。

▩サイドカーテンエアバッグ

⚠注意

サイドカーテンエアバッグが正常に作動しなかったり、作動時にものが飛んだりすることがあるので、以下のことに注意する。

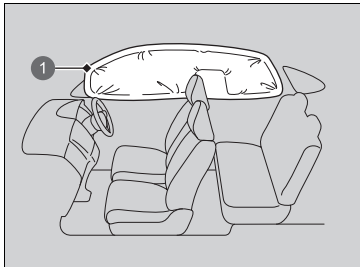
- フロントガラス、ドアガラス、フロント、センター、リヤの各ピラーまわりにアクセサリーなどを取り付けない
- グラブレールにものをかけない
- コートフックに重いものやとがったものをかけない

サイドカーテンエアバッグは、シートベルトを着用し上体を起こしてシートに深く腰かけているときに保護効果を発揮します。
サイドカーテンエアバッグの保護効果を維持するために、シートベルトは正しく着用してください。

サイドカーテンエアバッグは衝撃を受けた側のみ作動します。
サイドカーテンエアバッグは側面からの衝突に対して作動するため、衝撃を受けた側のみ作動します。また、助手席側が衝撃を受けた場合は、助手席側に乗員がいないときでもサイドカーテンエアバッグが作動します。

次ページに続く

■作動のしくみ



❶ サイドカーテンエアバッグ

サイドカーテンエアバッグが作動するのは、一定以上の衝撃で側面方向から衝突したときです。運転席側または助手席側のサイドカーテンエアバッグが膨らみます。

■作動条件

サイドカーテンエアバッグの作動条件は、サイドエアバッグと同じ条件です。

作動条件 P.53

■前方向から衝突したときの作動

前方向からの衝突時、横方向に一定以上の力がかかると、SRS エアバッグが膨らんだあと必要な側のサイドカーテンエアバッグが膨らみます。

サイドカーテンエアバッグ

⚠注意

サイドカーテンエアバッグ収納部に衝撃を加えない。

収納部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、Honda 販売店で交換してください。

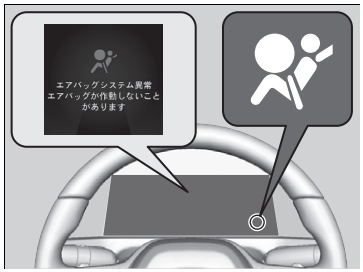
サイドカーテンエアバッグの分解、取り外しはしない。

不適切な取り扱いは故障や誤作動の原因となります。

エアバッグシステム警告灯

エアバッグやシートベルトプリテンショナーの異常などを、警告灯やマルチインフォメーションディスプレイで知らせます。

■エアバッグシステム警告灯



■パワーモードを ON モードにしたとき

パワーモードを ON モードにすると、エアバッグシステム警告灯が数秒間点灯し、消灯すれば正常です。

■異常が発生したとき

エアバッグシステムまたはプリテンショナーシステムに異常があるときに点灯します。

エアバッグシステム警告灯

⚠警告

エアバッグシステム警告灯を無視しない。
エアバッグシステム警告灯を無視すると、エアバッグシステム、プリテンショナーシステムが正しく機能せず、重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。
エアバッグシステム警告灯が点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

エアバッグシステム警告灯が点灯状態のときは、Honda 販売店で点検を受けてください。
パワーモードを ON モードにしたときにエアバッグシステム警告灯が点灯しない場合も、エアバッグシステムまたはプリテンショナーシステムに異常がある可能性があります。ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

エアバッグのお手入れ

エアバッグシステムは、メンテナンスを必要とせず、部品交換の必要もありません。ただし、以下の場合は Honda 販売店で点検を受けてください。

■エアバッグが作動し、膨らんだとき

一度作動したエアバッグは、コントロールユニットやその他の関連部品とともに必ず交換する必要があります。
また、シートベルトプリテンショナーも同様に、一度作動した場合は新品と交換する必要があります。

エアバッグが作動し、膨らんだとき

エアバッグ関連部品の再利用はしないでください。

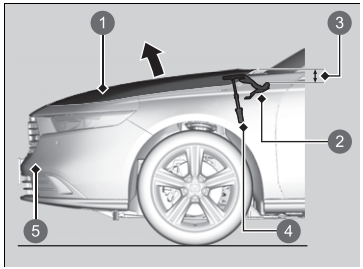
ポップアップフードシステムのしくみ

ポップアップフードシステムは前方向からの衝突時にボンネットを持ち上げてエンジンルーム内の空間を確保し、歩行者の頭部への衝撃緩和を補助します。

■作動のしくみ

設定速度以上の走行時に車両が歩行者やその他の物体に衝突したときに作動します。

■どのように作動するか



歩行者インパクトセンサーが一定以上の衝撃を検知すると、ポップアップフードシステムが作動し、ボンネットの後部が持ち上がります。

パワーユニットは、左右のヒンジの車両前方に搭載されています。

❶ ボンネット
❷ ヒンジ
❸ 約 100mm 上がります
❹ パワーユニット
❺ 歩行者インパクトセンサー

»ポップアップフードシステムのしくみ

⚠警告

ポップアップフードシステムが作動したあとは、パワーユニットが非常に熱くなっているため、やけどをするおそれがあります。
冷めるまではパワーユニットに触れないでください。

ポップアップフードシステムが作動したあとはボンネットを開けないでください。システム作動後、持ち上がったボンネットが視界の妨げにならないことを確認したあと、速度を落とし十分に注意して運転してください。

ボンネットが完全に閉まっていないと、十分な効果を得られない場合があります。
走行前にボンネットが完全に閉まっていることを確認してください。

次ページに続く

システムは以下の状況でも作動することがあります。
- 車両下側に大きな衝撃を受けたとき
- 高速で突起物の上を乗り越えたとき、または深い溝の上を乗り越えたとき
- 歩行者インパクトセンサーに物がぶつかったとき

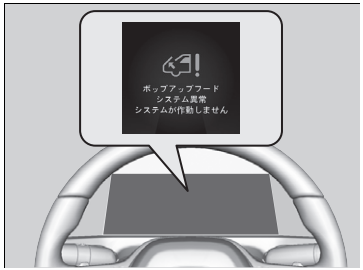
システムは以下の状況では作動しないことがあります。
- 後部または横方向からの衝突
- 横転または転覆
- 斜め方向や横からの歩行者との衝突

ポップアップフードシステムは、衝突時の位置、角度、車速などその他の条件によって作動しないことがあります。

≫ポップアップフードシステムのしくみ

ポップアップフードシステムが正常に機能するために、以下のことをお守りください。
- 四輪とも同一指定サイズのタイヤをお使いください。サイズの異なるタイヤを使用すると、システムが車両速度を誤認識することがあります。
- パワーユニットに荷重を加えないでください。ボンネットを激しく閉めるとパワーユニットが損傷するおそれがあります。
- フロントバンパー内の歩行者インパクトセンサーに衝撃を与えないでください。

■ポップアップフードシステム警告表示



■パワーモードをON モードにしたとき

ポップアップフードシステムに異常があると考えられる場合、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されます。

ポップアップフードシステムのお手入れ

ポップアップフードシステムは、お客様自身でのメンテナンスを必要とせず、部品交換の必要もありません。

ただし、ポップアップフードシステムが作動したときは、Honda 販売店でコントロールユニットやその他の関連部品の交換を依頼してください。

ポップアップフードシステム警告表示

⚠警告

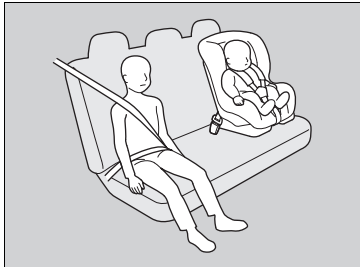
警告表示を無視すると、ポップアップフードシステムの異常につながることがあります。
異常が発生すると、歩行者との衝突時に、歩行者の深刻な傷害や死亡につながるおそれがあります。
ポップアップフードシステムの警告が表示されたときはすみやかに Honda 販売店で点検を受けてください。

ポップアップフードシステムのお手入れ

フロントバンパー周辺を損傷したときは、システムが作動していなくても Honda 販売店で点検を受けてください。

お子さまの安全を守るために

お子さまが乗車するときは、下記の注意点を確認し、お子さまの安全を確保してください。



- お子さまはリヤシートに乗せる
  ▶ お子さまを助手席に乗せると、不意の動作が気になったり、スイッチ類をいたずらしたりするなど運転の妨げになるおそれがあります。
  また、SRSエアバッグが膨らむ際、強い衝撃があります。
- お子さまにも必ずシートベルトを着用させる
  ▶ お子さまを抱えたり、ひざの上に乗せないでください。衝突したときに支えることができません。正しい着用方法でお子さまにもシートベルトをしてください。
- 乳幼児にはチャイルドシートを使用する
  ▶ 乳幼児を乗せるときは、必ずチャイルドシートを使用します。
- 車外に手や顔、ものを出さない
  ▶ 走行中や一時停止時などに、お子さまが車外に手や顔、ものなどを出さないようにしてください。思わぬ障害物により事故のおそれがあります。
- ドア、ウィンドー、シートなどの操作は必ず大人が行う
  ▶ 思わぬけがの原因となりますので、お子さまにはドア、ウィンドー、シートなどの操作をさせないでください。
- 車を離れるときは、お子さまを連れて出る
  ▶ お子さまだけを車内に残さないでください。特に、炎天下の車内は高温になります。また、お子さまのいたずらにより、車の発進、火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠警告

チャイルドシートは後席に設置する。
助手席に設置するとSRSエアバッグが作動したときの衝撃で、重大な傷害を受けたり、死亡するおそれがあります。

⚠警告



シート前方の作動可能なエアバッグで保護されたシートには、後ろ向きチャイルドシートを絶対に取り付けないでください。
お子さまが死亡、または重大な傷害を受けるおそれがあります。

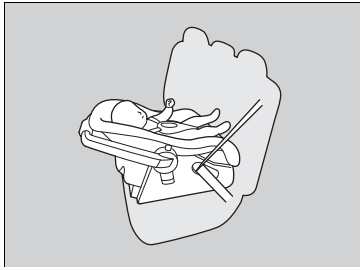
お子さまを助手席に乗せることをおすすめしない理由は下記の通りです。

- お子さまが助手席のシートに正しく乗車できないと、SRSエアバッグが膨らんだときに重大な傷害を負うおそれがある
- お子さまの体の一部がサイドエアバッグの作動範囲に入ると、サイドエアバッグが膨らんだときに重大な傷害を負うおそれがある

乳幼児の安全

■乳児のチャイルドシート

首のすわっていない乳児は、乳児用のチャイルドシートを正しく固定し、乗せてください。



■後ろ向きのチャイルドシートの設置場所

リヤシートに設置することができます。

▶ 推奨するのは、助手席の真後ろの席への設置です。その場合、助手席には人を乗せず助手席のシートをできるだけ前に出してください。

▶ 設置したチャイルドシートとフロントシートが接触していないことを確認してください。

▨乳児のチャイルドシート

⚠警告

後ろ向きのチャイルドシートを前向きにして使わない。

前向きにして使うと前方から衝突したときに、乳児が重大な傷害を負うおそれがあります。

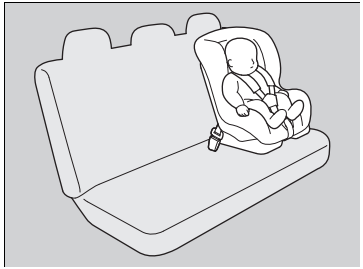
後ろ向きのチャイルドシートは助手席に設置しない。

助手席の SRS エアバッグが膨らんだときに、チャイルドシートの背面にエアバッグが当たり、乳児が重大な傷害を負ったり死亡したりするおそれがあります。

次ページに続く

■幼児のチャイルドシート

チャイルドシートメーカーが指定する範囲内の幼児は、前向きのチャイルドシートを正しく固定し、乗せてください。



■前向きのチャイルドシートの設置場所

リヤシートへの設置を推奨します。

≫幼児のチャイルドシート

⚠警告

助手席に前向きのチャイルドシートを設置しない。

助手席に前向きのチャイルドシートを設置すると、助手席のシートが前に出すぎていたり、衝突したときに幼児の頭が前に投げ出されるとSRSエアバッグで強い衝撃を受けるため、重大な傷害を負ったり死亡したりするおそれがあります。

やむをえず助手席に前向きのチャイルドシートを設置する場合は、助手席のシートをできるだけ後ろに下げて設置してください。

■チャイルドシートの選びかた

チャイルドシートを購入するときは、シートベルト固定タイプチャイルドシートまたは ISOFIX/i-Size チャイルドシートをお選びください。
シートベルト固定タイプチャイルドシートは、シートベルトを用いて座席に固定します。
ISOFIX/i-Size チャイルドシートは、リヤシート外側 2 座席に付属している下部取付金具とトップテザー取付金具またはサポートレッグで固定するため取り付けが簡単です。

■チャイルドシート選択の条件

チャイルドシートが適切な保護効果を発揮するためには、以下の3つの条件を満たしている必要があります。

- チャイルドシートが一覧表に案内されているお子さまに合ったタイプとサイズであること
- チャイルドシートが取り付ける車の座席にあったものであること
- チャイルドシートが安全基準に適合したものであること。
  UN R44/R129 に適合したチャイルドシートをお勧めします。

■チャイルドシートの規格

UN 基準の認可を受けたシートベルト固定タイプチャイルドシートまたは ISOFIX/i-Size チャイルドシートには、認可マークが表示されています。チャイルドシートについている認可マークを確認してください。

次ページに続く

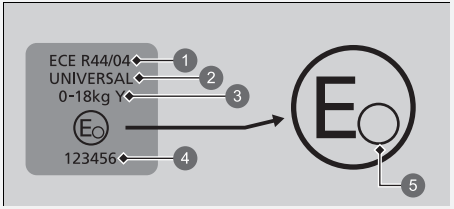
チャイルドシートの選びかた

ISOFIX/i-Sizeチャイルドシートは取り付けが簡単です。

ISOFIX/i-Size チャイルドシートは取り付けを簡単にすることで、不適切な取り付けが原因で起きる傷害を減らすために開発されたものです。

Honda 純正のチャイルドシートをご用意しています。ご購入、ご使用に際しては Honda 販売店にご相談ください。

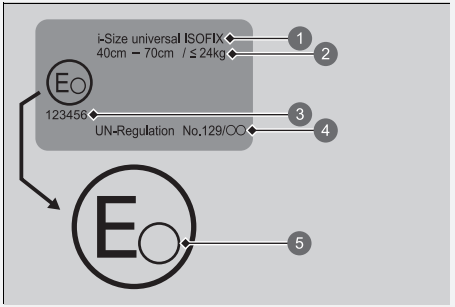
UN R44 認可表示(例)



❶法規番号
❷カテゴリー
❸体重範囲
❹認可番号
❺国番号

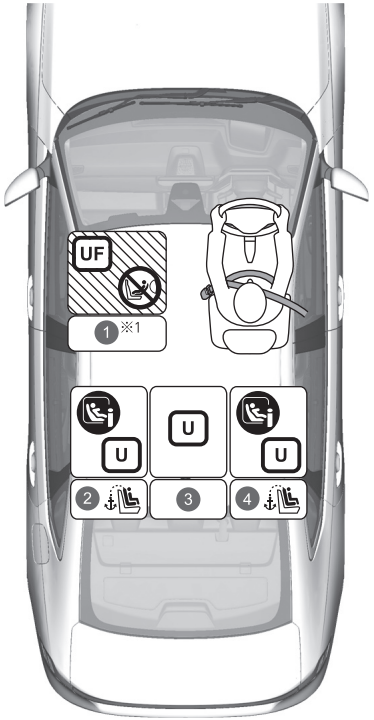
チャイルドシートの選びかた

UN R129 認可表示（例）



1. カテゴリー
2. 身長範囲 / 体重範囲
3. 認可番号
4. 法規番号
5. 国番号

■シート位置別チャイルドシート情報



U	車両のシートベルトで固定するタイプの汎用(ユニバーサル)チャイルドシートに適している
UF	車両のシートベルトで固定するタイプの前向きに取付ける汎用(ユニバーサル)チャイルドシートに適している
i	i-Size および ISOFIX チャイルドシートに適している
	前向きチャイルドシートのみに適している
	後ろ向きのチャイルドシート取り付け禁止
	トップテザー取付金具を装備している座席

次ページに続く

※1：チャイルドシートを取り付ける場合、シートスライドを最も後ろの位置に調節し、シートの高さを最も高い位置に調節してください。

- チャイルドシートがヘッドレストに干渉して安定して取り付けられない場合は、ヘッドレストを最も高い位置に上げてください。
- サポートレッグ付きのチャイルドシートは、i-Size チャイルドシートが搭載可能ではない着座位置にも取り付けることができます。ただし、中央席は除く。

	サイズグループ 重量 身長		シートの位置及びシート位置番号			
			❶	❷	❸	❹
			助手席※1, ※2	後席(左側)	後席(中央)	後席(右側)
ベルト固定の汎用(ユニバーサル)チャイルドシートが搭載可能な着座位置(有 / 無)	Group 0	Up to 10kg	無	有	有	有
	Group 0+	Up to 13kg				
	Group I	9-18kg	有	有	有	有
	Group II	15-25kg				
	Group III	22-36kg				
i-Size チャイルドシートが搭載可能な着座位置(有 / 無)	≦ 150cm		無	有	無	有
推奨チャイルドシートが搭載可能な着座位置(有 / 無)※3	Honda 純正 チャイルドシートリスト参照		有	有	有	有
搭載可能な横向きチャイルドシート固定具(L1/L2)	—		無	無	無	無
搭載可能な最大後ろ向きチャイルドシート固定具(R1/R2X/R2/R3)	Group 0	Up to 10kg	無	R3	無	R3
	Group 0+	Up to 13kg				
	Group I	9-18kg				
搭載可能な最大の前向きチャイルドシート固定具(F2X/F2/F3)	Group I	9-18kg	無	F3	無	F3
搭載可能な最大の前向きジュニアシート固定具(B2/B3)	≦ 150cm		B3	B3	B3	B3

次ページに続く

※1：チャイルドシートを取り付ける場合、シートスライドを最も後ろの位置に調節し、シートの高さを最も高い位置に調節してください。
※2：前向き取り付けのみ
※3：最新の Honda 純正チャイルドシートについては販売店にお問い合わせください。
Honda 純正チャイルドシート以外にも取り付けることができる場合があります。チャイルドシートメーカーにお問い合わせください。

- チャイルドシートがヘッドレストに干渉して安定して取り付けられない場合は、ヘッドレストを最も高い位置に上げてください。
- サポートレッグ付きのチャイルドシートは、i-Size チャイルドシートが搭載可能ではない着座位置にも取り付けることができます。ただし、中央席は除く。

▶シート位置別チャイルドシート情報

⚠警告

シートベルトは必ず正しく着用する
シートベルトを正しく着用しないと、衝突したときに重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

チャイルドシートをご購入する際は、ISOFIX サイズ等級に一致したものをお選びください。

固定具	お子さまの大きさ	使用の向き	形状、大きさ
ISO/L1	乳児	左	寝台式
ISO/L2	乳児	右	寝台式
ISO/R1	乳児	後ろ	ー
ISO/R2X	幼児	後ろ	小型
ISO/R2	幼児	後ろ	小型
ISO/R3	幼児	後ろ	大型
ISO/F2X	幼児	前	低型
ISO/F2	幼児	前	低型
ISO/F3	幼児	前	全高
ISO/B2	学童	前	狭幅
ISO/B3	学童	前	全幅

■推奨チャイルドシート

適用範囲	チャイルドシート	カテゴリー
身長 100cm 以下	Honda Baby & Kids i-Size	i-Size（後向き）
身長 71cm 以上 かつ月齢 15ヶ月以上ー 身長 100cm 以下	Honda Baby & Kids i-Size	i-Size
身長 100cm 以上 150cm 以下	Honda Junior i-Size	i-Size Booster seat

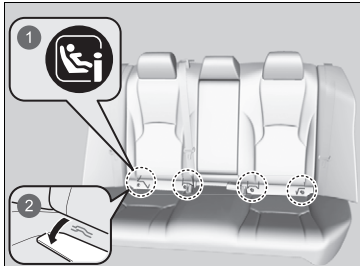
▨推奨チャイルドシート

推奨チャイルドシートのご購入は Honda 販売店にご相談ください。

次ページに続く

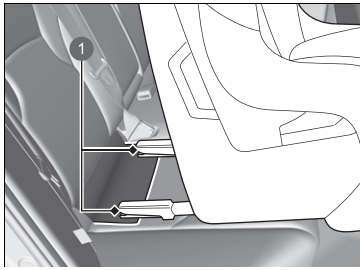
■ ISOFIX/i-Size チャイルドシートの取り付け

ISOFIX/i-Size チャイルドシートは、リヤシート外側 2 座席に設置できます。
チャイルドシートは、下部取付金具とトップテザー取付金具で固定します。



❶ マーク
❷ カバー

1. マークの下にあるカバーをめくり下部取付金具を確認する。



❶ プローブ

2. プローブがカバーの上に載るようにチャイルドシートを座席に置く。

▶ISOFIX/i-Size チャイルドシートの取り付け

⚠注意

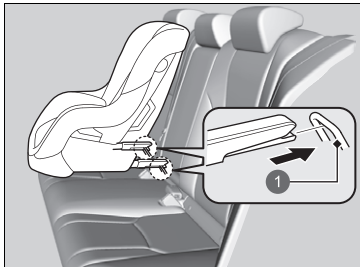
下部取付金具周辺に、異物やシートベルトのかみ込みがないか確認する。
異物やシートベルトをかみ込むとチャイルドシートが確実に固定されず、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

⚠注意

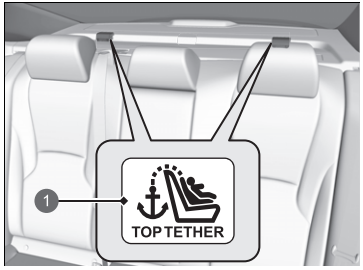
リヤシートが確実に固定されているか確認する。
確実に固定されていないと、ブレーキや衝突のときなどにシートといっしょにチャイルドシートが動き、傷害を受けるおそれがあります。

ISOFIX/i-Size チャイルドシートは、シートベルトで固定する必要はありません。

チャイルドシートに付属の取扱説明書をよく読んでください。



❶ 下部取付金具



❶ トップテザー取付金具シンボル

3. チャイルドシートの取扱説明書にしたがって下部取付金具に取り付ける。

▶取り付けの際に、異物やシートベルトなどが下部取付金具にかみ込まないようにしてください。

▶チャイルドシートと座席背もたれのすき間ができるだけ小さくなるように設置してください。

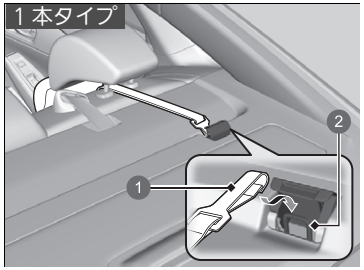
ISOFIX/i-Size チャイルドシートの取り付け

⚠注意

トップテザー取付金具シンボルが無いフックに、トップテザーストラップを使用しないでください。

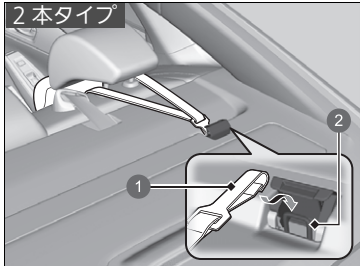
次ページに続く

1 本タイプ



❶ トップテザーストラップ
❷ トップテザー取付金具

2 本タイプ



❶ トップテザーストラップ
❷ トップテザー取付金具

トップテザーストラップ付きチャイルドシート

4. ヘッドレストの後ろにあるカバーを開ける。

5. ヘッドレストを調節して最上段で固定し、トップテザーストラップが1本タイプの場合はヘッドレストレッグの間を通し、2 本タイプの場合はヘッドレストレッグの外側に通す。

▶ このときトップテザーストラップがねじれないように注意してください。

6. トップテザーストラップをトップテザー取付金具に引っかけ、ストラップを締める。

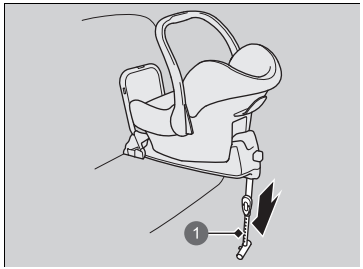
7. チャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認する。

≫ISOFIX/i-Size チャイルドシートの取り付け

⚠注意

チャイルドシートが確実に固定されているか確認する。

確実に固定されていないと、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。



❶ サポートレッグ

サポートレッグ付きチャイルドシート

4. サポートレッグをチャイルドシートの取扱説明書にしたがってフロアにつくまで伸ばす。

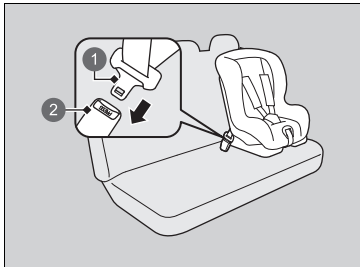
▶ サポートレッグを設置するフロア面は水平な面であることを確認してください。サポートレッグの設置フロア面が水平ではない場合、安定しないことがあります。

▶ 設置したチャイルドシートとフロントシートが接触していないことを確認してください。

5. チャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認する。

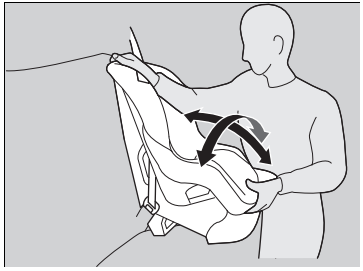
次ページに続く

■シートベルトでの取り付け



❶ タングプレート
❷ バックル

1. チャイルドシートを座席に置く。
2. シートベルトをチャイルドシートに通し、タングプレートをバックルに差し込む。
▶ このとき、バックルが「カチッ」という音がするまできちんと差し込んでください。



3. チャイルドシートに付属の取扱説明書にしたがって取り付ける。
4. チャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認する。

■チャイルドシートの取り外し

バックルを外し、シートベルトをチャイルドシートから引き抜きます。

▶▶シートベルトでの取り付け

⚠注意

チャイルドシートが確実に固定されているか確認する。
確実に固定されていないと、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

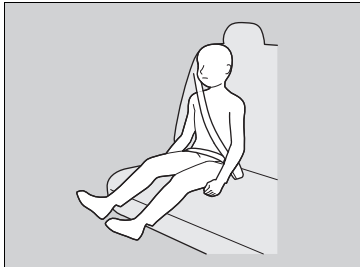
チャイルドシートに付属の取扱説明書をよく読んでください。

チャイルドシートの種類によりシートベルトの固定に固定金具(ロッキングクリップ)が必要になります。

大きなお子さまの安全

■シートの使用について

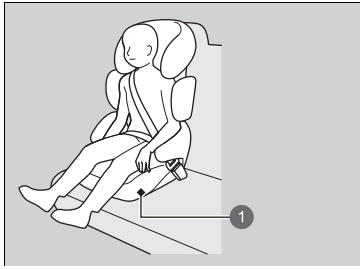
幼児用のチャイルドシートの使用条件を超えるお子さまは、リヤシートに乗せて三点式シートベルトを着用させてください。お子さまをシートに深くすわらせ、以下の確認項目でひとつでも適合しない場合、ジュニアシートの使用が必要です。



■確認項目

- お子さまのひざがシートの前端で無理なく曲がっているか？
- 肩ベルトがお子さまの首と腕の間にかかっているか？
- 腰ベルトが低い位置にあり、お子さまの太ももに触れているか？
- 乗車中、無理なくすわっていられるか？

■ジュニアシートについて



三点式シートベルトを使用できず、ジュニアシートを用いる必要があるお子さまは、ジュニアシートをリヤシートに設置して使用してください。
安全のため、お子さまがジュニアシートの使用に適した範囲に入っているか確認してください。

❶ ジュニアシート

次ページに続く

大きなお子さまの安全

⚠警告

お子さまは助手席に乗せない。
お子さまを助手席に乗せると、SRS エアバッグが膨らんだときに、重大な傷害を負うおそれがあります。
やむをえず、助手席にお子さまを乗せる場合は、できるだけシートを後方に下げ、必要ならばジュニアシートを使用し、適切にシートベルトを着用してすわらせてください。

➡ **やむをえず、お子さまを助手席に乗せる場合** P.78

ジュニアシートについて

ジュニアシートの取り付けについては、ジュニアシートに付属の取扱説明書をよく読み、正しく取り付けてください。

ジュニアシートには、座高の高いものと低いものがあります。お子さまが適切にシートベルトを着用できるものを選択してください。

■やむをえず、お子さまを助手席に乗せる場合

正しい姿勢ですわる、走行中にシートベルトを着用するなどの規則をお子さまが守ることができ、お子さまを助手席に乗せても安全と判断した場合、下記の項目を守ってお子さまを乗車させてください。

- 取扱説明書をよく読み、シートベルトに関する指示と安全に関して十分に理解する
- 助手席を一番後ろまで下げる
- 上体を起こし、シートに深く腰かけるように指示する
- お子さまのシートベルトが正しい位置で、しっかり固定されているか確認する

一酸化炭素について

この車の排気ガスには一酸化炭素が含まれています。車をきちんと保守していれば、一酸化炭素が車内に入ることはありません。以下の場合は、排気ガスのもれがないか Honda 販売店で点検を受けてください。

■点検が必要な場合

- 排気音に異常を感じたとき
- 車が衝突し、排気システムが損傷した可能性があるとき

一酸化炭素について

⚠警告

一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。

一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。

密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、パワーシステムを起動したままにしない。

周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。

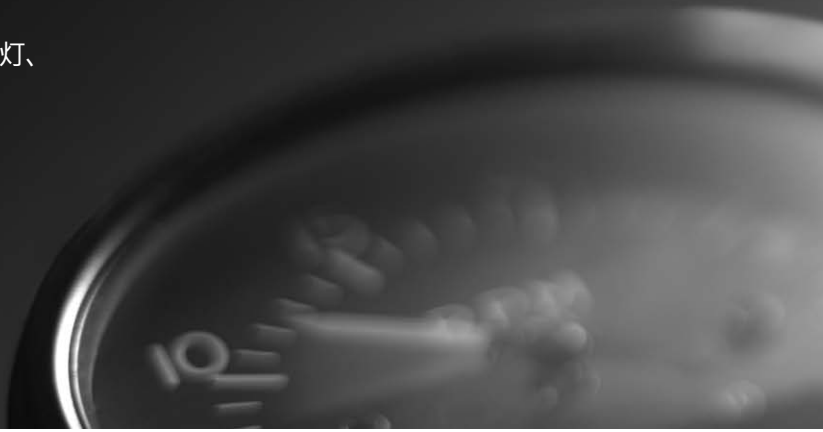
エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどしてください。

ガレージなどの密閉された場所は、一酸化炭素が急に充満するおそれがあります。

ガレージのドアを閉めたままパワーシステムを起動させないでください。ドアが開いている場合でも、ガレージから車を出す直前にパワーシステムを起動するようにしてください。

計器の見かた

この章では、運転中に使用するスイッチや警告灯・表示灯、
メーター類に関する情報を記載しています。



警告灯と表示灯 81
警告灯 83
表示灯 93
メーターとインフォメーションディスプレイ 102
メーター 102
マルチインフォメーションディスプレイ ... 106
ヘッドアップディスプレイ 122

警告灯と表示灯

警告灯や表示灯は、車両状態に応じて点灯 / 点滅します。
点灯 / 点滅と同時にマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されることがあります。メッセージの内容に従い Honda 販売店に連絡するなどして対処してください。

 ※1	ブレーキ警告灯(レッド)	P.83
 ※1	ブレーキシステム警告灯(オレンジ)	P.84
 ※1	パワーシステム警告灯	P.84
 ※1	PGM-FI 警告灯	P.84
 ※1	12V バッテリー充電警告灯	P.84
	シートベルト非着用警告灯	P.85
	トランスミッション警告灯	P.85
	燃料残量警告灯(オレンジ)	P.86
 ※1	ABS(アンチロックブレーキシステム)警告灯	P.86
 ※1	エアバッグシステム警告灯	P.86
 ※1	VSA(ビークルスタビリティアシスト)警告灯	P.87
	VSA OFF 警告灯	P.87

 ※1	EPS(電動パワーステアリング)システム警告灯	P.87
	パーキングセンサー警告灯	P.88
	方向指示器 / 非常点滅表示灯	P.93
	ライト点灯表示灯	P.93
	ハイビーム表示灯	P.93
 ※1	アダプティブドライビングビーム表示灯	P.93
	急アクセル抑制機能表示灯✤	P.93
	シフトポジション表示灯	P.94
	減速セレクター表示灯	P.94
READY	READY 表示灯	P.95
※1	EV 表示灯	P.95

	INDIVIDUAL モード表示灯	P.95
	SPORT モード表示灯	P.95
	NORMAL モード表示灯	P.95
	COMFORT モード表示灯	P.95
	ECON モード表示灯	P.95
	AUTO モード表示灯	P.95
	EV モード表示灯	P.95
	CHARGE モード表示灯	P.95
	オートマチックブレーキホールドシステム表示灯	P.96
 ※1	オートマチックブレーキホールド表示灯	P.96
	インフォメーション表示灯	P.96

※1 ：これらの警告灯と表示灯は、パワーモードを ON モードにしたときに点灯し、パワーシステム起動後または、数秒後に消灯します。
点灯しない場合や消灯しないときは、システム異常のおそれがありますので、取扱説明書の指示に従い対処してください。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

次ページに続く

 ※2	クルーズコントロール表示灯(ホワイト / グリーン)	P.100
 ※3	クルーズコントロール / LKAS システム表示灯(ホワイト / グリーン)	P.100
	車間距離設定表示灯	P.98
○	イモビライザーシステム表示灯	P.94
○	セキュリティアラームシステム作動表示灯	P.94
 ※1 ※2	渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)警告灯(オレンジ)	P.88
 ※2	渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)表示灯(ホワイト / グリーン)	P.97
 ※1 ※3	ACC/LKAS システム警告灯(オレンジ)	P.88
 ※3	ACC/LKAS システム表示灯(ホワイト / グリーン)	P.97

	ハンズオフ機能付高度車線内運転支援機能表示灯(ホワイト / グリーン / ブルー)*	P.98
	ステアリングアシスト表示灯(ホワイト / グリーン / ブルー)*	P.98
 ※1	車線変更支援機能警告灯(オレンジ)	P.89
	車線変更支援機能表示灯(ホワイト / グリーン)	P.99
	レコメンド型車線変更支援機能表示灯(ホワイト / グリーン)*	P.99
 ※1 ※2	車線維持支援システム(LKAS)警告灯(オレンジ)	P.89
 ※2	車線維持支援システム(LKAS)表示灯(ホワイト / グリーン)	P.99

 ※1	衝突軽減ブレーキ(CMBS)警告灯(オレンジ)	P.89
	衝突軽減ブレーキ(CMBS)表示灯(グレー)	P.100
 ※1	路外逸脱抑制機能警告灯(オレンジ)	P.89
	路外逸脱抑制機能表示灯(グレー)	P.100
	路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯	P.89
 ※1	安全支援情報警告灯(オレンジ)	P.90
	安全支援情報表示灯(グリーン / グレー)	P.101
 ※1	ドライバーモニタリングカメラ警告灯(オレンジ)*	P.92
	ドライバーモニタリングカメラ表示灯(グレー)*	P.101

※1 ：これらの警告灯と表示灯は、パワーモードを ON モードにしたときに点灯し、パワーシステム起動後または、数秒後に消灯します。
点灯しない場合や消灯しないときは、システム異常のおそれがありますので、取扱説明書の指示に従い対処してください。

※2 ：Honda SENSING 360 装備車

※3 ：Honda SENSING 360+ 装備車

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

警告灯

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	ブレーキ警告灯（レッド）	• パーキングブレーキをかけると点灯	• パワーモードがアクセサリーモードまたは OFF モードのときにパーキングブレーキをかけるとしばらく点灯した後、消灯 • パーキングブレーキがかかっているときにパワーモードを OFF モードにするとしばらく点灯した後、消灯
		• ブレーキフルード量が低下したときに点灯	• 走行中に点灯したりパーキングブレーキを解除しても点灯するときは、ただちに安全な場所に停車してブレーキフルードを点検し、下限より減っている場合は Honda 販売店にご連絡ください。 ➡ **ブレーキ警告灯（レッド）が点灯 / 点滅した** P.679
		• ブレーキシステムが異常のときに点灯	• ABS 警告灯と同時に点灯した場合も、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 ➡ **ブレーキ警告灯（レッド）が点灯 / 点滅した** P.679 • ブレーキシステム警告灯（オレンジ）と同時に点灯した場合は、ただちに安全な場所に停車し、Honda 販売店にご連絡ください。 このとき、ブレーキペダルの操作が重くなることがありますので、ブレーキペダルをしっかり踏んでください。
		• 電子制御パーキングブレーキが異常のときに点滅	• パーキングブレーキが故障して作動しません。 ➡ **ブレーキ警告灯（レッド）が点灯 / 点滅した** P.679

次ページに続く

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	ブレーキシステム警告灯（オレンジ）	• ブレーキに関係するシステムが異常のときに点灯	• 常時点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
		• 電子制御パーキングブレーキシステム、オートマチックブレーキホールドシステムが異常のときに点灯	• 点灯したときは、パーキングブレーキを使用せずに、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
		• 12V バッテリー再接続後、システム初期化中のため点灯	• 車速　20km/h　以上でしばらく走行してください。消灯しないときは Honda 販売店で点検を受けてください。
		• トランクやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているときに点灯	• 常時点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
POWER SYSTEM	パワーシステム警告灯	• パワーシステムが異常のときに点灯	• 常時点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 • マルチインフォメーションディスプレイに「走行できません」が表示した場合は、ただちに安全な場所に停車し、Honda 販売店にご連絡ください。
	PGM-FI 警告灯	• エンジンの排気ガス制御システムまたはパワーシステムに異常があると点灯 • エンジン各気筒の失火状態を検知したときに点滅	➡ **PGM-FI 警告灯が点灯 / 点滅した** P.678
	12V バッテリー充電警告灯	• 充電システムに異常があるときに点灯	• 走行できません。ただちに安全な場所に停車し、Honda 販売店にご連絡ください。 ➡ **12V バッテリー充電警告灯が点灯した** P.677

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	シートベルト非着用警告灯	• シートベルトを着用しないと点灯 • 走行中にシートベルトを着用していないとブザーが鳴り、ブザーが鳴っている間は警告灯が点滅	• シートベルトを正しく着用するとブザーがやみ、警告灯が消灯します。 • シートベルトを正しく着用していても警告灯が点灯する場合は、センサーの誤検知などの要因が考えられます。 ➡ **シートベルトリマインダー** P.40
	トランスミッション警告灯	• トランスミッションが異常のときに点滅	• ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 • マルチインフォメーションディスプレイに「走行できません」が表示した場合は、ただちに安全な場所に停車し、Honda 販売店にご連絡ください。
		• トランスミッションの異常が発生し、シフトポジションを P にできないときに点滅	• 停車するときはパーキングブレーキをかけてください。 • ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

次ページに続く

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	燃料残量警告灯（オレンジ）	• 燃料の残量が少なくなると点灯	• 点灯したら早めに給油してください。 • 点灯するのは、タンクに残っている残量がおよそ 6.2 リットルになったときです。
		• 燃料計に異常があるときは点滅	• ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
	ABS（アンチロックブレーキシステム）警告灯	• ABS が異常のときに点灯	• ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。なお、点灯の場合でも通常のブレーキ機能としての性能は確保されていますが、ABS は作動しません。 **➔ ABS（アンチロックブレーキシステム）** P.559
	エアバッグシステム警告灯	• エアバッグシステム、プリテンショナーシステムが異常のときに点灯	• ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	VSA(ビークルスタビリティアシスト)警告灯	• VSA が作動しているときは点滅	—
		• VSA システム、ヒルスタートアシストシステムのいずれかが異常のときに点灯	• ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。なお、点灯の場合でも通常のブレーキ機能としての性能は確保されています。 ➡ **VSA(ビークルスタビリティアシスト)** P.366 ➡ **ヒルスタートアシストシステム** P.345
		• 12V バッテリー再接続後、システム初期化中のため点灯	• 車速 20km/h 以上でしばらく走行してください。消灯しないときは Honda 販売店で点検を受けてください。
	VSA OFF 警告灯	• VSA を OFF にすると点灯	➡ **表示の切り換えかた** P.106 ➡ **VSA モード設定** P.119
	EPS(電動パワーステアリング)システム警告灯	• EPS システム、ドライバー注意力モニター✤が異常のときに点灯	• 常時点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 • マルチインフォメーションディスプレイに「走行しないでください」が表示した場合は、ただちに安全な場所に停車し、Honda 販売店にご連絡ください。 ➡ **EPS(電動パワーステアリング)システム警告灯が点灯した** P.680

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

次ページに続く

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	パーキングセンサー警告灯	• パーキングセンサーが障害物を検知したときに点滅	➡ **パーキングセンサーシステム** P.565
	Honda SENSING 360 装備車 渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)警告灯(オレンジ)	• 渋滞追従機能付 ACC システムが異常のときに点灯	• 運転中に点灯したときは、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
		• 12V バッテリー再接続後、システム初期化中のため点灯	• 車速 20km/h 以上でしばらく走行してください。消灯しないときは Honda 販売店で点検を受けてください。
		• トランクやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているときに点灯	• 常時点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
	Honda SENSING 360+ 装備車 ACC/LKAS システム警告灯(オレンジ)	• 渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)システム、車線維持支援システム(LKAS)が異常のときに点灯	• 渋滞追従機能付 ACC システム、LKAS、トラフィックジャムアシスト(渋滞運転支援機能)、ハンズオフ機能付高度車線内運転支援機能は作動しません。 • ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
		• 12V バッテリー再接続後、システム初期化中のため点灯	• 車速 20km/h 以上でしばらく走行してください。消灯しないときは Honda 販売店で点検を受けてください。
		• トランクやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているときに点灯	• 常時点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	Honda SENSING 360 装備車 車線維持支援システム(LKAS)警告灯(オレンジ)	• LKAS が異常のときに点灯	• ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 • LKAS とトラフィックジャムアシスト(渋滞運転支援機能)は作動しません。
		• トランクやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているときに点灯	• 常時点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
	車線変更支援機能警告灯(オレンジ)	• 車線変更支援機能が異常のときに点灯	• ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 • 車線変更支援機能とレコメンド型車線変更支援機能✤ は作動しません。
		• トランクやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているときに点灯	• 常時点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
	衝突軽減ブレーキ(CMBS)警告灯(オレンジ)	• CMBS が異常のときやカメラ付近のフロントガラスの汚れなどで機能停止しているときに点灯	• 安全支援情報警告灯(オレンジ)が同時に点灯します。 ➡ **安全支援情報警告灯(オレンジ)** P.90
	路外逸脱抑制機能警告灯(オレンジ)	• 路外逸脱抑制機能が異常のときやカメラ付近のフロントガラスの汚れなどで機能停止しているときに点灯	• 安全支援情報警告灯(オレンジ)が同時に点灯します。 ➡ **安全支援情報警告灯(オレンジ)** P.90
	路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯	• 路外逸脱抑制機能の操舵アシストが一時停止しているときに点灯	➡ **路外逸脱抑制機能** P.421

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

次ページに続く

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	安全支援情報警告灯(オレンジ)	• 路外逸脱抑制機能・歩行者事故低減ステアリング、ブラインドスポットインフォメーション・車線変更時衝突抑制機能、踏み間違い衝突軽減システム、衝突軽減ブレーキ、前方交差車両警報、カーブ路外逸脱早期警報*、降車時車両接近警報*が異常の時に点灯	• ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
		• パーキングセンサーが異常のときに点灯	• パーキングセンサー周辺に泥、氷、雪などの付着物がないか確認してください。付着物を取り除いても点灯する場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。 ➡ **パーキングセンサーシステム** P.565
		• トランクやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているときに点灯	• 常時点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
		• 12V バッテリー再接続後、システム初期化中のため点灯	• 車速 20km/h 以上でしばらく走行してください。消灯しないときは Honda 販売店で点検を受けてください。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

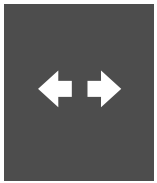
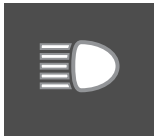
警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	安全支援情報警告灯（オレンジ）	• トンネルなど閉鎖された空間や、周辺に構造物などがない開けた道路を走行するとレーダー センサーが物体を検知できず警告灯が一時的に点灯することがあります。	• しばらく走行してください。 • 消灯しないときは Honda 販売店で点検を受けてください。
		• レーダーセンサーに汚れ、氷、霜などの遮蔽物があるときに点灯	• 安全な場所に停車してレーダーセンサー周辺の汚れなどの遮蔽物を取り除いてください。 • 汚れが落ちるとシステムは復帰します。 • 復帰するまでに時間がかかることがあります。 ➡ **レーダーセンサー** P.547
		• レーダーセンサーの温度が高温になると点灯	• 温度が下がるとシステムは復帰します。
		• フロントガラス上部にあるカメラ内部の温度が高温になると点灯	• エアコンで室内温度を下げるなどしてカメラ内部の温度を下げてください。温度が下がるとシステムは復帰します。

次ページに続く

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	安全支援情報警告灯(オレンジ)	• フロントガラス上部にあるカメラ付近に汚れ、氷、霜などの遮蔽物があるときに点灯 雨、霧、雪など悪天候や、夜間やトンネル内、夜明け、夕暮れなど周囲が暗いときも点灯することがあります	• 走行中はウォッシャーとワイパーで汚れなどの遮蔽物を取り除いてください。 • 安全な場所に停車してカメラ付近のフロントガラスの汚れなどの遮蔽物を取り除いてください。 • 汚れが落ちるとシステムは復帰します。
		• バンパーのソナーに汚れ、氷、霜などの遮蔽物があると点灯	• 踏み間違い衝突軽減システムが作動しません。安全な場所に停車してバンパーの汚れなどの遮蔽物を取り除いてください。 ➡ **ソナーセンサー** P.549 ➡ **踏み間違い衝突軽減システム** P.398
	ドライバーモニタリングカメラ警告灯(オレンジ)✤	• ドライバーモニタリングカメラが異常のときに点灯	• ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

表示灯

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	方向指示器 / 非常点滅表示灯	• 方向指示器と対応し、左右どちらかが点滅 • 非常点滅表示灯スイッチを押すと、左右同時に点滅	• 点滅しない / 点滅の周期が速いときは、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
		• 高速で走行中に急ブレーキをかけると、左右同時に点滅	➡ **エマージェンシーストップシグナル** P.562
	ライト点灯表示灯	• 車幅灯、尾灯などが点灯しているときに点灯	➡ **ライトの使い方** P.164
	ハイビーム表示灯	• ヘッドライトのハイビームが点灯しているときに点灯 • アダプティブドライビングビームが作動しているときに点灯	➡ **アダプティブドライビングビーム** P.169
	アダプティブドライビングビーム表示灯	• アダプティブドライビングビームの動作条件がそろった時に点灯	➡ **アダプティブドライビングビーム** P.169
	急アクセル抑制機能表示灯*	• 急アクセル抑制機能が ON のときに点灯	➡ **急アクセル抑制機能*** P.404

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

次ページに続く

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	イモビライザーシステム表示灯	• POWER を押したとき、イモビライザーシステムがキーの情報を認識できないと点滅	• POWER を押したあと、点滅しているときは、パワーシステムを起動することはできません。パワーモードをいったん OFF モードにしてから、もう一度 ON モードにしてください。 • 頻繁に表示灯の点滅を繰り返す場合は、システムの異常が考えられますので Honda 販売店で点検を受けてください。 • POWER スイッチのそばに、別のキーや金属があるとイモビライザーシステムがキーの情報を読み取れないことがあります。
	セキュリティアラームシステム作動表示灯	• セキュリティアラームシステムがセットされているときに点滅	➔ **セキュリティアラームシステム** P.155
	シフトポジション表示灯	• 現在のポジションで点灯	➔ **シフト操作** P.350
	減速セレクター表示灯	• 減速セレクター作動時に減速の強さを表示 • 減速セレクターを操作しても減速の強さが変わらないと点滅 • ー のセレクターを引き続けるか、ドライブモードを SPORT モードにすると M が点灯	➔ **減速セレクター** P.355

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
READY	READY 表示灯	• 走行の準備が完了すると点灯	➔ **パワーシステムの起動** P.342
EV	EV 表示灯	• モーターだけでの走行になると点灯	—
INDIVIDUAL	INDIVIDUAL モード表示灯	• ドライブモードがINDIVIDUALモードのときに点灯	➔ **ドライブモードスイッチ** P.359
SPORT	SPORT モード表示灯	• ドライブモードがSPORTモードのときに点灯	• SPORT モードのとき、アンビエントメーターは赤色で点灯します。 ➔ **ドライブモードスイッチ** P.359
NORMAL	NORMAL モード表示灯	• ドライブモードがNORMALモードのときに点灯	➔ **ドライブモードスイッチ** P.359
COMFORT	COMFORT モード表示灯	• ドライブモードがCOMFORTモードのときに点灯	➔ **ドライブモードスイッチ** P.359
ECON	ECON モード表示灯	• ドライブモードがECONモードのときに点灯	➔ **ドライブモードスイッチ** P.359
AUTO	AUTO モード表示灯	• 走行モードがAUTOモードのときに点灯	➔ **e ボタン** P.10
EV	EV モード表示灯	• 走行モードがEVモードのときに点灯	➔ **e ボタン** P.10
CHARGE	CHARGE モード表示灯	• 走行モードがCHARGEモードのときに点灯	➔ **e ボタン** P.10

次ページに続く

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	オートマチックブレーキホールドシステム表示灯	• オートマチックブレーキホールドシステムが ON のときに点灯	➔ **オートマチックブレーキホールド** P.555
	オートマチックブレーキホールド表示灯	• オートマチックブレーキホールドが作動しているときに点灯	➔ **オートマチックブレーキホールド** P.555
	インフォメーション表示灯	• 異常を検知すると警告音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、同時に点灯	• メッセージは、警告が解除されるか、ライトセレクターホイールを回すまで通常表示に戻りません。 • 点灯しているときにライトセレクターホイールを回し、メッセージを再表示させることができます。 ➔ **表示の切り換えかた** P.106

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	Honda SENSING 360 装備車 渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)表示灯(ホワイト / グリーン)	• スイッチを押すとホワイトで点灯 • 渋滞追従機能付ACCが作動中で先行車を検知していないとホワイト / グリーンで点灯 • 渋滞追従機能付ACCが作動中で先行車を検知しているとグリーンで点灯	➡ **渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)** P.456
	Honda SENSING 360+ 装備車 ACC/LKAS システム表示灯(ホワイト / グリーン)	• 渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)システム、車線維持支援システム(LKAS)、トラフィックジャムアシスト(渋滞運転支援機能)の状況に応じて点灯	➡ **渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)** P.456 ➡ **車線維持支援システム(LKAS)** P.489 ➡ **トラフィックジャムアシスト(渋滞運転支援機能)** P.503 ➡ **メーターの表示** P.380 • LKAS を OFF にしているときは、表示灯が に変わります。 ➡ **車線維持支援システム*** P.118

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

次ページに続く

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	ハンズオフ機能付高度車線内運転支援機能表示灯(ホワイト / グリーン/ブルー)*	• ハンズオフ機能付高度車線内運転支援機能の状況に応じて点灯	**ハンズオフ機能付高度車線内運転支援機能** P.512 **メーターの表示** P.380
			• LKAS を OFF にしているときは、表示灯がに変わります。 **車線維持支援システム*** P.118
	ステアリングアシスト表示灯(ホワイト / グリーン / ブルー)*	• ステアリングアシストの状況に応じて点灯	**メーターの表示** P.380
	車間距離設定表示灯	• 渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)表示灯が点灯しているときに点灯	**車間距離を設定するには** P.477

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	レコメンド型車線変更支援機能表示灯(ホワイト / グリーン)*	• レコメンド型車線変更支援機能が作動できる状態のときにホワイトで点灯 • レコメンド型車線変更支援機能の車線変更を受け付けたときにグリーンで点灯	➔ **レコメンド型車線変更支援機能** P.515 ➔ **メーターの表示** P.380
	Honda SENSING 360 装備車 車線維持支援システム(LKAS)表示灯(ホワイト / グリーン)	• LKAS スイッチを押すとホワイトで点灯 • LKASまたはトラフィックジャムアシスト(渋滞運転支援機能)が作動するとグリーンで点灯	➔ **車線維持支援システム(LKAS)** P.489 ➔ **トラフィックジャムアシスト(渋滞運転支援機能)** P.503
	車線変更支援機能表示灯(ホワイト/グリーン)	• 車線変更支援機能が作動できる状態のときにホワイトで点灯 • 車線変更支援機能が作動するとグリーンで点灯	➔ **車線変更支援機能** P.522 ➔ **メーターの表示** P.380

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

次ページに続く

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	Honda SENSING 360 装備車 クルーズコントロール表示灯（ホワイト / グリーン）	• クルーズモードが設定されたときにホワイトで点灯 • クルーズモードが作動するとグリーンで点灯	➡ **クルーズモードへの切換え** P.483
	Honda SENSING 360+ 装備車 クルーズコントロール /LKAS システム表示灯（ホワイト / グリーン）	• クルーズモード、LKASまたはトラフィックジャムアシストの状況に応じて点灯	➡ **クルーズモードへの切換え** P.483 ➡ **車線維持支援システム（LKAS）** P.489 ➡ **トラフィックジャムアシスト（渋滞運転支援機能）** P.503
		• LKAS を OFF にしているときは、表示灯が  に変わります。 ➡ **車線維持支援システム*** P.118	
	衝突軽減ブレーキ（CMBS）表示灯（グレー）	• CMBS を OFF にしているときに点灯	➡ **安全支援情報** P.116
	路外逸脱抑制機能表示灯（グレー）	• 路外逸脱抑制機能を OFF にしているときに点灯	➡ **安全支援情報** P.116

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	安全支援情報表示灯(グリーン / グレー)	• 路外逸脱抑制機能・歩行者事故低減ステアリング、ブラインドスポットインフォメーション・車線変更時衝突抑制機能、踏み間違い衝突軽減システム、衝突軽減ブレーキ、前方交差車両警報、パーキングセンサー警報、カーブ路外逸脱早期警報✤、降車時車両接近警報✤ がすべて ON のときにグリーンで点灯 • いずれかが ON のときにグリーン / グレーで点灯 • すべてが OFF のときにグレーで点灯	➡ **ブラインドスポットインフォメーション** P.369 ➡ **衝突軽減ブレーキ(CMBS)** P.384 ➡ **踏み間違い衝突軽減システム** P.398 ➡ **前方交差車両警報** P.409 ➡ **歩行者事故低減ステアリング** P.430 ➡ **路外逸脱抑制機能** P.421 ➡ **車線変更時衝突抑制機能** P.438 ➡ **パーキングセンサーシステム** P.565 ➡ **カーブ路外逸脱早期警報** P.415 ➡ **降車時車両接近警報** P.446
	ドライバーモニタリングカメラ表示灯(グレー)✤	• ドライバーモニタリングカメラが一時停止してるときに点灯	• 運転者を正しく検知できないときに点灯します。 • 遮蔽物や汚れが付着しているときにも点灯します。 ➡ **ドライバーモニタリングカメラ** P.544

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

メーター

メーターには、スピードメーター、燃料計などの種類があります。
パワーモードが ON モードのとき表示されます。

■スピードメーター

走行速度を km/h で表示します。

■燃料計

燃料タンクに残っている、燃料の量を表示します。

» 燃料計

アドバイス

燃料計が E に近づいたら、早めに給油してください。
燃料がなくなるとエンジンが点火しなくなり、触媒装置を損傷することがあります。

少量給油(約5リットル以下)を行ったときや車両の状況によっては、実際の燃料残量と、メーターに表示される量は異なる場合があります。

■パワー表示(POWER)

モーター出力の状態を表示します。

» パワー表示(POWER)

モーター出力と高電圧バッテリーへの充電の状態は、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。
➔ **パワーフロー/ エンジン作動表示** P.109

■チャージメーター表示(CHARGE)/ 減速度表示(DECEL)

高電圧バッテリーへの充電の状態を表示します。
減速セレクター作動時には減速の強さを表示します。

■高電圧バッテリー残量計

高電圧バッテリー内の充電量を表示します。

■アンビエントメーター

SPORT モードが OFF のときの運転の状態を表示します。省燃費状態の時はアンビエントメーターの色が緑色に変化します。

高電圧バッテリー残量計

次のような場合は、高電圧バッテリー残量表示が下がることがあります。

- 12V バッテリーを交換したとき
- 12V バッテリーの端子を外したとき
- 高電圧バッテリー制御システムが残量の誤差を補正したとき

走行すると自動的に充電されます。

高電圧バッテリーの温度が変化すると、高電圧バッテリー残量計の表示が変化することがあります。

次ページに続く

■外気温表示

外気温を測定し表示します。

■外気温表示を補正するには

外気温とメーターの表示温度に差がある場合、±3℃の範囲で補正することができます。

補正するには、ディスプレイオーディオ画面の車両設定を使用します。

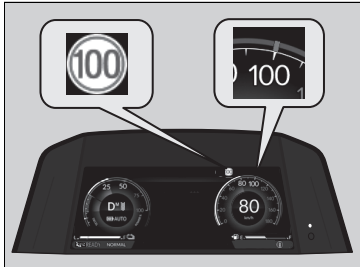
➔ **設定** P.285

■標識認識機能表示

走行中に認識した道路標識情報を表示します。

認識した最高速度の道路標識に対して、速度超過したときは点滅してお知らせします。

➔ **標識認識機能** P.534



外気温表示

温度センサーはフロントバンパー付近に付いています。

速度がおよそ 30km/h 以下のときは、表示される温度が、路面の熱、エンジンの熱、周囲の車の排気ガスの影響を受けることがあります。また、温度の読み取り値が安定するまで更新されないため、温度表示の更新に数分かかることがあります。

外気温表示を補正するには

外気温表示の補正は、温度が安定してから行ってください。

パワーモードをONモードにしたとき、外気温が3℃以下の場合は、外気温低下メッセージがホワイトで表示されます。

運転中に外気温が3℃以下に低下した場合は、外気温低下メッセージがオレンジで表示されます。



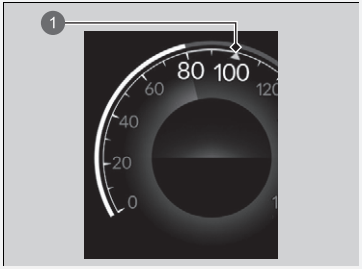
■渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)設定車速表示

渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)の設定車速を表示します。

➡ **渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)** P.456

▨渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)設定車速表示

渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)またはクルーズコントロールで速度を設定すると、スピードメーターに設定した速度の位置にマークが表示されます。



❶設定速度

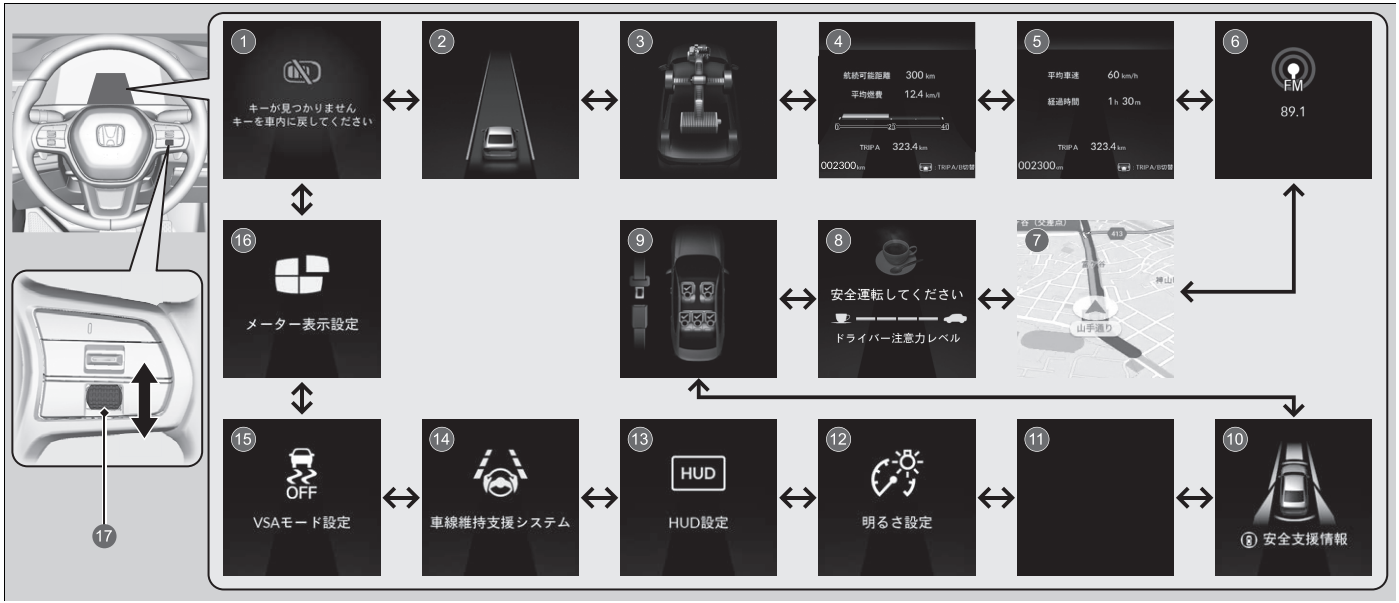
マルチインフォメーションディスプレイ

マルチインフォメーションディスプレイには、航続可能距離や燃費などの情報や、車両状態などのメッセージが表示されます。
警告メッセージが表示された場合は、メッセージの内容を確認して必要に応じて Honda 販売店にご連絡し、点検を受けてください。
マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン油圧異常」、「エンジン冷却水高温」または、「ブレーキ性能低下」が表示した場合は、下記を参照してください。

➔「エンジン油圧異常」の警告メッセージが表示された P.676
➔ オーバーヒート P.673
➔「ブレーキ性能低下」の警告メッセージが表示された P.677

■表示の切り換えかた

ライトセレクターホイールを回すごとに画面が切り換わります。



❶ 警告メッセージ P.121
❷ 運転支援情報 P.108
❸ パワーフロー/ エンジン作動表示 P.109
❹ 航続距離 / 燃費 / オドメーター/ トリップメーター P.110
❺ 車速 / 経過時間 / オドメーター/ トリップメーター P.113
❻ オーディオ P.115
❼ ナビゲーション P.115
❽ ドライバー注意力モニター* P.450
❾ 全席シートベルト P.115
❿ 安全支援情報 P.116
⓫ なし
⓬ 明るさ設定 P.118
⓭ ヘッドアップディスプレイ設定 P.127
⓮ 車線維持支援システム* P.118
⓯ VSA モード設定 P.119
⓰ メーター表示設定 P.120
⓱ ライトセレクターホイール

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

次ページに続く

■運転支援情報

渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)/車線維持支援システム(LKAS)/ トラフィックジャムアシスト(渋滞運転支援機能)、車線変更支援機能、レコメンド型車線変更支援機能✤ の現在の状態を表示します。

➔ **渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)** P.456
➔ **車線維持支援システム(LKAS)** P.489
➔ **トラフィックジャムアシスト(渋滞運転支援機能)** P.503
➔ **車線変更支援機能** P.522
➔ **レコメンド型車線変更支援機能** P.515

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■パワーフロー/ エンジン作動表示

高電圧バッテリーへの充電、アシスト状態を表示します。



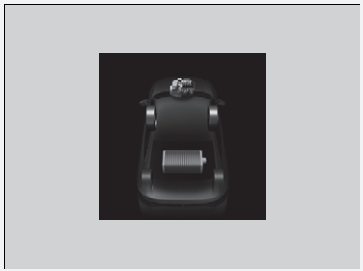
❶ パワーフロー表示
❷ エンジン作動表示
❸ エンジン作動中
❹ エンジン停止中
❺ **ハイブリッド走行**：エンジン作動とモーターアシスト(ブルー)
❻ **EV 走行**：モーターのみ作動(ブルー)
❼ **エンジン走行**：エンジン作動し高電圧バッテリーへ充電中(ブルー/グリーン)
❽ エンジン作動し高電圧バッテリーへ充電中(グリーン)
❾ エンジンのみ作動(ブルー)
❿ **回生**：高電圧バッテリーへ充電中(グリーン)

パワーフロー/ エンジン作動表示

パワー表示(POWER)とチャージメーター表示(CHARGE)の動きとパワーフロー/ エンジン作動表示の動きは、状況により一致しない場合があります。

➔ **パワー表示(POWER)** P.102
➔ **チャージメーター表示(CHARGE)/ 減速度表示(DECEL)** P.103

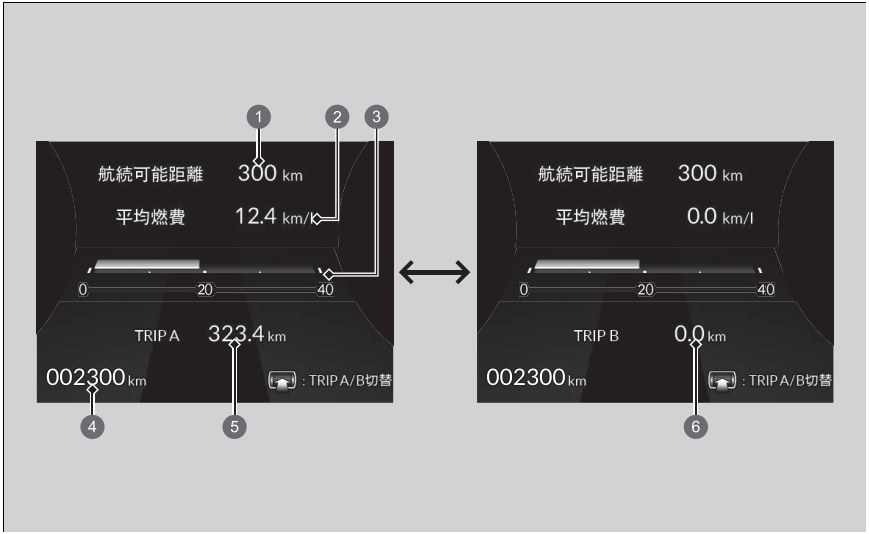
アイドリング中で、高電圧バッテリーを充電していないとき下記が表示されます。



次ページに続く

■航続距離 / 燃費 / オドメーター/ トリップメーター

ライトセレクターホイールを押すと、トリップメーターの A、B が切り換わります。



❶ 航続可能距離
❷ 平均燃費
❸ 瞬間燃費
❹ オドメーター
❺ トリップメーターA
❻ トリップメーターB

■トリップメーター

リセットしてからの走行距離を km で表示します。
トリップメーターA と、トリップメーターB があり、それぞれ独立して計測するため 2 つの走行距離を知ることができます。

トリップメーターをリセットするには

リセットしたいトリップメーターが表示されている状態でライトセレクターホイールを長押しし、「リセット」を選択してください。トリップメーターが0.0にリセットされます。
また、平均燃費表示、平均車速表示、経過時間表示も同時にリセットされます。

■オドメーター

走行距離の累計を km で表示します。

トリップメーター

トリップメーターは走行距離が 9999.9km を超えると、0.0km に戻ります。

次ページに続く

■平均燃費表示

トリップメーターA、B と連動し、それぞれの平均燃費を一定時間ごとに更新して km/l で表示します。

■瞬間燃費表示

瞬間燃費をバーグラフに km/l で表示します。

■航続可能距離表示

高電圧バッテリーと燃料の残量、平均燃費をもとに推定航続可能距離を km で表示します。

平均燃費表示

表示される平均燃費は実際に走行した燃費と異なる場合があります。

トリップメーターA、B と平均燃費表示 A、B を給油と連動させて自動的にリセットさせることができます。

➔ **設定** P.285

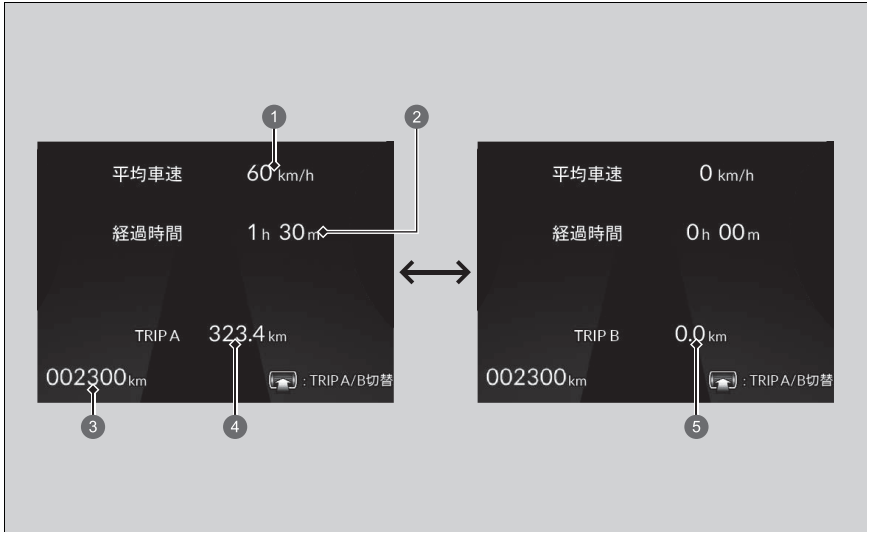
停車時または低速走行中にリセットした場合は、走行を始めてから燃費の計算を開始します。

航続可能距離表示

表示される航続可能距離は、実際に航続可能な距離とは異なる場合があります。

■車速 / 経過時間 / オドメーター/ トリップメーター

ライトセレクターホイールを押すと、トリップメーターのA、Bが切り換わります。



❶ 平均車速
❷ 経過時間
❸ オドメーター
❹ トリップメーターA
❺ トリップメーターB

次ページに続く

■トリップメーター

➔ トリップメーター P.111

■オドメーター

➔ オドメーター P.111

■経過時間表示

トリップメーターA、B をリセットしてからの経過時間を表示します。

■平均車速表示

トリップメーターA、B をリセットしてからの平均車速を km/h で表示します。

経過時間表示

経過時間表示は 999 時間 59 分まで表示できます。

トリップメーターA、B と経過時間表示 A、B を給油と連動させて自動的にリセットさせることができます。

➔ 設定 P.285

平均車速表示

トリップメーターA、B と平均車速表示 A、B を給油と連動させて自動的にリセットさせることができます。

➔ 設定 P.285

■オーディオ

各種音楽メディアの表示を行います。

➔ インフォテインメントシステム P.220

■ナビゲーション

■マップ

Google マップが表示されます。

➔ Google マップ P.277

■コンパス / 交差点案内表示

Apple CarPlay または Android Auto™ によるルート案内の状況に応じて、交差点や分岐点などでの進路案内、コンパスを表示します。

➔ Apple CarPlay P.264

➔ Android Auto™ P.268

■全席シートベルト

全席シートベルトの使用状況を表示します。

➔ シートベルトリマインダー P.40

ナビゲーション

交差点案内表示の ON/OFF を選択することができます。

➔ 設定 P.285

交差点案内表示はアプリによっては作動しないことがあります。

次ページに続く

■安全支援情報

安全支援情報は、路外逸脱抑制機能・歩行者事故低減ステアリング、ブラインドスポットインフォメーション・車線変更時衝突抑制機能、踏み間違い衝突軽減システム、衝突軽減ブレーキ、前方交差車両警報、パーキングセンサー警報、カーブ路外逸脱早期警報✤、降車時車両接近警報✤ の作動状態を表示します。

- グリーン：作動中
- グレー：停止中
- オレンジ：システムが異常のとき

≫安全支援情報

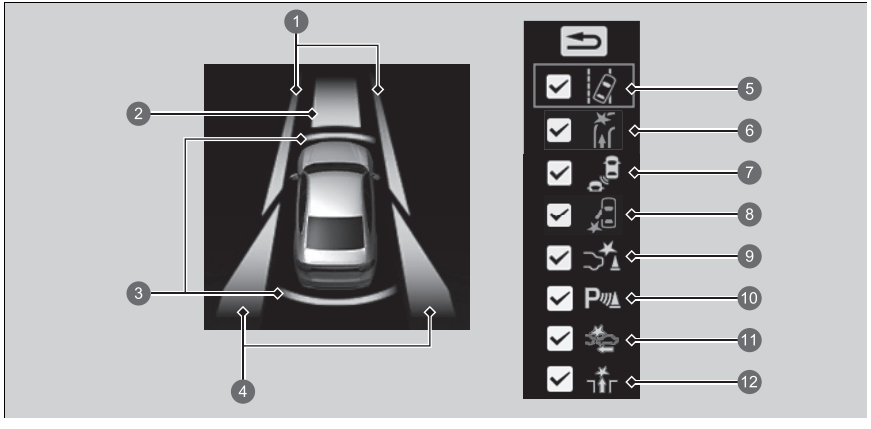
オレンジで表示された場合は、ただちにHonda 販売店で点検を受けてください。

各機能の ON と OFF を切り換えるには、ライトセレクターホイールを回して機能を選択し、次にライトセレクターホイールを押してON/OFF を切り換えます。

➔ **路外逸脱抑制機能** P.421
➔ **衝突軽減ブレーキ（CMBS）** P.384
➔ **踏み間違い衝突軽減システム** P.398
➔ **歩行者事故低減ステアリング** P.430
➔ **ブラインドスポットインフォメーション** P.369
➔ **前方交差車両警報** P.409
➔ **車線変更時衝突抑制機能** P.438
➔ **パーキングセンサーシステム** P.565
➔ **カーブ路外逸脱早期警報** P.415
➔ **降車時車両接近警報** P.446

歩行者事故低減ステアリングは、路外逸脱抑制機能が ON のときに作動します。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。



❶ 路外逸脱抑制機能・カーブ路外逸脱早期警報✤ 作動状態
❷ 衝突軽減ブレーキ・前方交差車両警報作動状態
❸ 踏み間違い衝突軽減システム・パーキングセンサー警報作動状態
❹ ブラインドスポットインフォメーション・車線変更時衝突抑制機能・降車時車両接近警報✤ 作動状態
❺ 路外逸脱抑制機能アイコン
❻ カーブ路外逸脱早期警報アイコン✤
❼ ブラインドスポットインフォメーション・車線変更時衝突抑制機能アイコン
❽ 降車時車両接近警報アイコン✤
❾ 踏み間違い衝突軽減システムアイコン
❿ パーキングセンサー警報アイコン
⓫ 衝突軽減ブレーキアイコン
⓬ 前方交差車両警報アイコン

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

次ページに続く

安全支援情報

各機能の状態は、警告灯・表示灯でも確認できます。

➔ **安全支援情報警告灯(オレンジ)** P.90
➔ **安全支援情報表示灯(グリーン / グレー)** P.101
➔ **衝突軽減ブレー キ(CMBS)警告灯(オレンジ)** P.89
➔ **衝突軽減ブレー キ(CMBS)表示灯(グレー)** P.100
➔ **路外逸脱抑制機能警告灯(オレンジ)** P.89
➔ **路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯** P.89
➔ **路外逸脱抑制機能表示灯(グレー)** P.100

踏み間違い衝突軽減システムアイコンがグリーンのときでも、「リアパーキングセンサー警報設定」をOFFにしている場合は、後退時の踏み間違い衝突軽減システムは作動しません。

➔ **設定** P.285

パーキングセンサー警報アイコンがグリーンのときでも、「リアパーキングセンサー警報設定」をOFFにしている場合は、後方のパーキングセンサー警報は作動しません。

➔ **設定** P.285

■明るさ設定

「明るさ設定」の画面が表示されているときにライトセレクターホイールを押します。

ライトセレクターホイールを回して明るさ調整を行います。
明るくする：ライトセレクターホイールを上に回す
暗くする：ライトセレクターホイールを下に回す

ライトセレクターホイールを押すと設定が完了します。

■車線維持支援システム*

LKAS の ON/OFF を選択することができます。



ライトセレクターホイールを回して「車線維持支援システム」を選択し、押して ON と OFF を切り換えます。
車線維持支援システム(LKAS) P.489

明るさ設定

車外の明るさに応じて、メーター内の照明の明るさが自動で変化します。
- 周囲が暗いときは照明が暗くなる
- 周囲が明るいときは照明が明るくなる

周囲が明るいときも設定変更はできますが、画面の明るさが変わらないことがあります。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■ VSA モード設定

VSA の ON/OFF を選択することができます。



ライトセレクターホイールを回して「TCS 制限モード」を選択し、押して ON と OFF を切り換えます。

VSA(ビークルスタビリティアシスト) P.366

次ページに続く

■メーター表示設定

■機能の表示 / 非表示

機能の表示 / 非表示をお好みに合わせて設定変更することができます。



1. 「メーター表示設定」の画面が表示されているときにライトセレクターホイールを押す。
2. ライトセレクターホイールを回し「表示 / 非表示」を選択し、押して決定する。



3. ライトセレクターホイールを回して表示または非表示にしたい機能を選択し、押して決定する。
   ▶ チェックマークが入っている項目は表示され、入っていない項目は非表示になります。

メーター表示設定

文字色がグレーの機能を非表示にすることはできません。

設定変更するときはシフトポジションを P にしてください。

■メーターデザイン

メーターデザインを変更することができます。



1. 「メーター表示設定」の画面が表示されているときにライトセレクターホイールを押す。
2. ライトセレクターホイールを回し「メーターデザイン」を選択し、押して決定する。



3. ライトセレクターホイールを回してお好みの設定を選択し、押して決定する。

メーターデザイン

「クルーズ」を選択しているときは、渋滞追従付アダプティブクルーズコントロール(ACC)の作動状態に連動して、メーターデザインが切り替わります。

■警告メッセージ

警告メッセージがある場合は、警告メッセージが表示されます。

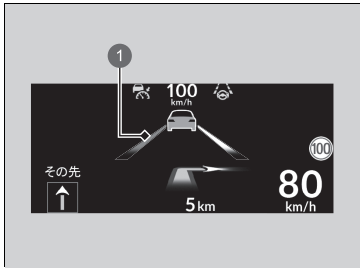
警告メッセージ

複数のメッセージがある場合は、 ライトセレクターホイールを回すとその他のメッセージが表示されます。

ヘッドアップディスプレイ

パワーモードがONモードのときに、ヘッドアップディスプレイに渋滞追従機能付ACC、LKAS、トラフィックジャムアシスト(渋滞運転支援機能)、車線変更支援機能、レコメンド型車線変更支援機能* の現在の状態、標識認識機能表示、コンパス / 交差点案内表示、スピードメーターが表示されます。
また、各種音楽メディアやハンズフリー電話の情報も表示されます。
表示される項目は「表示設定」で変更することができます。

➡ **表示設定** P.129
➡ **オーディオリモートコントロールスイッチ** P.227
➡ **ハンズフリーテレホンについて** P.313



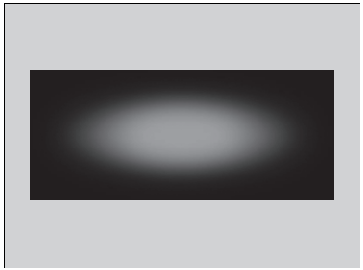
ディスプレイには、次の画面も表示されます。

- **車線逸脱警報**：車線を越えそうになると表示されます。

➡ **路外逸脱抑制機能** P.421
➡ **車線維持支援システム(LKAS)** P.489
➡ **トラフィックジャムアシスト(渋滞運転支援機能)** P.503

❶ 車線逸脱警報

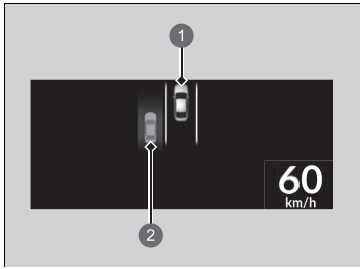
✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。



- **ヘッドアップワーニング**：マルチインフォメーションディスプレイに  が表示されると点滅します。
  - **衝突軽減ブレーキ(CMBS)** P.384
  - **踏み間違い衝突軽減システム** P.398
  - **渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)** P.456

カーブ路外逸脱早期警報装備車

- マルチインフォメーションディスプレイに「前方カーブ注意」が表示されると点滅します。
  - **カーブ路外逸脱早期警報** P.415
- **車線変更時衝突抑制機能**：車線変更時衝突抑制機能が作動中に後ろ側方車両と衝突のおそれがある場合に表示します。
  - **車線変更時衝突抑制機能** P.438



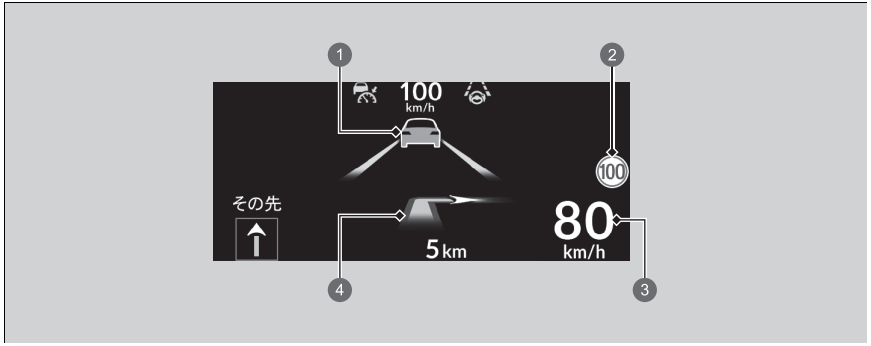
❶ 自車
❷ 接近車両

次ページに続く



- **前方交差車両警報**：前方交差車両警報が作動中に前方で交差する車両の接近を検知すると、車両検知矢印を表示します。
➔ **前方交差車両警報** P.409

■表示コンテンツ



❶ 渋滞追従機能付ACC(アダプティブクルーズコントロール)/LKAS/トラフィックジャムアシスト(渋滞運転支援機能)/ 車線変更支援機能 / レコメンド型車線変更支援機能* 表示 P.126
❷ 標識認識機能表示 P.126
❸ スピードメーター P.126
❹ ナビゲーション P.127

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

次ページに続く

表示コンテンツ

各表示コンテンツの表示 / 非表示を変更することができます。

➡ **表示コンテンツの選択** P.130

■スピードメーター

走行速度を km/h で表示します。

■標識認識機能表示

走行中に認識した道路標識情報を表示します。
認識した最高速度の道路標識に対して、速度超過したときは点滅してお知らせします。

➔ **標識認識機能** P.534

■渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール)/ LKAS/ トラフィックジャムアシスト(渋滞運転支援機能)/ 車線変更支援機能 / レコメンド型車線変更支援機能* 表示

渋滞追従機能付 ACC/LKAS/ トラフィックジャムアシスト / 車線変更支援機能 / レコメンド型車線変更支援機能* の現在の状態を表示します。

➔ **渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)** P.456
➔ **車線維持支援システム(LKAS)** P.489
➔ **トラフィックジャムアシスト(渋滞運転支援機能)** P.503
➔ **車線変更支援機能** P.522
➔ **レコメンド型車線変更支援機能** P.515

✤ : タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■ナビゲーション

■コンパス

コンパスが表示されます。

■交差点案内表示

Google マップ、Apple CarPlay、Android Auto™ によるルート案内の際に、交差点や分岐点などで進路案内を表示します。

➔ **Google マップ** P.277
➔ **Apple CarPlay** P.264
➔ **Android Auto™** P.268

■ヘッドアップディスプレイ設定

ヘッドアップディスプレイの設定を変更することができます。

マルチインフォメーションディスプレイで「HUD 設定」を選択し、ライトセレクターホイールを押してください。

➔ **表示の切り換えかた** P.106

≫ナビゲーション

交差点案内表示の ON/OFF を選択することができます。

➔ **設定** P.285

交差点案内表示はアプリによっては作動しないことがあります。

≫ヘッドアップディスプレイ設定

HUD 明るさ

➔ **明るさの調節** P.128

HUD 高さ

➔ **高さの調節** P.128

HUD 傾き

➔ **角度の調節** P.128

次ページに続く

■明るさの調節

「HUD 明るさ」の画面が表示されているときにライトセレクターホイールを押してください。

明るくする：ライトセレクターホイールを上に回す
暗くする：ライトセレクターホイールを下に回す

ライトセレクターホイールを押すと設定が完了します。

■高さの調節

「HUD 高さ」の画面が表示されているときにライトセレクターホイールを押してください。

高くする：ライトセレクターホイールを上に回す
低くする：ライトセレクターホイールを下に回す

ライトセレクターホイールを押すと設定が完了します。

■角度の調節

「HUD 傾き」の画面が表示されているときにライトセレクターホイールを押してください。

右に傾ける：ライトセレクターホイールを下に回す
左に傾ける：ライトセレクターホイールを上に回す

ライトセレクターホイールを押すと設定が完了します。

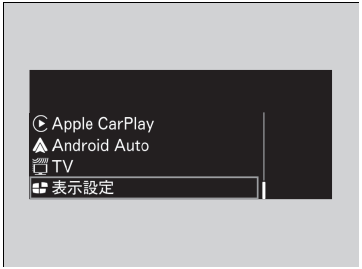
»ヘッドアップディスプレイ設定

Honda スマートキーで解錠して運転席ドアを開けると、DRIVER1 のキーと DRIVER2 のキーを判別して、記憶した位置に自動調節されます。

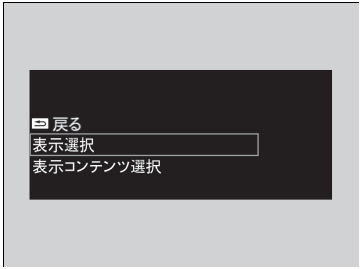
■表示設定

■オーディオソースの表示 / 非表示

オーディオソースの表示 / 非表示を変更することができます。



1. レフトセレクターホイールを回し「表示設定」を選択し、押して決定する。



2. レフトセレクターホイールを回し「表示選択」を選択し、押して決定する。

»オーディオソースの表示 / 非表示

設定変更するときはシフトポジションを P にしてください。

次ページに続く



3. レフトセレクターホイールを回して表示または非表示にしたい機能を選択し、押して決定する。

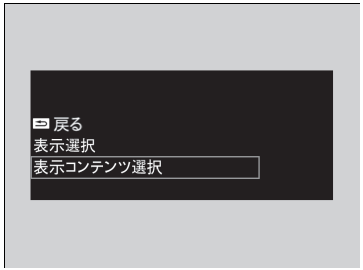
▶ チェックマークが入っている項目は表示され、入っていない項目は非表示になります。

■表示コンテンツの選択

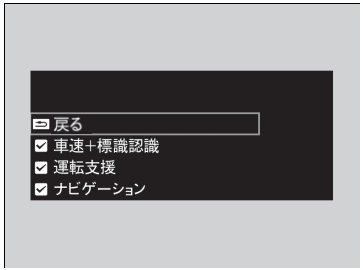
各表示コンテンツの表示 / 非表示を変更することができます。



1. レフトセレクターホイールを回し「表示設定」を選択し、押して決定する。



2. レフトセレクターホイールを回し「表示コンテンツ選択」を選択し、押して決定する。



3. レフトセレクターホイールを回して表示または非表示にしたい機能を選択し、押して決定する。

▶ チェックマークが入っている項目は表示され、入っていない項目は非表示になります。

各部の操作

この章では、運転に必要な各部の操作方法について記載しています。



時刻の設定 133
ドアの施錠と解錠
キー 135
Honda スマートキーの微弱電波 137
車外でのドアの施錠 / 解錠 138
車内での施錠 / 解錠 147
チャイルドプルーフ 149
衝撃感知ドアロック解除システム 150
トランクの開閉 152
セキュリティシステム
イモビライザーシステム 155
セキュリティアラームシステム 155
ウィンドーの開閉 157
ハンドルまわりのスイッチ操作
POWER スイッチ 161
方向指示器(ウィンカースイッチ) 163
ライトの使い方 164
アクティブコーナリングライト 167
アダプティブドライビングビーム 169
ワイパー/ ウォッシャー 172
リヤデフロスター/ ヒーテッドドアミラー スイッチ 174
ドライビングポジションシステム 175
ハンドルの調節 177
ミラー類の調節 178
シートの調節 182
フロントシート 182
室内装備品 192
エアコン
エアコンの吹き出し口 209
オートエアコンの使いかた 210
オートエアコンのセンサー 218

時計の時刻を合わせる

時計はオーディオ装置の画面に表示されます。





1. Home(Home)アイコンを選択する。
   ▶ Home 画面が表示されます。
2. 「本体設定」を選択する。
3. 「システム」を選択する。
4. 「日付と時刻」を選択する。

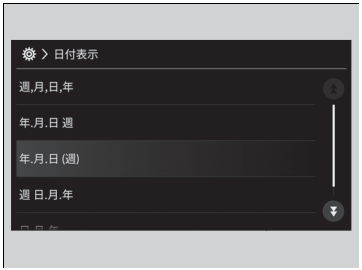
日付・時刻調整：

5. 「日付・時刻設定」を選択する。
6. 「自動日付時刻設定」を選択し、設定を「手動」にする。
7. 「日付設定」を選択する。
8. 年、月、日を設定する。
   ▶ ▲ ▼ を押して調整します。
9. Back(back)アイコンを選択する。
10. 「時刻設定」を選択する。
11. 「時」、「分」、「AM/PM」を設定する。
    ▶ ▲ ▼ を押して調整します。
12. Back(back)アイコンを選択する。

時計の時刻を合わせる

時計は人工衛星からの情報を利用していますので、時刻合わせは不要です。

次ページに続く



日付表示：

5. 「日付表示」を選択し、「週 , 月 , 日 , 年」、「年 . 月 . 日 . 週」、「年 . 月 . 日(週)」、「週 日.月.年」または「日.月.年」を選択する。

6. Back(back)アイコンを選択する。



時計表示：

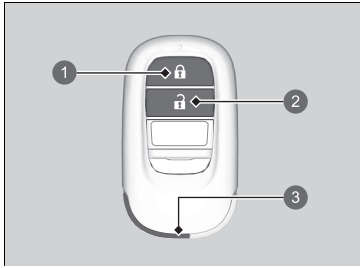
5. 「時刻表示」を選択し、「12H」または「24H」を選択する。

▶「12H」または「24H」を選択すると時計表示が 12 時間または 24 時間に切り替わります。

6. Back(back)アイコンを選択する。

キー

この車には、以下のキーが付いています。



パワーシステムの起動、停止のほかに、すべてのドア、トランク、フューエルリッドの施錠 / 解錠に使用できます。

❶ 施錠ボタン
❷ 解錠ボタン
❸ 内蔵キー

キー

すべてのキーには、イモビライザーシステムがついています。イモビライザーシステムは、車両を盗難から守るためのシステムです。
➔ **イモビライザーシステム** P.155

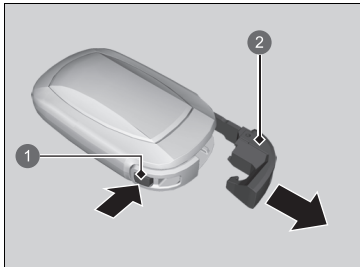
キーの故障を防ぐため、下記の点をお守りください。

- 直射日光が当たる場所、高温、多湿の場所に置かない
- キーを落としたり、重いものをのせない
- キーに液体をかけない
- 砂やほこりを避ける
- 分解をしない
- 火であぶらない
- テレビ、オーディオなど磁気を帯びた機器の近くに置いたりしない

キーの電子部品が故障すると、パワーシステムの起動やリモート発信が作動しなくなることがあります。
キーが正常に作動しなくなった場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

次ページに続く

■内蔵キー



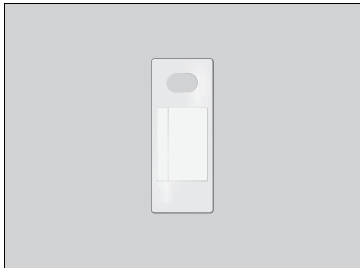
❶ ボタン
❷ 内蔵キー

Hondaスマートキーの電池が切れたときや車の 12V バッテリーがあがったときは、内蔵キーを使用してください。
内蔵キーは、ボタンを押しながら取り出します。

収納するときは、「カチッ」と音がするまで差し込みます。

Hondaスマートキーの電池の消耗や故障したときのことを考慮して、内蔵キーはHondaスマートキーに収納しておいてください。

■キーナンバータグ



キーナンバータグには、キーを購入する際に必要となる番号が記載されています。

キー

Honda スマートキーは、特定小電力無線設備の技術基準適合証明を受けています。以下のことをお守りください。

- 日本国内でのみ使用する
- 電池交換時以外は分解しない
- 改造しない
- キーの内部にある技術基準適合表示を故意に消去、改ざんしない

分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。

Honda スマートキーの電池が切れたとき
P.667

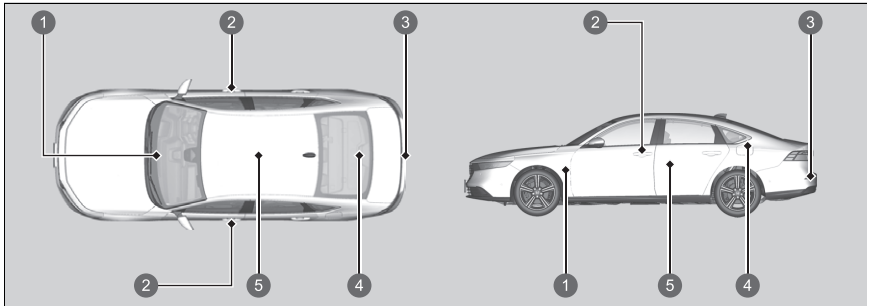
キーナンバータグ

キーナンバータグは、キーとは別に車両以外の場所に大切に保管してください。
キーナンバータグには、キーを購入する際に必要となる番号が記載されています。キーと一緒に保管せず、車両以外の場所に大切に保管してください。キーを紛失したときや、追加購入したいときは、Honda 販売店に依頼してください。

Honda スマートキーの微弱電波

Honda スマートキーを使用してドア、トランク、フューエルリッドの施錠 / 解錠操作をするときやパワーシステムを起動するとき、Honda スマートキーとの電子照合を行うために車両から電波が発信されます。
そのため、次のような場合正常に作動しなかったり、不安定な動作となったりすることがあります。

- 強い電磁波を発する機器や設備が近くにあるとき
- 携帯電話や無線機などの通信機器やノートパソコンと一緒に Honda スマートキーを携帯しているとき
- Honda スマートキーが金属物に触れていたり覆われていたりするとき



❶ 車室内発信機（インストルメントパネル内）
❷ 車室外発信機（ドアハンドル内）
❸ 車室外発信機（リヤバンパー内）
❹ 車室内発信機（リヤシェルフ下）
❺ 車室内発信機（センターコンソール内）

Honda スマートキーの微弱電波

⚠注意

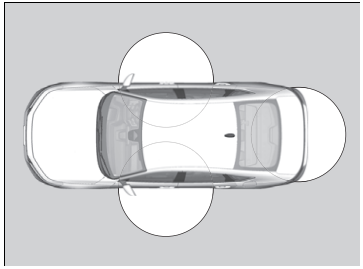
植込み型心臓ペースメーカや植込み型除細動器などの医療機器を装着されているかたは、車両に搭載されている発信機から 22cm 以内に近づかない。
Honda スマートキーシステムで発信されている電波が、機器の作動に影響を与える可能性があります。医療用電子機器を使用しているかたは、医師や医療用機器製造者に影響を確認してからご使用ください。

Honda スマートキーは車両との通信のために常時受信動作をしているため、常に電池を消耗しています。電池寿命は、使用状況により異なりますが約 2 年間です。
また、強い電波を受信し続けると電池を著しく消耗することがあります。テレビやパソコンなどの電化製品の近くには置かないでください。

電波の受信動作を停止させ、電池の消耗を抑えることができます。Honda スマートキーの施錠ボタンと解錠ボタンを同時に約3秒長押しするとインジケーターが2回点滅し、電波の受信が停止します。
Honda スマートキーのいずれかのボタンを 1 回押すと電波の受信が再開します。

車外でのドアの施錠 / 解錠

■ Honda スマートキーシステムでの施錠 / 解錠



施錠 / 解錠の作動範囲

Honda スマートキーを携帯し、ドアロックセンサー、ドアハンドルを操作することでドア、トランク、フューエルリッドの施錠や解錠ができます。

施錠 / 解錠が作動するのは、運転席または助手席ドアハンドルから周囲約 80cm 以内です。

車外でのドアの施錠 / 解錠

ドアを解錠すると、室内灯が点灯します。

室内灯のスイッチがドアと連動する位置にあるとき、解錠すると室内灯が点灯します。

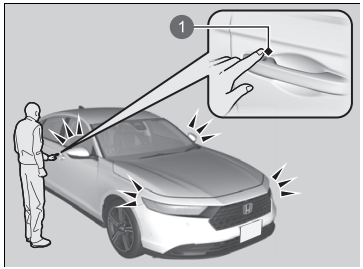
約 30 秒点灯し、徐々に暗くなります。30 秒以内にドアを施錠すると、室内灯は直ちに消灯します。

➔ **室内灯** P.192

Honda スマートキーシステムでの施錠 / 解錠

Hondaスマートキーシステムで解錠操作をした場合、30秒以内にドアを開けないと、再び自動的に施錠されます。

パワーモードがOFFモード以外のときはHondaスマートキーシステムによる施錠 / 解錠はできません。



❶ ドアロックセンサー

■施錠するには

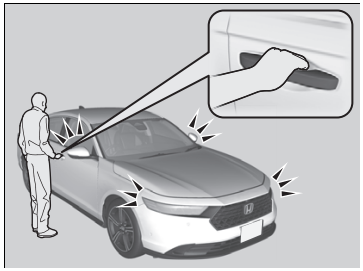
フロントドアハンドルのドアロックセンサーに触れます。

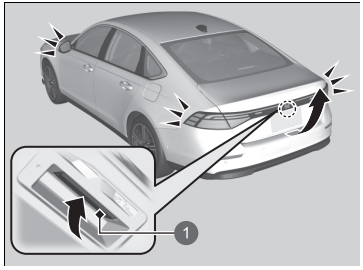
▶「ピッ」というアンサーバック音が鳴り非常点滅表示灯が1回点滅し、すべてのドア、トランク、フューエルリッドが施錠されます。

Honda スマートキーシステムでの施錠 / 解錠

- Hondaスマートキーは運転者が携帯し、車内に残したまま降車しないでください。
- 同じ作動範囲に Honda スマートキーを携帯している人がいるときは、携帯していない人でもドアロックセンサーやフロントドアハンドルで施錠 / 解錠操作ができます。
- 革製やスキー用の手袋などを着用しているときは、フロントドアハンドルでの解錠操作やロックセンサーでの施錠操作が遅れたりできなかったりすることがあります。
- 作動範囲内に Honda スマートキーがあるときは、大雨や洗車などで大量の水がフロントドアハンドルにかかると、解錠されることがあります。
- 施錠後約2秒間は、フロントドアハンドルを握っても解錠操作はできません。
- フロントドアハンドルを握った直後はドアが開かないことがあります。ドアハンドルを握りなおして解錠されていることを確認してから開けてください。

次ページに続く





❶ トランクオープンスイッチ

■解錠するには

運転席または助手席ドアハンドルを握ります。

▶「ピピッ」というアンサーバック音が鳴り非常点滅表示灯が2回点滅し、すべてのドア、トランク、フューエルリッドが解錠します。

トランクオープンスイッチを押します。

▶トランクが解錠し浮き上がります。

▶「ピッ」というアンサーバック音が鳴り非常点滅表示灯が 2 回点滅します。

Honda スマートキーシステムでの施錠 / 解錠

- フロントドアハンドルより約80cm以内の距離でも、Honda スマートキーが地面の近くや高い位置にあるときは作動しないことがあります。
- ドアやドアガラス、トランクに近づきすぎていると作動しないことがあります。

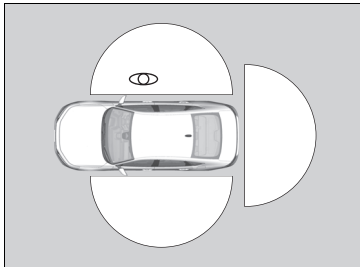
カスタマイズ機能について

施錠 / 解錠時に鳴るアンサーバックブザーは、音量を変えたりブザーが鳴らないようにすることができます。

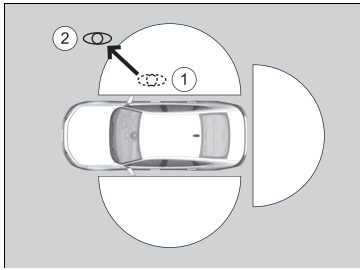
設定 P.285

すべてのドアが施錠されているとき、Honda スマートキーを携帯し、Honda スマートキーシステムの作動範囲に入ると、すべてのドアのアウターハンドルのライトが約 30 秒点灯します。

数日間ドアが施錠されているときや、2 分以上作動範囲内にいたときは点灯しません。ドアを解錠してから施錠し、再び作動範囲内に入るとアウターハンドルのライトが点灯します。



オートロック機能の作動範囲



■施錠するには(降車時オートドアロック機能)

Honda スマートキーを携帯し、車から離れると、ドアが自動的に施錠します。
このオートロック機能は、すべてのドアが閉まっている状態で Honda スマートキーが運転席、助手席ドアハンドル、トランクオープンスイッチから周囲約 1.5m 以内にあるときに起動します。

Honda スマートキーを携帯し、降車してドアを閉めてください。

1. そのまま約 1.5m 以内で待つ。
▶「ピッ」と音が鳴り、オートロック機能が起動します。

2. Honda スマートキーを携帯したまま、約 1.5m 以上離れて、約 2 秒待つ。
▶「ピッ」と音が鳴り、非常点滅表示灯が 1 回点滅し、すべてのドア、トランクが施錠されます。

施錠するには(降車時オートドアロック機能)

降車時オートドアロック機能の工場出荷時の設定は OFF になっています。
ON にするときは、カスタマイズ機能で設定を変更してください。
➡ **設定** P.285

オートロック機能を使用する時は、車内に残っている人がいないことを確認し、車から離れてください。

オートロック機能が起動し、作動範囲内にいるときはドアが施錠されるまで、Honda スマートキーのインジケーターが点滅します。

オートロック機能が起動し、車から離れずに作動範囲内にいた場合は、アンサーバック音が鳴ってから、約30秒後に自動で施錠されます。

オートロック機能が起動してからドアを開けた場合、オートロック機能は中断されます。

以下のときオートロック機能は起動しません。
- Honda スマートキーが車内にあるとき
▶ 警告ブザーは鳴りません
- Honda スマートキーが作動範囲に無いとき
▶ 警告ブザーが鳴ります

次ページに続く

一時的にオートロック機能を OFF にするとき：

1. パワーモードを OFF モードにする。
2. 運転席ドアを開ける。
3. マスタードアロックスイッチを施錠→解錠→施錠→解錠の順番で押す。
▶ オートロック機能が OFF になり、アンサーバック音が鳴ります。

以下のいずれかの操作をした場合、オートロック機能が ON に戻ります。

- パワーモードを ON モードにする
- 内蔵キー、キーレスエントリーシステムもしくは Honda スマートキーシステムですべてのドア、トランクを施錠する
- Honda スマートキーを携帯したままオートロック機能の作動範囲内から離れる
- いずれかのドアを開ける

施錠するには（降車時オートドアロック機能）

次のような場合は、オートロック機能は作動しません。

- Hondaスマートキーが車内に置いてあるとき
- ドア、ボンネットが完全に閉まっていないとき
- パワーモードが OFF モード以外のとき
- 降車時にすでに Honda スマートキーが作動範囲内にないとき

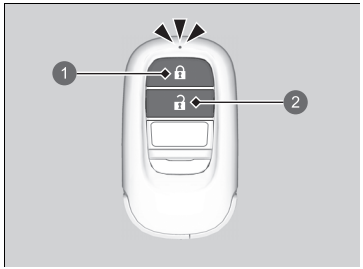
オートロック機能の起動後に、次のような場合は、オートロック作動中止警告ブザーが約2秒間鳴ります。

- Honda スマートキーを窓から車内に置いたとき
- 車に近づきすぎているとき
- Honda スマートキーをトランク内に置いたとき

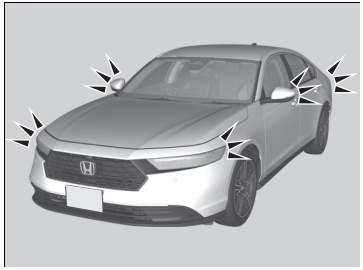
オートロック作動中止警告ブザーが鳴ったときは、車から離れても自動で施錠されません。
Honda スマートキーを携帯していることを確認し、再度ドアを開閉してオートロック起動ブザーが鳴ることを確認してください。

意図しないタイミングでオートロック機能が作動した場合、車外にいるときは再度解錠してください。
乗車しているときは、POWER スイッチを押し、車両を ON モードにしてください。

■キーレスエントリーシステムでの施錠 / 解錠



❶ 施錠ボタン
❷ 解錠ボタン



■施錠

施錠ボタンを押します。

1 回目:

▶ 非常点滅表示灯が1回点滅し、すべてのドア、トランク、フューエルリッドが施錠されます。

2 回目(施錠ボタンを押して 5 秒以内):

▶ アンサーバックブザーが鳴りドア、トランク、フューエルリッドが施錠されたか確認できます。

■解錠

解錠ボタンを押します。

▶ 非常点滅表示灯が2回点滅し、すべてのドア、トランク、フューエルリッドが解錠されます。

キーレスエントリーシステムでの施錠 / 解錠

キーレスエントリーシステムで解錠操作をした場合、30 秒以内にドアを開けないと、再び自動的に施錠されます。

パワーモードが OFF モード以外のときはキーレスエントリーシステムによる施錠 / 解錠はできません。

キーレスエントリーシステムは微弱電波を使用しているため、周囲の状況により作動範囲が変化することがあります。

作動距離が不安定になった場合は、電池の消耗が考えられます。

ボタンを押したときにインジケーターが点灯しない場合は、電池切れです。

➡ 電池交換のしかた P.633

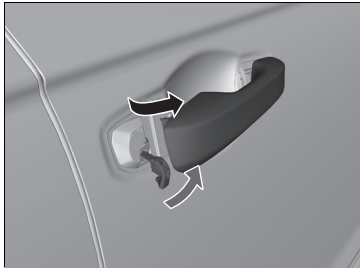
次ページに続く

■キーを差し込んでの解錠

Honda スマートキーのボタンで解錠できない場合は内蔵キーを使用してください。

鍵穴はドアハンドルを引いた裏側にあります。

➡ **電池交換のしかた** P.633



ハンドルの下にあるキーシリンダーに内蔵キーを挿入し、回します。

»キーを差し込んでの解錠

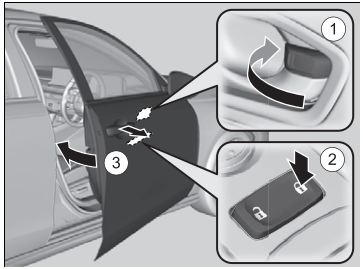
運転席ドアにキーを差し込んで解錠すると、ほかのすべてのドア、トランク、フューエルリッドも同時に解錠されます。

Honda スマートキーのボタンで施錠できないときは、下記を参照してください。

➡ **キーを使わない施錠** P.145

■キーを使わない施錠

キーが正常に作動しなくなったときや、キーを所持していないときに、キーを使わずに施錠することができます。



■運転席のドアの施錠

ノブ(①)を押し込むか、マスタードアロックスイッチ(②)を施錠のほうに押し、外側のドアハンドル(③)を引いたままドアを閉めます。

■運転席以外のドアの施錠

ノブを押し込み、ドアを閉めます。

■キー閉じこみ防止装置

Honda スマートキーが車内の作動範囲内に置いてあると、施錠できません。

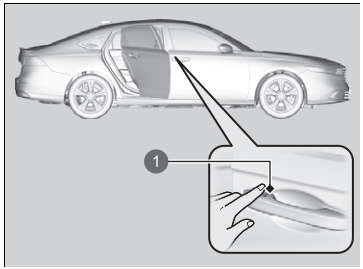
キーを使わない施錠

運転席ドアで施錠すると、ほかのすべてのドア、トランク、フューエルリッドも同時に施錠されます。

施錠の際は車内にキーを置き忘れないようにしてください。

次ページに続く

■予約ロック機能



❶ ドアロックセンサー

あらかじめ施錠操作をする事で、ドアを閉めた後、自動で施錠する機能です。
運転席ドアを閉めてから操作をしてください。

1. ドアロックセンサーに触れる、またはHonda スマートキーの施錠ボタンを押します。
▶ 通知音が鳴り、予約ロックが設定されます。

2. 全てのドアを閉める。
▶ 施錠が完了すると通知音とハザード点滅で施錠を知らせます。

施錠が完了したことを確認してから車両から離れてください。

▶予約ロック機能

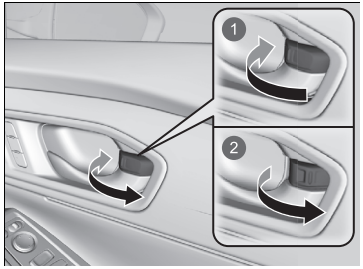
予約ロックによる施錠が完了する前に閉まっているドアを開くと予約ロックはキャンセルされます。

施錠の際は車内にキーを置き忘れないようにしてください。

予約ロックの ON/OFF 設定を変更することができます。
➡ **設定** P.285

車内での施錠 / 解錠

■ノブでの施錠 / 解錠



■施錠するには
ノブを押し込みます。

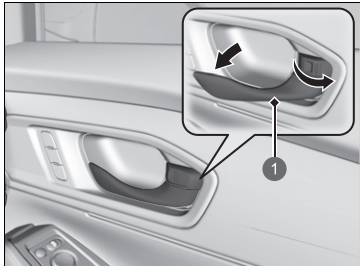
■解錠するには
ノブを引き出します。

❶ 施錠
❷ 解錠

ノブでの施錠 / 解錠

運転席ドアのノブで施錠 / 解錠すると、ほかのすべてのドア、トランク、フューエルリッドも同時に施錠 / 解錠されます。

■運転席ドアハンドルでの解錠



運転席ドアは、内側のハンドルを引くと施錠していてもドアが開きます。

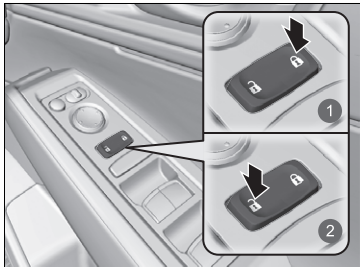
❶ ハンドル

運転席ドアハンドルでの解錠

走行中でも運転席の内側のハンドルを引くとドアが解錠します。走行中はドアハンドルを操作しないでください。

次ページに続く

■マスタードアロックスイッチでの施錠 / 解錠



❶ 施錠
❷ 解錠

マスタードアロックスイッチを施錠 / 解錠のほうに押します。

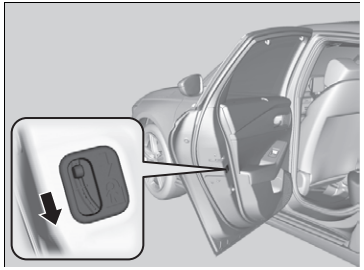
≫マスタードアロックスイッチでの施錠 / 解錠

運転席ドアのマスタードアロックスイッチで施錠 / 解錠すると、ほかのすべてのドア、トランク、フューエルリッドも同時に施錠 / 解錠されます。

チャイルドプルーフ

チャイルドプルーフとは、走行中などにお子さまが車外に放り出されることを防止するため、ノブの位置に関係なく、後席ドアを車内から開けることができないようにする機能です。
お子さまをリヤシートに乗せるときなどにお使いください。

■チャイルドプルーフのセット



後席ドアについているツマミを、施錠の位置にしてドアを閉めます。

■ドアを開ける場合

外側のハンドルで開けます。

チャイルドプルーフ

チャイルドプルーフセット時に車内から開けたい場合は、ノブを解錠状態にして後席ウィンドーを下げ、窓から手を出して外側のドアハンドルを引いてください。

衝撃感知ドアロック解除システム

車両に衝撃が加わったときに、自動的にすべてのドア、トランク、フューエルリッドを解錠するシステムです。
作動するのは以下の場合です。

- 正面からの衝撃：SRS エアバッグが作動したとき
- 側面からの衝撃：サイドエアバッグ / サイドカーテンエアバッグが作動したとき
- 後面からの衝撃：衝撃が大きいとき

いずれの場合も、安全性を考慮して衝撃を受けてから約 10 秒後に解錠します。

衝撃感知ドアロック解除システム

衝撃の加わりかたや大きさによっては解錠しない場合があります。

オートドアロック / オートドアアンロック

■オートドアロック

■車速連動

車速が約 15km/h 以上になるとすべてのドア、トランク、フューエルリッドが自動的に施錠される機能です。

■オートドアアンロック

■シフトポジション連動

ブレーキペダルを踏んでシフトポジションを P にすると、すべてのドア、トランク、フューエルリッドが自動的に解錠される機能です。

オートドアロック / オートドアアンロック

オートドアロック / オートドアアンロックの条件をカスタマイズすることができます。

➔ **設定** P.285

トランク開閉時の注意

トランク開閉をするときは、下記の点に注意してください。
- 風の強い日は、風にあおられて閉まらないように注意する。
- トランクを開けたまま走行しない。
  ▶ 車内に排気ガスが侵入するおそれがあります。
  ➡ **一酸化炭素について** P.79

■トランクを閉めるとき
- Honda スマートキーを、トランク内に置き忘れないように注意する。

▶▶トランク開閉時の注意

⚠注意

トランクを開閉するときは、周囲の安全と車の上方や後方に十分なスペースがあることを確認し、頭をぶつけたり、手などをはさまないよう注意する。

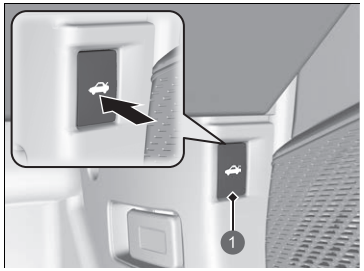
エンジンをかけた状態で手荷物を出し入れするときは、排気管の後方に立たないようにする。
やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

トランクルーム内には、人を乗せない。
ブレーキや加速、衝突のときにけがをするおそれがあります。

トランク内にお子さまが入らないように注意する。
トランクは中から開けることはできません。

運転席ドアが施錠されているとき：
トランクを閉めると、トランクも施錠されます。
運転席ドアが解錠されているとき：
トランクを閉めても、施錠されません。

トランクオープナーで開ける

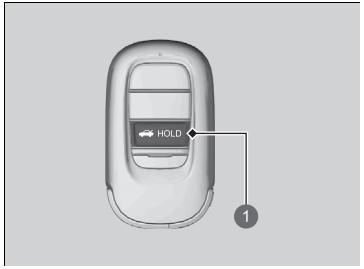


運転席足元にあるトランクオープナーを約 1 秒押すと、トランクが解錠され浮き上がります。

トランクが開かないとき P.692

❶ トランクオープナー

キーレスエントリーシステムで開ける

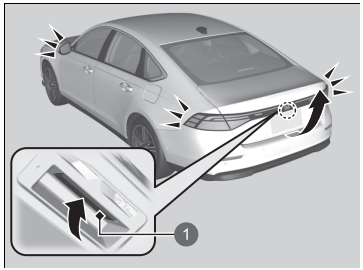


トランク解錠ボタンを約1 秒押すと、トランクが解錠され浮き上がります。

パワーモードが OFF モード以外のときは、Honda スマートキーの解錠ボタンでは開けられません。

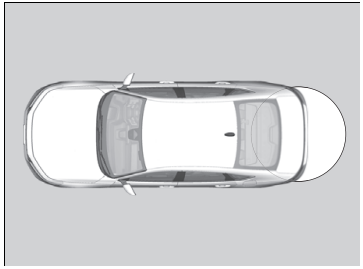
❶ トランク解錠ボタン

トランクオープンスイッチで開ける



運転席ドアを解錠し、トランクオープンスイッチを押すとトランクが浮き上がります。

❶ トランクオープンスイッチ



Honda スマートキーを携帯して、トランクオープンスイッチを押すとトランクが解錠され浮き上がります。このときアンサーバックブザーが鳴り非常点滅表示灯が点滅します。トランクオープン機能が作動するのは、トランクオープンスイッチから周囲約 80cm 以内です。

トランクオープン機能の作動範囲

トランクオープンスイッチで開ける

- Honda スマートキーは運転者が携帯し、トランク内に置かないようにしてください。
- 作動範囲内に Honda スマートキーを携帯している人がいるときは、携帯していない人でもトランクオープンスイッチでトランクを開けることができます。
- トランク内に Honda スマートキーを置いたままトランクを閉めると、ブザーが鳴りトランクが開きます。Honda スマートキーを取り出してから、再度トランクを閉めてください。
- トランクを閉めるときは、Honda スマートキーを後席に置かないでください。

イモビライザーシステム

車両とキーで電子照合をしており、登録されたキーでないとパワーシステムの起動はできないシステムです。

POWER スイッチを押すときは、下記の点に注意してください。
- POWER スイッチの近くに強い電波を発するものを近づけない
- キーを金属に触れさせたり、覆ったりしない
- ほかの車両のイモビライザーシステムのキーを近づけない
- 磁気を帯びたキーホルダーなどをキーと一緒に取り付けない

セキュリティアラームシステム

セキュリティアラームシステムは、内蔵キー、キーレスエントリーシステムあるいは Honda スマートキーシステムを使わずにドア、トランク、ボンネットを開けると、警報装置が作動するシステムです。

■作動すると
ホーンが断続的に鳴り、非常点滅表示灯が点滅します。

■停止させるには
Honda スマートキーシステムまたはキーレスエントリーシステム、内蔵キーで解錠するか、パワーモードを ON モードにしてください。システムが停止し、ホーンと点滅も停止します。

イモビライザーシステム

システムの改造や追加をしないでください。
システムが故障するおそれがあります。

セキュリティアラームシステム

システムの改造や追加をしないでください。
システムが故障するおそれがあります。

警報装置はセキュリティアラームシステムを停止させるまで、約 5 分間作動します。
ホーンおよび非常点滅表示灯は、1 回の作動につき約 30 秒間作動し、その警報作動が 10 回行われます。
状況によっては、5 分間以上作動することがあります。

次ページに続く

■セットするには

セキュリティアラームシステムは、以下の条件が整うと自動的にセットされます。

- パワーモードが OFF モードのとき
- ボンネットが閉まっているとき
- Honda スマートキーシステムまたはキーレスエントリーシステムですべてのドアとトランクが施錠されているとき

■セットされると

メーター内にある作動表示灯が点滅し、約 15 秒後に点滅間隔が長くなります。

■セットを解除するには

Honda スマートキーシステムまたはキーレスエントリーシステム、内蔵キーで解錠するか、パワーモードをONモードにすると解除されます。同時に作動表示灯が消灯します。

≫セキュリティアラームシステム

車内に人が乗っているときやウィンドーが開いているときでも、セキュリティアラームシステムは作動します。

警報装置の思わぬ作動を防ぐために、人が乗っていたりウィンドーが開いているときには、セキュリティアラームシステムをセットしないでください。

セキュリティアラームシステムをセットした後に 12V バッテリーがあがり、12V バッテリーの充電、交換をすると、警報装置が作動することがあります。

そのときは、Hondaスマートキーシステムまたはキーレスエントリーシステム、内蔵キーでドアを解錠し、セキュリティアラームシステムを解除してください。

パワーウィンドーの開閉

パワーモードが ON モードのときに、パワーウィンドーの開閉操作を行うことができます。開閉はそれぞれのドアにあるスイッチで行います。

運転席のスイッチでは、すべてのウィンドーの開閉操作を行うことができます。運転席以外のウィンドーの開閉は、運転席のパワーウィンドーロックボタンを OFF にしてから行います。
パワーウィンドーロックボタンを OFF にすると、ボタンにある表示灯が消灯します。

パワーウィンドーロックボタンをONにしておくと、運転席以外のウィンドーは作動しません。お子さまを乗せているときなどは、パワーウィンドーロックボタンを ON にしておいてください。

パワーウィンドーの開閉

⚠警告

パワーウィンドーを閉めるときは、同乗者が窓から手や顔などを出していないことを確認する。
手や顔などをパワーウィンドーにはさむと、重大な傷害を負うおそれがあります。特にお子さまには気をつけてください。

⚠注意

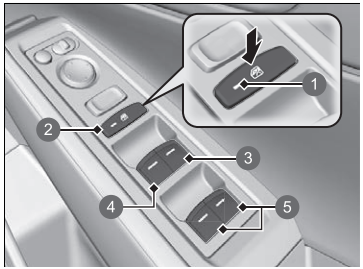
指などをはさみ込まないように注意する。
確実に閉めるため、閉め切る直前の部分に、はさみ込みを検知しないエリアがあります。

お子さまだけを車内に残さない。必ず Honda スマートキーを携帯しドアをロックしてお子さまと一緒に車外に出てください。

パワーモードを OFF モードにしても、約 10 分間はパワーウィンドーを開閉できます。
この場合、運転席のドアを開閉すると、ウィンドーの開閉はできなくなります。

次ページに続く

■ウィンドーの開閉



❶ 表示灯
❷ パワーウィンドーロックボタン
❸ 運転席用スイッチ
❹ 助手席用スイッチ
❺ 後席用スイッチ

■手動開閉

開けるとき：スイッチを軽く押す
閉めるとき：スイッチを軽く引き上げる
希望の位置で手を離すことで、窓の開閉を調節します。

■自動開閉

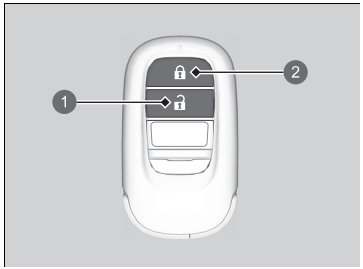
開けるとき：スイッチを強く押す
閉めるとき：スイッチを強く引き上げる
自動的に全開 / 全閉します。途中で止めるには、スイッチを反対側に軽く上げ / 下げします。

パワーウィンドーの開閉

パワーウィンドーを自動で閉めているときに障害物を検知すると、はさみ込み防止機構によりウィンドーの動きが逆転し止まります。

故障などではさみ込み防止機構が作動し、自動でウィンドーを閉めることができなくなったときは、スイッチを軽く引き上げ続けると閉めることができます。
路面や走行条件による衝撃などで、はさみ込み防止機構が作動することがあります。

■キーレスエントリーシステムでのパワーウィンドーの開閉



❶ 解錠ボタン
❷ 施錠ボタン

キーレスエントリーシステムを使用してパワーウィンドーの開閉が行えます。

開けるとき：キーレスエントリーシステムで解錠後、10 秒以内に再度、解錠ボタンを押し続ける
閉めるとき：キーレスエントリーシステムで施錠後、10 秒以内に再度、施錠ボタンを押し続ける

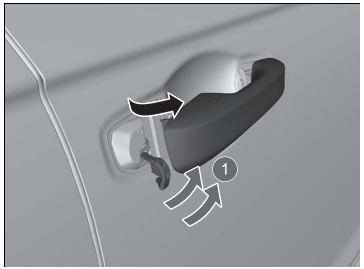
希望の位置で手を離すことで、ウィンドーの開閉を調節します。
ウィンドーの開閉中に停止したときは、再度同じ操作を繰り返してください。

»キーレスエントリーシステムでのパワーウィンドーの開閉

キーレスエントリーシステムでのパワーウィンドーの開閉の設定を変更することができます。
➔ **設定** P.285

次ページに続く

■キーシリンダーでパワーウィンドーを開ける



❶ 開

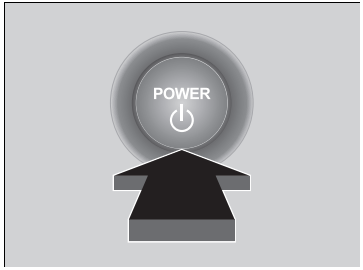
運転席ドアのキーシリンダーを使用してパワーウィンドーを開けることができます。

開けるとき：運転席ドアのキーシリンダーに内蔵キーを差し込んで解錠後、内蔵キーを戻してから 10 秒以内に再度、解錠側いっぱいに内蔵キーを回したままにする

希望の位置で手を離すことで、ウィンドーの位置を調節します。
ウィンドーを開けている途中に停止したときは、再度同じ操作を繰り返してください。

POWER スイッチ

■パワーモードの切り換えかた



Honda スマートキーを携帯し、ブレーキを踏まずに POWER を押すと OFF モード→アクセサリーモード→ ON モード→ OFF モードの順にパワーモードが切り換わります。

OFF モード：
車両の電源が OFF の状態です。
アクセサリーモード：
オーディオなど一部のアクセサリーが使用できます。
ON モード：
すべてのアクセサリーが使用できます。

■パワーモードオートオフ機能

シフトポジションが P でパワーモードがアクセサリーモードのときに 30 分～60分経過すると、12Vバッテリー保護のため自動的にパワーモードがOFFモードになります。

■パワーモード警告ブザー

次の状態で車を離れようとして運転席ドアを開けた場合、警告ブザーが鳴ります。

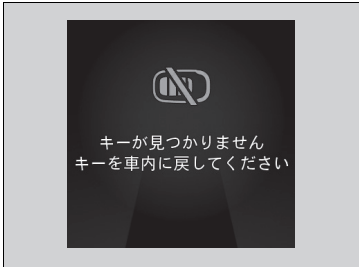
- パワーモードがアクセサリーモードのとき

POWER スイッチ

小物入れなど車両との通信に影響がある場所に Honda スマートキーが置かれている場合、パワーモードが切り換わらないことがあります。

次ページに続く

■ Honda スマートキー持ち去り警告



パワーモードが OFF モード以外のときに Honda スマートキーを車外に持ち出しドアを閉めると警告ブザーが鳴ります。
警告状態が続くときは Honda スマートキーの携帯位置を変更してください。

■パワーモードがアクセサリーモードのとき

車外から警告ブザーが鳴ります。

■パワーモードが ON モードのとき

車外と車内から警告ブザーが鳴ります。また、メーター内に警告が表示されます。

≫Honda スマートキー持ち去り警告

パワーモードONの作動範囲内にHondaスマートキーを戻してドアを閉めると、警告が解除されます。

Honda スマートキーを持ち出した状態で、パワーモードを OFF モードにすると、パワーモードの操作ができなくなります。
パワーモードを操作するときは、Honda スマートキーを持っていることを確認してください。

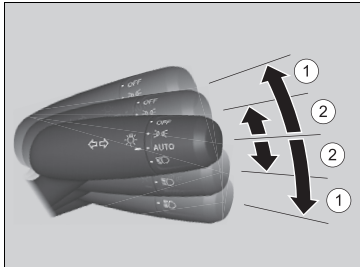
窓からの受け渡しでは、Honda スマートキー持ち去り警告は作動しません。

Honda スマートキーを、インストルメントパネル、グローブボックスなどに置いた場合、電波状態により警告ブザーが鳴ることがあります。

Honda スマートキーがパワーモード ON の作動範囲内にあっても、周囲の環境や電波状態により Honda スマートキー持ち去り警告が行われることがあります。

方向指示器(ウィンカースイッチ)

パワーモードが ON モードのときに使用できます。



■①：方向指示器

進行方向に応じてレバーを下または上に押し込むと方向指示器が点滅します。

■②：ワンタッチターンシグナル

レバーを下または上に軽く押してレバーを放すと、方向指示器が 3 回点滅します。

▶ 点滅中にレバーを反対方向に軽く押して放すと点滅が停止します。

方向指示器(ウィンカースイッチ)

方向指示器が点滅するとメーター内の方向指示器表示灯が点滅します。

➔ **表示灯** P.93

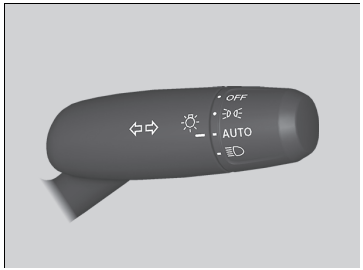
ワンタッチターンシグナルの ON/OFF 設定を変更することができます。

➔ **設定** P.285

ライトの使い方

■ヘッドライト・車幅灯

車外の明るさに応じて自動で点灯します。手動で点灯 / 消灯させることもできます。



パワーモードがONモードのとき、ライトスイッチを**AUTO**にすると自動点灯が作動します。

■手動点灯 / 消灯

ヘッドライト・車幅灯の点灯：

ライトスイッチを≡Dにします。

車幅灯の点灯：

ライトスイッチを-D0Cにして手を離します。

- ▶ ヘッドライトは車外の明るさに応じて自動点灯します。
- ▶ 停車中に行うとヘッドライトは消灯します。低速でしばらく走行するか一定以上の車速で走行するとヘッドライトの自動点灯が再開します。
- ▶ 車幅灯の自動点灯を再開するにはスイッチを ≡D にしたあと、**AUTO**にします。または、-D0Cにして手を離します。

ライトの使い方

ライト類が点灯するとメーター内の表示灯が点灯します。

➡ **表示灯** P.93

ヘッドライト・車幅灯

車幅灯が点灯しているときは尾灯、番号灯も点灯します。

スイッチを≡Dにしたままパワーモードを OFF モードにすると、運転席のドアを開けた時にライト消し忘れ警告ブザーが鳴ります。このとき、Honda スマートキーシステム、または、キーレスエントリーシステムですべてのドアを施錠すると、ライトが消灯します。

パワーシステムが停止しているときにライト類を点灯したままにしていると、12V バッテリーあがりの原因となります。

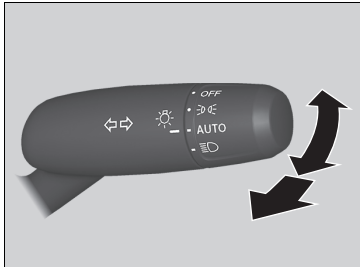
ヘッドライト・車幅灯の消灯：

シフトポジションがPもしくはパーキングブレーキをかけて停車しているとき、ライトスイッチをOFFにして手を離します。

▶ 発進すると車幅灯の自動点灯が再開します。低速でしばらく走行するか一定以上の車速で走行するとヘッドライトの自動点灯が再開します。

■ハイビーム

ヘッドライトが点灯しているとき、レバーを前方に押すとハイビームに切り換わります。手前に引くとロービームに戻ります。



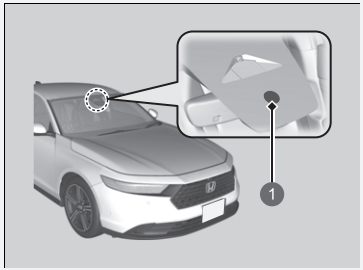
■パッシング

レバーを手前に引くとハイビームが点灯します。

▶ レバーを放すとレバーはロービームの位置に戻ります。

⩙ヘッドライト・車幅灯

照度感知センサーは、図の位置にあります。



❶照度感知センサー

重い荷物の積載時など、車両の姿勢の変化に応じてヘッドライト光軸の上下方向を自動的に調節するオートレベリング機能が付いています。ヘッドライト光軸の異常を感じたときは、Honda 販売店で点検を受けてください。

次ページに続く

■ヘッドライトオートオフ機能

パワーモードを OFF モードにして、Honda スマートキーシステム、およびキーレスエントリーシステムですべてのドアを施錠すると、ヘッドライト、車幅灯、尾灯、番号灯やインストルメントパネルの照明が消灯します。

▶運転席ドアを開けると再び点灯し、ライト消し忘れ警告ブザーが鳴ります。

ライトスイッチを AUTO にしているときはパワーモードを OFF モードにすると消灯します。

■デイタイムランニングライト

デイタイムランニングライトは以下の条件をすべて満たしたときに点灯します。

- パワーモードが ON モード
- 車両の周囲が明るい
- ヘッドライトが消灯している

停車しているときにライトスイッチを OFF にして手を放すとデイタイムランニングライトは消灯します。

車両を発進させると再び点灯します。

»デイタイムランニングライト

デイタイムランニングライトと車幅灯は光源を共用しています。

デイタイムランニングライトは車幅灯よりも明るく点灯します。

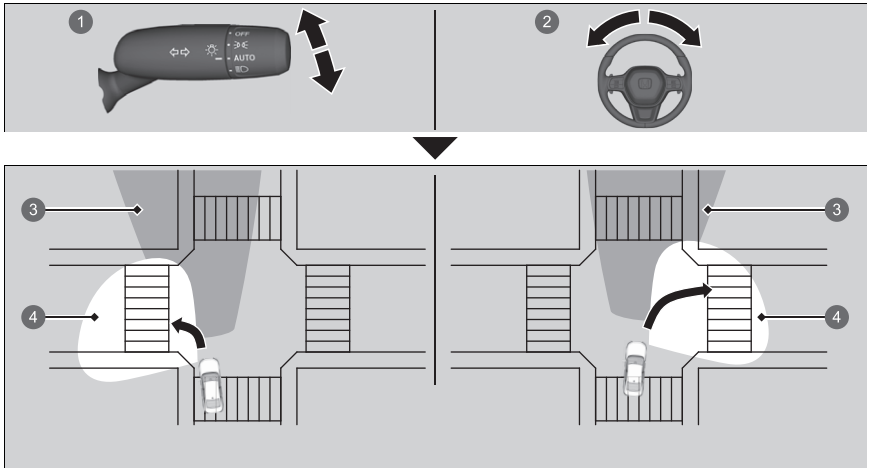
デイタイムランニングライトの ON/OFF 設定を変更することができます。

➡ **設定** P.285

アクティブコーナリングライト

パワーモードがONモードで、車速が40 km/h以下のときにヘッドライトが点灯していると、方向指示器やハンドル操作、シフトポジションをRにしたとき、アクティブコーナリングライトが点灯し、夜間走行時の視認性を向上させることができます。

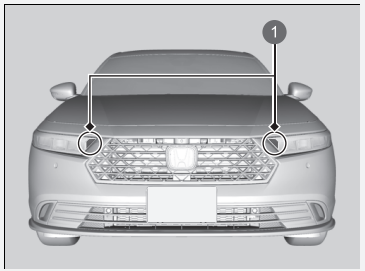
■方向指示器、ハンドル操作による点灯



❶ ヘッドライト点灯中にウィンカーを操作
❷ ヘッドライト点灯中にハンドルを約75度以上操作
❸ ヘッドライト照射範囲
❹ コーナリングライト照射範囲

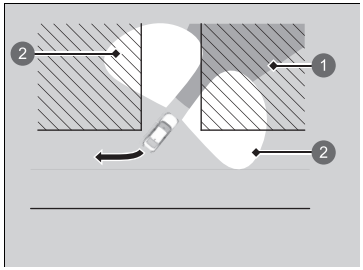
アクティブコーナリングライト

アクティブコーナリングライトを5分以上連続点灯させると、自動的に消灯します。
消灯後に再度、方向指示器、ハンドル操作を行うか、シフトポジションをRに入れると点灯します。



❶ アクティブコーナリングライト

次ページに続く

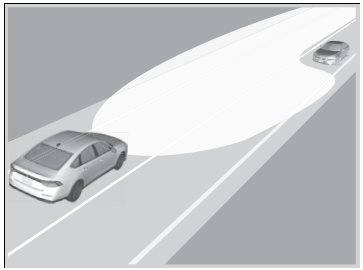


❶ ヘッドライト照射範囲
❷ コーナリングライト照射範囲

■シフトポジション操作による点灯

ヘッドライトが点灯しているときにシフトポジションを[R]にすると、左右のアクティブコーナリングライトが同時に点灯します。

アダプティブドライビングビーム



夜間走行時にフロントセンサーカメラで前方車両のライトや街灯などを検知し、状況に応じてハイビームとロービームが自動で切り換わります。また、先行車や対向車への眩惑を軽減するため、ハイビームの配光が自動で調整されます。

さらに、ロービーム点灯中、かつ車速40km/h 以下ではロービームの照射範囲を広げ、左右の視認性を向上させます。

アダプティブドライビングビーム

アダプティブドライビングビームはあらゆる状況で作動する機能ではありません。あくまでも、運転者をアシストするための機能です。常に周囲の状況を確認し、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切り換えてください。

カメラが認識できる範囲や距離は周囲の状況により変化します。

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。
➡ **フロントセンサーカメラ** P.545

アダプティブドライビングビームを正しく動作させるために次のことをお守りください。
- インストルメントパネルの上に光を反射するものを置かない
- カメラ付近のガラスはきれいにしておく
- フロントガラスのお手入れのときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにする
- カメラ付近のガラスにアクセサリー、ステッカーやフィルムを取り付けない
- カメラのレンズに触れない

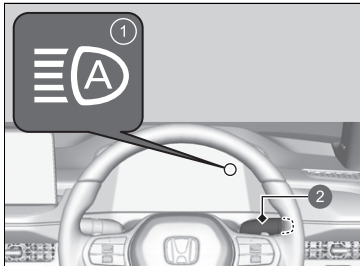
カメラに強い衝撃が加わったときやカメラ周辺の修理を行うときは Honda 販売店にご相談ください。

次ページに続く

■アダプティブドライビングビームの使いかた

■システムの作動

以下の条件をすべて満たすとアダプティブドライビングビーム表示灯が点灯し、状況に応じて自動的にハイビームの配光が調整されます。



- パワーモードが ON モード
- ライトスイッチが AUTO の位置
- レバーがロービームの位置
- ヘッドライトが自動で点灯している
- 車両の周囲が暗い

❶ アダプティブドライビングビーム表示灯
❷ ライトスイッチ

上記の条件を満たしていてもアダプティブドライビングビーム表示灯が点灯しないときは、続けて以下のいずれかの操作を行うことで、アダプティブドライビングビーム表示灯が点灯します。

- レバーを手前(パッシングの位置)に引いた後すぐに手を放す
- ライトスイッチを≡Dに回したあと、AUTOに戻す

▶▶アダプティブドライビングビーム

アダプティブドライビングビームの ON/OFF 設定を変更することができます。

➡ **設定** P.285

■ハイビームの配光の自動調整

車速が 10km/h 以上になるとハイビームの配光の自動調整が開始され、以下の条件または車速に応じてハイビームの配光が変化します。

- 前方にライトを点灯した車両がいる
- 前方に街灯などの光が多い

また、車速が6km/h以下になるとハイビームの配光の自動調整は停止しロービームに切り換わります。

■ハイビーム / ロービームの手動切り換え

ハイビームとロービームを手動で切り換えたい場合は、以下のいずれかの操作を行ってください。このとき、アダプティブドライビングビーム表示灯が消灯し、アダプティブドライビングビームが停止します。

レバーによる操作：

レバーを手前(パッシングの位置)に引いた後すぐに手を放す。

▶ アダプティブドライビングビームを復帰させる場合は、以下のいずれかの操作を行ってください。

- レバーを手前(パッシングの位置)に引いた後すぐに手を放す
- レバーがロービームの位置のときにライトスイッチを≡Dに回した後、AUTOに戻す
  このとき、アダプティブドライビングビーム表示灯が点灯します。

ライトスイッチによる操作：

ライトスイッチを≡Dに回す。

▶ アダプティブドライビングビームを復帰させる場合は、レバーがロービームの位置のときにライトスイッチをAUTOに戻してください。このとき、アダプティブドライビングビーム表示灯が点灯します。

アダプティブドライビングビーム

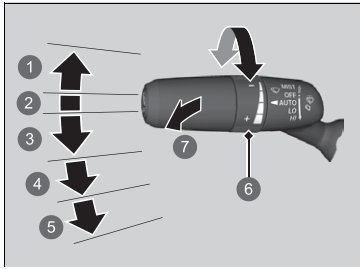
次のような場合、ヘッドライトの切り換えタイミングが変化したり適切に切り換えが行われない場合があります。運転者の感覚に合わない場合は手動で切り換えを行ってください。

- 対向車や先行車のランプが明るい場合や暗い場合、片側点灯や無灯火の場合
- 天候の状況(雨、雪、霧、フロントガラスの霜など)
- 周囲にある街灯、電光掲示、信号機などの光源が明るいとき
- 周囲の明るさが連続的に変わるとき
- カーブが多い道、起伏の激しい道路を走行しているとき
- 前方の車両が突然現れたり、適切な方向を向いていないとき
- トランクスペースに重い荷物を積んで車が傾いているとき
- 車両前方に標識やミラーなどの光を強く反射するものがあるとき
- 中央分離帯、街路樹などで対向車が見え隠れするとき
- 対向車や先行車が二輪車、自転車などのとき

フロントワイパーが高速(HI)作動しているとき、または、フロントセンサーカメラが濃霧と判断しているときは、ロービームが継続します。

ワイパー/ ウォッシャー

■フロントワイパー/ ウォッシャー



❶ **MIST**：(レバーを操作している間作動)
❷ **OFF**：停止
❸ **AUTO**：自動作動
❹ **LO**：低速(普通の雨量のとき)
❺ **HI**：高速(雨量が多いとき)
❻ センサー感度の調節
❼ ウォッシャー

パワーモードがONモードのときに使用できます。

■MIST

レバーを押し上げている間、高速で作動します。
霧や小雨のときに使用します。

■ワイパースイッチ(OFF、AUTO、LO、HI)

雨量に応じてワイパースイッチを切り換えて使用します。

■ウォッシャースイッチ

レバーを手前に引くと、ウォッシャー液が噴射します。
レバーを1秒以上引くとワイパーが作動します。レバーを離すと数回ワイパーが作動して止まります。

▶ワイパー/ ウォッシャー

⚠注意

寒冷時はフロントガラスが暖まるまでウォッシャー液を噴射させない。
ウォッシャー液が凍りついて視界の妨げとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

ワイパーアームを起こす際は、ワイパーメンテナンスポジションへ動かしてから、ワイパーアームを起こしてください。
➔ **ワイパーアームの起こしかた** P.625

アドバイス

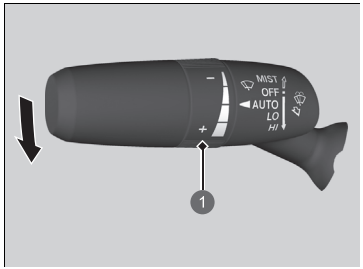
ワイパーを乾拭きさせないでください。
ガラスが傷付いたりブレードラバーを傷めたりします。

アドバイス

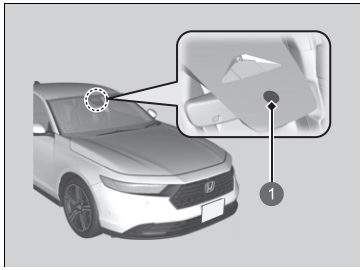
ウォッシャー液が出ないときは、スイッチを切ってください。
ポンプ故障の原因となります。

ワイパーには、内蔵モーターの保護機能を搭載しています。
ワイパーモーターの負荷が大きい状態が続いたときなどは、モーターの保護のため一時的にワイパーが停止することがあります。数分経過すると、通常通り使用できるようになります。

■オートワイパー



❶ リング
−：雨滴に対して、より鈍感に反応してワイパーを作動します。
＋：雨滴に対して、より敏感に反応してワイパーを作動します。



❶ 雨滴感知センサー

レバーを AUTO の位置にするとワイパーが 1 回作動し、その後は自動作動に切り換わります。

フロントガラス上部にある雨滴検知センサーが検出した雨滴量に応じて、停止、間欠作動、低速作動、高速作動のいずれかの作動をします。

ワイパー/ ウォッシャー

アドバイス

寒冷時、凍結によりワイパーブレードがガラスに張りつくことがあります。
ワイパー故障の原因となりますので、デフロスターでフロントガラスを暖めてから、ワイパーを作動させてください。

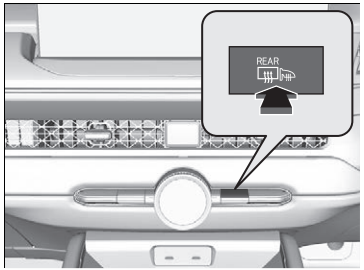
ワイパー作動中に雪などがたまりワイパーが停止したときは、安全な場所に停車してください。
ワイパースイッチを OFF、パワーモードをアクセサリーモードまたは OFF モードにしてから、ワイパーが作動できるように障害物を取り除いてください。

オートワイパー

⚠注意

フロントガラスのお手入れをするときは、レバーを必ず OFF にしてください。
パワーモードが ON モードでレバーが AUTO のとき、雨滴センサー上部のガラス面に手で触れたり、布で拭き取ったりすると、ワイパーが作動することがあり、手をけがしたりワイパーが損傷するおそれがあります。

リヤデフロスター/ ヒーテッドドアミラースイッチ



パワーモードが ON モードのときにスイッチを押すと、リヤガラスとドアミラーを暖め、曇りをとることができます。

外気温に応じて約 10 ～ 30 分経過すると、システムは自動的に停止します。ただし、外気温が 0℃以下のときは自動的に停止しません。

リヤデフロスター/ ヒーテッドドアミラースイッチ

この装置は消費電力が大きいので、曇りが取れたら OFF にしてください。
また、パワーシステムが停止しているときに長時間使わないでください。12Vバッテリー容量が低下し、パワーシステムの起動に影響することがあります。

パワーモードをONモードにしたとき、外気温が5℃以下の場合、ヒーテッドドアミラーのみ約 10 分間作動することがあります。

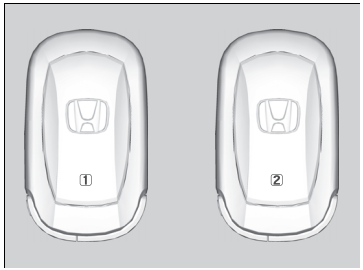
エクスペリエンスセレクションダイヤルを使用することで急速霜取モードを使用することができます。
詳細は下記を参照ください。
エクスペリエンスセレクションダイヤルの操作方法 P.217

ドライビングポジションシステム

シートの位置(ランバーサポート以外)を2種類記憶させ、それぞれの位置に自動で調節させることができます。

Honda スマートキーで解錠して運転席ドアを開けると、DRIVER1 のキーとDRIVER2 のキーを判別して、記憶したシート位置に自動で調節されます。

DRIVER1/DRIVER2 それぞれで解錠して運転席ドアを開けたとき：それぞれのスマートキーで最後に呼び出したシート位置に移動します。



乗車や降車をしやすくするため、以下の条件のときに運転席が後ろに下がります。

- 停車したとき
- シフトポジションを P にしたとき
- パワーモードを OFF モードにしたとき
- 運転席ドアを開けたとき
- メモリーボタン(1 または 2)の記憶位置が最後部以外のとき

パワーモードをアクセサリーモードにすると、シートは記憶された DRIVER1 または 2 の位置に調節されます。

ドライビングポジションシステム

カスタマイズ機能について

ディスプレイオーディオ画面を使ってドライビングポジションシステムの作動をカスタマイズすることができます。

➡ **設定** P.285

プロファイル設定

Honda スマートキーの使用者ごとに複数のユーザーを作成することができます。
詳細は下記ページを参照ください。

➡ **新規ユーザー登録** P.280

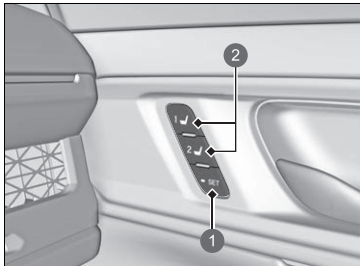
オーナーへの変更のタイミングでオーナーのキーの設定が切り替わらないことがあります。その際は一度別のユーザーに変更して、もう一度オーナーに設定してください。
詳細は下記ページを参照ください。

➡ **ユーザー切り替えについて** P.281

ドアを開けた際は使用している Honda スマートキーで最後に使用したユーザーのシート位置に運転席が移動します。

次ページに続く

■記憶のさせかた



❶ セットボタン
❷ メモリーボタン

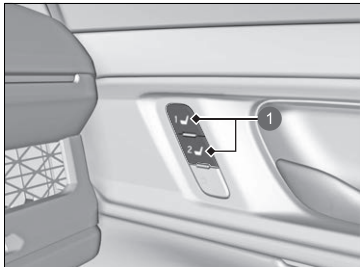
1. パワーモードを ON モードにし、運転席シートを希望の位置に調節します。
2. セットボタンを押す。
▶ セットボタンの表示灯が点灯します。
3. セットボタンを押してから5秒以内にメモリーボタンの1か2を「ピッピッ」と音が鳴るまで押す。

記憶のさせかた

セットボタンを押した後、以下のような状況になったときは記憶操作がキャンセルされます。

- 5 秒経過してもメモリーボタンを押さなかったとき
- シート位置を調節したとき
- パワーモードを ON モード以外にしたとき

■記憶の呼び出しかた



❶ メモリーボタン

1. シフトポジションを P にする。
2. パーキングブレーキをかける。
3. メモリーボタン(1 または 2)を押す。

記憶させた位置までシートが自動的に移動し、移動が完了します。

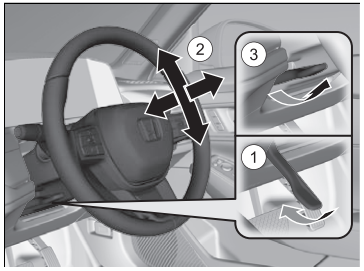
記憶の呼び出しかた

自動でシートが移動しているときに、以下のような操作を行うとシートの移動が止まります。

- セットボタン、またはメモリーボタン(1 または 2)を押したとき
- シート位置を調節したとき
- シフトポジションを P 以外にしたとき

ハンドルの調節

適切な運転姿勢で無理なくハンドルを握れるように、ハンドルの位置を調節することができます。



❶ 解除
❷ 調節
❸ 固定

1. ハンドル位置調節レバーを押し下げる。
▶ ハンドル位置調節レバーは、コラムカバーの下にあります。
2. ハンドルの位置を調節する。
▶ 調節した位置で、メーターや表示灯が見えることを確認してください。
3. ハンドル位置調節レバーを引き上げ、ハンドルを固定する。
▶ 位置調節後、ハンドルに上下前後方向の力を加え、ハンドルがしっかり固定されていることを確認してください。

ハンドルの調節

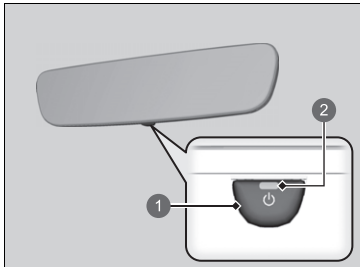
⚠注意

走行中にハンドル位置を調節しない。
走行中に調節すると、ハンドル位置が動き、正確なハンドル操作ができないことがあり、衝突して重大な傷害を負うおそれがあります。ハンドルの調節は、必ず停車中に行ってください。

ルームミラー

ルームミラーの角度は、正しい運転姿勢ですわった位置でミラーを調節してください。

■自動式防眩ミラー



夜間走行時、後続車のヘッドライトの反射を自動的に弱くできます。
パワーモードがON モードで、オートミラースイッチがON のときに作動します。スイッチを押すごとに ON、OFF が切り換わります。
ON にすると表示灯が点灯します。

❶ オートミラースイッチ
❷ 表示灯

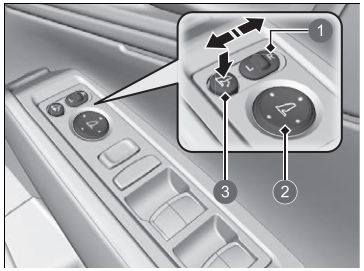
»ミラー類の調節

ミラー類の調節は走行前に行ってください。

»自動式防眩ミラー

シフトポジションを R にしているときは、自動式防眩ミラーは解除されます。

ドアミラー



❶ 左右切り換えスイッチ
❷ 角度調節スイッチ
❸ 格納スイッチ

	格納スイッチの状態	ミラーの状態
ON		
OFF		

ドアミラーの操作は、パワーモードが ON モードのときに行います。

■角度調節

左右切り換えスイッチ：右か左を選択するスイッチです。角度調節後、中央の位置に戻します。

角度調節スイッチ：上下左右に鏡面を動かすスイッチです。

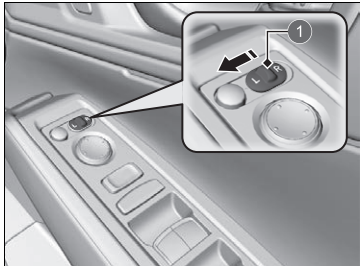
■格納

格納スイッチを押すごとに ON と OFF が切り換わります。

次ページに続く

■リバース連動ドアミラー

後退時、車両の左側面の視界をよりよく確保するため、シフトポジションの R と連動して助手席側ドアミラーが自動的に下向きになります。



❶ 左右切り換えスイッチ

パワーモードがONモードで、ドアミラーの左右切り換えスイッチが左側にあることを確認します。

シフトポジションを R の位置にすると、助手席側ドアミラーが下向きになります。

シフトポジションを R 以外の位置にすると元の位置に戻ります。

リバース連動ドアミラー

次の場合にも、ミラーが元の位置に戻ります。

- 左右切り換えスイッチを左側以外の位置にしたとき
- パワーモードを ON モード以外にしたとき

リバース連動ドアミラーは、ドアミラーの左右切り換えスイッチが左側以外の位置にあるときは作動しません。作動させるには左右切り換えスイッチを左側にしてください。

■オートリトラミラー

キーレスエントリーシステムや Honda スマートキーシステムでのドアの施錠や解錠に連動して、パワーモードが OFF モードの状態でも、ドアミラーの格納や元の状態への復帰が行えます。

格納するとき：

- Honda スマートキーの施錠ボタンを押す。
- Honda スマートキーを携帯し、運転席ドア、助手席ドアのドアロックセンサーに触れる。

元の位置に戻すとき：

- Honda スマートキーの解錠ボタンを押す。
- Honda スマートキーを携帯し、運転席または助手席ドアハンドルを握る。
- パワーモードを ON モードにする。

»オートリトラミラー

格納スイッチを押してドアミラーを格納した場合、オートリトラミラー機能ではドアミラーを元の位置に戻せません。

オートリトラミラーの設定を変更することができます。

➔ **設定** P.285

フロントシート

運転者は、正しい運転姿勢がとれるようにシートを調節します。
正しい運転姿勢とは、シートに深く腰かけた状態で、背もたれから背を離すことなくペダルを十分に踏み込め、ハンドル操作が楽にできる姿勢をいいます。

フロントシート

⚠注意

シートを操作するときは、手や足などをはさまないように十分注意する。

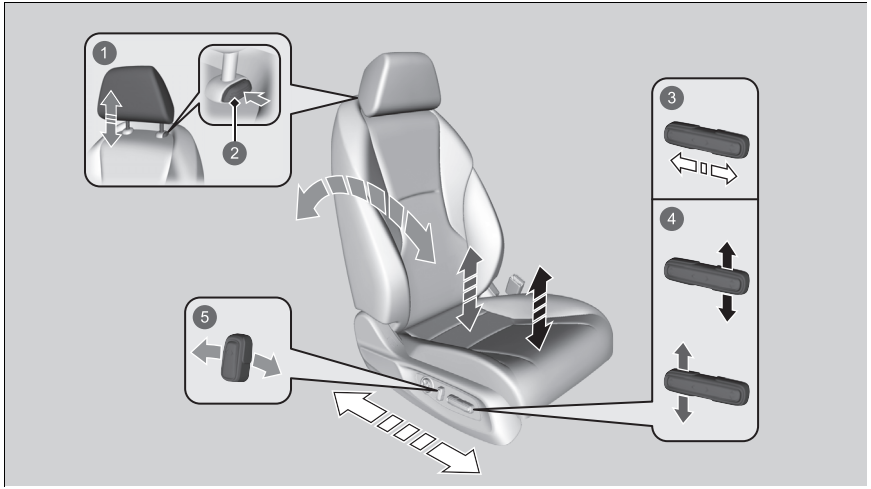
フロントシートの下に物を置かない。
物がはさまってシートが固定されず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

フロントシートは、エアバッグからなるべく離れた位置に調節してください。

同乗者もシートに深く腰かけ、背もたれから背を離さないようにしてください。

サイドエアバッグがシートカバーによっては、正常に機能できなくなります。
フロントシートへのシートカバー装着にあたっては Honda 販売店にご相談ください。

■シートの動かしかた



❶ ヘッドレストの調節
- 高くするときは、引き上げる
- 低くするときは、ノブを押しながら下げる

❷ ノブ

❸ 前後位置の調節
スイッチを前後に動かして前後位置を調節

❹ 高さの調節
スイッチを上下に動かして高さを調節

❺ 背もたれの角度調節
スイッチを前後に動かして調節

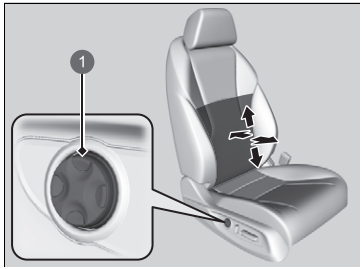
次ページに続く

シートの動かしかた

⚠注意

走行中にシートの調節はしない。
走行中に調節すると思わぬ事故につながるおそれがあります。調節は走行前に行ってください。

■運転席ランバーサポートの調節



❶ スイッチ

シート腰部の固さを調節できます。

上部を硬くする：スイッチを上側に押す

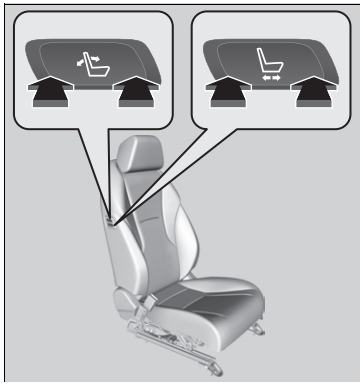
下部を硬くする：スイッチを下側に押す

▶ 上部はやわらかくなります。

全体を硬くする：スイッチを前側に押す

全体をやわらかくする：スイッチを後側に押す

■後席や運転席からの助手席の調節



助手席の背もたれと前後位置は、後席や運転席から調節できます。

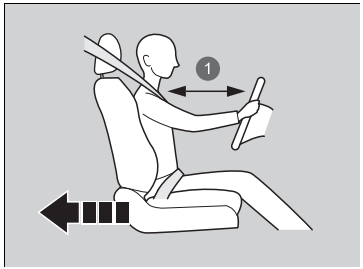
背もたれを起こす：スイッチの前側を押す

背もたれを倒す：スイッチの後ろ側を押す

前方へ調節する：スイッチの前側を押す

後方へ調節する：スイッチの後ろ側を押す

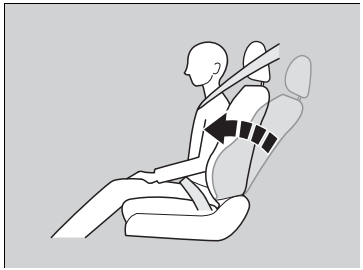
■フロントシートの調節



❶ 十分な距離をとる

■シート位置の調節

運転者とハンドルとの間に十分な距離をとれるように、シートをできるだけ後ろに下げます。
助手席の同乗者のシートも同様に、ダッシュボードのSRSエアバッグからできるだけ離れた位置までシートを下げます。



■背もたれ角度の調節

シートに深く腰かけ、楽な姿勢ですわれるように背もたれを起こし調節します。
助手席の同乗者のシートも同様に、楽な姿勢ですわれるように背もたれ角度を調節します。

フロントシートの調節

⚠警告

SRS エアバッグからできるだけ離れた位置までシートを下げる。
ハンドルやダッシュボードに近づきすぎると、フロントエアバッグが膨らむ際に重大な傷害を受けたり、死亡したりするおそれがあります。

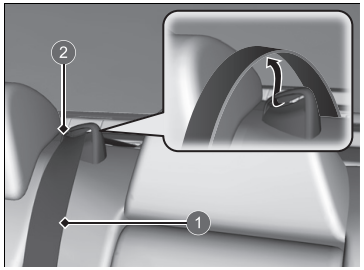
背もたれを必要以上に倒さない。
背もたれを必要以上に倒すと、衝突したときに重大な傷害を受けたり、死亡したりするおそれがあります。

⚠注意

背もたれと背中の間にクッションなどを入れない。
正しい運転姿勢がとれません。また、シートベルトなどの効果が十分に発揮されません。

リヤシート

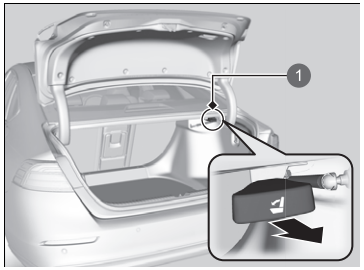
■背もたれの倒しかた



❶ シートベルト
❷ ガイド

リヤシートを倒してカーゴスペースを広くできます。
ヘッドレストがフロントシートに当たるときは、ヘッドレストを外してください。

1. 中央席のシートベルトをガイドから外す。
2. ヘッドレストを下げる。
3. アームレストを収納する。



❶ レバー

4. トランク内のレバーを引き、ロックを解除する。

▶背もたれの倒しかた

⚠注意

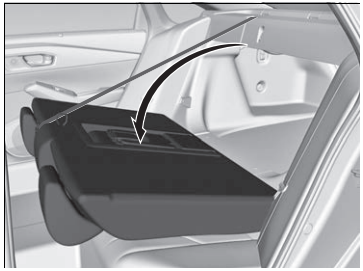
操作するときは、手などをはさまないように十分注意する。

⚠注意

エンジンが始動している状態でシートを操作するときは、排気管の後方に立たない。
やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

背もたれを倒し、トランクを開けたまま走行しないでください。

背もたれを起こすときは、後ろに押しつけて固定します。
背もたれをもとの状態に戻すときは、背もたれを起こし、後ろにしっかり押しつけてください。また、リヤシートのシートベルトが背もたれの前にあり、中央部のシートベルトがガイドにはまっていることを確認してください。



5. 背もたれを倒す。

リアシートリマインダー

後席への人や荷物の置き去りがないようにお知らせする機能です。この機能は、パワーモードをONモードにする直前または直後に、後席ドアを開けた場合に作動します。



作動後、パワーモードをOFFモードにしたとき、マルチインフォメーションディスプレイにお知らせが表示され、音が鳴ります。

リアシートリマインダー

パワーモードを OFF モードにしたとき、お知らせが行われ機能が終了します。

後席ドアを開けた後、10 分以内にパワーモードをONモードにしなかった場合は作動しません。

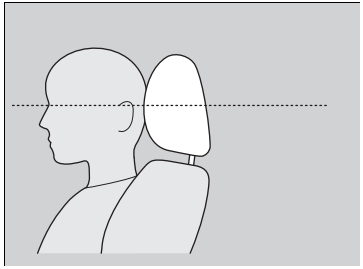
このシステムは後席の人や荷物をセンサーで検出するのではなく、後席ドアの開閉の記録から後席に人や荷物がある可能性をお知らせします。

お知らせ機能が作動しないように設定することができます。

➔ **設定** P.285

ヘッドレスト

■フロントシート、リヤシート(外側)ヘッドレストの調節



後頭部の中心がヘッドレストの中心に

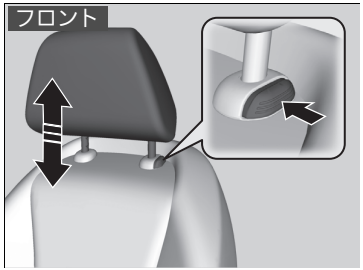
後頭部の中心が、ヘッドレストの中心に来るようにヘッドレストの高さを調節します。

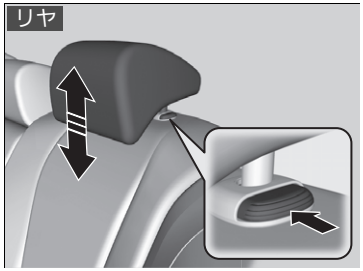
▶ヘッドレスト

⚠警告

ヘッドレストは必ず正しい位置に調節する。
ヘッドレストの高さが適切でないと、ヘッドレストの効果が低くなり、衝突したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

ヘッドレストを外した状態で走行しない。
衝突したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。





高くするとき：
ヘッドレストを引き上げます。
低くするとき：
ノブを押しながら下げます。

次ページに続く

■フロントシート、リヤシート(外側)ヘッドレストの取り外しと取り付け

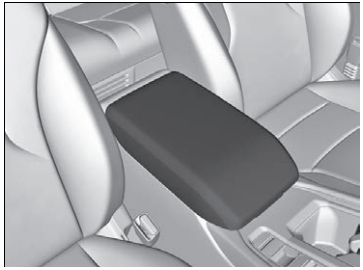
ヘッドレストは、掃除や修理のために取り外すことができます。

ヘッドレストの取り外し：
ヘッドレストを引き上げ、ノブを押して取り外します。

ヘッドレストの取り付け：
ヘッドレストの脚を元の位置に差し込んでください。ノブを押しながらヘッドレストの位置を適切な位置に合わせてください。ヘッドレストを軽く上下させ、確実に固定します。

アームレスト

■フロントシートアームレスト



■リヤシートアームレストの操作



前に倒して使います。

アームレスト

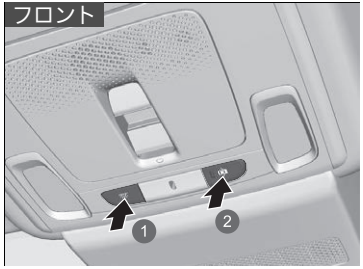
⚠警告

シートベルト着用時にアームレストに引っかけない。
万一のときにシートベルトの機能が発揮できず、重大な傷害を負うおそれがあります。

アドバイス
アームレストに腰をかけたり荷物を載せるなどの大きな力を加えないでください。
アームレストが破損するおそれがあります。

室内灯

■室内灯スイッチ



❶ ON
❷ ドア連動
OFF：ON スイッチ、ドア連動スイッチが OFF の状態

■ON
ドアの開閉に関係なく室内灯が点灯。

■ドア連動
以下のときに室内灯が点灯。
- いずれかのドアを開けたとき
- 運転席ドアを解錠したとき
- パワーモードを OFF モードにしたとき

■OFF
ドアの開閉に関係なく室内灯が消灯。

≫室内灯

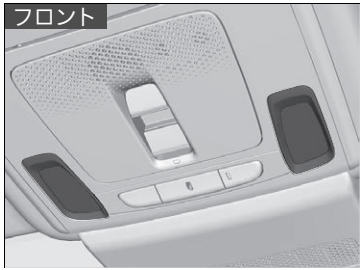
ドア連動で室内灯が点灯している場合は、ドアを閉めると約 30 秒後に減光しながら消灯します。
以下の場合も約 30 秒後に消灯します。
- 運転席ドアを解錠してドアを開けなかったとき
- パワーモードをOFFモードにしてドアを開けなかったとき

室内灯の消灯する時間をカスタマイズすることができます。
➡ **設定** P.285

また、以下の操作を行うと室内灯はすぐに消灯します。
- 運転席のドアを施錠したとき
- パワーモードがOFFモード以外の状態でドアを閉めたとき
- パワーモードを ON モードにしたとき

12V バッテリーが上がるおそれがあるため、パワーシステムが停止しているときは室内灯を長時間点灯させないでください。

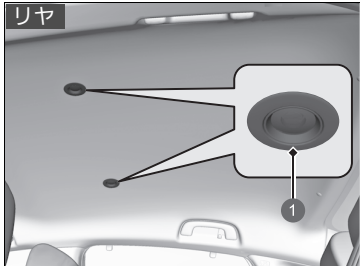
■マップランプスイッチ



夜間、車を停めて地図を見るときなどに使用するライトです。

■フロントシート用マップランプ

マップランプに触れると点灯し、もう一度触れると消灯します。



■リヤシート用マップランプ

マップランプに触れると点灯し、もう一度触れると消灯します。

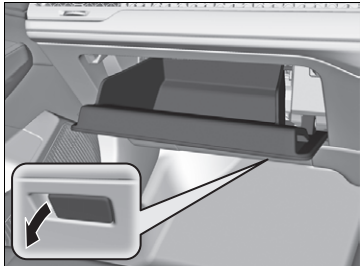
❶ マップランプ

»室内灯

パワーモードが OFF モードのときに、いずれかのドアを開けたままにすると、約 15 分後に室内灯は消灯します。

収納装備

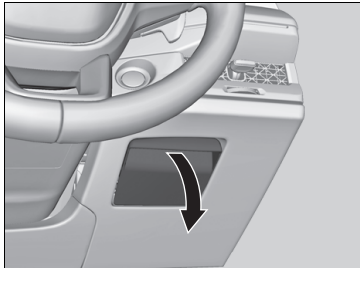
■グローブボックス



ノブを引くと開きます。

❶ ノブ

■ドライバーズサイドポケット



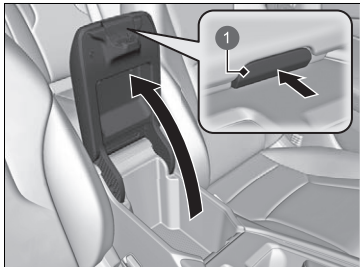
ポケットを下に引いて開きます。

▩グローブボックス

⚠警告

走行中は必ずグローブボックスを閉める。
グローブボックスが開いていると、衝突したときに同乗者が重大な傷害を負うおそれがあります。

■センターコンソールボックス



ボタンを押すと開きます。

❶ ボタン

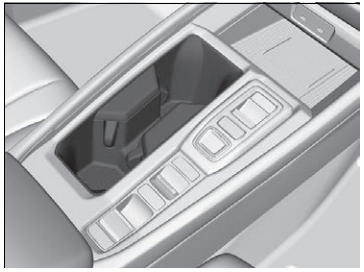
次ページに続く

≫センターコンソールボックス

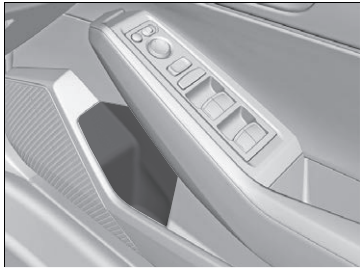
⚠警告

走行中は必ずセンターコンソールボックスを閉める。
センターコンソールボックスが開いていると、衝突したときに同乗者が重大な傷害を負うおそれがあります。

■ドリンクホルダー



■フロントシート用ドリンクホルダー

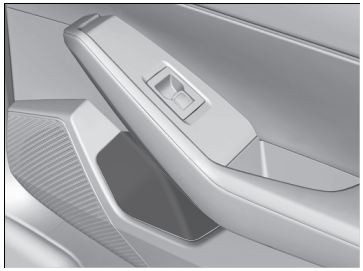


ドアのドリンクホルダーは運転席側と助手席側にあります。

▶ドリンクホルダー

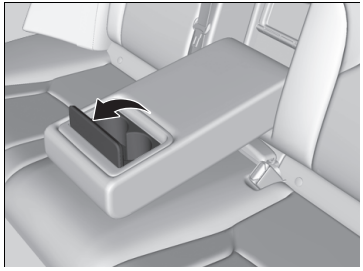
⚠注意

飲み物などを電装品にこぼさないように注意する。
スイッチなどの電装品に飲み物がかかると故障の原因となったり車両火災につながったりするおそれがあります。



■リヤシート用ドリンクホルダー

ドアのドリンクホルダーは運転席側と助手席側にあります。

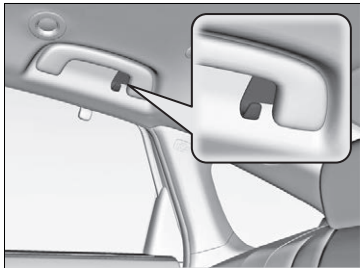


アームレストを前に倒し、リッドを開けて使います。

▶ アームレストを元に戻すときは、リッドが閉まっているか確認してください。

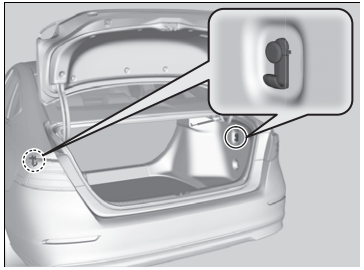
次ページに続く

■コートフック



リヤシート運転席側のグラブレールに付いています。

■コンビニフック



トランク内の左右にあります。

コートフック

⚠注意

グラブレールにものをかけたり、コートフックに重いものやとがったものをかけたりしない。

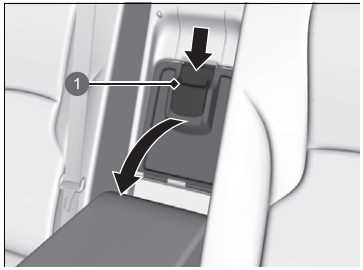
サイドカーテンエアバッグが正常に作動しなかったり、作動時にものが飛んだりしてけがをするおそれがあります。

コンビニフック

アドバイス

コンビニフックが破損するおそれがありますので、重いもの(約 3kg 以上)や大きいものをかけないでください。

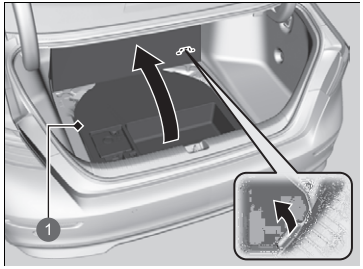
■アームレストスルー



トランク内の小物の出し入れができます。
ノブを押してカバーを開けます。
▶閉じると施錠されます。

❶ ノブ

■カーゴフロアボックス



フロアリッドを開けると、カーゴフロアボックスがあります。

❶ カーゴフロアボックス

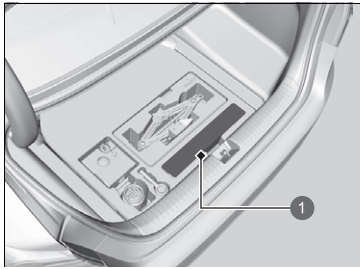
アームレストスルー

⚠注意

走行中は荷物の出し入れをしない。
急ブレーキなどのときに思わぬ事故につながるおそれがあります。

次ページに続く

■停止表示板入れ



❶ 停止表示板入れ

カーゴリッドの下にあります。

≫停止表示板入れ

収納可能な停止表示板のサイズは以下の通りです。

- 長さ ...438mm 以下
- 高さ ...59mm 以下
- 幅 ...121mm 以下

■サングラスボックス



矢印部を押すと開きます。
もう一度押すと格納されます。

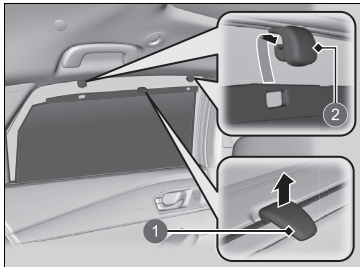
サングラスなどを入れることができます。

≫サングラスボックス

炎天下での駐車は高温になりますので、メガネなどを入れたままにしないでください。
レンズやフレームが、変形やひび割れを起すことがあります。

開閉は停車中に行い、走行中は必ず閉めておいてください。

■リヤドアサンシェード



❶ ノブ
❷ フック

ノブを持って引き上げて使います。
フックにかけます。

リヤドアサンシェード

⚠注意

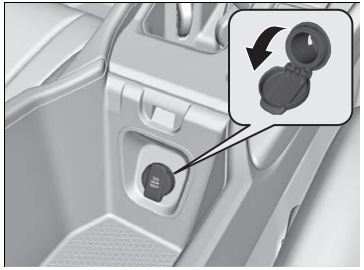
リヤドアサンシェードは、ウィンドーを開けたまま使用しない。
風にあおられるなどしてリヤドアサンシェードがフックから外れて、けがをするおそれがあります。

サンシェードを戻すときは、ノブを持ってゆっくり収納してください。

サンシェードは上方向以外に引っ張らないでください。

その他の室内装備品

■アクセサリーソケット



パワーモードがアクセサリーモード、またはON モードのときに使用できます。

カバーを開けて使います。

≫その他の室内装備品

⚠注意

アクセサリーソケットや USB ジャックなどの電装品に液体がかかったり、異物が入ったりしないように注意する。
電装品に水がかかったり、ゴミやほこりなどの異物が入ったりすると故障の原因となったり車両火災につながったりする恐れがあります。

≫アクセサリーソケット

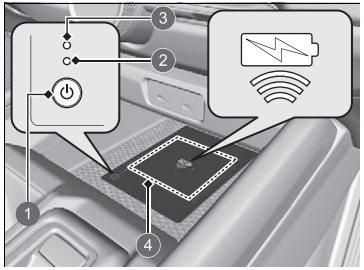
シガレットライターは差し込まないでください。
発熱するおそれがあります。

消費電力 180W(15A)以下のアクセサリーに、直流 12V の電源を供給します。

12V バッテリーあがりを防ぐため、パワーシステムが起動している状態でご使用ください。

使用しないときは異物の侵入を防ぐためカバーを閉めてください。

■ワイヤレス充電器



❶ 電源スイッチ
❷ インジケーター(グリーン)
❸ インジケーター(オレンジ)
❹ 充電エリア

パワーモードがアクセサリーモード、またはONモードのときに使用できます。ワイヤレス充電規格 Qi に適合した機器をワイヤレス充電器の充電エリアの上に置くことで充電できます。

電源スイッチを長押しすることで、電源のON/OFF が切り替わります。

▶電源が ON のときはインジケーター(グリーン)が点灯します。

ワイヤレス充電器がONのとき、対応機器を充電エリアに置くと、充電を開始します。このとき、インジケーター(オレンジ)が点灯します。

▶対応機器の充電面を下にして、充電エリアの中央に置いてください。

充電が完了すると、インジケーター(グリーン)が点灯します。

▶対応機器によっては、充電完了後もインジケーター(オレンジ)が点灯し続ける場合があります。

次ページに続く

ワイヤレス充電器

⚠警告

以下のことを守らない場合、感電や火災の原因になり、重大な傷害や死亡に至る恐れがあります。

- ワイヤレス充電器と対応機器の間に金属類を挟んだ状態で充電しない。
- タオルなどをかぶせた状態やほこりが被った状態で充電しない。
- 水や飲料物等で機器を濡らさない。
- 油類、アルコール、ベンジン、シンナーなどで拭いたり、ヘアスプレー、殺虫剤などをかけたりしない。

ワイヤレス充電を行う際は、対応機器に付属の取扱説明書もお読みください。

この装置は消費電力が大きいので、パワーシステムが停止しているときは長時間使わないでください。
12V バッテリーの容量が低下し、パワーシステムの起動に影響することがあります。

ワイヤレス充電器は最大 15W 充電に対応していますが、機器や条件によって充電の電力は変化します。

ワイヤレス充電器

⚠注意

ペースメーカ(植え込み型心臓ペースメーカおよび除細動機能なし植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータ)およびICD装着のお客様は、充電時にはワイヤレス充電器から 22cm 以内に植込み部位を近づけない。

充電によりペースメーカおよびICDの動作に影響を与える恐れがあります。ご使用になる前に医師や医療用機器製造者に影響を確認してからご使用ください。

充電中に充電エリア内に磁気記録メディアや精密機器などを置かない。

磁気の影響により、クレジットカードや ETC カードなどのデータが消えることがあります。また、腕時計などの精密機器は故障するおそれがあります。

“Qi” 及び、マークはワイヤレスパワーコンソーシアム(WPC) の登録商標です。

ワイヤレス充電器上の対応機器が充電状態のときに、Honda CONNECT ディスプレイの画面上にマークが表示されます。

■充電できないときは

次の表に基づき、対処してください。

インジケーター		エラー原因	対処方法
グリーン & オレンジ	同時点滅	対応機器と充電エリアの間に異物がある	対応機器と充電エリアの間にある異物を取り除く。
		充電エリアから対応機器がずれている	充電エリア中央の マーク付近に置き直す。
		ワイヤレス充電器内部の温度上昇	一旦充電を停止し、しばらくたってから充電を開始してください。
オレンジ	点滅	ワイヤレス充電器の故障	Honda 販売店へご相談ください。

ワイヤレス充電器

次のような場合は充電できないことがあります。

- 対応機器が満充電
- 対応機器が高温になっているとき
- テレビ塔や発電所、ガソリンスタンドなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- ワイヤレス充電に対応していないカバーやアクセサリーが対応機器に取り付けられている

充電エリアに対応機器の充電面を接地できない形状、サイズの機器には本機能を使用できません。また、機器によっては、正常に作動しない場合があります。

充電中や充電直後は、充電エリアと対応機器が温かくなりますが、異常ではありません。

次のような場合、充電を一時的に停止することがあります。その後、自動的に充電は再開します。

- Honda スマートキーシステムへの影響を避けるため、すべてのドアを閉めたとき

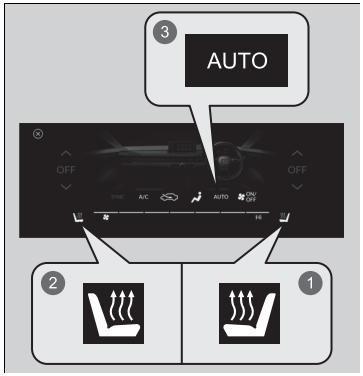
充電するときは、同時に複数の機器を充電しないでください。

次ページに続く

ワイヤレス充電器

対応機器が高温になり、対応機器のバッテリー保護機能が作動した場合、充電速度が著しく低下し、または、充電停止する場合があります。
バッテリー保護機能が作動する温度は対応機器によって異なります。

■フロントシートヒーター



❶ 運転席シート
ヒーターアイコン
❷ 助手席シート
ヒーターアイコン
❸ AUTOアイコン

パワーモードがONモードのときに使用できます。運転席、助手席のシートを暖めることができます。

アイコンを押すたびに設定が切り換わります。
1回目 - 高：インジケーターが3個点灯
2回目 - 中：インジケーターが2個点灯
3回目 - 低：インジケーターが1個点灯
4回目 -OFF：インジケーターが消灯

パワーモードを一度OFFモードにしてから再度ONモードにしても、前回と同じ設定で復帰します。

AUTOを押したとき
エアコンに連動して作動し、環境に応じて適切な温度に自動で切り替わります。
▶ スイッチ操作をした場合は手動の設定に切り替わります。

フロントシートヒーター

⚠注意

低温やけどに注意する。
次のようなかたは、低温やけどに十分注意してください。
- 乳幼児、お年寄り、体の不自由なかた
- 皮膚の弱いかた
- 疲労の激しいかた

また、毛布などの保温性の高いものをかけて使用すると低温やけどをすることがあります。

この装置は消費電力が大きいので、パワーシステムが停止しているときは長時間使わないでください。
12V バッテリーの容量が低下し、パワーシステムの起動に影響することがあります。

一定時間経過するとシートヒーターの設定が自動で1段階低くなり、最終的にOFFになります。設定が自動で低くなるまでの時間は室内温度などによって異なります。

助手席に荷物などを置くと、センサーが重量を検知して作動する事があります。

自動で作動させたくない場合は、シート温度調節を OFF にすることができます。
➡ **設定** P.285

次ページに続く

■リヤシートヒーター(左右席)



❶ シートヒータースイッチ

パワーモードがONモードのときに使用できます。

中央のリヤシートにはヒーターが付いていません。
スイッチを押すたびに設定が切り替わります。
1回目 - 高：インジケーターが3個点灯
2回目 - 中：インジケーターが2個点灯
3回目 - 低：インジケーターが1個点灯
4回目 -OFF：インジケーターが消灯

≫リヤシートヒーター(左右席)

⚠注意

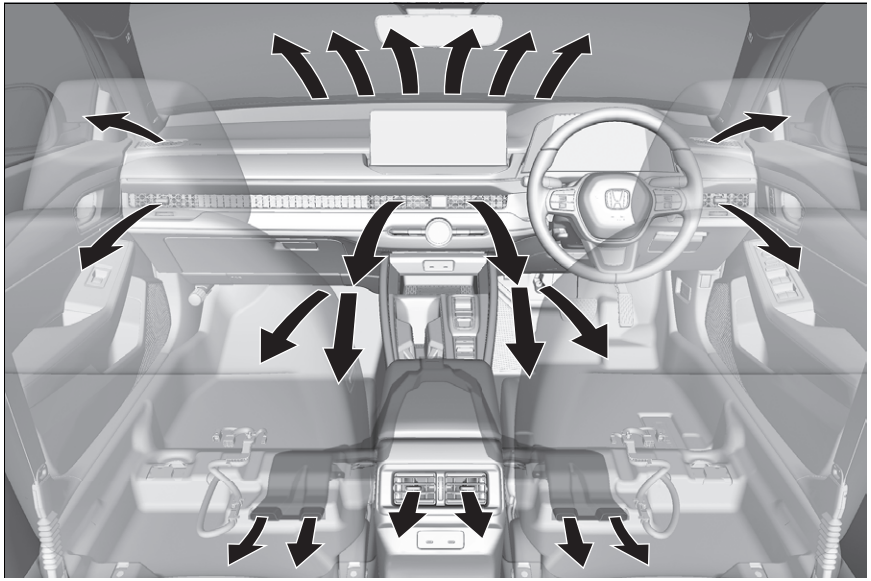
低温やけどに注意する。
次のようなかたは、低温やけどに十分注意してください。
- 乳幼児、お年寄り、体の不自由なかた
- 皮膚の弱いかた
- 疲労の激しいかた

また、毛布などの保温性の高いものをかけて使用すると低温やけどをすることがあります。

この装置は消費電力が大きいので、パワーシステムが停止しているときは長時間使わないでください。
12V バッテリーの容量が低下し、パワーシステムの起動に影響することがあります。

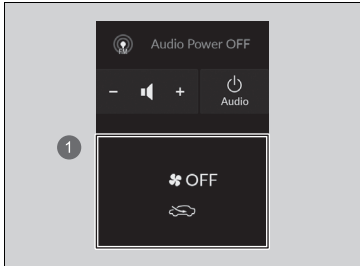
ある程度時間が経過するとシートヒーターの設定が自動で一段階低くなり、最終的にOFFになります。経過時間は使用環境により異なります。

エアコンの吹き出し口



オートエアコンの使いかた

パワーシステムを起動した状態で使用します。



❶ B-Zone エアコン表示画面

1. ディスプレイオーディオ画面の B-Zone のエアコン表示画面を押す。
2. AUTO を押す。
3. 温度調節アイコン(▲ / ▼)を押して温度を調節する。
4. 停止するときは、ON/OFF を押す。

オートエアコンの使いかた

オート(AUTO)で使用中いずれかのアイコンを押すと、そのアイコンの機能が優先されます。
このとき AUTO アイコンのハイライトは消えますが、選択したアイコン以外の機能は自動制御されます。

外気温が低いときは、冷風の吹き出しを防ぐため、AUTO を押してもすぐにファンが回転しないことがあります。

炎天下に駐車していたときは、窓を開けて熱気を追い出しながら、冷房を開始してください。

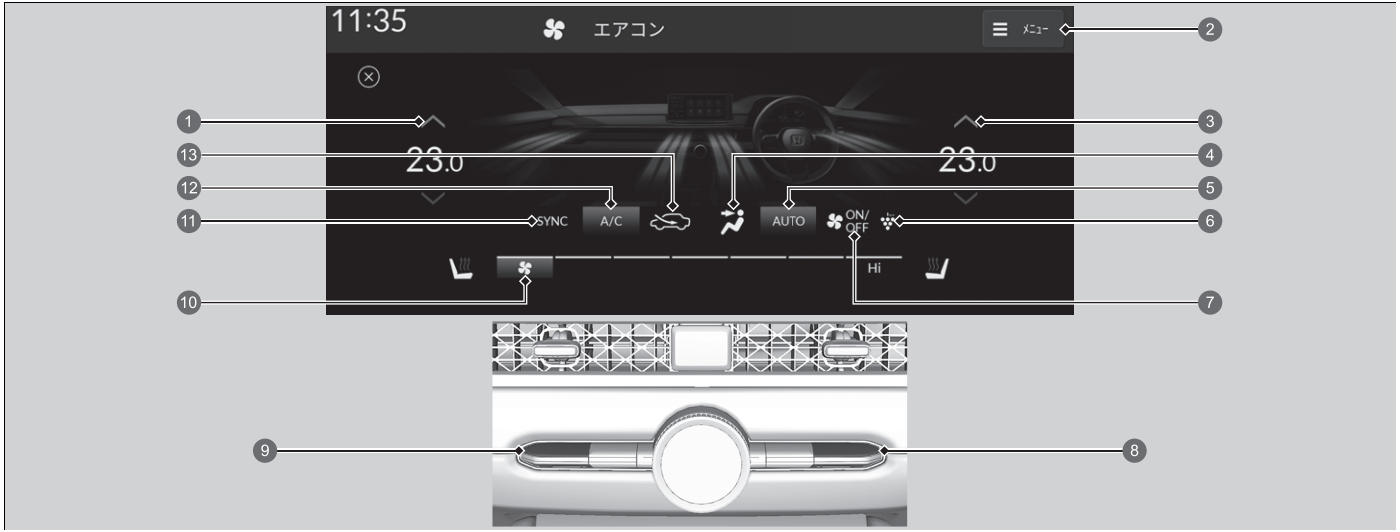
設定温度表示で「Lo」は最大冷房を、「Hi」は最大暖房を示します。

高電圧バッテリーの残量が少ないときエアコンの効きが弱くなることがあります。

ON/OFF を押すたびに ON や OFF に切り換わります。ONするとOFFする前の状態に戻ります。

ECON モードのときは、走行中にエアコンの効きが弱くなる場合があります。

フロントシートヒーターの取り扱いについては、下記を参照してください。
➡ **フロントシートヒーター** P.207



❶ 助手席側温度調節アイコン
❷ メニューアイコン
❸ 運転席側温度調節アイコン
❹ MODE アイコン
- 上半身送風
- 足元送風、上半身送風
- 足元送風
- 足元送風、窓ガラスの曇り取り

❺ AUTO アイコン
❻ プラズマクラスターマーク
❼ ON/OFF アイコン
❽ 運転席側温度調節ボタン
❾ 助手席側温度調節ボタン
❿ ファンスピード切り換えアイコン
⓫ SYNC アイコン
⓬ A/C アイコン
⓭ 内外気切り換えアイコン

次ページに続く

■内気 / 外気の切り換え

状況に合わせて  /  を押して、内気 / 外気を切り換えます。

- 内気():トンネルや渋滞などで、汚れた空気を車内に入れたくない場合
- 外気():換気を行う場合

■除湿暖房

AUTO で使用中、自動で除湿暖房となります。

AUTO でない時、暖房中に A/C を押して A/C ON にすると除湿暖房となります。

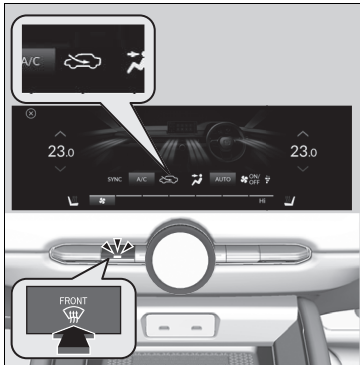
オートエアコンの使いかた

エクスペリエンスセレクションダイヤルを使用することでエアコンの設定を事前に保存されているモードへ変更することができます。
パワーモードをONモードにしたときにおすすめのモードを表示する機能があります。
表示されるモードは車外の状況によって選択されます。

内部が非常に暖かい場合は、窓を部分的に開くことで、より急速に冷やすことができます。エクスペリエンスセレクションダイヤルで急速冷房を選択し使用してください。
詳細は下記を参照ください。

エクスペリエンスセレクションダイヤルの操作方法 P.217

■前面・側面ガラスの曇り止め(デフロスター)の使いかた



❶ 外気導入()

FRONTを押すとエアコンが作動し、自動的に外気導入に切り換わります。

FRONTをもう一度押すと曇り止めが停止し、前の状態に戻ります。

⊠前面・側面ガラスの曇り止め(デフロスター)の使いかた

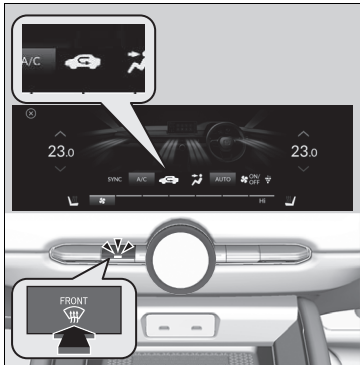
安全のため、運転する前に視界が確保されていることを確認してください。

設定温度を最大冷房付近にしないでください。
冷風が前面ガラスに当たると、ガラスの外側が曇ることがあります。

霜が取れたら、ただちに外気導入に切り換えてください。
内気循環で使い続けると車内の湿気で窓ガラスが曇り、視界の妨げになります。

エクスペリエンスセレクションダイヤルを使用することで急速霜取モードを使用することがができます。
詳細は下記を参照ください。
➡ **エクスペリエンスセレクションダイヤルの操作方法** P.217

次ページに続く



❶ 内気循環（ ）

■急速に霜を取りたいとき

1. FRONT を押す。

2. を押す。

■連動作動(シンクロ)モード



❶ 運転席側温度調節アイコン
❷ 助手席側温度調節アイコン
❸ SYNC アイコン

エアコンの設定操作を独立モードから連動作動モードに切り換えます。
運転席側と助手席側の設定温度を連動させて設定することができます。

1. SYNC を押す。
▶ 連動作動モードに切り換わります。
2. 運転席の温度調節アイコン / ボタンで室内の温度を設定する。

独立モードに戻すときは、 SYNC を押すか、助手席側の温度調節アイコン / ボタンを操作します。

連動作動(シンクロ)モード

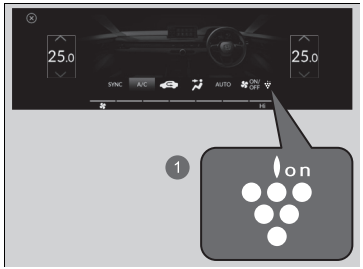
FRONT を押すと、連動作動モードに切り換わります。

独立モードの場合は、エアコンの設定温度を運転席側と助手席側で個別に設定できます。

連動作動モードにすると、運転席側の設定温度に切り換わります。

次ページに続く

■プラズマクラスター



❶ プラズマクラスターマーク

エアコンもしくは送風に連動してプラズマクラスターも作動し、マークが表示されます。

プラズマクラスター

プラズマクラスターマークおよびプラズマクラスター、Plasmaclusterはシャープ株式会社の登録商標です。

■エクスペリエンスセレクションダイヤルの操作方法



❶ エクスペリエンスセレクションダイヤル

エクスペリエンスセレクションダイヤルを使用することでプリセットで保存されているエアコンの設定へ変更することができます。

ダイヤルを操作するとディスプレイオーディオにモード選択が表示されます。使用したいモードに合わせ、ダイヤルを押して実行してください。

使用しているモードをもう一度選択し、ダイヤルを押すことでエクスペリエンスセレクションダイヤル使用前の設定に戻ります。

▶ モード使用中にどれかの設定を変更すると、変更した設定以外はそのままの設定を継続したオートエアコンに移行します。

エクスペリエンスセレクションダイヤルの操作方法

ディスプレイオーディオでオーディオ、アンビエントライト、エアコンの設定をお好みの組み合わせで保存し、モードの1つとしてエクスペリエンスセレクションダイヤルで使用することができます。

モードの作成と編集、モード選択時の表示順はディスプレイオーディオを使用してカスタマイズすることができます。

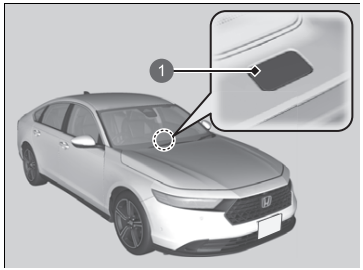
➔ **エクスペリエンスセレクション設定** P.307

車外の状況によってパワーモードをONモードにしたときにおすすめのモードが表示されることがあります。

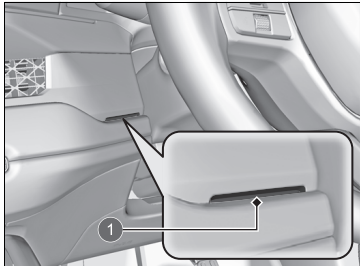
おすすめのモードを使用する場合はダイヤルを一度押して確定させてください。

おすすめのモードが表示されている時に通常の画面に戻すにはメッセージのなにもないところを触るか、20 秒間操作をしないことで通常の画面へ表示が戻ります。

オートエアコンのセンサー



❶ センサー



❶ センサー

オートエアコンには、センサーが付いています。センサーの上にものを置いたり、水をかけたりしないでください。



オーディオ

この章では、本システムのさまざまな機能に関する情報を記載しています。

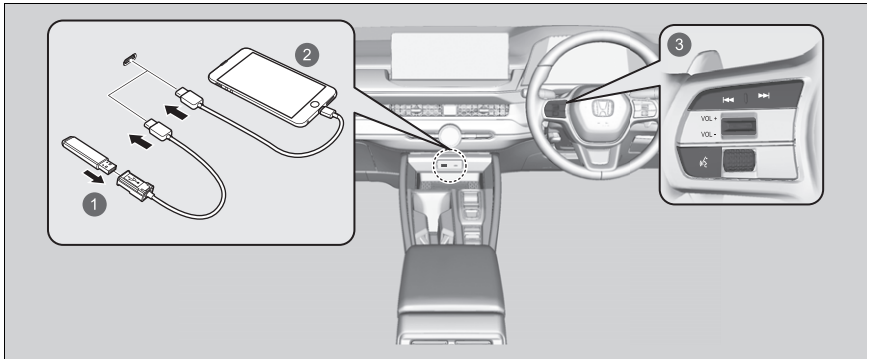
インフォテインメントシステム
お使いのインフォテインメントシステムについて 220
ディスプレイオーディオ
起動時の設定 221
基本操作 223
ディスプレイオーディオ画面 230
再生ソースの切り替え 237
時計設定 238
音質を調整する 239
明るさやコントラストを調整する 240
システムアップデート 241
ラジオを聴く 243
交通情報を聞く 246
テレビを観る 247
有線接続による音楽再生について 251
USB デバイスによる音楽 / ビデオ再生について 254
Bluetooth® オーディオを聴く 258
Honda Total Care 261
Wi-Fi 接続 262
Apple CarPlay 264
Android Auto™ 268
パワーフロー 272
Google アプリおよびサービス 275
ユーザー情報 279
プロファイル設定 283
設定 285
エクスペリエンスセレクションダイヤルを設定する 306
初期化 311
ハンズフリーテレホンについて 313
エラーメッセージ
有線接続デバイス /USB デバイス 326
情報 327
オープンソースライセンスについて 332
ナビゲーションシステムの現在地について 333
商標、使用許諾について
商標 334

お使いのインフォテインメントシステムについて

本システムはラジオやテレビの視聴、USB デバイス、iPod、iPhone、および Bluetooth® 対応機器の再生ができます。

操作には、タッチパネルまたはオーディオリモートコントロールスイッチを使います。

オーディオリモートコントロールスイッチ P.227



❶ USB デバイス
❷ スマートフォン
❸ オーディオリモートコントロールスイッチ

お使いのインフォテインメントシステムについて

アーティスト名、アルバム名、曲名は、正しく表示されないことがあります。

安全上の配慮から、テレビやビデオファイルなどの映像は停車してパーキングブレーキをかけているときだけご覧になることができます。走行中や停車していてもパーキングブレーキをかけていないときなどは、映像は映らず、音声だけがきこえます。

起動時の設定

本システムはパワーモードをアクセサリーモードまたは ON モードにしたときに、自動的に起動します。起動すると、警告および注意に関する画面が表示されます。よくお読み頂き操作してください。



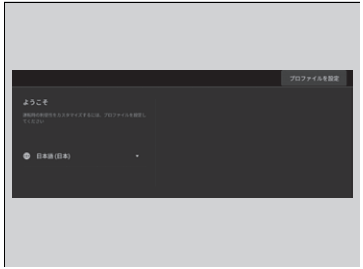
OK を選択する。

- ▶ **OK** を選択しないと、一定期間経過後システムは自動的にホーム画面、または最後に実行したアプリケーションのトップ画面に切り替わります。
- ▶ Bluetooth® ペアリングされたデバイスが無い場合、**OK**を選択してからBluetooth®のペアリング画面が表示されます。

➔ **携帯電話をペアリングする** P.314

次ページに続く

■新規ユーザー登録



1. 警告および注意に関する画面を確認し、**OK** を選択する。
2. **プロファイルを設定**を選択する。
3. **プロフィール名**を入力してから**次へ**を選択する。
4. Google サービスの同意事項を確認する。
5. システム全体の許可設定画面でシステムがアクセスすることを許可する項目を選択し、**同意する**を選択する。
6. **設定完了**を選択する。
   - ▶ **プロファイルのロック**を選択した場合、プロファイルにセキュリティを付けることができます。
   - ▶ **Google アシスタントとアプリの設定**を選択した場合、Google 関連の設定をカスタマイズすることができます。設定を変更するにはインターネット接続が必要です。

≫新規ユーザー登録

Google のアプリとサービスについては、ホームページをご確認ください。

また Honda のホームページで、Honda 車をご利用のお客様向けの動画や FAQ 等についてご確認いただけます。

ホームページ URL：
https://www.honda.co.jp/Googlebuilt-in/Japanese/

基本操作

ディスプレイオーディオを使用する際は、パワーモードをアクセサリーまたはON モードにする必要があります。



❶ お知らせアイコン
車両や接続した機器、アプリケーション等の情報を表示します。

❷ アプリケーションアイコン
アプリケーションアイコンを表示します。

▶ **アプリー覧**を選択すると、本システムにインストールされている全てのアプリケーションを確認することができます。

ディスプレイオーディオ画面 P.230

❸ Home(Home)アイコン

❹ Back(Back)アイコン

❺ モードチェンジアイコン
モードチェンジアイコンを表示します。

次ページに続く

基本操作

運転中にオーディオ機器を操作することは違法となる場合があります。

❻ [+]/[−](音量)アイコン
音量を調整します。
❼ [⏻]Audio アイコン
オーディオシステムのオン / オフを切り替えます。

■再起動について

本システムを再起動することができます。

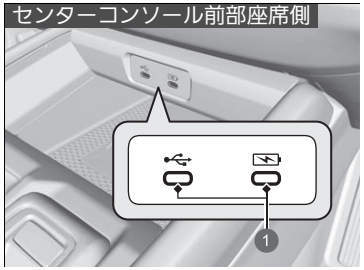
1. Home(Home)アイコンを長押ししてください。

2. **再起動**を選択してください。

▶ **セーフモード**を選択した場合、本システムはお客様がご自身でダウンロードしたアプリをオフにしたままで再起動します。
パワーモードをもう一度オフにした場合、お客様がご自身でダウンロードしたアプリを使用することが可能になります。

次ページに続く

■ USB ジャック

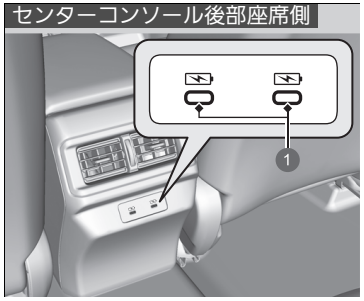


❶ USB ジャック

■通信 / 充電用 USB ジャック( )

USB ジャック(3.0A)を使用して機器を充電する、オーディオファイルを再生する、および接続可能な携帯電話のApple CarPlayかAndroid Auto に接続することができます。

▶問題を避けるため、Apple CarPlay を使用する場合は、Apple MFi認定Lightningコネクターを使用してください。Android Auto を使用する場合は、USBケーブルは USB2.0 に準ずるため、USB-IF 認定のものを使用してください。



❶ USB ジャック

■充電用 USB ジャック( )

USB ジャック(3.0A)は充電専用です。

▶ミュージックプレーヤー等を接続しても、音楽やビデオの再生はできません。

≫USB ジャック

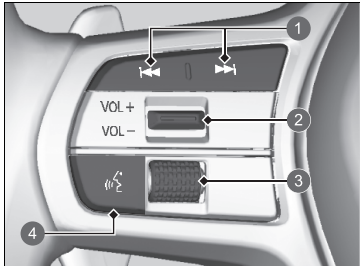
- 接続した機器を車内に放置しないでください。直射日光や高温等により、機器に破損を及ぼすおそれがあります。
- iPod や USB デバイスを接続するには、ハブを使用しないでください。
- カードリーダーやハードディスクドライブ等のデバイスを使用しないでください。デバイスまたはファイルに破損を及ぼすおそれがあります。
- 自分のデバイスを車両機能と使用する前に、バックアップを作成することをお勧めします。
- 表示されるメッセージは、機器の機種やソフトウェアのバージョンによって異なる場合があります。

USB ジャックは 3.0A まで出力できます。
接続した機器からの要請がないと出力しません。
アンペア数の詳細については、接続機器に付属の取扱説明書をお読みください。

特定の条件下で、USB ジャックに接続されたデバイスが、聴いているラジオ局にノイズを発生させることがあります。

■オーディオリモートコントロールスイッチ

ステアリングホイールに付いているスイッチで、オーディオ / ビジュアルの基本的な操作を行うことができます。



❶ |◀◀|/|▶▶|スイッチ
❷ **VOL**|+|/**VOL**|−|(音量)スイッチ
❸ レフトセレクターホイール
❹ |🎤|(発話)スイッチ

≫オーディオリモートコントロールスイッチ

接続する機器によっては、表示されないモードがあります。

接続されたBluetooth® デバイスにより、一部の機能が使用できない場合があります。

次ページに続く

■|◀◀/▶▶|スイッチ

- FM/AM、テレビ視聴時
  |▶▶|スイッチを押す：プリセットされている次の放送局を選局します。
  |◀◀|スイッチを押す：プリセットされている前の放送局を選局します。
- FM/AM 視聴時
  |▶▶|スイッチを長押しする：次の放送局へ自動選局を開始します。
  |◀◀|スイッチを長押しする：前の放送局へ自動選局を開始します。
- USB デバイス、Bluetooth® オーディオ、有線接続による音楽再生時
  ▶ 接続する機器によって、操作方法が異なる場合があります。
  |▶▶|スイッチを押す：次の曲へスキップします。
  |◀◀|スイッチを押す：現在、または前の曲の先頭に戻ります。
- USB デバイス再生時
  |▶▶|スイッチを長押しする：次のフォルダーへスキップします。
  |◀◀|スイッチを長押しする：前のフォルダーに戻ります。
- Bluetooth® オーディオ、有線接続による音楽再生時
  |▶▶|スイッチを長押しする：再生中の曲を早送りします。
  |◀◀|スイッチを長押しする：再生中の曲を早戻しします。

■VOL+/VOL−(音量)スイッチ

- 上側に押す：音量を上げます。
- 下側に押す：音量を下げます。

■レフトセレクターホイール

再生ソースを切り替えることができます。

1. レフトセレクターホイールを上下に回し、ヘッドアップディスプレイに表示されるソースを選択する。

▶ 以下の順でソースを切り替えられます。

戻る > **電話** > FM > AM > **交通情報** > USB > Bluetooth > Apple CarPlay > Android Auto > TV > **表示設定**

2. レフトセレクターホイールを押して、決定する。

▶ 選択した再生ソースが使用出来ない場合、ソースは切り替わりません。

ディスプレイオーディオ画面

さまざまな項目を選択、確認できます。



❶ A-Zone
❷ モードチェンジスイッチバー
❸ B-Zone
❹ ステータスバー

■ A-Zone

A-Zone はディスプレイオーディオ画面の主な操作範囲です。

ディスプレイオーディオ画面

タッチ画面の操作

- 一部のオーディオ機能は、タッチ・スワイプ・スクロール等で操作できます。
- 運転中は、注意力が散漫になるのを防ぐため、一部の項目がグレーアウトされることがあります。
  音声操作または停車すれば上記のアイテムを選択することができます。
- 手袋をしている場合、タッチ操作が正常に動かない場合があります。

タッチ画面の感度設定を変更することができます。

設定 P.285

■画面を移動する

左右にスライドすると、前後のページに移動します。



❶ ページ位置

■ホーム画面のアプリケーションアイコン追加 / 削除

ホーム画面のアプリケーションアイコンを追加する、または削除することができます。



1. Home(Home)アイコンを選択する。
2. **アプリ一覧**を選択する。
3. 追加 / 削除したいアプリにチェックを入れる、もしくは外す。

画面を移動する

ホーム画面は最大で 6 ページまで追加できます。

Home(Home)アイコンを押すと、現在閲覧中のページに関わらず最初のページに戻ります。

ホーム画面のアプリケーションアイコン追加/削除

ホーム画面のアプリケーションアイコン削除では、アプリ自体は削除されません。

次ページに続く

■アプリケーションアイコンの並び替え / 削除

ホーム画面でアプリケーションアイコンの位置の並び替え、または削除する事が出来ます。



❶ 非表示

1. Home(Home)アイコンを選択する。
2. アプリケーションアイコンを長押し選択する。
   ▶ カスタマイズ画面に切り替わります。
3. アプリケーションアイコンを選択したまま、移動したい場所へドラッグ・アンド・ドロップする。
   ▶ **非表示**へドラッグ・アンド・ドロップすると、ホーム画面から削除することができます。
4. Home(Home)または Back(Back)アイコンを選択する。
   ▶ ホーム画面に戻ります。

≫アプリケーションアイコンの並び替え / 削除

ヒントを選択すると詳細が表示されます。再度押すと、表示が消えます。

ホーム画面でのアプリケーションアイコン削除では、アプリ自体は削除されません。

■モードチェンジスイッチバー

全てのアプリはモードチェンジスイッチバーからも選択することができます。
モードチェンジスイッチバーを編集することができますが、一部のアイコンは編集することができません。

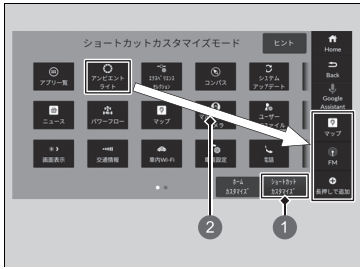
モードチェンジスイッチバー

ヒントを選択すると詳細が表示されます。再度押すと、非表示されます。

次ページに続く

■モードチェンジスイッチバーの編集

最大3つまでのアイコンをモードチェンジスイッチバーに登録することができます。

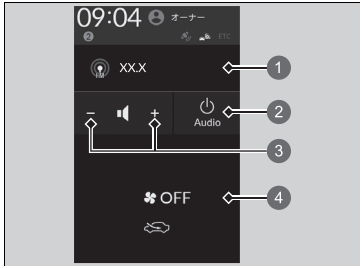


❶ **ショートカットカスタマイズ**
❷ ドラッグ・アンド・ドロップ

1. Home(Home)アイコンを選択する。
2. アプリケーションアイコンを長押し選択する。
   ▶ カスタマイズ画面に遷移します。
   ▶ モードチェンジスイッチバーに登録済みのアプリケーションアイコンまたは**長押しで追加**を長押し選択でもカスタマイズ画面に遷移します。
   その場合は、手順 3 から行ってください。
3. **ショートカットカスタマイズ**を選択する。
4. 登録したいアイコンを選択したまま、モードチェンジスイッチバーにドラッグ・アンド・ドロップする。
   ▶ 既に登録されているアプリケーションアイコンを選択しても、目的のアイコンを登録することができます。
   ▶ アイコンはショートカットとして登録されます。
5. Home(Home)または Back(Back)アイコンを選択する。
   ▶ ホーム画面に戻ります。

■ B-Zone

B-Zone は再生中のオーディオ情報やエアコンの状態を表示し、オーディオシステムのオン / オフや音量調整を行う事ができます。



❶ 再生中のオーディオ情報
❷ ⏻Audio アイコン
❸ ＋/－(音量)アイコン
❹ エアコン情報

次ページに続く

■ステータスバー

車両の情報や接続済みの機器に関する情報などを表示します。ステータスバーを選択すると、ステータスエリアで詳細が確認できます。



❶ ステータスエリア

再生ソースの切り替え

各再生ソースを切り替えることができます。



❶ アプリアイコン

1. 各再生ソース画面のアプリアイコン選択する。



❶ ソースリスト

2. ソースリストから、お好みの再生ソースを選択する。

時計設定

時計の時刻設定をすることができます。

➔ **時刻の設定** P.133

■時計の種類と背景の設定

以下の手順で、エクスペリエンスセレクションダイヤルに表示する時計の種類と背景を変更することができます。

1. Home(Home)アイコンを選択する。
2. **エクスペリエンスセレクション**を選択する。
3. を選択する。
4. 設定したい項目を選択する。

音質を調整する

1. (Home)アイコンを選択する。
2. 再生ソースアイコンを選択する。

TV、USB オーディオ(ビデオ)モード

3. メニューを選択する。
4. 音質調整を選択する。
5. お好みの設定を選択する。

AM/FM ラジオ、USB オーディオ(音楽)、iPod や iPhone などのデバイス、Bluetooth® オーディオモード

3. 音質調整を選択する。
4. お好みの設定を選択する。

以下の項目が設定できます。

- **Bass / Mid / Treble**：**Treble**、**Midrange**、**Bass** を調整します。
- **オーディオゾーン、Balance / Fader**：オーディオゾーンおよび Balance/Fader を調整します。
- **Bose Centerpoint Surround**：設定をオンにすることで、ステレオ音声をサラウンド音声に変換します。
- **Bose Dynamic Speed Compensation**：走行速度に応じて、音量を自動調整します。音量の増加量を設定します。**オフ**を選択すると、機能を解除します。

音質を調整する

下記の手順でも音量を調節することができます。
1. (Home)アイコンを選択する。
2. **本体設定**を選択する。
3. **音質調整**を選択する。

Bass / Mid / Treble、**オーディオゾーン、Balance / Fader** の各設定をリセットしたいときは、各設定項目で**初期化**を選択してください。

明るさやコントラストを調整する

画面の明るさ、コントラスト、黒の濃さを調整することができます。

1. Home(Home)アイコンを選択する。
2. **本体設定**を選択する。
3. **画面**を選択する。
4. 画面の明るさ、コントラスト、黒の濃さを調整する。

明るさやコントラストを調整する

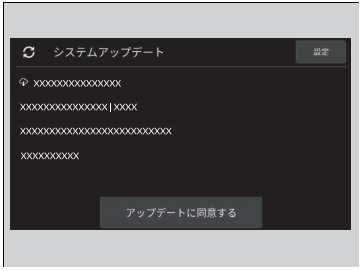
初期化を選択すると、画面表示設定が初期化されます。

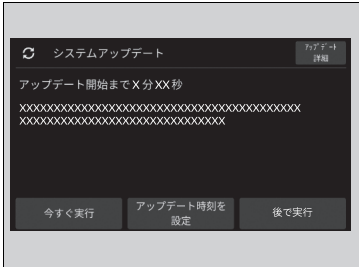
画面オフを選択することで画面表示を消すことができます。
画面を再度表示するには、画面をタッチして下さい。

システムアップデート

システムアップデートはテレマティクスコントロールユニット(TCU)またはWi-Fi 通信機能を通じて更新ができます。
アップデートが可能になると、システムのアップデートを促す画面が表示されます。

■システムアップデートの実行 / 予約




システムアップデート
アップデート詳細
アップデート開始まで X 分 XX 秒
xxxxxxxxxxxxxxxxxxxx

4. パワーモードをONモードにすると、システムアップデート結果画面が表示されます。
▶ アップデート結果は、システムアップデートの**設定→アップデート履歴**からも確認できます。

■アップデート設定

システムアップデートの設定について変更、または確認することができます。

1. Home(Home)アイコンを選択する。
2. システムアップデートを選択する。
3. 設定を選択する。
4. 変更または確認したい項目を選択する。

以下の設定が可能です。

- **ネットワーク設定**
  Wi-Fi 接続 P.262
- **自動アップデート**
- **自動ダウンロード(Wi-Fi 接続)**
- **アップデート履歴**
- **バージョン情報**

システムアップデートの実行 / 予約

アップデートに同意するを選択した、もしくは自動アップデートがONにもかかわらず許諾画面が表示されない場合は、以下の車両状態のいずれか、または複数が原因である可能性があります。
詳細は Honda 販売店にご相談ください。

- ボンネットが開いている
- シフトポジションがPに以外になっている
- 車両側で警告灯などの緊急通知を出している
- 高電圧バッテリーの充電量が低い
- 12V バッテリーの容量が低下している

Wi-Fi 経由でもシステムを更新できますが、Wi-Fi の認証方式によっては使用できないものがあります。
例：

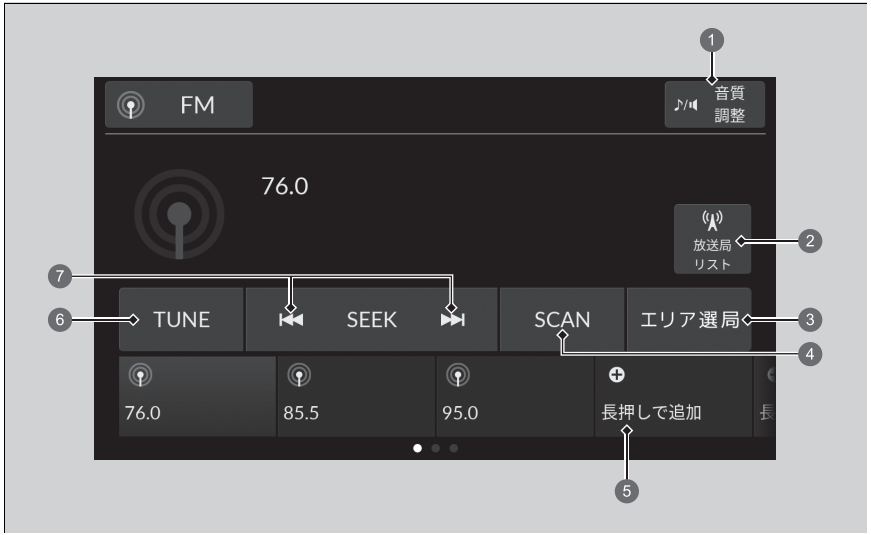
- 接続のためにログインが必要なもの
- 使用条件への同意が必要なもの

ネットワークが切断された場合、ダウンロードが中断されます。

次にネットワーク接続が確立されたときに、ダウンロードが再開されます。

もしWi-Fiを使用してシステムの更新を行う場合は、**本体設定→接続→Wi-Fi→オプション→他のネットワークを選択する**または**保存済みネットワーク**のチェックボックスにチェックを入れてください。

ラジオを聴く



❶ **音質調整**アイコン
❷ **放送局リスト**アイコン
❸ **エリア選局**
❹ **SCAN** アイコン
❺ プリセットアイコン
❻ **TUNE** アイコン
❼ **SEEK** アイコン

次ページに続く

■音質調整

音質の調整ができます。

音質を調整する P.239

■プリセットに登録する

1. お好みの局にチューニングする。

2. 長押しで追加を長押しする。

■プリセットの編集

プリセットした局を長押しする。

下記の項目を選択できます：

- **お気に入りを削除**：選択されたお気に入り局のアイコンをお気に入り局リストから削除する。
- XX.X(視聴中の周波数)**を登録**：選択されたプリセットを入れ替える。
- **ホームに追加**：保存されたプリセットのショートカットアイコンをホーム画面に追加する。

プリセットに登録する

FM 局、AM 局をそれぞれ 12 局まで登録することができます。

■ SCAN

約 10 秒間、電波が強い局を抽出します。スキャンを OFF にしたいときは、**停止**または Back (Back) アイコンを選択してください。

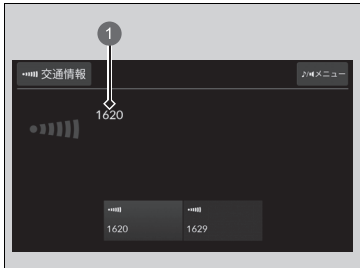
■ TUNE

画面上のキーボードで周波数を直接入力することができます。
また、◀/▶アイコンで周波数を合わせることもできます。

■ SEEK

|◀◀/▶▶|を選択する。
選択している間は、周波数が変化し続けます。

交通情報を聞く



1. Home(Home)アイコンを選択する。
2. **交通情報**を選択する。
   ▶ 受信する周波数を選択出来ます。

❶ 受信中の周波数

■メニュー

音質の調整ができます。

➡ **音質を調整する** P.239

テレビを観る

■はじめて観る場合

■データ放送の地域設定をする

テレビを観る前にデータ放送の地域を設定します。

1. Home(Home)アイコンを選択する。
2. **TV** を選択する。
3. 郵便番号(7 桁)を入力する。
4. **OK** を選択する。
5. お住まいの地域を選択する。
6. お住まいの県域を選択する。
7. **実行**を選択してホームスキャンを実行する。
▶ **キャンセル**を選択すると前の画面に戻ります。

テレビを観る

安全上の配慮から、テレビは停車してパーキングブレーキをかけているときだけご覧になることができます。走行中や、パーキングブレーキをかけずに停車しているときなどは、映像は映らずに音声だけがきこえます。

何か問題が起きた場合は、エラーメッセージが表示されます。

データ放送の地域設定をする

郵便番号は、天気予報などのデータ放送の内容に利用されます。

データ放送の地域設定は変更することができます。
➔ **テレビメニュー画面** P.249

次ページに続く

■操作画面

画面に触れると、テレビの操作画面が表示されます。



以下の項目を選択できます。

- **スキャン**：ユーザープリセットのためのスキャンをします。
- **番組表**：視聴中チャンネルの番組表を表示します。
  ▶ **前日**、**翌日**を選択し、それぞれの同時刻の番組を確認できます。
  ▶ **詳細**を選択し、番組内容の詳細を確認できます。
- **CH モード**：ホームプリセットとユーザープリセットを切り替えます。
- **d 操作**：操作パネルを表示します。
- **メニュー**：テレビ設定画面が表示されます。
  ➡ **テレビメニュー画面** P.249
- 選局アイコン：番号に割り当てられているチャンネルに切り替えます。

操作画面

番組表

- 番組表で放送局を変更するのと連動してテレビの受信する放送局も切り替わります。
- 放送局の表示順は、プリセットスイッチの番号順です。

d 操作

データ操作メニュー画面は十字キーおよび**決定**を選択して操作します。

- **戻る**を選択すると、視聴画面に戻ります。
- **移動**を選択すると、データ操作メニューの位置が左右の逆側に移動します。

ホームプリセット：地域設定情報からスキャンして登録したチャンネル
ユーザープリセット：移動先などでスキャンして登録したチャンネル

■テレビメニュー画面

テレビの操作画面から**メニュー**を選択する事でテレビメニュー画面が表示されます。

操作画面 P.248



以下の項目を選択できます。

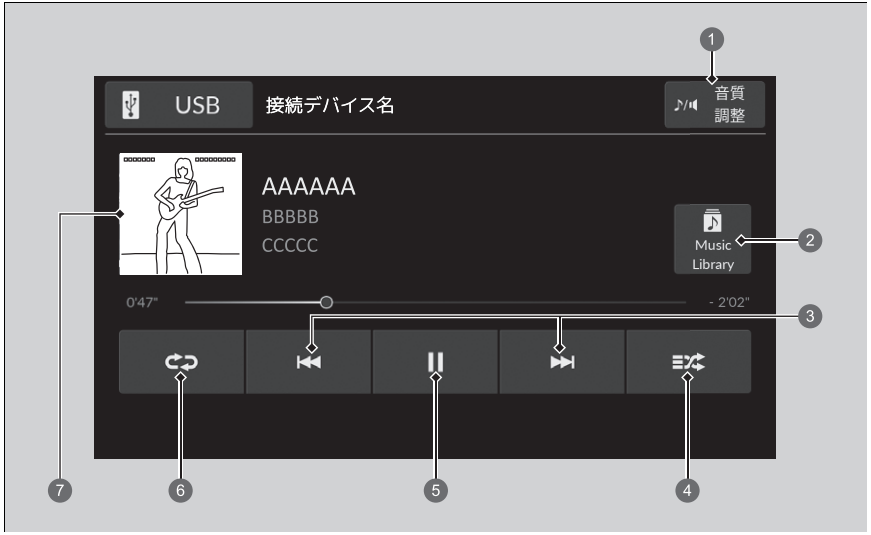
- **音質調整**：音質を調整します。
  音質を調整する P.239
- **画質調整**：画質を調整します。
- **表示モード**：映像の表示モードを変更します。
- **時計表示位置**：映像画面での時計の表示位置を右上、左上、右下、左下、非表示から選択します。
- **音声**：放送中の音声を切り替えます。
- **二重音声**：マルチチャンネル音声放送受信時に、音声を切り替えます。
- **字幕**：字幕を切り替えます。
- **文字スーパー**：文字スーパー受信時に、ユーザーにお知らせしたい内容を画面上に文字で表示します。

次ページに続く

- **受信モード**：受信モードを**自動切替**、**地上 D**、**ワンセグ**から切替えます。
- **オートサーチ**：受信レベルが低下した際のオートサーチの設定をします。
- **地域設定**：データ放送の地域を設定します。
- **県域設定**：データ放送の県域を設定します。
- **郵便番号設定**：データ放送の地域の郵便番号を設定します。
- **デバイス ID 表示**：デバイス ID を表示します。
- **ホームスキャン**：ホームプリセットのためのスキャンを実行します。
- **設定初期化**：テレビメニューの設定を初期値に戻します。

有線接続による音楽再生について

iPod や iPhone などのデバイスを USB ジャック( )に接続してから、**USB** アイコンを選択する。



❶ **音質調整**アイコン
❷ 楽曲検索アイコン
❸ 曲送り / 曲戻し、早送り / 早戻しアイコン
❹ シャッフルアイコン
❺ 再生 / 一時停止アイコン
❻ リピートアイコン
❼ カバーアート

有線接続による音楽再生について

- USBハブを使用してiPodやiPhoneなどのデバイスを接続しないでください。
- データ破損のおそれがあるため、ファイルのバックアップをお勧めします。
- 操作できる機能や表示されるメッセージは、iPodやiPhoneのモデルやソフトウェアのバージョンによって異なることがあります。

iPod や iPhone などのデバイスを接続しても認識されない場合は、再接続してください。

iPhone を Apple CarPlay で接続した場合、iPhone にある音楽ファイルは Apple CarPlay でのみ再生することができます。

次ページに続く

■音質調整

音質の調整ができます。

音質を調整する P.239

■再生モードの選択

再生モードを選択することができます。

■シャフル / リピート

：シャフルモードを解除します。

：選択されたリスト内にあるすべての曲を順不同で再生します。

：リピートモードを解除します。

：選択されたリスト内にあるすべての曲を繰り返して再生します。

：再生中の曲を繰り返して再生します。

■一時停止 / 再生

/ ：一時停止 / 再生することができます。

■曲の変更方法

|◀◀|/|▶▶|を選択して、曲を変更することができます。
長押しすることで、再生中の曲を早送り / 早戻しすることができます。

■曲を探す

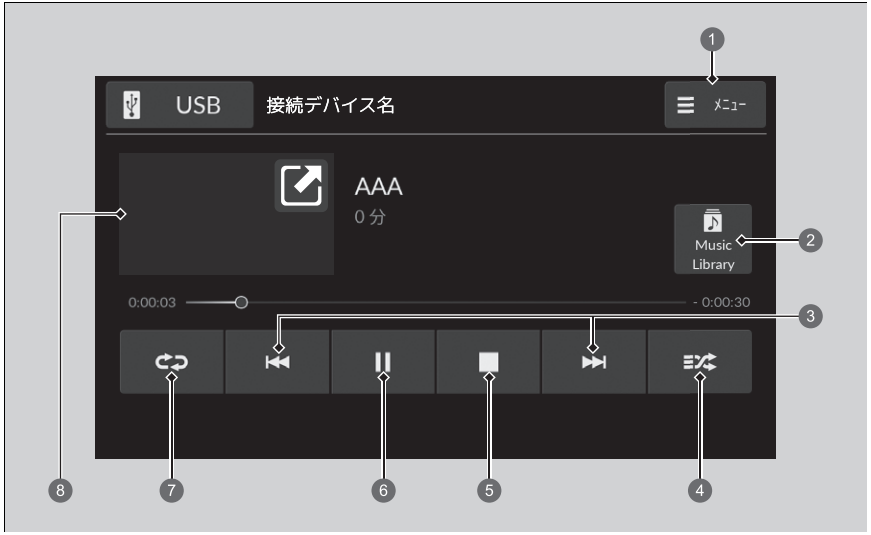
1. Music Library を選択する。
2. カテゴリを選択する。
3. 聴きたい曲を選択する。

≫曲を探す

再生曲一覧を選択して表示されるリストの順番は、iPod や iPhone などのデバイスのモデルやソフトウェアによって異なります。

USB デバイスによる音楽 / ビデオ再生について

USB デバイスを USB ジャック( )に接続してから、**USB** アイコンを選択してください。



❶ **音質調整**※1、**メニュー**※2 アイコン
❷ 楽曲検索アイコン
❸ 曲送り / 曲戻し※1、
早送り / 早戻し※2 アイコン
❹ シャッフルアイコン
❺ 停止アイコン※2
❻ 再生 / 一時停止アイコン
❼ リピートアイコン
❽ カバーアート※1、
ミニプレーヤー画面※2

※1：音楽再生時
※2：ビデオ再生時

USB デバイスによる音楽 / ビデオ再生について

推奨 USB デバイスを使用してください。
使用できる USB デバイス P.327

- USB ハブを使用して USB デバイスを接続しないでください。
- ハードディスクやカードリーダー、メモリーリーダーは機器およびデータが破損することがあるため、使用しないでください。
- データ破損のおそれがあるため、ファイルのバックアップをお勧めします。

USB デバイス内が複数のパーティションに分けられている場合は、先頭のパーティションのみ再生できます。

■メニュー(ビデオ再生時)

ビデオファイル再生時に設定を変更することができます。

1. **メニュー**を選択する。

2. 設定したい項目を選択する。

■音質調整(音楽再生時)

音質の調整ができます。

音質を調整する P.239

USB デバイスによる音楽 / ビデオ再生について

タイトル情報を取得できなかった場合は、フォルダ名とファイル名を表示します。アーティストは「不明なアーティスト」と表示します。

USB デバイス内の曲は、記録された順番で再生されます。再生される順番はパソコン上や USB デバイス上で見える順番と異なる場合があります。

次ページに続く

■再生モードの選択

再生モードを選択することができます。

■シャフル / リピート

：シャフルモードを解除します。
：選択されたリスト内にあるすべての曲 / ビデオを順不同で再生します。
：全フォルダのすべての曲 / ビデオを順不同で再生します。
：リピートモードを解除します。
：選択されたリスト内にあるすべての曲 / ビデオを繰り返して再生します。
：再生中の曲 / ビデオを繰り返して再生します。

■一時停止 / 再生

/ ：一時停止 / 再生することができます。

■停止

：ビデオの再生を停止することができます。

■ビデオの拡大 / 縮小

：ビデオ画面を拡大して表示します。
：ビデオ画面を縮小して表示します。

■曲 / ビデオの変更方法

/ を選択して、曲 / ビデオを変更することができます。
長押しすることで、再生中の曲 / ビデオを早送り / 早戻しすることができます。

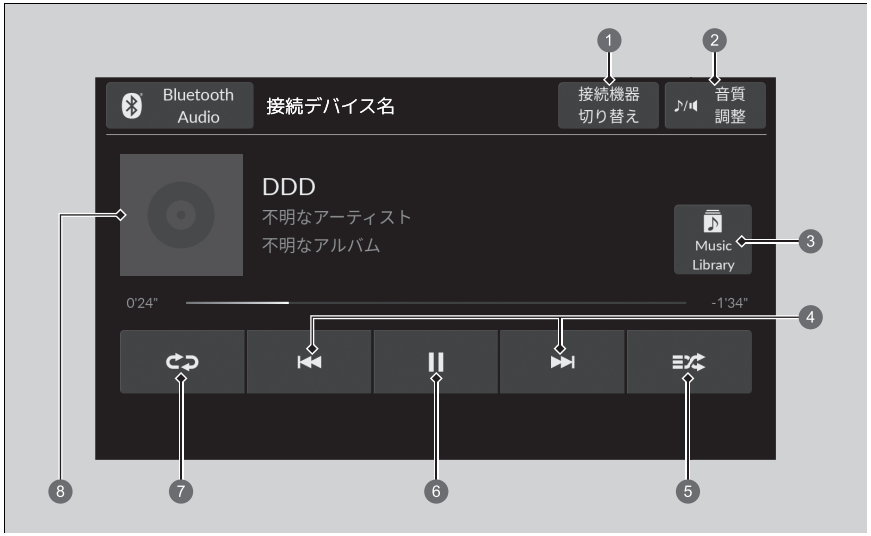
■曲 / ビデオを探す

1. Music Library を選択する。
2. カテゴリを選択する。
3. 聴きたい曲 / ビデオを選択する。

Bluetooth® オーディオを聴く

Bluetooth® に対応しているオーディオ機器を本システムに登録して、**Bluetooth Audio** アイコンを選択してください。
はじめて Bluetooth® オーディオを利用するときは、Bluetooth® 対応機器を本システムにペアリングする必要があります。

➡ **携帯電話の接続設定** P.313



❶ **接続機器切り替え**アイコン
❷ **音質調整**アイコン
❸ 楽曲検索アイコン
❹ 曲送り / 曲戻し、早送り / 早戻しアイコン
❺ シャッフルアイコン
❻ 再生、一時停止アイコン
❼ リピートアイコン
❽ カバーアート

Bluetooth® オーディオを聴く

Bluetooth® 対応機器の種類によっては、本システムでご利用になれない場合や、操作できる機能に制限がある場合があります。詳しくは、お使いの Bluetooth® 対応機器の取扱説明書をご覧ください。

アーティスト、アルバム、曲名が正常に表示されない場合があります。

デバイスにより、一部の機能が使用できない場合があります。

Apple CarPlay または Android Auto によって接続されたオーディオ機器は、Bluetooth® オーディオは利用できません。

Bluetooth® オーディオで一度に利用できる Bluetooth® 対応機器は 1 台までです。車内に 2 つ以上のペアリングされた Bluetooth® 対応機器がある場合、システムが最初に認識した Bluetooth® 対応機器が自動的に接続されます。

■オーディオ機器の変更

接続機器切り替えを選択することで、接続するオーディオ機器を変更することができます。

携帯電話を切り替える P.315

■音質調整

音質の調整ができます。

音質を調整する P.239

■再生モードの選択

再生モードを選択することができます。

■シャフル / リピート

：シャフルモードを解除します。

：選択されたリスト内にあるすべての曲を順不同で再生します。

：全フォルダのすべての曲を順不同で再生します。

：リピートモードを解除します。

：選択されたリスト内にあるすべての曲を繰り返して再生します。

：再生中の曲を繰り返して再生します。

■一時停止 / 再生

/ ：一時停止 / 再生することができます。

Bluetooth® オーディオを聴く

Bluetooth® オーディオ再生中に着信があった場合は、レフトセレクターホイールを上下に動かし、ヘッドアップディスプレイ画面で**通話**を選択して押すと応答できます。応答中は再生が一時停止し、電話を切ると再び再生が始まります。

電話を受ける P.324

オーディオファイルの再生には、Bluetooth® 対応機器の操作が必要な場合があります。Bluetooth® 対応機器の操作画面の指示に従って操作してください。

Bluetooth® 接続で使用する携帯電話は、6 台まで登録できます。

Bluetooth® 接続が認識されない場合は、Bluetooth® オーディオに対応していない他の Bluetooth® 対応機器がすでに接続されている可能性があります。

次ページに続く

■曲の変更方法

|◀◀|/|▶▶|を選択して、曲を変更することができます。
長押しすることで、再生中の曲を早送り / 早戻しすることができます。

■曲を探す

1. Music Library を選択する。
2. カテゴリを選択する。
3. 聴きたい曲を選択する。

Honda Total Care

Honda Total Care はドライブに役立つ便利な情報を提供しております。

■ Honda Total Care を使う

1. Home(Home)アイコンを選択する。
2. **Honda Total Care** を選択する。
3. 確認したい項目を選択する。

Honda Total Care

Honda Total Care のサービスについて：
2023 年 5 月時点の情報を基に作成しております。サービス内容ならびに仕様について予告なく変更・終了することがありますので、あらかじめご了承ください。

Honda Total Care 会員サイト / アプリ：
Honda Total Care が提供するパソコン向け、スマートフォン向けのサービスです。パソコンや、スマートフォンからルート計算したり車のメンテナンス状況を管理することができます。
Honda Total Care の詳細はホームページをご覧ください。
ホームページ URL：
https://www.honda.co.jp/hondatotalcare/

通信できない状況では使用できません。

走行中は安全のため操作できません。

Wi-Fi 接続

この車両は Wi-Fi の接続機能があります。外部の Wi-Fi スポットや通信機器とテザリングすることで様々なアプリケーションが使用できます。

Wi-Fi 接続

Wi-Fi® および Wi-Fi Direct® は Wi-Fi Alliance® の登録商標となります。

■ Wi-Fi スポットに車両を接続する

1. Home(Home)アイコンを選択する。
2. **本体設定**を選択する。
3. **接続**を選択する。
4. **Wi-Fi** を選択する。
▶ **オプション**を選択することで、Wi-Fi の設定を変更することができます。
設定 P.285
5. 接続したい Wi-Fi スポットを選択する。
6. **接続**を選択する。
▶ 接続が成功すると、リスト内のネットワーク名に**接続中**と表示されます。
7. Home(Home)アイコンを選択して、ホーム画面に戻る。

Wi-Fi スポットに車両を接続する

走行中は安全のため操作できません。Wi-Fi モードを設定する場合は、必ず安全な場所に停車してから行ってください。

一部の携帯電話会社では、テザリングやデータ使用による通信費がかかる場合があります。接続の前にデータプランなどの契約状況をご確認ください。

ご使用の携帯電話がテザリング可能かについては、携帯電話の取扱説明書をご確認ください。

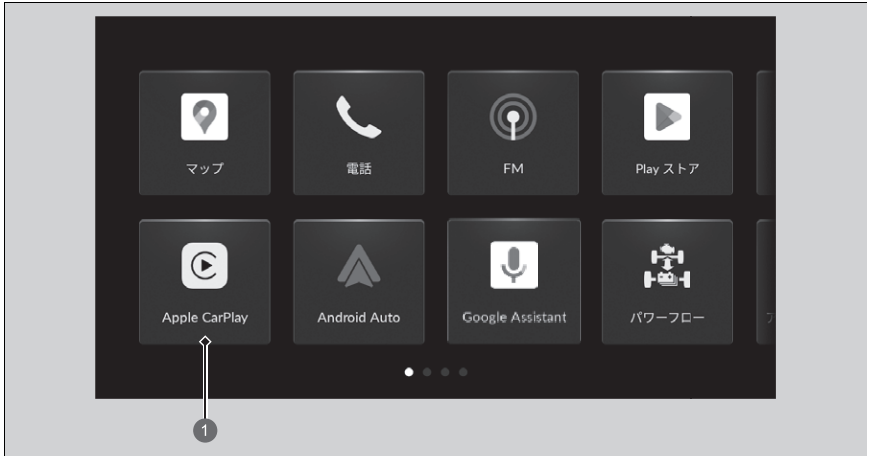
Wi-Fi 接続のオン / オフは、ステータスバーの で確認できます。通信速度などは、表示されません。

携帯電話との Wi-Fi 接続の場合は、携帯電話の Wi-Fi 設定がオンになっていることをご確認ください。

Access Point を選択すると、携帯電話から車両へのワイヤレス接続を設定できます。
設定 P.285

Apple CarPlay

Apple CarPlay に対応した iPhone を USB ジャック( )、またはワイヤレス接続し、**Apple CarPlay** アイコンを選択すると、本システムの画面で Apple CarPlay が使用できます。



❶ **Apple CarPlay** アイコン

Apple CarPlay

本システムにiPhoneを接続するときやApple CarPlayを起動するときは、必ず安全な場所に停車してから行ってください。

Apple CarPlay に接続されている場合、Bluetooth® オーディオ、またはハンズフリーテレホンを利用することはできません。通話や音楽再生は Apple CarPlay 経由でのみ可能です。ペアリング済みの他の携帯電話は Bluetooth® オーディオを利用できます。

Apple CarPlay 起動中は Siri でのみハンズフリー操作ができます。
Apple CarPlay Siri P.267

Apple CarPlay および Android Auto を同時に利用することはできません。

Apple CarPlayを使用する場合、iOSを最新のバージョンにしてご利用ください。
Apple CarPlay の機能について詳しくは、Apple のホームページをご覧ください。

オペレーティングシステム、ハードウェア、ソフトウェア、および Apple CarPlay の仕様変更や新たに定められた規制や規制の改定などにより、Apple CarPlay の機能とサービスは予告なく中止になることがあります。
Honda は、Apple から提供される Apple CarPlayの仕様や機能に対していかなる保証もできません。

■ Apple CarPlay メニュー

以下項目はあくまでも代表例です。画面上に表示するアプリについては、お使いの iPhone で変更することができます。

- **電話**：コンタクトリストから電話をかけたり、Voicemailを聴くことができます。
- **音楽**：接続した iPhone 内の音楽を再生できます。
- **メッセージ**：接続した iPhone に届いたテキストメッセージを音声読み上げで確認したり、返信したりすることができます。
- **マップ**：Appleのマップを表示して、接続したiPhoneと同様のナビゲーション機能を使用できます。
  本システムでは、複数のナビゲーション機能(Google アプリおよびサービスまたは Apple CarPlay)を同時に使用することはできません。ひとつのナビゲーション機能でルート案内中に別のナビゲーション機能で目的地を設定した場合、先に設定された目的地への案内は中止され、後から目的地を設定したナビゲーション機能での案内が開始されます。
- **Honda**：ホーム画面に戻ります。

Apple CarPlay

Apple CarPlay に対応しているアプリケーションも使用できます。対応しているアプリケーションについては、Apple のホームページをご覧ください。

Apple CarPlay を利用するには、モバイルデータ通信及びデータプランが付いている対応可能な iPhone が必要となります。キャリアの携帯料金プランが適用されます。

Apple CarPlay ご利用中は、車両からユーザ情報及び位置や速度などの車両情報が接続中の iPhone に送信されます。

Apple CarPlay をご利用いただいた場合は、Apple CarPlay 及び Apple iOS の利用規約に同意されたものとみなされます。

Apple CarPlay でのユーザ情報及び位置や速度などの車両情報の取り扱いに関する詳細は、Apple のプライバシーポリシーをご確認ください。

Honda は、Apple CarPlay をご利用いただいたことにより生じた損害について、一切の責任を負いません。

次ページに続く

■ Apple CarPlay 接続について

■USB で接続する

1. USB ケーブルを使って iPhone を USB ジャック( )に接続する。
▶ Apple CarPlay での機器使用確認画面が表示されます。
2. はいを選択する。
▶ 接続しない場合は、**いいえ**を選択する。

接続の設定メニューで許可設定を変更することができます。

■ワイヤレスで接続する

1. 本システムに iPhone を Bluetooth® 接続する。
携帯電話の接続設定 P.313
2. (Apple CarPlay)を選択する。
▶ Apple CarPlay 選択後に を選択すると Apple CarPlay としての接続が切れます。
3. はいを選択する。
▶ iPhone 上で Apple CarPlay の使用確認画面が表示された場合は、接続を承認してください。
4. OK を選択する。

Apple CarPlay 接続について

機器使用確認画面で選択した項目は、以下の手順で確認、変更ができます。
Home →本体設定→接続→接続機器一覧

Apple CarPlay によってお使いの iPhone から送受信されたユーザー情報と車両情報の使用および取り扱いは、Apple iOS の使用規約と Apple プライバシーポリシーによって管理されています。

iPhone の接続に問題が発生した場合にエラーコードを表示します。
設定 P.285

USB で接続する

接続には、Apple MFi 認定 Lightning コネクターを使用してください。

■ Apple CarPlay Siri

Apple CarPlay接続中に、iPhoneの音声アシスタント「Siri」をオーディオリモートコントロールスイッチの スイッチ長押しで利用することができます。
また、「Siri」起動後に スイッチを押すと「Siri」が解除されます。

Apple CarPlay Siri

Apple CarPlay Siri でできる機能について詳しくは Apple のホームページをご覧ください。

Android Auto™

Android Auto に対応した Android™ スマートフォンを USB ジャック( )またはワイヤレス接続し、**Android Auto**アイコンを選択すると、本システムの画面で Android Auto が使用できます。



❶ **Android Auto** アイコン

Android Auto™

Android および Android Auto は Google LCC. の商標です。

本システムに Android スマートフォンを接続するときやAndroid Autoを起動するときは、必ず安全な場所に停車してから行ってください。
なお、はじめて Android Auto を起動したときは、OS のバージョンにより画面にチュートリアルが表示されます。チュートリアルは安全な場所に停車して Android Auto を使用する前に完了することをおすすめします。

Android Auto 画面表示中にウェイクアップワードを使用する、または(発話)ボタンの長押しでGoogleアシスタントを起動すると、Android Auto の各機能が操作できます。
Android Auto の音声操作について P.271

Apple CarPlay および Android Auto を同時に利用することはできません。

Android Auto を使用する場合、Android スマートフォンの OS を最新のバージョンにしてご利用ください。
Android Auto の機能について詳しくは、Android Auto のホームページをご覧ください。

■ Android Auto メニュー

以下項目はあくまでも代表例です。画面上に表示するアプリについては、お使いのスマートフォンで変更することができます。

- **電話**：電話をかけたり、Voicemail を聴くことができます。
- **マップ**：Google マップを表示して、接続したスマートフォンと同様のナビゲーション機能を使用できます。走行中はキーボード入力による検索はできません。
  安全な場所に停車して入力してください。
  本システムでは、複数のナビゲーション機能(Google アプリおよびサービスまたは Android Auto)を同時に使用することはできません。ひとつのナビゲーション機能でルート案内中に別のナビゲーション機能で目的地を設定した場合、先に設定された目的地への案内は中止され、後から目的地を設定したナビゲーション機能での案内が開始されます。
- **Honda**：ホーム画面に戻ります。

Android Auto™

Google社によってAndroid Autoのサービスが開始されている国／地域にて使用可能です。詳細についてはGoogle社のサポートサイトをご確認ください。

Android Autoを利用するには、モバイルデータ通信及びデータプランが付いている対応可能な Android が必要となります。キャリアの携帯料金プランが適用されます。

Android Autoご利用中は、車両からユーザ情報及び位置や速度などの車両情報が Google 及びサービスプロバイダーと共有されます。
Android Auto をご利用いただいた場合は、Android Autoアプリケーションをダウンロードする際に表示される利用規約に同意されたものとみなされます。Android Auto によりアップロードされたユーザ情報及び位置や速度などの車両情報の取り扱いについての詳細は、Google のプライバシーポリシーをご確認ください。
Honda は、Android Auto をご利用いただいたことにより生じた損害について、一切の責任を負いません。

オペレーティングシステム、ハードウェア、ソフトウェア、および Android Auto の仕様変更や新たに定められた規制や規制の改定などにより、Android Autoの機能とサービスは予告なく中止になることがあります。Hondaは、Android Autoの仕様や機能に対していかなる保証もできません。

次ページに続く

■ Android Auto 接続について

■USB で接続する

1. USBケーブルを使ってAndroidスマートフォンをUSBジャック( )に接続する。

▶ Android Auto での機器使用確認画面が表示されます。

2. はいを選択する。

▶ 接続しない場合は、**いいえ**を選択する。

接続の設定メニューで許可設定を変更することができます。

■ワイヤレスで接続する

1. 本システムに Android スマートフォンを Bluetooth® 接続する。

携帯電話の接続設定 P.313

2. (Android Auto)を選択する。

▶ Android Auto選択後に を選択するとAndroid Autoとしての接続が切れます。

3. はいを選択する。

▶ Android スマートフォン上で Android Auto の使用確認画面が表示された場合は、接続を承認してください。

4. OK を選択する。

Android Auto 接続について

車両が安全な場所に停車しているときのみ、Android Autoの初回接続設定を実行します。初回接続時に、接続する Android スマートフォンが本システムとBluetooth® 接続のペアリング設定をしていない場合、自動的にBluetooth® 接続のペアリング設定が実行されます。

機器使用確認画面で選択した項目は、以下の手順で確認、変更ができます。

Home →本体設定→接続→接続機器一覧

ユーザー情報および車両情報の利用について Android Autoがお客様のスマートフォンと送受信するユーザー情報および車両情報の使用と取り扱いについては、Google のプライバシーポリシーが適用されます。

スマートフォンの接続に問題が発生した場合にエラーコードを表示します。

設定 P.285

■ Android Auto の音声操作について

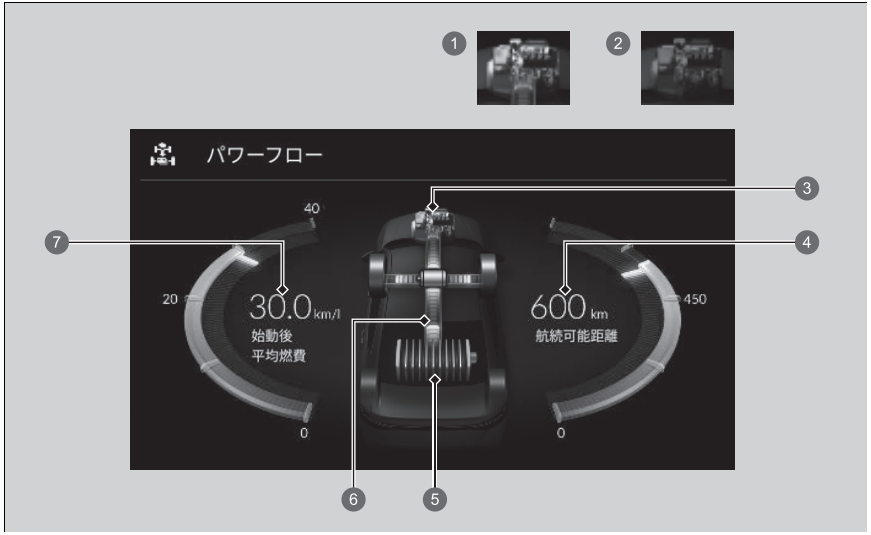
Android Auto接続中に、Androidの音声アシスタントをオーディオリモートコントロールスイッチの スイッチ長押しで利用することができます。
また、音声アシスタント起動後に スイッチを押すと音声アシスタントが解除されます。

Android Auto の音声操作について

Android Autoの音声操作でできる機能について詳しくは Android のホームページをご確認ください。

パワーフロー

バッテリーへの充電、平均燃費、航続可能距離、および車両へのアシスト状態を確認できます。



❶ エンジン作動中
❷ エンジン停止中
❸ エンジン作動表示
❹ 航続可能距離
❺ 高電圧バッテリー残量表示
❻ パワーフロー表示
❼ 平均燃費(現在の運転状況)

パワーフロー

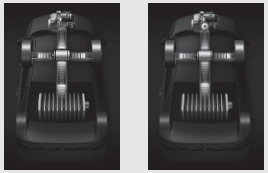
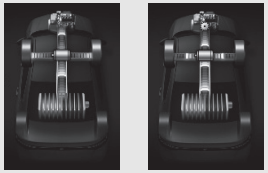
エンジンが直接的に車輪を駆動する際には、パワーフロー表示の画面内に⚙が表示されます。

マルチインフォメーションディスプレイにも表示されます。

マルチインフォメーションディスプレイ
P.106

■パワーフロー表示

パワーフローは状態により動力伝達を青、充電を緑で表示します。

表示	インジケーターの色	車両状態
	青	ハイブリット走行中 エンジン作動とモーターアシスト
	青	EV 走行中 モーターのみ作動
	青と緑	エンジン走行中 エンジン作動し、高電圧バッテリーへ充電中
	緑	アイドル充電中 エンジン作動し、高電圧バッテリーへ充電中

次ページに続く

表示	インジケーターの色	車両状態
	青	エンジンのみ作動
	緑	回生中 高電圧バッテリーへ充電中
	緑	回生中 エンジン作動し、高電圧バッテリーへ充電中
	緑	回生中 エンジン作動し、下り坂などで回生中

Google アプリおよびサービス

Google アプリおよびサービスを利用できます。



❶ Google アシスタント
❷ Google マップ
❸ Google Play

Google アプリおよびサービス

Google、Google Play、および Google マップは Google LLC の商標です。

Google のアプリとサービスの詳細については、Google ホームページをご覧ください。

また Honda のホームページで、Honda 車をご利用のお客様向けの動画や FAQ 等についてご確認いただけます。

ホームページ URL：
https://www.honda.co.jp/Googlebuilt-in/Japanese/

次ページに続く

■ Google アシスタント

Google アシスタントを使用することで、車両機能の操作や、電話、音楽再生などをハンズフリーで行うことができます。



下記の操作で、Google アシスタントを起動できます。

- 音声で起動する。
  ▶ 詳細については、Google のホームページをご覧ください。
- オーディオリモートコントロールスイッチの ボタンを押す。
- 画面で Google アシスタントのアイコンを選択する。

Google アシスタント

下記は Google アシスタントで使用できる音声コマンドの例です：

- シートヒーターをオンにして
- 音楽をかけて
- ラジオを再生して

詳細については、Google のホームページをご覧ください。

Google アシスタントに関する言語設定等の設定をカスタマイズできます。

設定 P.285

■ Google マップ

Google マップ搭載で、最適なルートを検索できます。



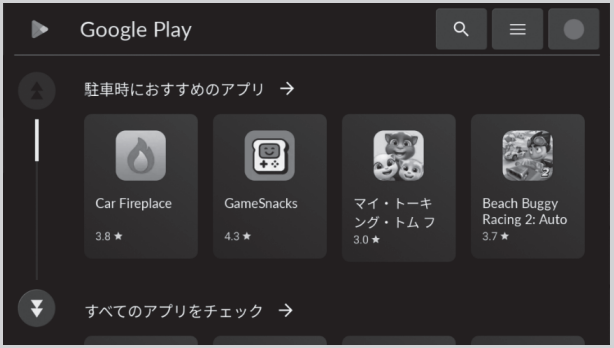
Google マップ

Google アカウントが有効なユーザーと連携している場合、他の端末に保存されている目的地(自宅、職場、お気に入り、過去の検索結果など)を表示することが可能です。端末と車両が同じGoogleアカウントにログインしている場合は、端末の情報を変更するとGoogleマップの情報も変更されます。

次ページに続く

■ Google Play

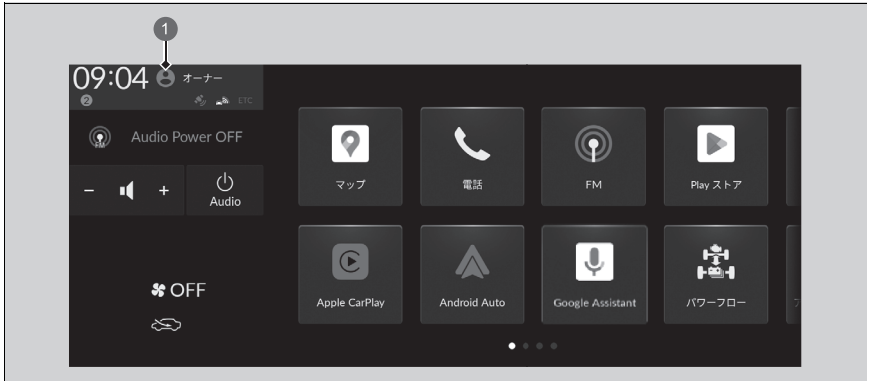
Google Play でお気に入りのアプリをダウンロードできます。



Google Play

アプリをダウンロードする前に、車両を停車する必要があります。
安全な場所に停車してから操作してください。

ユーザー情報



❶ ユーザー情報

ユーザーの追加や変更、ユーザー設定のカスタマイズが可能です。ユーザーを登録することで、車両の設定をお好みに合わせてカスタマイズすることができます。
ドアの開閉時やドアロック解除時のディスプレイオーディオ画面読み込み時にも、ユーザーを選択することができます。
ユーザーと Google アカウントを連携させることで、Google アカウントで設定した項目で車両の Google アプリおよびサービスを利用することができます。
アカウント連携の詳細については、Google のホームページをご覧ください。

ユーザー情報

運転中は利用できません。

各ユーザーの設定を個別でカスタマイズすることができます。
➔ **プロファイル設定** P.283

各ユーザー毎にセキュリティ設定が出来ます。セキュリティ設定を忘れた場合、ユーザーを削除してから、新しいユーザーを作成する必要があります。オーナーのセキュリティ設定を忘れた場合は、Honda 販売店へご連絡ください。

新規に作成したユーザーまたはゲストユーザーを利用する場合は、一部の機能が使用できません。

次ページに続く

■新規ユーザー登録



1. ユーザー情報を選択する。

▶**ユーザープロファイル→ユーザー切り替え**を選択した場合にも、新規ユーザーを作成できます。

▶ドアの開閉時やドアロック解除時のディスプレイオーディオ画面読み込み時にも、ユーザーを追加することができます。

2. プロファイルの変更を選択する。

3. ユーザーを追加を選択する。

4. ユーザー情報を入力する。

新規ユーザー登録 P.222

新規ユーザー登録

車両が停車した時のみにユーザーを追加することができます。

オーナーとゲストユーザーを除いて、最大4つのユーザーを作成できます。

ユーザーを追加した場合、追加したユーザーで本システムが起動します。

■ユーザー切り替えについて



1. ユーザー情報を選択する。

▶**ユーザープロファイル→ユーザー切り替え**を選択した場合にも、ユーザーを切り替えることができます。

▶ドアの開閉時やドアロック解除時のディスプレイオーディオ画面読み込み時にも、ユーザーを切り替えることができます。

2. **プロファイルの変更**を選択する。

3. お好みのユーザーを選択する。

次ページに続く

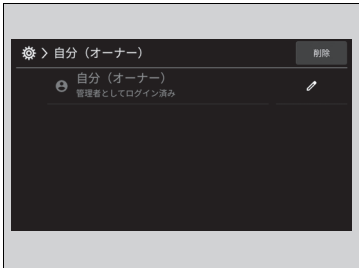
ユーザー切り替えについて

車両が停車した時のみにユーザーを切り替えることができます。

画面ロックを選択すると、セキュリティ設定済みのユーザーが画面動作を制限できます。

オーナーへの変更のタイミングでオーナーのキーの設定が切り替わらないことがあります。その際は一度別のユーザーに変更して、もう一度オーナーに設定してください。

■ユーザー削除について



1. **ユーザー編集**を選択する。
2. **プロファイルの管理**を選択する。
3. 自分のプロファイルを選択する。
4. **削除**を選択する。

ユーザー削除について

現在使用中のユーザーを削除した場合、本システムはゲストユーザーで起動します。

オーナーを使用中は、他のユーザーを**本体設定→ Advanced 設定→ユーザー**で削除することができます。

設定 P.285

OS のバージョンによっては、ユーザーを削除する手順がこのページの手順と異なる場合があります。 画面上の指示に従ってください。

プロファイル設定

各ユーザーの設定をカスタマイズすることができます。

■プロファイル設定のカスタマイズについて

Home(Home)アイコンを選択し、**ユーザープロファイル**を選択してから、お好みの項目を選択する。



❶ ユーザープロファイル

プロファイル設定

設定をカスタマイズする場合：

- 車両が停車していることを確認する
- シフトポジションを[P]にする
- パーキングブレーキをかける

カスタマイズ機能の詳細については、下記をご覧ください。

➔ **ユーザー切り替え** P.284
➔ **ユーザー編集** P.284
➔ **ドライビングポジション** P.284

次ページに続く

■ユーザー切り替え
ユーザーの切り替え、または追加をします。
➔ **ユーザー情報** P.279

■ユーザー編集
プロファイル設定を確認、変更します。詳細はディスプレイオーディオ画面でご確認ください。
システムアップデート等により仕様が変更になる場合があります。

■ドライビングポジション
シート位置を調節してメモリーボタン(1 または 2)を押すと、ユーザーごとに最大 2 つのドライビングポジションを保存または呼び出すことができます。
シート位置の調節方法は、以下をご覧ください。
➔ **シートの調節** P.182

設定

本システムを使って一部の機能をカスタマイズすることができます。

■本体設定

本体設定を選択し、お好みの設定項目を選択してください。



設定

設定をカスタマイズする場合：

- 車両が停車していることを確認する
- シフトポジションを[P]にする

次ページに続く

■本体設定一覧

■システム

設定項目			概要	設定値
日付と時刻	日付・時刻設定	自動日付時刻設定	日付と時刻の設定方法を選択します。	手動 / 自動※
		日付設定	表示日付(年、月、日)を手動で調整します。 ➡ 時計の時刻を合わせる P.133	—
		時刻設定	表示時刻(時、分)を手動で調整します。 ➡ 時計の時刻を合わせる P.133	—
	日付表示		日付の表示形式を選択します。	週 , 月 , 日 , 年 / 年 . 月 . 日 週 / 年 . 月 . 日(週)※/ 週 日 . 月 . 年 / 日 . 月 . 年
	時刻表示		時刻の表示形式を選択します。	12H※/24H
タッチパネル感度			タッチパネルの感度を選択します。	低※/ 高

※：初期値

設定項目		概要	設定値
アップリンク設定		ETC 2.0 走行経路情報を道路側へアップリンクします。	**オフ** / **オン**※
情報	**IP アドレス**	Android 設定項目を表示します。	—
	Wi-Fi MAC アドレス		
	Bluetooth MAC アドレス		
	シリアル番号		
	稼働時間		
	Model Number		
	Android Version		
	Kernel Version		
	Build Number		
	ソフトウェアバージョン		
	規制ラベル	技適マーク / 認可番号を表示します	—
初期化		明るさ、コントラスト、黒の濃さ等すべての設定を工場出荷状態の設定値に戻します。➔ **初期化** P.311	—

※：初期値

次ページに続く

■接続

設定項目			概要	設定値
接続機器一覧	**オプション**	**Bluetooth**	Bluetooth 接続のオン / オフを切り替えます。	**オフ** / **オン**※
		優先接続機器	Bluetooth 接続を優先する機器の確認ができます。	—
		名称を変更	本システムの名称を変更します。	—
		スマートフォン接続機能の表示サイズ	スクリーンサイズを変更できます。	**ノーマル** / **ワイド**※
		スマートフォン接続機能のエラーコード	スマートフォンプロジェクションのエラーコードを表示します。	—
	＋新しい機器を接続する		Bluetooth を使用する新しい機器を接続します。 ➔ **携帯電話の接続設定** P.313	—
	（登録機器）		登録された機器を接続、解除、削除します。 ➔ **携帯電話の接続設定** P.313	—
Wi-Fi	**オプション**	**Wi-Fi**	機器に Wi-Fi 接続を許可します。	**オフ** / **オン**※
		他のネットワークを選択する	Wi-Fi 接続する新しいネットワークを保存します。	—
		保存済みネットワーク	保存済みのネットワークを表示します。	—

※：初期値

設定項目			概要	設定値
Access Point	オプション	Access Point	携帯電話から車両へのワイヤレス接続のオン/オフを切り替えます。 ワイヤレス Apple CarPlay が動作するには、この機能をオンにする必要があります。	**オフ**※/ **オン**
		Access Point 設定編集	アクセスポイントの設定を確認、編集をします。	—
データ通信設定	Wi-Fi 設定		Wi-Fi 設定画面を表示します。 **Wi-Fi スポットに車両を接続する** P.263	—

※：初期値

■プライバシー

設定項目		概要	設定値
フローティングカー情報提供		位置情報を利用するサービスの設定ができます。	しない / する※
マイク		マイクの On/Off を切り替えます。緊急通報はこの設定に依らず利用できます。	—
位置情報		各機能のデータ共有権限を設定します。	
アプリの権限			
権限一括設定			
インフォテインメント データ			
Google とのデータの共有※1			
広告			
Google 利用規約※1	Google 利用規約※1	Google の URL を表示します。	—
	Google プライバシーポリシー※1		

※：初期値

※1：詳細は、ディスプレイオーディオ画面でご確認ください。また、システムアップデート等により仕様が変更になる場合があります。

■画面

設定項目	概要	設定値
明るさ	明るさを調整します。	—
コントラスト	コントラストを調整します。	—
黒の濃さ	黒の濃さを調整します。	—
初期化	画質調整の設定を初期値に戻します。	—
画面オフ	画面表示を消します。	—

■音質調整

設定項目		概要	設定値
Bass / Mid / Treble	Treble	音質を調整します。また、車速に応じて音量を自動的に調整する設定を行います。 ➡ **音質を調整する** P.239	—
	Midrange		
	Bass		
Bose Centerpoint Surround			
オーディオゾーン、Balance / Fader			
Bose Dynamic Speed Compensation			

次ページに続く

■音量設定

設定項目	概要	設定値
操作・通知	操作音や通知音の音量を調整します。	0/1/2※/3
読み上げ	読み上げ音量を調整します。	1 ～ 2※ ～ 11
ナビ音声案内	ナビ音声案内の音量を調整します。	0 ～ 6※ ～ 11
通話	通話の音量を調整します。	0 ～ 20※ ～ 40
初期化	音量設定を初期値に戻します。	—

※：初期値

■カメラ

設定項目			概要	設定値
マルチビューカメラ	**ガイド線**	**目安ガイド線表示**	ハンドル操作に連動しないガイド線を表示します。 ➡ **マルチビューカメラシステム** P.574	**しない** / **する** ※
		予測ガイド線表示	ハンドル操作に連動したガイド線を表示します。 ➡ **マルチビューカメラシステム** P.574	**しない** / **する** ※
	カスタマイズ	**後退から前進時のカメラ映像自動表示**	リアカメラの映像を表示しているときにシフトポジションを[D]にするとフロントカメラの映像を表示します。	**しない** ※/ **する**
		障害物検知時のカメラ映像自動表示	障害物を検知したときにカメラの映像を自動表示します。	**しない** / **する** ※
前方交差車両接近警告			前部カメラ画像に矢印を表示して、車両が前方側面から近づいてくることを示します。 ➡ **前方交差車両警報** P.409	**しない** / **する** ※
後退出庫サポート			後部カメラ画像に矢印を表示して、車両が側面から近づいてくることを示します。 ➡ **後退出庫サポート** P.570	**しない** / **する** ※

※：初期値

次ページに続く

■音声認識

設定項目	概要	設定値
アシスタントアプリ設定	アシスタントアプリを選択します。	**なし** /**Google Assistant**※
"Hey Siri" で起動※1	"Hey Siri" と話しかけたときにSiriを起動する設定を変更します。	**オフ** / **オン**※
Google Assistant	Google アシスタントの機能を設定します。	—

※：初期値
※1 ：iPhone 接続時に選択出来ます。

■セキュリティ
セキュリティに関する設定をします。詳細は、ディスプレイオーディオ画面をご覧ください。
システムアップデートなどにより仕様が変更になる場合があります。

■Google
Google に関する設定をします。詳細は、ディスプレイオーディオ画面をご覧ください。
システムアップデートなどにより仕様が変更になる場合があります。

■Advanced 設定
各種項目を設定します。詳細は、ディスプレイオーディオ画面をご覧ください。
システムアップデートなどにより仕様が変更になる場合があります。

■車両設定

車両設定を選択し、お好みの設定項目を選択してください。



❶ 3D イメージ
❷ **ビュー切替**を選択
❸ **ビュー切替**、もしくは 3D イメージを選択

車両設定

メニューを選択すると、3Dイメージのボディーカラーを変更できます。

➡ **ボディーカラー設定** P.304

次ページに続く

■車両設定一覧

■ドライバー注意力モニター設定*

設定項目	概要	設定値
運転者眠気警報設定	運転者眠気警報の ON/OFF を選択します。	ON※/OFF
運転者脇見警報設定	運転者脇見警報の ON/OFF を選択します。 ハンズオフ機能付高度車線内運転支援機能の作動中は常時 ON となります。 ➡ ハンズオフ機能付高度車線内運転支援機能 P.512	ON※/OFF

※：初期値

■運転支援システム設定

設定項目	概要	設定値
衝突軽減ブレーキ(CMBS)警報距離	衝突軽減ブレーキ(CMBS)の警報距離の設定を変更します。 ➡ 衝突軽減ブレーキ(CMBS) P.384	遠め / 標準※/ 近め
ヘッドアップワーニング	衝突軽減ブレーキシステムの作動に連動して警報するヘッドアップワーニング機能の設定を変更します。	ON※/OFF
前方交差車両警報ヘッドアップディスプレイ	前方交差車両警報が作動した際のヘッドアップディスプレイへの警報表示を変更します。 ➡ 前方交差車両警報 P.409	ON※/OFF
ACC カーブ旋回車速	ACC 作動中のカーブ旋回車速を調整します。 ➡ 渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC) P.456	低速 / 中速※/ 高速 / 減速なし

※：初期値

*：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

設定項目	概要	設定値
ACC 先行車検知音	ACC作動中に先行車を検知したときや、しなくなったときのブザー音の設定を変更します。 ➡ **渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)** P.456	**ON**/**OFF**※
先行車発進お知らせ設定	先行車発進お知らせ機能のタイミングの設定を変更します。 ➡ **先行車発進お知らせ機能** P.530	**標準**※/ **早め** /**OFF**
路外逸脱抑制機能設定	路外逸脱抑制システムのステアリング支援タイミングの設定を変更します。 ➡ **路外逸脱抑制機能** P.421	**アシストタイミング　早め** / **アシストタイミング　標準**※/ **アシストタイミング　遅め** / **操舵アシストなし　警報のみ**
LKAS(車線維持支援システム)制御解除警報音	レーンキープアシストシステムのアシスト解除をお知らせするブザー音のON/OFFを設定します。 ➡ **車線維持支援システム(LKAS)** P.489	**ON**/**OFF**※
高度車線内運転支援機能*	高度車線内運転支援機能の設定を変更します。	**OFF**、**ハンズオン支援**、 **ハンズオン支援 / ハンズオフ支援**※
高度車線内運転支援機能 モード遷移通知音*	高度車線内運転支援機能のモード遷移時の通知音の設定を変更します。	**ON**※/**OFF**
車線変更支援機能*	車線変更支援機能の設定を変更します。 ➡ **車線変更支援機能** P.522	**ON**※/**OFF**
車線変更支援機能*	車線変更支援機能の設定を変更します。 ➡ **レコメンド型車線変更支援機能** P.515 ➡ **車線変更支援機能** P.522	**OFF**、**車線変更支援機能**、 **車線変更支援機能** / **レコメンド型車線変更支援機能**※
経路誘導開始レコメンド機能*	経路誘導による車線変更支援機能のレコメンド機能の通知タイミングを変更します。	**早め** / **標準**※/ **遅め** /**OFF**

※：初期値

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

次ページに続く

設定項目	概要	設定値
前方車両追越しレコメンド機能*	前方車両追越し時の車線変更支援機能のレコメンド機能の通知設定を変更します。	**ON**※/**OFF**
後方車両接近レコメンド機能*	後方車両接近時の車線変更支援機能のレコメンド機能の通知設定を変更します。	**ON**※/**OFF**
車線変更時衝突抑制	車線変更時衝突抑制システムの設定を変更します。 ➔ **車線変更時衝突抑制機能** P.438	**操舵アシスト**/**警報音**/**警報表示**※、**警報音** / **警報表示**、**警報表示**
降車時車両接近警報*	接近車両を検知中にドアを開けた場合の警報の設定を変更します。 ➔ **降車時車両接近警報** P.446	**警報音** / **警報表示**※、**警報表示**
標識認識機能表示	標識認識機能の表示を設定します。 ➔ **標識認識機能** P.534	**ON**※/**OFF**
標識認識機能速度超過お知らせ	速度超過お知らせ機能の設定をします。 ➔ **標識認識機能** P.534	**ON**※/**OFF**
標識認識機能速度超過量	速度超過お知らせを開始する速度超過量を変更します。 ➔ **標識認識機能** P.534	**+0km/h**※、**+5km/h**、**+10km/h**、**+15km/h**
ドライバー注意力モニター*	ドライバー注意力モニターの警報タイプを変更します。 ➔ **ドライバー注意力モニター** P.450	**ステアリング振動と警報音**※/**ステアリング振動** /**OFF**
駐車完了時の自動パーキングブレーキ	Honda パーキングパイロットで駐車が完了したときのパーキングブレーキ自動作動の設定を変更します。 ➔ **Honda パーキングパイロット** P.587	**ON**※/**OFF**

※：初期値

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

設定項目	概要	設定値
駐車位置発見時のお知らせブザー	Hondaパーキングパイロットで駐車位置を発見したときのお知らせブザー音の設定を変更します。 ➡ **Honda パーキングパイロット** P.587	**ON**※/**OFF**
リアパーキングセンサー警報設定	ソナーセンサーを使ったシステムの後退時動作の設定を変更します。 ➡ **パーキングセンサーシステム** P.565	**ON**※/**OFF**

※：初期値

■メーター/ ヘッドアップディスプレイ設定

設定項目	概要	設定値
外気温表示補正	メーター内のディスプレイに表示する外気温の表示温度を微調整します。 ➡ **外気温表示** P.104	**-3℃**～ **±0℃**※ ～ **+3℃**
TRIP A 自動リセットタイミング	TRIP A をリセットする条件を変更します。 ➡ **航続距離 / 燃費 / オドメーター/ トリップメーター** P.110 ➡ **車速 / 経過時間 / オドメーター/ トリップメーター** P.113	**満タン給油時** /**IGN OFF 時** / **手動のみ**※
TRIP B 自動リセットタイミング	TRIP B をリセットする条件を変更します。 ➡ **航続距離 / 燃費 / オドメーター/ トリップメーター** P.110 ➡ **車速 / 経過時間 / オドメーター/ トリップメーター** P.113	**満タン給油時** /**IGN OFF 時** / **手動のみ**※

※：初期値

次ページに続く

設定項目	概要	設定値
アラーム音量	システム警告音やターンシグナルの音などの音量を変更します。	**大** / **中**※/ **小**
アンビエントメーター照明色変化設定	アンビエントメーター照明色変化設定の変更をします。	**ON**※/**OFF**
交差点案内表示	ルート案内時にメーター内のディスプレイまたはヘッドアップディスプレイに表示する矢印案内の割り込み設定を変更します。 ➡ **交差点案内表示** P.127 ➡ **コンパス / 交差点案内表示** P.115	**ON**※/**OFF**
リアシートリマインダー	後席に荷物などが残っている可能性があるときに通知する機能の設定を変更します。	**ON**※/**OFF**

※：初期値

■ドライビングポジション設定

設定項目	概要	設定値
メモリーシート連動	Hondaスマートキーで解錠してパワーモードをアクセサリーモードにした際に、記憶したシート位置に自動調整される機能を設定します。	**ON**※/**OFF**
シートスライド自動乗降モード	POWER モードが OFF の状態でドアを開けた際に、運転席が自動で後ろに下がる機能を設定します。	**ON**※/**OFF**

※：初期値

■Honda スマートキーシステム設定

設定項目	概要	設定値
アンサーバックブザー音量	ロックボタン、ドアハンドルを操作してドアの施錠 / 開錠をしたときのアンサーバックブザー音量を変更します。	大※/ 小
ドアハンドル操作アンサーバックライト	ドアハンドル操作アンサーバックライトの ON/OFF を設定します。	ON※/OFF
ドアハンドル操作アンサーバックブザー	ロックボタン、ドアハンドルを操作してドアの施錠 / 開錠をしたときのアンサーバックブザーの有無を変更します。	ON※/OFF

※：初期値

■ライティング設定

設定項目	概要	設定値
アダプティブドライビングビーム	アダプティブドライビングビームの ON/OFF を設定します。	ON※/OFF
インテリアライト点灯時間	ドアを閉めた後に、室内照明が自動で消灯するまでの点灯継続時間を変更します。 ➡ 室内灯 P.192	60 秒 /30 秒※/15 秒
デイタイムランニングライト	デイタイムランニングライトの点灯、消灯の設定を変更します。 ➡ デイタイムランニングライト P.166	ON※/OFF
ワンタッチターンシグナル	レバーを軽く押し下げ / 押し上げて離すと、方向指示器と方向指示器表示灯が 3 回点滅する機能の設定を変更します。	ON※/OFF

※：初期値

次ページに続く

■ドア設定

設定項目	概要	設定値
自動ドアロック連動機能	自動でドアを施錠する機能の連動設定を変更します。	**車速連動**※/ **シフト連動** / **非連動**
自動ドアアンロック連動機能	自動でドアを解錠する機能の連動設定を変更します。	**シフト連動**※/**IGN OFF 連動** / **非連動**
降車時オートドアロック	降車時オートドアロックの設定を変更します。	**ON**/**OFF**※
キーレスアンサーバック	キーレスエントリー使用時のアンサーバックライトの点滅、2 回連続施錠操作した時のアンサーバックブザーの設定を変更します。 ➡ **キーレスエントリーシステムでの施錠 / 解錠** P.143	**ON**※/**OFF**
オートリトラミラー格納	オートリトラミラー格納の設定を変更します。	**ON**※/**OFF**
パワーウィンドウ(サンルーフ)キーレス連動	スマートキーの操作で窓の開け閉めを行う機能の設定を変更します。	**ON**※/**OFF**
予約ロック	予約ロックの ON/OFF を設定します。	**ON**※/**OFF**

※：初期値

■エアコン設定

設定項目	概要	設定値
運転席シート空調連動	運転席シートの温度調節をオートエアコンと連動する設定を変更します。	ON※/OFF
助手席シート空調連動	助手席シートの温度調節をオートエアコンと連動する設定を変更します。	ON※/OFF

※：初期値

■INDIVIDUAL 設定

設定項目	概要	設定値
パワートレイン	パワートレインの加速の応答性設定を変更します。 ➔ INDIVIDUAL 設定のカスタマイズ P.365	ECON/NORMAL※/SPORT
ステアリング	ステアリング操作の応答性設定を変更します。 ➔ INDIVIDUAL 設定のカスタマイズ P.365	COMFORT/NORMAL※/SPORT
サスペンション	サスペンションの応答性設定を変更します。 ➔ INDIVIDUAL 設定のカスタマイズ P.365	COMFORT/NORMAL※/SPORT
ACC	ACC の応答性設定を変更します。 ➔ INDIVIDUAL 設定のカスタマイズ P.365	ECON/NORMAL※
メーター	メーターの表示設定を変更します。 ➔ INDIVIDUAL 設定のカスタマイズ P.365	NORMAL※/SPORT

※：初期値

次ページに続く

■ボディーカラー設定

車両設定画面の 3D イメージのボディーカラーを変更することができます。



❶ ボディーカラー

1. メニューを選択する。
2. ボディーカラーを選択する。
3. お好みのボディーカラーを選択する。

■アンビエントライト

アンビエントライトをお好みに合わせて変更することができます。



1. Home(Home)アイコンを選択する。
2. **アンビエントライト**を選択する。
3. お好みのアンビエントライトの設定を選択する。

アンビエントライト

Recommend COLOR モード：
チェックボックスで選択した色をテーマとして使用します。アンビエントライティングを自動調整します。車内環境やドライバーの状態など、さまざまな要素から自動調整します。

Theme COLOR モード：
選択した画像の色をもとにアンビエント照明を変更します。

エクスペリエンスセレクションダイヤルを設定する

エクスペリエンスセレクションダイヤルを使用すると、オーディオ、アンビエントライト、またはエアコンの設定を保存することができたり、保存した設定を選択することで、以前に保存した設定を使用することができます。
エクスペリエンスセレクションダイヤルの使用方法については、下記をご覧ください。

➔ **エクスペリエンスセレクションダイヤルの操作方法** P.217

■エクスペリエンスセレクション設定



ダイヤル上の設定アイコンを選択するか、**ホーム→エクスペリエンスセレクション**を選択すると、各設定項目の詳細を表示したり、設定を変更したりすることができます。
また、**並べ替え**を選択すると、ダイヤルに表示されているアイコンを並べ替えることができます。
設定項目の詳細については、下記をご覧ください。
➔ **エクスペリエンスセレクション設定** P.308

エクスペリエンスセレクション設定

ヒントを選択すると、使いかたが表示されます。

チェックボックスにチェックを入れると、ディスプレイオーディオ画面にダイヤルを表示することができます。

次ページに続く

■エクスペリエンスセレクション設定

設定項目	概要	設定値
時計	時計の背景や表示スタイルを設定できます。 ➡ **時計の種類と背景の設定** P.238	—
おすすめ AUTO	オートエアコン作動時にダイヤルに自動表示するかを切り替えます。	**オフ** / **オン**※
すずしめ AUTO	**すずしめ AUTO** の説明を表示します。	—
あたたかめ AUTO	**あたたかめ AUTO** の説明を表示します。	—
急速冷房	**急速冷房**作動時にダイヤルに自動表示するかを切り替えます。	**オフ** / **オン**※
ON/OFF	エアコン **ON/OFF** の説明を表示します。	—
急速霜取	**急速霜取**作動時にダイヤルに自動表示するかを切り替えます。	**オフ** / **オン**※
設定	**エクスペリエンスセレクション設定**の画面を表示します。	—
新規登録	オーディオ、アンビエントライト、エアコンの設定を新たに登録できます。 ➡ **項目の設定と保存方法** P.309	—

※：初期値

■項目の設定と保存方法



1. ダイヤルを使って、**新規登録**を選択します。

▶ Home(Home)アイコン→**エクスペリエンスセレクション**→を選択しても、現在設定されている値を保存できます。

▶ エクスペリエンスセレクションダイヤルを長押しすると、現在の設定値を上書きすることができます。

2. **保存**を選択して、設定を保存します。

▶ **車両状態**を選択すると、**プリセット**または**車両状態**を選択することができます。

再生ソース、音量、アンビエントライト、エアコンの設定値は、それぞれの設定から個別に設定する必要があります。

アンビエントライト P.305

オートエアコンの使いかた P.210

項目の設定と保存方法

最大 8 項目まで登録ができます。

ヒントを選択すると、使いかたが表示されます。

車両状態を選択すると、現在の設定が表示されます。**プリセット**を選択すると、以前ダイヤルに保存した設定が表示されます。

次ページに続く

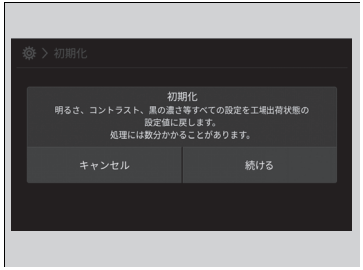
▶ チェックボックスにチェックを入れることで、保存する設定を選択することができます。
▶ を選択すると、さまざまなアイコンが表示されます。
お好みのアイコンを選択し、Back(Back)アイコンを選択すると変更内容が保存されます。
▶ **削除**を選択すると、保存したセットを削除することができます。

初期化

全てのメニュー・設定を、工場出荷時の状態に戻します。

オーナーのみ初期化を実行することができます。
オーナーでない場合は、オーナーへユーザーを切り替えてください。
ユーザー切り替えについて P.281

■本体設定の初期化について



1. Home(Home)アイコンを選択する。
2. **本体設定**を選択する。
3. **システム**を選択する。
4. **初期化**を選択する。
   ▶ 確認メッセージが表示されます。
5. **続ける**を選択する。
6. **する**を選択すると、設定がリセットされます。
   ▶ システムが再起動します。

初期化

お車を譲渡される際などは、全ての設定を工場出荷状態に戻して、個人情報を削除してください。

初期化を実行すると、プリインストールアプリが工場出荷時の状態に戻されます。

次ページに続く

■車両設定の初期化について



1. Home(Home)アイコンを選択する。
2. 車両設定を選択する。
3. メニューを選択する。
4. 初期化設定を選択する。
5. はいを選択する。

ハンズフリーテレホンについて

ハンズフリーテレホンは、携帯電話を操作することなく本システムで電話の発着信ができます。

■携帯電話の接続設定

■Bluetooth® 接続をする

Bluetooth® 機能の **ON**/**OFF** を切り替えます。

1. Home(Home)アイコンを選択する。
2. 本体設定を選択する。
3. 接続を選択する。
4. 接続機器一覧を選択する。
5. オプションを選択する。
6. Bluetooth を **ON** にする。

ハンズフリーテレホンについて

システムを利用するには、Bluetooth® 設定を ON にする必要があります。

ハンズフリーテレホン同士の通話、騒音の大きい環境下での通話など、使用条件によっては通話しづらい場合があります。また、話しかたによっては相手先に声が伝わりにくい場合や、相手の声がきこえにくい場合があります。

Bluetooth® 接続が完了すると、B-Zone の上部に携帯電話の状態を表す以下のアイコンが表示されます。
: Bluetooth® 接続中
: 電話回線の接続状況
: 携帯電話の電池残量

ハンズフリーテレホンに着信があれば、再生中の再生ソースが中断されます。通話が終わった場合、再生が再開されます。

走行中は一部の機能は操作できません。停車するまで、グレーアウトされた項目を選択することはできません。

走行中に音声コマンドで呼び出せるのは、あらかじめ登録されている電話帳の名前または番号のみです。

次ページに続く

■携帯電話をペアリングする

1. Home(Home)アイコンを選択する。
2. **電話**を選択する。
3. **新しい機器の接続**を選択する。
▶ すでに携帯電話をペアリング済みの場合は、登録済み機器の検索を選択します。
携帯電話を切り替える P.315
4. 携帯電話側を検索または検出可能モードに設定してから、**機器の検索**を選択する。
▶ ハンズフリーテレホンが自動的に Bluetooth® デバイスを探します。
5. リストに表示された、携帯電話のデバイス名を選択する。
▶ 携帯電話のデバイス名が表示されない場合、携帯電話側からBluetooth®デバイス(車両名)を探してください。
6. ディスプレイオーディオ画面上と携帯電話上で表示されるペアリングコードが同じであることを確認する。
7. 携帯電話側でペアリングの許可をする。

ハンズフリーテレホンについて

接続機器一覧に1つまたは複数のアイコンが表示されます。
これらのアイコンは、次のことを表しています。
: Bluetooth®オーディオとハンズフリーテレホンに対応しています。
: Apple CarPlay に対応しています。
: Android Auto に対応しています。

携帯電話をペアリングする

ペアリングのポイント：
- 走行中はペアリングの操作はできません。
- 接続中は、携帯電話の電池の消耗が早まることがあります。
- Bluetooth® 接続で使用する携帯電話は、6台まで登録できます。

1度ペアリングをした携帯電話は、これ以降自動的に Bluetooth® 接続が行われます。
接続を一時的に解除したい場合は、本システムの Bluetooth® をオフにします。

■携帯電話を切り替える

複数の携帯電話を登録している場合、接続機器の切り替えができます。

1. Home(Home)アイコンを選択する。

2. **電話**を選択する。

3. **接続機器切り替え**を選択する。

4. 接続する携帯電話のBまたは、Cを選択する。

▶ Bを選択するとBluetooth®オーディオとハンズフリーテレホンが接続されます。
Cを選択すると、Bは選択できません。

▶ 携帯電話の優先接続を設定できます。優先する携帯電話の優先接続のチェックボックスにチェックを入れてください。

▶ 選択した携帯電話の接続が完了します。接続が完了するまでに時間がかかることがあります。

5. **適用**を選択する。

携帯電話を切り替える

本体設定からも操作できます。Home(Home)アイコンを選択し、**本体設定→接続→接続機器一覧**の順に選択します。

切り替え先の携帯電話が見つからなかった場合、元の携帯電話が再度接続されます。

接続中の携帯電話を選択し、**切断**を選択すると、接続が切断されます。

次ページに続く

■登録した携帯電話の削除

1. Home(Home)アイコンを選択する。
2. **電話**を選択する。
3. **設定**を選択する。
4. **接続機器切り替え**を選択する。
5. 削除する携帯電話を選択する。
6. **機器削除**を選択する。
▶ 確認画面が表示されます。
7. **削除**を選択する。

■ハンズフリーテレホン画面

携帯電話を接続して**電話**を選択すると、ハンズフリーテレホン画面が表示されます。



❶ 接続先の変更
❷ メニュー
❸ 電話帳
❹ よく使う項目
❺ 履歴

次ページに続く

■接続先の変更

新しく携帯電話を接続するか、接続している携帯電話を切り替えることができます。

➔ **携帯電話の接続設定** P.313

■ハンズフリーテレホンメニュー

以下の項目を選択できます。

- **番号入力**：電話番号を入力して発信できます。
  ➔ **電話をかける** P.322
- **履歴**：ハンズフリーテレホン画面に履歴の連絡先を表示するかを設定します。
- **電話帳 / 履歴同期**：本システムに携帯電話をペアリングすると、携帯電話の電話帳や発信着信履歴を自動で読み込むことができます。
- **ハンズフリー通話**：車両のスピーカーに通話を自動的に転送します。
- **着信音**：本システム内蔵の着信音または、接続された携帯電話で設定している着信音の変更ができます。

■電話帳

接続している携帯電話の電話帳を表示します。

»ハンズフリーテレホンメニュー

電話帳の自動同期について：

- 一部の携帯電話は、電話帳や発信着信履歴の自動同期を事前に許可しておく必要があります。
- 電話帳のリストから名前を選択するとき、カテゴリーを示すラベルが表示されます。カテゴリーを示すラベルは以下の種類です。

★ **電話**	**会社**
自宅	**その他**
携帯電話	

- 一部の携帯電話は、カテゴリーを示すラベルを読み込むことができません。
- 接続ごとに電話帳が更新されます。
  通話履歴は接続または通話ごとに更新されます。
- 一度同期したあとで設定を**しない**に変更すると、同期された電話帳や発信着信履歴はすべて消去されます。
- 電話帳は最大 2000 件、発信着信履歴は発信、着信、不在着信履歴ごとに最大 100 件まで取得できます。

■よく使う項目

通話履歴や電話帳から連絡先を選択したり、電話番号を直接入力することでよく使う項目に登録することができます。

➔ **よく使う項目を登録する** P.320

■履歴

すべて表示、**発信履歴**、**不在着信**、**着信履歴**から項目を選択して電話をかけることができます。

➔ **電話をかける** P.322

次ページに続く

■よく使う項目を登録する

下記手順で、よく使う項目を登録することができます。

1. Home(Home)アイコンを選択する。

2. **電話**を選択する。

3. **長押しで追加**を長押しする。

4. **履歴**、**電話帳**、または**番号を入力**を選択する。

履歴、電話帳

5. 連絡先を選択する。

番号を入力

5. 番号を入力してから、完了を選択する。

よく使う項目を登録する

よく使う項目は最大 20 件まで登録できます。登録済みのよく使う項目を選択すると、編集、削除することができます。

登録したよく使う項目を長押しすることで、Home 画面に追加することができます。

■よく使う項目を編集する

登録したよく使う項目の名称、電話番号、ラベルを下記手順で編集することができます。

1. 登録したよく使う項目を長押しする。
2. **お気に入りを編集**を選択する。
3. お好みの項目を選択する。
4. **完了**、、またはラベルの種類を選択します。
5. (Back)アイコンまたは(Home)アイコンを選択する。

■よく使う項目を削除する

登録したよく使う項目の名称、電話番号、ラベルを下記手順で削除することができます。

1. 削除したい登録したよく使う項目を長押しする。
2. **お気に入りを削除**を選択する。

よく使う項目を編集する

以下の項目が編集できます。

- **名称**：登録されている名称を編集します。
- **電話番号**：登録されている電話番号を編集します。
- **ラベル**：登録されているラベルを変更します。

次ページに続く

■電話をかける

電話番号を直接入力するほか、取り込まれた電話帳、通話履歴、またはよく使う項目から電話をかけることができます。

■電話番号を入れて電話をかける

1. ハンズフリーテレホンメニュー画面を表示する。
2. **番号入力**を選択する。
3. 番号を選択する。
▶ タッチ画面上のキーボードを使って番号を入力します。
4. **発信**を選択する。

■電話帳から電話をかける

1. ハンズフリーテレホン画面を表示する。
2. **電話帳**を選択する。
3. 電話をかけたい相手を選択する。
▶ 画面の右上にあるアイコンを選択することで、姓または名で並び替えることができます。

■履歴から電話をかける

1. ハンズフリーテレホン画面を表示する。

2. **履歴**を選択する。

▶ 画面の右上にあるアイコンを選択することで、**すべて表示**、**発信履歴**、**不在着信**、または**着信履歴**に並び替えることができます。

3. 電話をかけたい相手を選択する。

■よく使う項目から電話をかける

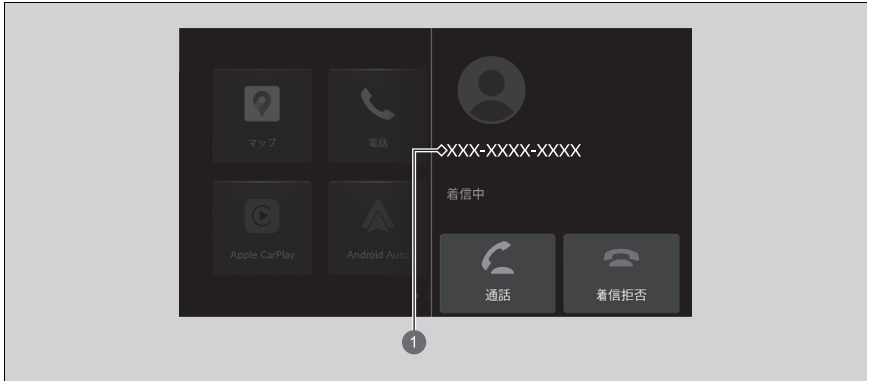
1. ハンズフリーテレホン画面を表示する。

2. 電話をかけたい相手を選択する。

次ページに続く

■電話を受ける

着信があると、音でお知らせし(設定している場合)、着信画面が表示されます。



❶ 電話帳に登録されている名前 / 電話番号(未登録の場合)

電話に出る場合

レフトセレクターホイールを上下に動かし、ヘッドアップディスプレイで(通話)を選択して押す。

着信拒否する場合

レフトセレクターホイールを上下に動かし、ヘッドアップディスプレイで(着信拒否)を選択して押す。

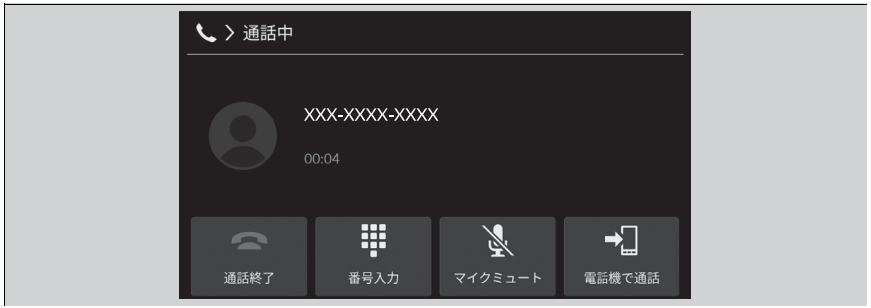
≫電話を受ける

他の機能を使用中に着信があった場合、自動的に着信画面が割り込み表示されます。

割込通話サービスをご利用の場合、通話中に着信があると、メッセージが画面に表示されます。
通話を切り替えるには、レフトセレクターホイールを上下に動かし、ヘッドアップディスプレイでを選択して押します。もう一度レフトセレクターホイールを上下に動かし、ヘッドアップディスプレイでを選択して押すと、もとの通話に切り替わります。
Bluetooth® 対応の携帯電話の場合は、割込通話が使用できないことがあります。

ディスプレイオーディオ画面に表示される(通話)/(着信拒否)/(終了)を選択しても、電話を受ける / 着信拒否 / 電話を切ることができます。

■電話中の設定



通話中画面では、以下の項目を選択できます。

- **電話機で通話**：ハンズフリー通話から携帯電話での通話に切り替えます。
- **マイクミュート**：こちらからの音声を消して、相手に聞こえない状態にします。
- **番号入力**：自動音声案内などで 1 桁ずつ番号を送信するときに使用します。
- **通話終了**：通話を終了します。レフトセレクターホイールを上下に動かし、ヘッドアップディスプレイからも通話を終了することが出来ます。

エラーメッセージ

下記に記載されているメッセージは代表例です。記載されていない項目に関しては画面に従い対処してください。

有線接続デバイス /USB デバイス

iPod や iPhone などのデバイスまたは USB デバイスを聴くときにエラーが発生したら、下記のエラーメッセージが表示されることがあります。
処置方法に従い対処しそれでもエラーを解消できない場合、Honda 販売店にご相談ください。

メッセージ	原因	処置
ファイルが再生できません	著作権保護のエラーが発生した。	著作権保護付きのファイルは再生できません。ファイルを記録するときは、著作権保護が付いていないものにしてください。
No Data	接続デバイスにファイルが記録されていない。	接続デバイスに再生可能なファイルを記録してください。
エラー	認識できない未対応フォーマットのUSBデバイスが接続されている。	USBデバイスの対応フォーマットを確認してください。
	USBデバイスに再生可能なファイルが記録されていない。	USB デバイスに再生可能なファイルを記録してください。
USB Hub 使用不可	USB Hub が接続されている。	USB Hub は使用しないでください。

■ iPod と iPhone の対応モデル

モデル名
iPod touch（第 6、7 世代）
iPhone（5s、6、6 Plus、6s、6s Plus、SE、7、7 Plus、8、8 Plus、X、XS、XS Max、XR、11、11 Pro、11 Pro Max、SE（第 2 世代）、12 mini、12、12 Pro、12 Pro Max、13 mini、13、13 Pro、13 Pro Max、SE（第 3 世代））

■使用できる USB デバイス

FAT16 または FAT32 形式の USB デバイスを使用してください。

- 256MB 以上の推奨される USB デバイスを使用してください。
- 一部のデジタルオーディオプレイヤーやUSBデバイス（例えば、セキュリティロック機能を持つもの）は、本システムでご利用になれない場合があります。
- 一部のソフトウェアのファイルは、オーディオの再生やテキストデータの表示ができない場合があります。
- MP3、WMA、AAC、FLAC、PCM/WAVE、Opus、MP4、AVI、MKV、3GPP、WebM、MPEG2-TS のバージョンによっては、再生できない場合があります。

iPod と iPhone の対応モデル

本システムは対応モデルであってもソフトウェアバージョンによっては対応しない場合があります。

使用できる USB デバイス

USB デバイス内のファイルは格納順序で再生されます。この順序はパソコンやデバイスで表示される順序と異なる場合があります。

次ページに続く

■再生できる動画データについて

■フォーマット：MP4

メディア	USB Flash Drive				
拡張子(MP4 version)	.mp4/.m4v				
オーディオ	AAC, MP3				
動画※1	MPEG4-AVC(H.264)	H.263	H.265 HEVC	MPEG-4 SP	MPEG-2
プロファイル (MP4 version)※1	BaselineProfile/Level 3, MainProfile/Level 3.1 (MPEG4-AVC)	—	—	—	—
最大ビットレート※1	10 Mbps, 14 Mbps (MPEG4-AVC)	—	—	—	—
最大解像度※1	1,280 × 720 pixels (MPEG4-AVC)	—	—	—	—

■フォーマット：AVI

メディア	USB Flash Drive
拡張子(AVI version)	.avi
オーディオ	AAC, MP3, WMA
動画※1	MPEG4-AVC(H.264)
プロファイル (AVI version)※1	BaselineProfile/Level 3, MainProfile/Level 3.1(MPEG4-AVC)
最大ビットレート※1	10 Mbps, 14 Mbps(MPEG4-AVC)
最大解像度※1	1,280 × 720 pixels(MPEG4-AVC)

※1：ビデオファイルの形式によっては、本システムでは再生できません。

■フォーマット：MKV

メディア	USB Flash Drive					
拡張子(MKV version)	.mkv					
オーディオ	AAC, MP3					
動画※1	MPEG4-AVC(H.264)	H.263	H.265 HEVC	MPEG-2	VP8	VP9
プロファイル (MKV version)※1	BaselineProfile/Level 3, MainProfile/Level 3.1 (MPEG4-AVC)	—	—	—	—	—
最大ビットレート※1	10 Mbps, 14 Mbps (MPEG4-AVC)	—	—	—	—	—
最大解像度※1	1,280 × 720 pixels (MPEG4-AVC)	—	—	—	—	—

※1 ：ビデオファイルの形式によっては、本システムでは再生できません。

次ページに続く

■フォーマット：3GPP

メディア	USB Flash Drive		
拡張子(3GPP version)	.3gp		
オーディオ	MPEG-4, AAC LC(Low Complexity)		
動画※1	H.263	H.264	MPEG-4 SP
プロファイル (3GPP version)※1	—	BaselineProfile/Level 3, MainProfile/Level 3.1 (MPEG4-AVC)	—
最大ビットレート※1	—	10 Mbps, 14 Mbps (MPEG4-AVC)	—
最大解像度※1	—	1,280 × 720 pixels (MPEG4-AVC)	—

■フォーマット：WebM

メディア	USB Flash Drive	
拡張子(WebM version)	.webm	
オーディオ	Opus	
動画※1	VP8	VP9
プロファイル (WebM version)※1	—	—
最大ビットレート※1	—	—
最大解像度※1	—	—

※1：ビデオファイルの形式によっては、本システムでは再生できません。

■フォーマット：MPEG2-TS

メディア	USB Flash Drive	
拡張子 （MPEG2-TS version）	.ts	
オーディオ	AAC, MP3	
動画※1	MPEG-2	H.264 AVC
プロファイル （MPEG2-TS version）※1	—	BaselineProfile/Level 3, MainProfile/Level 3.1 (MPEG4-AVC)
最大ビットレート※1	—	10 Mbps, 14 Mbps（MPEG4-AVC）
最大解像度※1	—	1,280 × 720 pixels（MPEG4-AVC）

※1 ：ビデオファイルの形式によっては、本システムでは再生できません。

オープンソースライセンスについて

下記の手順で、オープンソースライセンスをご確認いただけます。

1. Home(Home)アイコンを選択する。
2. 本体設定を選択する。
3. Advanced 設定を選択する。
4. システムを選択する。
5. 法的情報を選択する。
6. サードパーティライセンスを選択する。

ナビゲーションシステムの現在地について

■ GPS/ 自立航法について

■GPS による測位

GPS(Global Positioning System：グローバル・ポジショニング・システム)とは、GPS 衛星から位置測定用の電波を受信して現在地を測位するシステムです。

- 次のような場所では、GPS衛星の電波がさえぎられて受信できないため、測位できないことがあります。

- トンネルの中やビルの駐車場
- 高層ビルの群集地帯
- 2 層構造の高速道路の下
- 密集した樹木の間
- 地下駐車場

- その他

- 本システムが作動したあとすぐに走行すると、測位までの時間が長くなります。
- 一度電源が切れた場合(バッテリーを外したとき、ヒューズが切れたとき)は、測位までの時間が長くなります。

■自立航法による測位

走行距離を車速パルスから、また曲がった方向を 6 軸ジャイロセンサーから検出して現在地を割り出す方法です。

■GPSと自立航法を組み合わせた測位の特徴

- GPS衛星の電波が受信できなくても、自立航法で測位できます。
- 自立航法による測位だけでは、現在地の表示が徐々にずれてくることがあります。
  GPS と自立航法を組み合わせると、GPS測位で自立航法のずれが修正されるため、測位精度が高くなります。

■現在地や軌跡の誤差について

以下のような場合は、現在地がずれやすくなります。

- 分岐角度が小さなＹ字路を走行
- 高低差のある道を走行
- 高速道路と側道が近接している
- 緩やかなカーブを走行した後
- チェーンを装着／タイヤを交換した
- 旋回や切り返しが続いた
- タイヤがスリップしやすい状況
- ターンテーブルでの旋回
- GPS が測位できない状況が続いた
- 蛇行運転をした
- ヘアピンカーブが続いた
- ループ橋などを通った
- 地図にない道を通った
- 渋滞などで、低速で発進、停止を繰り返した
- 車輌運搬車などで移動した
- 碁盤の目状の道路を走った
- 駐車場などの施設内の道路を走行中、施設に隣接する道路に近づいた
- パワーモードを ON モードにしてすぐに走行し始めた
- 地下駐車場から地上に出た
- 車両低温状態から走行開始した
- 初回起動時およびディスプレイオーディオの初期化を実行した

商標

■ Bluetooth

The Bluetooth® word mark and logos are registered trademarks owned by Bluetooth SIG, Inc. and any use of such marks by ALPS ALPINE CO.,LTD is under license. Other trademarks and trade names are those of their respective owners.

■ Windows Media

This product is protected by certain intellectual property rights of Microsoft. Use or distribution of such technology outside of this product is prohibited without a license from Microsoft.

Apple

“Made for iPod,” and “Made for iPhone,” mean that an electronic accessory has been designed to connect specifically to iPod, or iPhone, respectively, and has been certified by the developer to meet Apple performance standards. Apple is not responsible for the operation of this device or its compliance with safety and regulatory standards. Please note that the use of this accessory with iPod, or iPhone, may affect wireless performance.

Apple, the Apple Logo, iPhone, iPod touch are trademarks of Apple Inc., registered in the U.S. and other countries. Apple CarPlay, iPod, iPhone, iTunes, Siri and Lightning are trademarks of Apple Inc. App Store is a service mark of Apple Inc.



次ページに続く

■ MPEG

Mpeg4 Visual
THIS PRODUCT IS LICENSED UNDER THE MPEG-4 VISUAL PATENT PORTFOLIO LICENSE FOR THE PERSONAL AND NON-COMMERCIAL USE OF A CONSUMER FOR (i) ENCODING VIDEO IN COMPLIANCE WITH THE MPEG-4 VISUALA STANDARD (“MPEG-4 VIDEO”) AND/OR (ii) DECODING MPEG-4 VIDEO THAT WAS ENCODED BY A CONSUMER ENGAGED IN A PERSONAL AND NONCOMMERCIAL ACTIVITY AND/OR WAS OBTAINED FROM A VIDEO PROVIDER LICENSED BY MPEG LA TO PROVIDE MPEG-4 VIDEO. NO LICENSE IS GRANTED OR SHALL BE IMPLIED FOR ANY OTHER USE. ADDITIONAL INFORMATION INCLUDING THAT RELATING TO PROMOTIONAL, INTERNAL AND COMMERCIAL USES AND LICENSING MAY BE OBTAINED FROM MPEG LA, LLC.
SEE HTTP://WWW.MPEGLA.COM.

AVC/H.264
THIS PRODUCT IS LICENSED UNDER THE AVC PATENT PORTFOLIO LICENSE FOR THE PERSONAL AND NONCOMMERCIAL USE OF A CONSUMER TO (i) ENCODE VIDEO IN COMPLIANCE WITH THE AVC STANDARD (“AVC VIDEO”) AND/OR (ii) DECODE AVC VIDEO THAT WAS ENCODED BY A CONSUMER ENGAGED IN A PERSONAL AND NON-COMMERCIAL ACTIVITY AND/OR WAS OBTAINED FROM A VIDEO PROVIDER LICENSED TO PROVIDE AVC VIDEO. NO LICENSE IS GRANTED OR SHALL BE IMPLIED FOR ANY OTHER USE.
ADDITIONAL INFORMATION MAY BE OBTAINED FROM MPEG LA, L.L.C. SEE HTTP://WWW.MPEGLA.COM.

運転

この章では、運転操作、給油などについて記載しています。



運転の前に..... 339
運転操作
- パワーシステムの起動..... 342
- 走行時の注意点..... 347
- トランスミッションについて..... 349
- シフト操作..... 350
- 減速セレクター..... 355
- 車両接近通報装置..... 358
- ドライブモードスイッチ..... 359
- VSA(ビークルスタビリティアシスト)..366
- モーションマネージメントシステム..368
- ブラインドスポットインフォメーション...369
- 高電圧バッテリーの特性..... 373

Honda SENSING 360*/Honda SENSING 360+*..... 374
- 各機能を作動させるためのスイッチと表示..376
- 衝突軽減ブレーキ(CMBS)..... 384
- 踏み間違い衝突軽減システム..... 398
- 急アクセル抑制機能*..... 404
- 前方交差車両警報..... 409
- カーブ路外逸脱早期警報..... 415
- 路外逸脱抑制機能..... 421
- 歩行者事故低減ステアリング..... 430
- 車線変更時衝突抑制機能..... 438
- 降車時車両接近警報..... 446
- ドライバー注意力モニター.....450,454
- 渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)..... 456
- 車線維持支援システム(LKAS)..... 489
- トラフィックジャムアシスト(渋滞運転支援機能)..... 503
- ハンズオフ機能付高度車線内運転支援機能..512
- レコメンド型車線変更支援機能..... 515
- 車線変更支援機能..... 522
- 先行車発進お知らせ機能..... 530
- 標識認識機能..... 534
- ドライバー異常時対応システム..... 540
- 高精度地図 / 全球測位衛星システム GNSS (Global Navigation Satellite System)..543
- ドライバーモニタリングカメラ..... 544
- フロントセンサーカメラ..... 545
- レーダーセンサー..... 547
- ソナーセンサー..... 549

ブレーキ操作..... 550
駐停車操作..... 563
マルチビューカメラシステム..... 574
Honda パーキングパイロット..... 587
給油..... 611

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

運転の準備

運転を始める前に下記の項目を確認してください。

■車外での確認項目

- 窓やミラーの視界、灯火器類の光をさえぎるものがないか？
  ▶霜、雪、氷が付着している場合は取り除きます。
  ▶屋根に雪が積もっている場合は、走行時に滑り落ちて視界をさえぎる可能性があるため取り除きます。
  氷結しているときは、氷が溶けてから取り除いてください。
  ▶足回りに氷塊が付着している場合は、部品を損傷しないよう注意しながら取り除きます。
- ボンネットは完全に閉まっているか？
  ▶走行中にボンネットが開くと、視界がさえぎられて危険です。
- タイヤは正常か？
  ▶空気圧、亀裂、損傷や異常な摩耗がないか確認します。
  タイヤの点検と整備 P.628
- 車の周囲に子供はいないか？
  車の周りに障害物はないか？
  ▶運転席から見えない死角や、バックミラーでは確認できない死角がありますので、乗車する前に確認します。

≫車外での確認項目

アドバイス

ドアが凍結しているときは、無理にはがさずお湯をかけて溶かしてください。
無理にはがすと、ドアまわりのゴムがはがれます。お湯をかけた後は、凍結防止のため、水分をよく拭き取ってください。

ドアのキー穴部には、お湯をかけないでください。
凍結すると、キーが差し込めなくなります。

エンジンルーム内に可燃物の置き忘れや、燃えやすいものがないか確認してください。
車両を長期間使用しなかった場合や、メンテナンスの後は、特に注意してください。火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。

次ページに続く

■車内での確認項目

- フロアマットがペダルに引っかかっていないか？
- フロアマットが固定されているか？
- フロアマットを重ねていないか？
  ▶ ブレーキやアクセルの操作が確実にできないおそれがあり危険です。
- 積み込んだ荷物が適切に固定されているか？
  ▶ 不適切な荷物の積み込みは、タイヤに負担をかけたり走行中のバランスを維持できず危険です。
- 荷物はシートの高さを越えていないか？
  ▶ 後方視界を妨げたり急ブレーキのときに荷物が飛び出したりするおそれがあり危険です。
- フロントシートの足元にものを置いていないか？
- 動物を乗せるときは、動きまわらないようにしているか？
  ▶ 運転の妨げになったり、急ブレーキのときなどに思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ドア、トランクが確実に閉まっているか？
  ▶ 走行前にすべてのドア、トランクが完全に閉まり、正しく施錠されていることを確認します。
  ➔ **車内での施錠 / 解錠** P.147
- シート位置などが適切に調節されているか？
  ▶ 不適切なシート位置での走行は危険です。
  ➔ **シートの調節** P.182
- ルームミラー、ドアミラー、ハンドルは適切に調節したか？
  ▶ 正しい運転姿勢ですわり、それぞれ適切な位置に調節します。
  ➔ **ミラー類の調節** P.178
  ➔ **ハンドルの調節** P.177

▶車内での確認項目

運転者は、携帯電話を走行中に使用しないでください。
運転者が運転中にハンズフリー以外の携帯電話を使用することは、法律で禁止されています。運転中の使用により周囲の状況に対する注意が不十分になると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

車に合ったフロアマットをお使いください。

- すべての乗員がシートベルトを締めているか？
  ▶ すべての乗員は必ずシートベルトを着用します。
  ➔ **シートベルトの着用** P.42
- パワーシステムを起動したとき、メーターに異常を示す警告灯などが点灯していないか？
  ▶ 異常を示す警告灯の異常を解決してから走行します。
  ➔ **警告灯** P.83

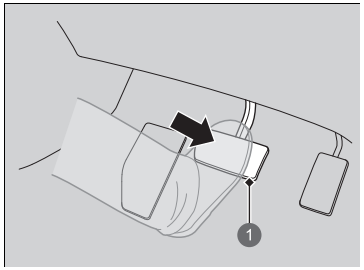
パワーシステムの起動



❶ パーキングブレーキスイッチ

1. パーキングブレーキスイッチをゆっくりと確実に引き上げる。

▶パーキングブレーキがかかっていると、スイッチのインジケーターとメーター内のブレーキ警告灯(レッド)が約30 秒間点灯します。



❶ ブレーキペダル

2. 右足でブレーキペダルを踏む。

パワーシステムの起動

⚠警告

12V バッテリー液が不足しているときは、パワーシステムを起動しない。

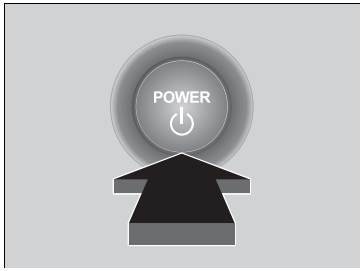
12V バッテリーが破裂するおそれがあります。

⚠注意

パワーシステムを起動するときは、ブレーキペダルをしっかりと踏む。

寒いときのパワーシステムの起動は、すべての電気アクセサリーを OFF にしてから行います。

寒いときのパワーシステムの起動は、12Vバッテリーの消耗を防ぐためライト類、エアコン、リヤデフロスターなどの電気アクセサリーをすべて OFF にしてから行ってください。



3. ブレーキを踏んだままアクセルペダルを踏まずに、 POWER を押す。



4. READY 表示灯の点灯を確認する。
- ▶ READY 表示灯が点灯するまでブレーキペダルを踏み続けてください。
- ▶ パワーシステムが起動すると、READY 表示灯が点灯し運転することができます。
- ▶ 外気温が極端に低いときは、条件が整うまで走行することができません。このとき、READY 表示灯が点灯せず、他のメッセージが表示されます。

パワーシステムの起動

排気音が変わったり、車内でガソリンや排気ガスのにおいが消えないときは、排気系や燃料系の異常が考えられます。
Honda 販売店で点検を受けてください。

POWER は、パワーシステムが起動するまで押し続ける必要はありません。

Honda スマートキーの電池が切れたときは、キーで POWER に触れてください。
➡ Honda スマートキーの電池が切れたとき P.667

Honda スマートキーが強い電波を受けていると、パワーシステムが起動しないことがあります。

パワーシステムが起動しない場合は、30 秒以上待ってから操作してください。

走行可能な状態でも、エンジンが始動しないことがあります。
READY 表示灯が点灯していれば走行可能です。
READY 表示灯が点灯している状態で、ブレーキペダルを踏んで POWER を押すとパワーモードがOFFになり、走行できなくなります。
➡ READY 表示灯 P.95

次ページに続く

パワーシステムの起動

車を盗難から守るため、イモビライザーシステムのキーを採用しています。
そのため、あらかじめ登録されたキーでないとパワーシステムの起動ができません。
イモビライザーシステム P.155

パワーモードをONモードにしたとき、ブレーキペダルが押し込まれる感じを受けることがありますが、ブレーキ装置の作動によるものであり、異常ではありません。

パワーシステムが低温のとき、マルチインフォメーションディスプレイに「パワーシステム低温 急発進・急加速・高速走行を避けてください」のメッセージが表示されることがあります。
パワーシステムが適正な温度に戻ると、メッセージが消えます。消えないときは、Honda販売店で点検を受けてください。

■発進時の操作

1. 右足でブレーキペダルを踏んだまま、READY 表示灯の点灯を確認し、シフトポジションを D にする。
▶ 後退する場合は R にします。

2. パーキングブレーキをかけたまま、ブレーキペダルを離して、アクセルペダルをゆっくりと踏む。
▶ ブレーキ警告灯(レッド)が消灯したことを確認してください。
▶ 運転席シートベルトを装着していないと、発進時でも電子制御パーキングブレーキは自動解除されません。
➔ **電子制御パーキングブレーキ** P.550

■ヒルスタートアシストシステム

急な坂道からの発進をするときに、ブレーキペダルから足を離した後、ブレーキ力を約1秒間保持することで車両の後退を緩和し、発進を容易にするシステムです。

発進時の操作

⚠注意

アクセルペダルを踏んだまま、シフトポジションを操作しない。
急発進して思わぬ事故の原因となります。

パーキングブレーキスイッチの操作で解除することもできます。
下り坂の場合、アクセルペダルを踏まずにパーキングブレーキを手動で解除すると、よりスムーズに発進することができます。

ハイブリッド車は走行可能な状態でも、通常の車のように、エンジン音や振動がでないことがあるため、走行可能な状態であることに気がつかない場合があります。
READY 表示灯が点灯しているかどうかを確認し、発進操作をしてください。

ヒルスタートアシストシステム

緩やかな坂道ではシステムが作動しないことがあります。

次ページに続く

■パワーシステムの停止

車が完全に停止しているとき、パワーシステムを停止することができます。

1. ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトポジションを P にする

▶ メーターのシフトポジション P が表示されるまでブレーキペダルを離さないでください。

2. POWER を押す。

走行時の注意点

■霧が出たときは

霧が出たときは視界が悪くなります。昼間でもヘッドライトを下向きで点灯し、中央線、ガードレール、前走車のテールランプなどを目安にして、速度を落として走行してください。

■風が強いときは

風が強く車が横に流されるようなときは、ハンドルをしっかり握り、速度を徐々に落として進路を立て直します。
トンネルの出口、橋、土手の上、山を削った切り通しの走行時や大型トラックの追い越し時などには、特に横風の影響を受けやすいため、十分に注意してください。

走行時の注意点

⚠注意

減速の強さを変更する際の車速には、十分注意する。
滑りやすい路面では、急激な回生ブレーキがタイヤのスリップを招くことがあります。

アドバイス

停車中や極低速のときハンドル操作を繰り返したり、ハンドルに力をかけ保持するなどして EPS(電動パワーステアリング)システムの温度が上昇すると、システム保護のためパワー装置のはたらきを制限するので、ハンドル操作が徐々に重くなります。
システムの温度が下がると復帰しますが、システム保護がはたらくような使いかたを断続的に繰り返すと、システム破損の原因となります。

走行中はパワーシステムを停止しないでください。
下記のような状態になり危険です。
- ブレーキの倍力装置が作動しないため、ブレーキの効きが悪くなる
- パワーステアリングのパワー装置が作動しないためハンドル操作が重くなる

次ページに続く

■雨が降っているときは

雨天時は路面が滑りやすくなっているため、急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け通常より注意深く運転してください。
わだちなどの水のたまりやすい場所ではハイドロプレーニング現象を起こしやすくなります。

冠水路などの深い水たまりは走行しないでください。エンジンや駆動系の破損、電装品の故障につながるおそれがあります。

■その他の注意点

走行中、床下に強い衝撃を受けたときは、思わぬ事故につながるおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してブレーキフルードや燃料の漏れ、各部に損傷がないかを確認してください。

≫走行時の注意点

走行中はシフトポジションを[N]にしないでください。
回生ブレーキが全く効かず、思わぬ事故の原因となります。

車を移動するときは、必ずパワーシステムを起動してください。
下り坂を利用しての移動などは、思わぬ事故の原因となります。

1,000km 走行するまでは、エンジンや駆動系の保護のため急発進、急加速を避け、控えめな運転をしてください。

≫雨が降っているときは

ハイドロプレーニング現象に注意してください。
ハイドロプレーニング現象とは、路面が水でおおわれているところを高速で走行したときに、タイヤと路面の間に水の膜ができ、タイヤが浮いてハンドルやブレーキが効かなくなる状態のことをいいます。

トランスミッションについて

■クリープ現象

パワーシステムが起動しているとき、シフトポジションがPまたはN以外に入っているとオートマチック装備のガソリン車と同様に、クリープ現象によりアクセルペダルを踏まなくても、車がゆっくり動き出します。

クリープ現象

上り坂での停車時、クリープ現象による前進の力よりも、後退しようとする力のほうが大きくなり、車が後退する場合があります。
ブレーキペダルを踏み、パーキングブレーキをかけてください。

シフト操作

走行状態に応じてシフトポジションスイッチを押して切り換えます。

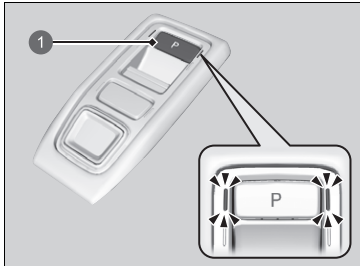
■シフトポジションの名称とはたらき



P パーキング
駐車またはパワーシステムを起動するとき
R リバース
車を後退
N ニュートラル
駆動力が伝達されない状態
D ドライブ
通常走行

- 一時的に減速セレクターを使用するとき
- 減速セレクターを使用するとき(SPORTモード走行時)

■パーキングスイッチ



パワーモードがONモードで車が停止しているとき、スイッチを押すとシフトポジションがPになり、スイッチのインジケーターが点灯します。

❶ Pスイッチ

▶シフト操作

高電圧バッテリーの充電量が満充電に近い状態のとき、または高電圧バッテリーの温度が低いときは、回生ブレーキの効きが弱くなることがあります。

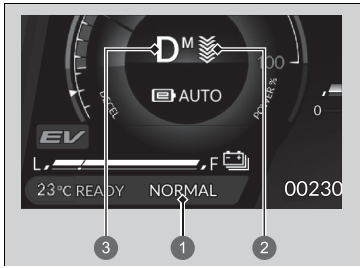
故障と予期しない作動を防止するため：

- シフトポジションスイッチに液体などをこぼさないでください。
- シフトポジションスイッチやまわりに、衝撃を与えたりものを落とさないでください。
- お子さまや運転者以外の方がシフトポジションスイッチを操作しないようご注意ください。

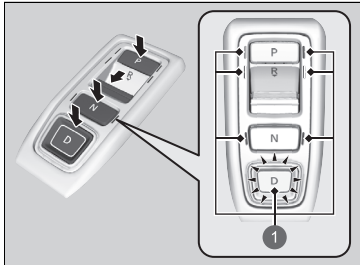
車を後退させるときは、トランスミッション保護のため、車速が制限されることがあります。

Nのポジションの時にアクセルペダルを踏むとブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
ブレーキペダルを踏み、シフトポジションをDまたはRにしてください。

■シフトポジションの操作



❶ ドライブモード表示灯
❷ 減速セレクター表示灯
❸ シフトポジション表示灯



❶ シフトポジション表示

P パーキングにするときは、P を押します
R 後退するときは、R を押します
N ニュートラルにするときは、N を押します
D 通常走行するときは、D を押します

シフトポジションの操作

アドバイス

車両を完全に停止させ、ブレーキペダルを踏んだままシフトポジションをDからRまたはRからDに切り換えてください。
車が完全に止まっていない状態で操作をすると、トランスミッションを破損するおそれがあります。

シフトポジションをPに切り換えるときは、メーターのシフトポジションPが表示されるまでブレーキペダルを離さないでください。

シフト操作前後に、シフトポジション表示灯とシフトポジション表示を確認してください。

次ページに続く

シフトポジションの操作

走行中にトランスミッション警告灯が点滅しているときは、トランスミッションに異常があります。
急加速を避け、Honda 販売店で点検を受けてください。
全てのシフトポジションが点灯した場合は、ただちに安全な場所に車を停車してください。
異常なければ消灯しますが、Honda 販売店で点検を受けてください。

外気温が非常に低い(マイナス 30 度以下)とき、シフトポジションの表示の切り替わりが少し遅れることがあります。走行前は必ずシフトポジションを確認してください。

R のポジションのときは、チャイム音が鳴り運転者にシフトポジションが R の位置になっていることを知らせます。
設定 P.285

■自動パーキング選択制御

■ドア Open 自動パーキング選択制御

パワーモードが ON モードで車が停止、または、車速が 2km/h 以下のときに、P以外のシフトポジションのまま、運転席のシートベルトをはずし運転席ドアを開けるとシフトポジションが自動でPになります。

■パワーモード Off 自動パーキング選択制御

停止中にシフトポジションがP以外のまま、パワーモードを OFF モードにすると、シフトポジションが自動でPになります。

» ドア Open 自動パーキング選択制御

駐車をするときは、安全のために、運転席ドアを開ける前にシフトポジションをPにし、適切な方法により行ってください。

➔ **駐停車操作** P.563

この制御によりPになった後、発進する場合は、ドアを閉めてシートベルトを装着し、シフト操作をしてください。

次ページに続く

■シフトポジションの選択制限

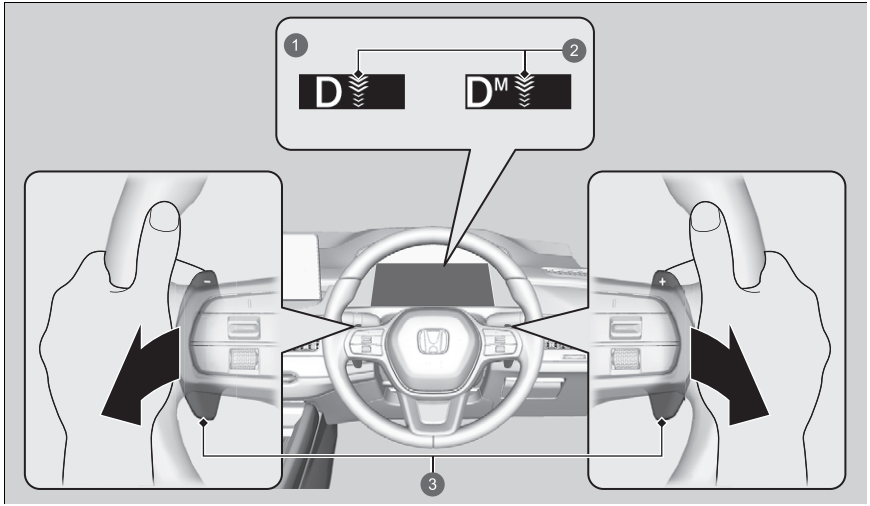
不正な操作をすると、安全のため、シフトポジションの選択が制限されます。

操作前のシフトポジション	1. 操作・走行状態	2. パーキングスイッチ・シフトポジションの操作	3. 操作後のシフトポジション	対処のしかた
P	ブレーキペダルを踏んでいない	他のシフトポジションを選択する	P	アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏む
	アクセルペダルを踏んでいる			
N	低速走行中で、ブレーキペダルを踏んでいない		N	
	低速走行中で、アクセルペダルを踏んでいる			
N D	前進している	R を選択する		停車する
R N	後退している	D を選択する		
R N D	走行中	P を選択する		
P N	READY 表示灯が点灯していない	P N 以外を選択する	P N	READY 表示灯の点灯を確認する

減速セレクター

ハンドルにあるセレクターで、アクセルペダルを離したときの減速の強さをハンドルから手を離さずに、6段階で変更できます。前走車との車間調整や坂道などで減速の強さを変更したいときに使用してください。

■減速セレクターの操作方法



❶ シフトポジションがDのとき
❷ 減速の強さ
❸ セレクター

減速セレクター

⚠注意

減速する際の車速には、十分注意する。

滑りやすい路面では、減速がタイヤのスリップを招くことがあります。

左右のセレクターを同時に操作すると、変更しないことがあります。

以下の状態のときはセレクターを引いても減速の強さが変更されずに表示が点滅します。また、自動的に減速の強さが弱くなったり解除することがあります。

- ハイブリッドシステムの保護が必要なとき
- ブレーキパッドが高温のとき
- ブレーキ警告灯(オレンジ)が点灯しているとき

走行中にセレクター操作を行うと渋滞追従機能付 ACC 作動は解除されます。

次ページに続く

■減速セレクターを一時的に使うとき

SPORT モード以外のときにセレクターを引くと減速の強さが表示され、一時的に減速セレクターを使用できます。停止間際まで減速したりアクセルペダルを踏み込むと、減速セレクターは自動的に解除され、減速セレクター表示灯が消灯します。

[ー]のセレクターを引き続けると、M が表示され減速セレクターの状態で固定されます。

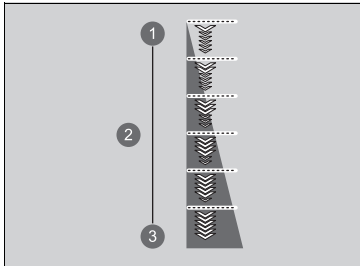
■減速セレクターを固定して使うとき

M が表示されているときは、減速セレクターの状態に固定されます。

[ー]のセレクターを引き続けるか、ドライブモードを SPORT モードにすると M が表示されます。

▶ Mを消灯させるには、ドライブモードをSPORTモード以外にするか、SPORTモード以外のときにMが表示されている場合は、[＋]のセレクターを引き続けてください。

■共通の操作



1 回のセレクター操作で、減速の強さを 1 段変更できます。

▶ セレクターを引き続けても連続では変更できません。

❶ 弱
❷ 減速の強さ
❸ 強

減速強さを変更するには

- ＋のセレクター(右側)を引くと減速の強さが弱くなる
- －のセレクター(左側)を引くと減速の強さが強くなる

＋のセレクターを数秒間引き続けると減速セレクターがキャンセルされます。

車両接近通報装置

約 25km/h 以下で走行しているときに、歩行者に車両の接近を知らせるため、走行音を発生させるシステムです。

ドライブモードスイッチ

選択したモードに応じた走行性能へ車両を制御します。
選択しているモードはメーターに表示されます。

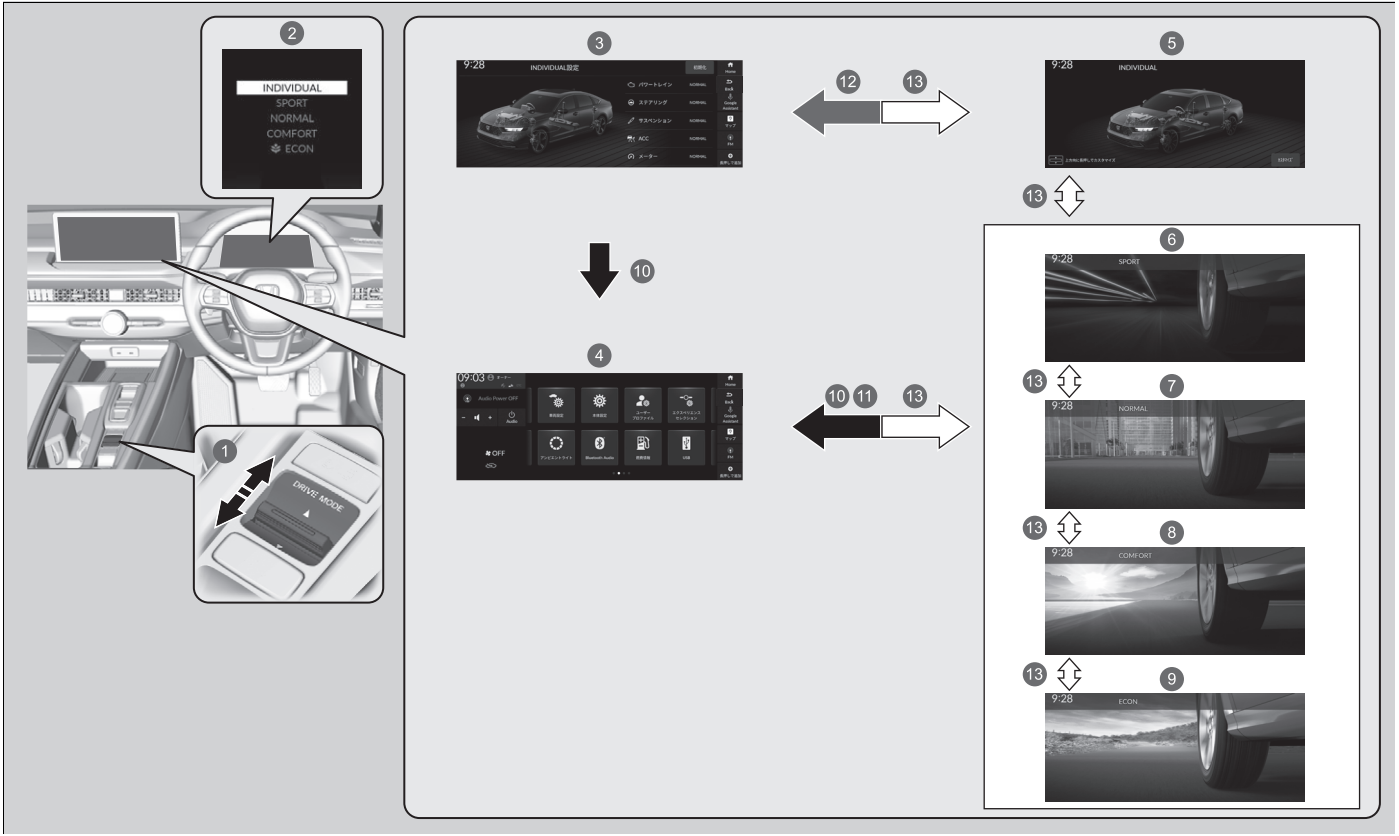
ドライブモードスイッチ

運転状況などによってはモードの変更ができない場合があります。
また、車両に異常があるときなども下記のメッセージが表示され、モードの変更ができません。



次ページに続く

■ドライブモードの選択


2
INDIVIDUAL
SPORT
NORMAL
COMFORT
ECON
1
DRIVE MODE
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13

❶ ドライブモードスイッチ
❷ ドライブモードスイッチでモードを変更するとメーター上の画面が変わります。
❸ INDIVIDUAL 設定画面
❹ ディスプレイオーディオ画面
❺ INDIVIDUAL モード
❻ SPORT モード
❼ NORMAL モード
❽ COMFORT モード
❾ ECON モード
❿ Back または Home ボタンを押す
⓫ ドライブモードスイッチを上か下に押してから数秒後にディスプレイオーディオ画面に戻ります。
⓬ ドライブモードスイッチを上に押して保持するか「カスタマイズ」を選択する
➔ **INDIVIDUAL 設定のカスタマイズ** P.365
⓭ ドライブモードスイッチを上か下に押す

次ページに続く

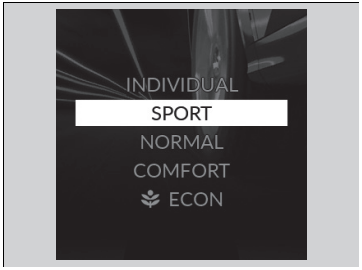
■ INDIVIDUAL モード



各カテゴリーをご希望の設定に個別でカスタマイズできます。

INDIVIDUAL 設定のカスタマイズ P.365

■ SPORT モード



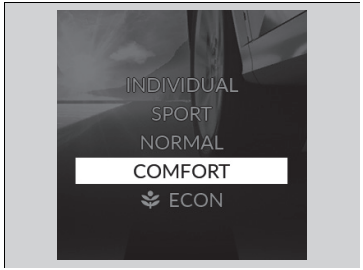
運転操作に対しての応答性を高めたモードです。

■ NORMAL モード



操作性と快適性のバランスを最適化したモードです。

■ COMFORT モード



快適性を高めたモードです。

次ページに続く

■ ECON モード



省燃費運転をしやすくしたモードです。

■再度パワーモードを ON にしたときのモード

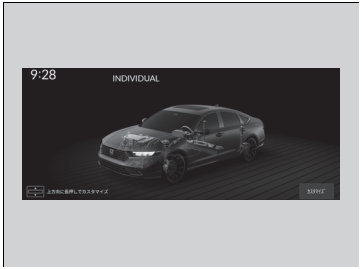
再度パワーモードを ON にしたときのモードは、以下のとおりです。
最後に使用したモードは、Honda スマートキーの DRIVER1 と DRIVER2 に応じて記憶されます。

パワーモードを ON にする前のモード	パワーモードを ON にしたときのモード
INDIVIDUAL モード	NORMAL モード
SPORT モード	NORMAL モード
NORMAL モード	NORMAL モード
COMFORT モード	COMFORT モード
ECON モード	ECON モード

ECON モード

ECON モードにするとエアコンの効きが弱くなり加速の応答性が低くなります。

■ INDIVIDUAL 設定のカスタマイズ





1. INDIVIDUAL モードにする。

2. ドライブモードスイッチを上に押して保持する、または「カスタマイズ」を選択して INDIVIDUAL 設定を開く。

▶ ディスプレイオーディオ画面の「車両設定」から選択することもできます。

ドライブモードの選択 P.360

設定 P.285

3. カテゴリーを選択します。

4. ご希望の設定を選択します。

INDIVIDUAL 設定のカスタマイズ

INDIVIDUAL 設定画面で「初期化」を選択すると、すべての INDIVIDUAL 設定が工場出荷時の状態に戻されます。

VSA(ビークルスタビリティアシスト)

VSA とは、ABS 機能、TCS 機能および横滑り抑制機能を総合的に制御し、急激な車両の挙動変化を抑制しようとする装置です。

■ABS(アンチロックブレーキシステム)機能 P.559

■TCS(トラクションコントロールシステム)機能

滑りやすい路面などでの駆動輪の無駄な空転を防止し、駆動力、操舵能力を確保しようとする機能です。

■横滑り抑制機能

急激なハンドル操作や滑りやすい路面などでの旋回時に、車輪の横滑りなどを抑制することで車両の安定性を確保しようとする機能です。

さらに、緊急制動時に運転者のブレーキ操作を補助する電子制御ブレーキアシストも装着しています。

電子制御ブレーキアシスト P.561

▨VSA(ビークルスタビリティアシスト)

種類やサイズの異なるタイヤが混在していると、VSAが正常に機能しないことがあります。
タイヤは必ず、同一指定サイズ、同一種類のタイヤを指定空気圧で使用してください。

VSA 警告灯が運転中に点灯するときや、パワーモードをONモードにしても点灯しない場合は、システムの異常が考えられます。
通常の運転には支障はありませんが、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

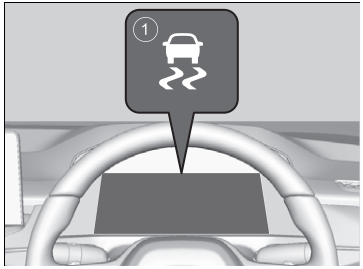
VSA が作動した状態でも車両の安定性の確保には限界がありますので、無理な運転はしないでください。

- カーブ手前では十分に速度を落とす
- 雪道、凍結路を走行するときは、スノータイヤを装着し控えめな速度で運転する

12V バッテリー再接続後、VSA(ビークルスタビリティアシスト)警告灯と渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)警告灯(オレンジ)*、ACC/LKAS システム警告灯(オレンジ)*、安全支援情報警告灯(オレンジ)、ブレーキシステム警告灯(オレンジ)が一時的に点灯する場合があります。
車速 20km/h 以上でしばらく走行すると消灯します。消灯しないときは Honda 販売店で点検を受けてください。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■ VSA の作動と警告灯



TCS 機能または横滑り抑制機能作動中は、VSA 警告灯が点滅します。

❶ VSA(ビークルスタビリティアシスト)警告灯

■システムの ON と OFF

マルチインフォメーションディスプレイを使用して、VSA 機能を部分的に停止(OFF)状態にすることができます。
TCS 機能が制限され、低速で駆動輪が回転しやすくなります。

表示の切り換えかた P.106
VSA モード設定 P.119

システムの ON と OFF

新雪やぬかるみから脱出したいときに、(VSA OFF)TCS制限モードでVSAをOFFにすると TCS 機能が制限され、低速で駆動輪が回転しやすくなるので効果的な場合があります。

新雪やぬかるみから脱出した後は、すみやかに VSA を ON にしてください。
VSA を OFF にしたままでの走行は、お勧めしません。

パワーシステムの起動直後や走行中、システムチェックのためエンジンルームからモーター音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

モーションマネージメントシステム

運転者のハンドル操作に応じて、軽い減速をすることで、車両の動きを滑らかにし、安定感のあるコーナリングを可能とする機能です。

モーションマネージメントシステム

モーションマネージメントシステムはすべての走行条件で安定性を向上させる機能ではありません。
安全のために、カーブ走行時は状況に応じた適正な速度で、十分に車間距離をとって走行してください。

走行中にブレーキシステム警告灯が点灯しているときは、モーションマネージメントシステムが作動しない場合があります。

モーションマネージメントシステムが作動中、エンジンルームから音が聞こえることがあります。

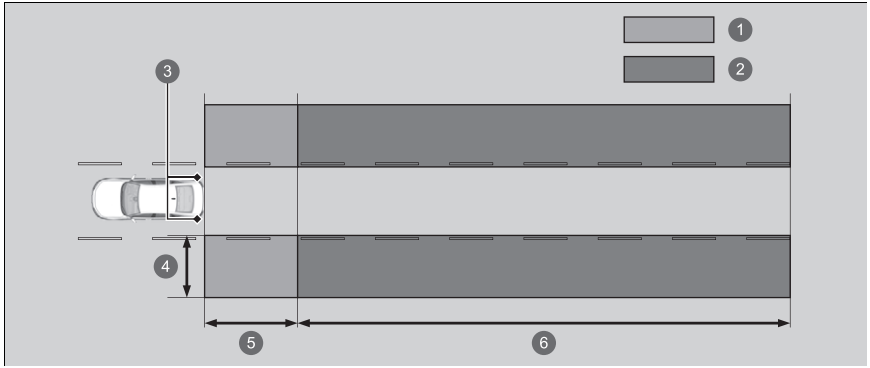
モーションマネージメントシステムが作動中、制動灯が点灯する場合があります。

ブラインドスポットインフォメーション

隣接する車線後方に他の車両が走行していることを知らせ、運転者の車線変更などの操作の際の負担を軽減するシステムです。

■システムの作動条件

自車の車速が 20km/h 以上で前進しているとき、レーダーセンサーが検知範囲内に走行している車両を検知します。



❶ 検知範囲 1
❷ 検知範囲 2
❸ レーダーセンサー：リヤバンパーの内側にあります
検知距離
❹ 側面から約 0.5 ～ 3m
❺ リヤバンパーから約 3m 後方
❻ リヤバンパーから後方約 3 ～ 50m（接近する車両が自車に対して速いほど、より遠くから検知します。）

次ページに続く

ブラインドスポットインフォメーション

⚠警告

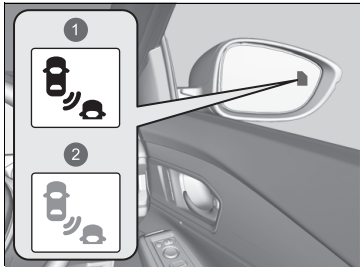
車線変更の際は、目視やミラーなどで確認する。
状況により、車両を検知できない場合があります。直接確認をせずに車線変更を行うと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

他の運転支援システムと同様に、ブラインドスポットインフォメーションには制限があります。

以下の場合は、Honda 販売店にご相談ください。
- リヤバンパーやレーダーセンサー周辺に衝撃が加わったとき
- 検知範囲内を他の車両が走行しているときに警告灯が点灯しないことが続くとき
- リヤバンパーや関連するシステムの修理を行うとき

システムを正しく作動させるために、必ず次のことをお守りください。
- リヤバンパーやレーダーセンサー周辺は常にきれいにしておく
- リヤバンパーの周辺にシールなどを貼り付けない

■システムが車両を検知したとき



❶ 点灯
❷ 点滅

車線変更時衝突抑制機能警告灯：両側のドアミラー内にあります。

車線変更時衝突抑制機能警告灯が点灯する条件：

- 他の車両が、自車より車速約 50km/h 以下の速度差で追い越しのために後方から接近してきたとき
- 約 14km/h 以下の速度差で他の車両を追い越したとき

車線変更時衝突抑制機能警告灯が点滅し、警報音が鳴る条件：
車線変更時衝突抑制機能警告灯が点灯している状態で、検知された車両の方向に方向指示器(ウィンカースイッチ)を操作したとき

▶ 警報音は 3 回鳴ります。

ブラインドスポットインフォメーション

12V バッテリー再接続後、VSA(ビークルスタビリティアシスト)警告灯と渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)警告灯(オレンジ)*、ACC/LKAS システム警告灯(オレンジ)*、安全支援情報警告灯(オレンジ)、ブレーキシステム警告灯(オレンジ)が一時的に点灯する場合があります。
車速 20km/h 以上でしばらく走行すると消灯します。消灯しないときは Honda 販売店で点検を受けてください。

車線変更時衝突抑制機能の取り扱いについては下記を参照してください。
車線変更時衝突抑制機能 P.438

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■システムの ON と OFF

マルチインフォメーションディスプレイを使用して、システムの ON/OFF を切り換えることができます。

➔ **表示の切り換えかた** P.106

➔ **安全支援情報** P.116

車線変更時衝突抑制機能がONのとき、ブラインドスポットインフォメーションが作動します。

➔ **車線変更時衝突抑制機能の ON と OFF** P.440

パワーシステムを起動したときは、パワーモードを OFF する前の状態(ON または OFF)を保持します。

システムの ON と OFF

警報音の設定をカスタマイズすることができます。

➔ **設定** P.285

次ページに続く

■ブラインドスポットインフォメーションの条件と制限

以下のような場合、車線変更時衝突抑制機能警告灯が点灯しないことがあります。

- 自車と隣接する車線を走行する車両との速度差が大きいとき
- 隣接する車線に駐車車両があるとき
- レーダーセンサーによって検知されていないものに接近したり、通過したりしたとき
- 自車と隣接する車線を走行する車両が二輪自動車などの小型な車両のとき

以下の場合、システムが影響を受け正確に表示しないなどの可能性があります。

- 交差点を右左折しているとき
- 路側の設置物(ガードレール、電柱、木、駐車車両、建物、壁など)を検知したとき
- 二輪車が検知範囲に入ったときや、電波を反射しないものが検知範囲にあるとき
- カーブした道路を走行しているとき
- 他の車両が隣接する車線よりさらに外側から接近してきたとき
- 他の車両のレーダーや強い電波を発する設備などが付近にあるとき
- リヤバンパーやレーダーセンサー周辺が土・泥・雪・氷で覆われているとき
- リヤバンパーやレーダーセンサー周辺が破損、変形しているとき
- 悪天候(雨、雪、霧など)のとき
- 旋回や路面の凸凹により車体が傾いているとき
- 車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを取り付けているとき
- 周辺に構造物などがない開けた道路を走行するときや交通量が少ないとき
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき

高電圧バッテリーの特性

長期間駐車をすると、高電圧バッテリーは少しずつ放電をします。
バッテリーの性能を維持するために、少なくとも 3 か月に一度、30 分以上走行をしてください。走行によりバッテリーに充電されます。
長期間走行をしないと、高電圧バッテリー充電容量が低下したり、寿命が縮む原因となります。
バッテリーの寿命を長くするために、夏場は日陰への駐車をおすすめします。

高電圧バッテリーの特性

高電圧バッテリーが放電しすぎないように注意をしてください。充電量が0の状態で長期間放置するとエンジンが始動できなくなるおそれがあります。

衝突被害の軽減、衝突事故の回避、運転者の負担を軽減するために、運転者のアクセル・ブレーキ・ハンドル操作などを支援します。

Honda SENSING 360*/Honda SENSING 360+*には、次の機能があります。

- 衝突軽減ブレーキ(CMBS) P.384
- 踏み間違い衝突軽減システム P.398
- 急アクセル抑制機能* P.404
- 前方交差車両警報 P.409
- 路外逸脱抑制機能 P.421
- 歩行者事故低減ステアリング P.430
- 車線変更時衝突抑制機能 P.438
- 渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC) P.456
- 車線維持支援システム(LKAS) P.489
- トラフィックジャムアシスト(渋滞運転支援機能) P.503
- 車線変更支援機能 P.522
- 先行車発進お知らせ機能 P.530
- 標識認識機能 P.534
- アダプティブドライビングビーム P.169
- ブラインドスポットインフォメーション P.369
- パーキングセンサーシステム P.565
- 後退出庫サポート P.570
- Honda パーキングパイロット P.587
- ドライバー注意力モニター P.450, 454

Honda SENSING 360*/Honda SENSING 360+*

⚠警告

Honda SENSING 360*/Honda SENSING 360+* は、補助システムとして使用してください。
自動運転システムではありません。
あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。
各機能の能力(認識能力・制御能力)には限界があります。
機能に頼った運転をすると衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。常に周囲の状況を確認し、十分な車間距離を保ち安全運転を心がけ走行してください。

パワーモードをONモードにするときは、車を静止させてください。駐車場のターンテーブル上など、車両が動いているときにパワーモードをONモードにすると、各機能が作動しない場合があります。

*:タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

Honda SENSING 360+ 装備車

- カーブ路外逸脱早期警報 P.415
- 降車時車両接近警報 P.446
- ハンズオフ機能付高度車線内運転支援機能 P.512
- レコメンド型車線変更支援機能 P.515
- ドライバー異常時対応システム P.540

Honda SENSING 360*/Honda SENSING 360+*

タイヤは、四輪とも指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。サイズ、種類、銘柄や摩耗度合の異なるタイヤを使用すると、システムが正常に作動しないおそれがあります。

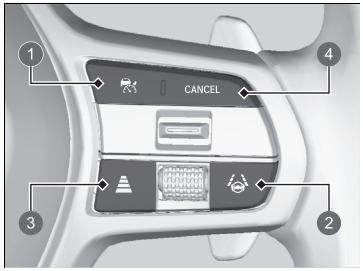
サスペンションの改造はしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

各機能を作動させるためのスイッチと表示

■ステアリングスイッチ

Honda SENSING 360 装備車

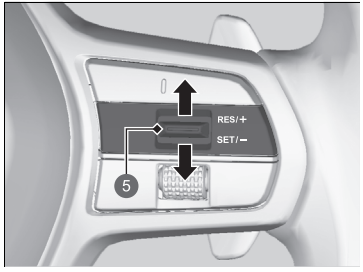


❶ スイッチ
渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)の待機状態の設定を行います。

❷車線維持支援システム(LKAS)スイッチ
車線維持支援システム(LKAS)およびトラフィックジャムアシスト(渋滞運転支援機能)の待機状態の設定を行います。

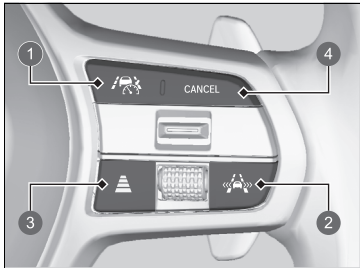
❸ディスタンススイッチ
渋滞追従機能付 ACC の車間距離設定を行います。

❹ CANCEL スイッチ
渋滞追従機能付 ACC の解除を行います。



❺ RES/+/SET/- スイッチ
渋滞追従機能付 ACC の車速のセットと復帰、設定車速の調整を行います。

Honda SENSING 360+ 装備車



❶ スイッチ

以下機能の待機状態の設定を行います。

- 渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)
- 車線維持支援システム(LKAS)およびトラフィックジャムアシスト(渋滞運転支援機能)
- ハンズオフ機能付高度車線内運転支援機能

❷ レコメンド型車線変更支援機能スイッチ

ハンズオフ機能付高度車線内運転支援機能の作動中にレコメンド型車線変更支援機能の作動と解除を行います。

❸ ディスタンススイッチ

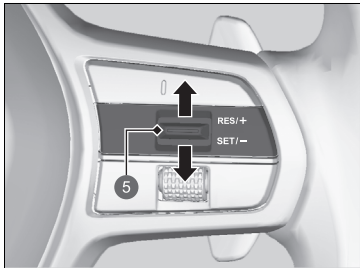
渋滞追従機能付 ACC の車間距離設定を行います。

❹ CANCEL スイッチ

以下機能の解除を行います。

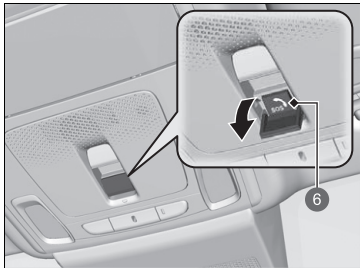
- 渋滞追従機能付 ACC
- LKAS、トラフィックジャムアシスト(渋滞運転支援機能)
- ハンズオフ機能付高度車線内運転支援機能
- レコメンド型車線変更支援機能

次ページに続く



❺ RES/+/SET/− スイッチ

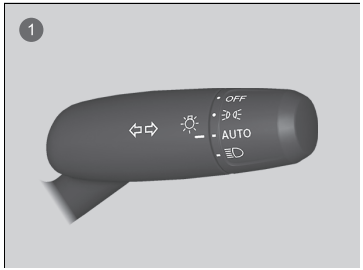
- 渋滞追従機能付 ACC とハンズオフ機能付高度車線内運転支援機能の車速のセットと復帰、設定車速の調整を行います。
- LKAS、トラフィックジャムアシスト(渋滞運転支援機能)の作動と復帰を行います。



❻ SOS 緊急通報ボタン

- 手動で緊急通報やドライバー異常時対応システムを開始します。
  ▶ 緊急通報が作動すると車両側からは中止できません。

共通



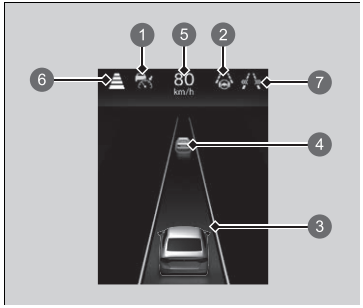
❶ 方向指示器(ウィンカースイッチ)
車線変更支援機能を作動させるためにスイッチ操作を行います。

次ページに続く

■メーターの表示

各機能の現在の状態を表示します。

Honda SENSING 360 装備車



❶渋滞追従機能付 ACC の作動状態
- グリーン、ホワイト / グリーン：作動中
  ▶ 先行車を検知していないとき、ホワイト / グリーンで表示
- ホワイト：待機中
- オレンジ：システムが異常のとき

❷LKAS およびトラフィックジャムアシスト(渋滞運転支援機能)の作動状態
- グリーン：作動中
- ホワイト：待機中
- オレンジ：システムが異常のとき

❸LKASおよびトラフィックジャムアシスト(渋滞運転支援機能)の検知状態
- グリーンの線：作動中
- ホワイトの線：車線を検知した状態

❹ 渋滞追従機能付 ACC の前走車検知状態
- 制御対象車両アイコン：ホワイト、車両輪郭グリーン
- 制御対象外車両アイコン：グレー

❺ 渋滞追従機能付 ACC の設定車速

❻渋滞追従機能付 ACC の設定車間

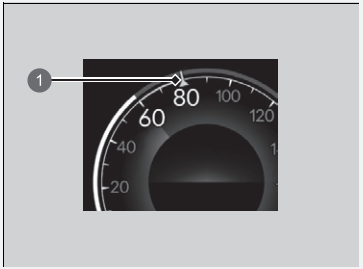
❼車線変更支援機能の作動状態
- グリーン：作動中
- ホワイト：待機中
- オレンジ：システムが異常のとき

メーターの表示

ヘッドアップディスプレイに各機能の現在の状態を表示させることができます。

ヘッドアップディスプレイ P.122

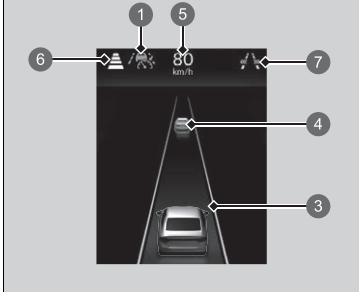
スピードメーターにも渋滞追従機能付 ACC の設定車速が表示されます。



❶ 設定車速

Honda SENSING 360+ 装備車

渋滞追従機能付 ACC 作動時



❶渋滞追従機能付 ACC、LKAS、トラフィックジャムアシスト(渋滞運転支援機能)の作動状態

渋滞追従機能付 ACC：

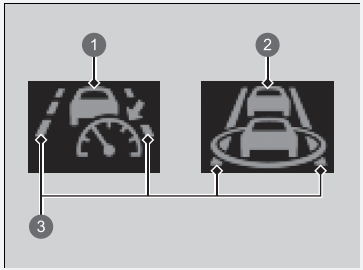
- グリーン、ホワイト / グリーン：作動中
  ▶先行車を検知していないとき、ホワイト / グリーンで表示
- ホワイト：待機中
- オレンジ：システムが異常のとき

LKAS およびトラフィックジャムアシスト：

- グリーン：作動中
- ホワイト：待機中
- オレンジ：システムが異常のとき

メーターの表示

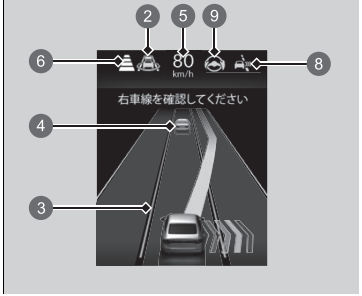
Honda SENSING 360+ 装備車



❶ 渋滞追従機能付ACCの状態表示部
❷ ハンズオフ機能付高度車線内運転支援機能の状態表示部
❸ LKAS、トラフィックジャムアシストの状態表示部

次ページに続く

ハンズオフ機能付高度車線内運転支援機能作動時



❷ハンズオフ機能付高度車線内運転支援機能、渋滞追従機能付 ACC、LKAS、トラフィックジャムアシストの作動状態

ハンズオフ機能付高度車線内運転支援機能、渋滞追従機能付 ACC：

- ブルー：作動中(ハンズオフ可能)
  ▶先行車を検知していないとき、ホワイト / ブルーで表示
- グリーン：作動中
  ▶先行車を検知していないとき、ホワイト / グリーンで表示
- ホワイト：待機中

LKAS およびトラフィックジャムアシスト：

- ブルー：作動中(ハンズオフ可能)
- グリーン：作動中
- ホワイト：待機中、もしくはシステムによる車線変更中

❸LKASおよびトラフィックジャムアシストの検知状態

- ブルーの線：作動中(ハンズオフ可能)
- グリーンの線：作動中
- ホワイトの線：車線を検知した状態

❹ 渋滞追従機能付 ACC の前走車検知状態
- 制御対象車両アイコン：ホワイト、車両輪郭グリーン、またはブルー
- 制御対象外車両アイコン：グレー

❺ 渋滞追従機能付 ACC の設定車速

❻ 渋滞追従機能付 ACC の設定車間

❼ 車線変更支援機能の作動状態
- グリーン：作動中
- ホワイト：待機中
- オレンジ：システムが異常のとき

❽ / レコメンド型車線変更支援機能の作動状態
- グリーン：作動中
- ホワイト：待機中

❾ ステアリングアシストの作動状態
- ブルー：作動中(ハンズオフ可能)
- グリーン：作動中
- ホワイト：一時解除中

衝突軽減ブレーキ（CMBS）

自車が、前方の車両（二輪車含む）のほぼ真後ろから追突するおそれがあるときや、対向車両に正面から衝突するおそれがあるとき、前方の交差車両に衝突するおそれがあるとき、歩行者および人が乗車し移動している自転車（移動する自転車）に衝突するおそれがあるときに運転者に警告したり、運転者のブレーキ操作の支援や、衝突回避の支援、衝突被害の軽減を支援したりするシステムです。

▶衝突軽減ブレーキ（CMBS）

⚠警告

衝突軽減ブレーキ（CMBS）は、あらゆる状況で衝突を回避できるシステムではありません。レーダーやカメラは天候や速度、路面状況によって検知しにくいことがあります。

システムに頼った運転をすると、衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

周囲の状況を確認し、十分な車間距離を保ち安全運転を行ってください。

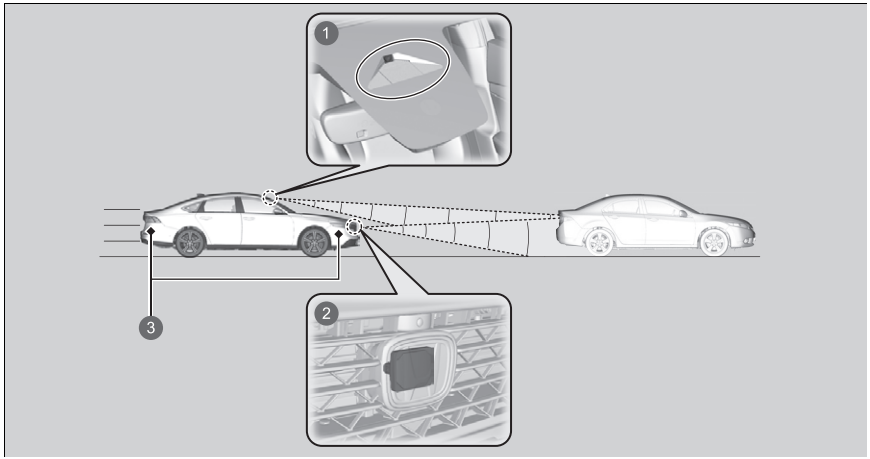
レーダーセンサーの取り扱いについては下記を参照してください。
➔ **レーダーセンサー** P.547

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。
➔ **フロントセンサーカメラ** P.545

頻繁に警報が作動するなど、システムに異常を感じたときは、Honda 販売店で点検を受けてください。

パワーシステムを起動後、約 15 秒の間はCMBS は作動しません。

■システムの作動



❶ フロントガラスの上部にフロントセンサーカメラを装備
❷ フロントグリルにあるHondaエンブレムの奥に、CMBSのレーダーセンサーを装備
❸ フロントバンパーとリヤバンパーにコーナーレーダーセンサーを装備

自車の車速が約5km/h以上になるとレーダーセンサーとカメラが前方の車両（二輪車含む）、歩行者および移動する自転車の検知を開始。

衝突軽減ブレーキ（CMBS）

アクセルペダルの踏み込み量が大きいときに、システムが作動しない場合があります。

次ページに続く

自車との速度差が約 5km/h 以上ある車両（二輪車含む）、歩行者および移動する自転車に対して衝突のおそれがあるときに、CMBS が作動します。

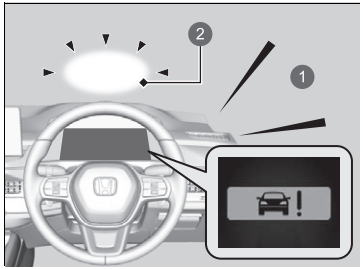
交差点などでの左折や右折時は、自車が約 30km/h 以下で走行中に対向車両（二輪車含む）、歩行者および移動する自転車に対して正面で衝突するおそれがあるときに、CMBS が作動します。

対向車両、停止車両、前方の交差車両、歩行者および移動する自転車に対しては、自車が約 100km/h 以下で走行中に衝突のおそれがあるときに、CMBS が作動します。

側方から接近する車両に対して、自車が約 85km/h 以下で走行中に衝突のおそれがあるときに CMBS が作動します。

CMBS が作動し、停車した後または衝突のおそれがなくなったと判断した後に、CMBS は解除されます。
なお、衝突を回避しようとして、運転者がハンドル、ブレーキペダル、アクセルペダルを操作したときは、CMBS が解除されることがあります。

■CMBS の警告のしかた



❶ 警告音
❷ ヘッドアップワーニング

システムはメーター、ヘッドアップワーニングの警告表示や警告音により衝突のおそれがあることを運転者に知らせます。

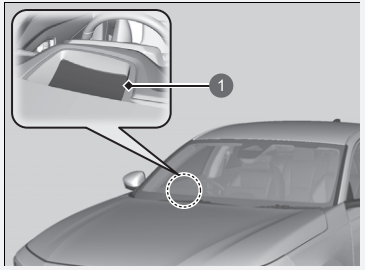
▶ブレーキやハンドルを操作するなどの適切な行動で衝突を回避してください。

CMBS の警報距離を遠め・標準・近めの 3 段階から選択することができます。
➔ **設定** P.285

遠めは標準に対して遠くで警告します。近めは標準に対して近くで警告します。

CMBS の警告のしかた

ヘッドアップワーニングのレンズは、ダッシュボード前方にあります。レンズを物でふさいだり、液体をこぼしたりしないでください。

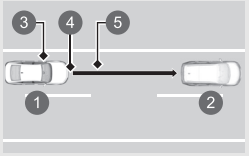
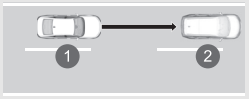
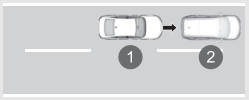


❶ レンズ

次ページに続く

■ CMBS 作動の流れ

CMBSの作動には衝突の可能性に応じ3つの段階があります。しかし、状況によっては途中の段階から作動することがあります。

車両と自車の距離		状況	ブザーと表示による警告	ブレーキ
第 1 段階		車両への衝突のおそれがでてきた状況	警告表示が点滅する さらに接近すると、警告表示およびブザーによる警報を行う ▶ 衝突警報距離を変更することができます。 ➔ **設定** P.285	—
第 2 段階		衝突の危険が増し、衝突するまでの余裕が少なくなった状況	警告表示およびブザーによる警報を行う	軽いブレーキ
第 3 段階		回避が困難な状況		強いブレーキ

※：CMBS によるブレーキが作動しているときは制動灯が点灯します。

❶ 自車
❷ 車両
❸ 遠め
❹ 標準
❺ 近め

■ CMBS の ON と OFF

マルチインフォメーションディスプレイを使用して、システムの ON/OFF を切り換えることができます。

表示の切り換えかた P.106

安全支援情報 P.116

CMBS を OFF にした状態でパワーモードを OFF にした場合でも、再度パワーモードを ON にすると自動的に ON になります。

衝突軽減ブレーキ（CMBS）

走行中は CMBS を OFF にすることはできません。

以下の場合、CMBS が自動的に停止し、警告灯が点灯することがあります。

- 悪路の走行や山岳路を長時間走行したとき
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- パーキングブレーキをかけて走行したとき
- フロントグリルまたはフロントガラスがほこり、泥、落ち葉、湿った雪などで覆われているとき
- タイヤの異常を検出したとき

CMBS が作動できる状態になると、CMBS は自動復帰します。

車両の整備や検査の際に、シャシーダイナモやフリーローラーを使用するときは CMBS を OFF にしてください。

次ページに続く

■ CMBS の条件と制限

次のような場合、レーダーセンサーやカメラが車両(二輪車含む)、歩行者および移動する自転車や路面状況を正しく検知できず、CMBS が正常に作動しない場合があります。

➔ **フロントセンサーカメラ** P.545
➔ **レーダーセンサー** P.547

■環境によりシステムが正しく検知できない事例

- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき
- 車両(二輪車含む)、前方の交差車両、歩行者および移動する自転車と背景のコントラストが低いとき
- 夜明けや夕暮れ時に太陽に向かって走行するとき
- 強い光が車両、歩行者、移動する自転車および路面に反射しているとき
- 路上の設置物(ガードレール、電柱、木、駐車車両、建物、壁など)を、車両や歩行者と誤って認識したとき
- 車内の物がフロントガラスに反射したとき
- 夜間やトンネル内などで周囲が暗く、車両(二輪車含む)、歩行者および移動する自転車の全体が照らされていないとき
- 他の車両のレーダーや強い電波を発する設備などが付近にあるとき
- 周辺に構造物などがない開けた道路を走行するときや交通量が少ないとき

衝突軽減ブレーキ(CMBS)

12Vバッテリー再接続後、VSA(ビークルスタビリティアシスト)警告灯と渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)警告灯(オレンジ)*、ACC/LKAS システム警告灯(オレンジ)*、安全支援情報警告灯(オレンジ)、ブレーキシステム警告灯(オレンジ)が一時的に点灯する場合があります。
車速 20km/h 以上でしばらく走行すると消灯します。消灯しないときは Honda 販売店で点検を受けてください。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■道路の状態によりシステムが正しく検知できない事例

- 不鮮明な車線、タイヤのあと、ライトの反射、水しぶき、高いコントラストなどがある雪道、または湿った路面のとき
- カーブ、うねった道路、坂道などのとき
- 坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- 車両、歩行者および移動する自転車の周囲に電波を強く反射する物があるとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき

次ページに続く

■自車の状態によりシステムが正しく検知できない事例

- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれて、暗いところで前方が見にくいとき
- フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリー、ステッカーやフィルムなどによりカメラ前方が覆われているとき
- フロントガラスの内側が曇っているとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- トランクやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- パーキングブレーキをかけたとき
- フロントグリルやフロントバンパーの周辺が汚れ、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリー、ステッカーやフィルムなどで覆われているとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところで、ヘッドライトを点灯していない状態で走行しているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- ウインドウウォッシャーの水滴、またはワイパーブレードがカメラの視界を遮っているとき
- スリップなど、車両挙動が不安定なとき

■前方の車両、対向車両、前方の交差車両、歩行者および移動する自転車の状態によりシステムが正しく検知できない事例

- 前方の車両（二輪車含む）、対向車両、前方の交差車両、歩行者および移動する自転車との距離が極端に短いとき
- 前方に車両（二輪車含む）、対向車両、前方の交差車両、歩行者および移動する自転車が急に割り込んできたり、飛び出してきたとき
- 自転車が停止しているとき
- 前方の車両（二輪車含む）、対向車両、前方の交差車両が横向き、または斜めを向いているとき
- 前方の車両（二輪車含む）、対向車両、前方の交差車両、歩行者および移動する自転車が背景に紛れて検知できないとき
- 歩行者が集団で前方にいるとき
- 移動する自転車が集団で前方にいるとき
- 歩行者や移動する自転車の横断速度が速いとき
- 歩行者や移動する自転車が対向して接近してきたとき
- 暗がりで前方の車両、対向車両が片側点灯または無灯火のとき
- 歩行者の一部（頭や手足など）が荷物などによりかくれているとき
- 歩行者が前かがみやしゃがんだ姿勢をとっているとき、手を挙げたり、走っているとき
- 歩行者の身長が約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
- 歩行者がベビーカーや自転車などを押しているとき
- 車両が斜め横から接近してきたとき
- 特殊な形状の車両（タンクローリーまたは、荷物を積んでいないトラックなど）が側方から接近してきたとき
- カーブや坂を走行中の車両が側方から接近してきたとき

次ページに続く

■その他検知、作動できない事例

- 小さい二輪車やサイドカー付き二輪車、特殊な形状の車両および車いす
- 荷物を積んでいないトラックなど前側に対して後側の高さが低い、もしくは幅が狭い車両
- 前方の車両（二輪車含む）、対向車両、歩行者および移動する自転車が自車の正面にいないとき
- 前方の車両（二輪車含む）、対向車両、歩行者および移動する自転車と自車との速度差が大きいとき
- 側方から接近する車両、歩行者、および移動する自転車と自車との速度差が大きいとき
- 前方の車両（二輪車含む）や移動する自転車が急減速したとき
- 運転者が衝突を回避しようとして、ブレーキやハンドルを操作したとき
- 運転者が急加速やハンドル操作（交差点などでの右折時を除く）※1をしながら、前方の車両（二輪車含む）、対向車両、歩行者および移動する自転車に接近したとき
- 子供用自転車、折り畳み自転車および三輪車などのタイヤ径が小さい自転車やタンデム自転車などの全長が長い自転車
- 前方の車両（二輪車含む）、対向車両、前方の交差車両、歩行者および移動する自転車の形状をシステムが正しく検知できないとき
- 前方の車両または、前方の交差車両の最低地上高が極端に高いとき
- 右左折時に自車の進行方向と同方向に方向指示器（ウィンカー）を操作していないとき

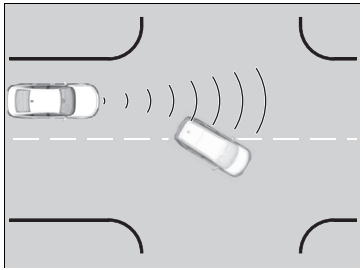
※1：右折時に対向車両に対して正面で衝突のおそれがあるときに CMBS が作動しますが、急なハンドル操作などによっては作動できない場合があります。

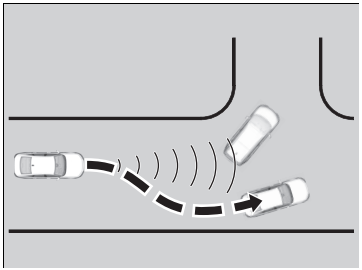
■衝突の可能性が高くない場合の作動について

衝突の可能性が高くなくても、以下のとき、CMBS が作動することがあります。

また、車両、歩行者および移動する自転車の動きによってシステムが衝突の可能性があると判断した場合には CMBS が作動することがあります。

- 左折、または右折している前方車両がいるとき、または右左折待ちの車両がいるとき
- 前走車を追い越すときに車両に接近して走行する場合

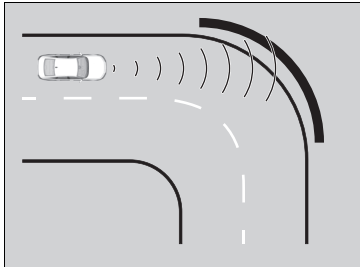




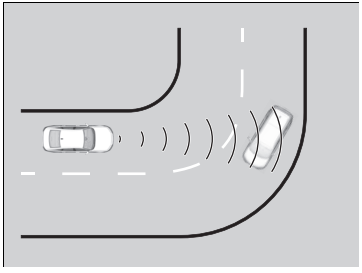
- 車両、歩行者および移動する自転車と自車が接近したとき
- 車両や歩行者、移動する自転車が自車の前方を通過したとき
- 低い構造物の下や狭いゲートの間などを規制速度を超えるような速度で通過しようとするとき

次ページに続く

- カーブ途中の道路脇に標識やガードレールなどの構造物があるとき



- カーブ走行などで自車の正面に対向車両がいるとき



- 駐車時など、停止している車両や壁に接近するとき
- カーブを走行中に側方から車両が接近するとき
- 左折または右折する車両(二輪車含む)、歩行者、および自転車を通過するとき
- 前方の側方から近づいてくる車両(二輪車含む)、歩行者、および自転車の前を通過するとき
- 車両(バイクを含む)、歩行者、および自転車が左折または右折して自車の側方から近づいたとき
- 左折または右折中に前方の車両(二輪車含む)、および自転車の前を通過しようとしたとき
- 左折または右折中に車両(二輪車含む)、および自転車が自車の前方を通過しようとしているとき
- 車両(二輪車含む)、歩行者、および自転車が自車の進路に入って止まったとき
- 左折または右折中に横断中の歩行者が自車の進路に入って止まったとき
- 路上駐車中の車両の横を通過するとき

- 路上駐車されている車両がある狭い道路などで、前方の障害物を避けるためにハンドルを切ったときに、自車の側面付近に歩行者がいるとき※1
- Uターンなどで対向車線に進入したときに、自車の側面付近に歩行者がいるとき※1

※1：Honda SENSING 360 装備車

踏み間違い衝突軽減システム

踏み間違い衝突軽減システムは近距離衝突軽減ブレーキ、誤発進抑制機能、後方誤発進抑制機能の 3 つの機能を持ったシステムです。
フロントおよびリヤバンパーに設置してあるソナーセンサーによって、自車が、壁などの障害物に衝突するおそれがある場合のブレーキ制御や壁などの障害物があるにもかかわらずアクセルペダルを必要以上に強く踏み込んだ場合のパワーシステムの出力抑制により、衝突回避を支援したり衝突被害の軽減を支援したりするシステムです。

≫踏み間違い衝突軽減システム

⚠警告

踏み間違い衝突軽減システムは、あらゆる状況でアクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎ、または見落としによる衝突を回避したり、衝突による被害を軽減できるものではありません。
機能に頼った運転をすると衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。
運転者がシフトポジションやペダルの位置および周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ走行してください。

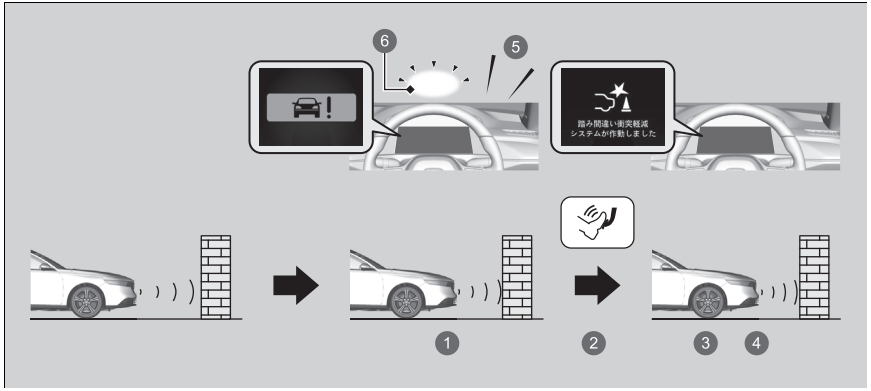
踏切内に閉じ込められた場合など、意図しないタイミングで踏み間違い衝突軽減システムが作動したときは、ブレーキペダルを踏み、システムが解除されてから運転を続けてください。

縁石・輪留め、道路上の段差によりシステムが作動し、駐車や段差を乗り越えることができない場合には機能を OFF にしてください。

■システムの作動

■近距離衝突軽減ブレーキ

約2km/h～約10km/hで走行しているとき、壁などの障害物に衝突するおそれがあるとき運転者のブレーキ操作を支援し、音と表示でお知らせします。



❶ 緊急ブレーキ作動開始
❷ ブレーキ
❸ 停車
❹ 停止保持後ブレーキ解除
❺ 警告音
❻ ヘッドアップワーニング

パーキングセンサーシステムをリヤのみ OFF にしている場合は、後退時の近距離衝突軽減ブレーキが作動しません。

➔ **設定** P.285

次ページに続く

踏み間違い衝突軽減システム

ソナーセンサーの取り扱いについては下記を参照してください。

➔ **ソナーセンサー** P.549

不要な作動を防ぐために、車両の整備や船舶、トラックなどへの積載時、検査の際のシャシーダイナモやフリーローラーを使用するときは OFF にしてください。

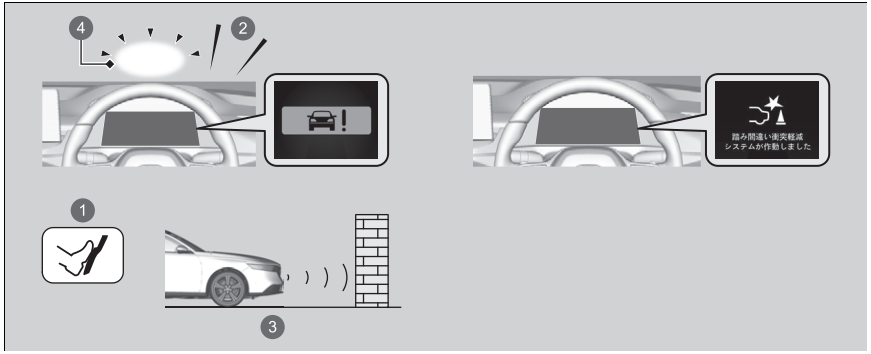
システムが作動してから一定時間経過するとブレーキ操作の支援が解除されます。停車状態を保持するには、ブレーキペダルを踏み続けるか、シフトポジションを P にしてください。

リアセンサーや、その周囲にアクセサリー(自転車ラックなど)を取り付けた場合、アクセサリーを障害物として検知して踏み間違い衝突軽減システムが作動する恐れがありますので、リアパーキングセンサーを OFF にしてください。

➔ **設定** P.285

■誤発進抑制機能および後方誤発進抑制機能

停車時や約 10km/h 以下で走行しているとき、自車のほぼ正面もしくは真後ろの近距離に壁などの障害物があるにもかかわらず、アクセルペダルを必要以上に強く踏み込んだ場合には、音と表示で知らせるとともにパワーシステムの出力抑制をすることで急な前進・後退を防止します。



❶ アクセル誤踏み込み
❷ 警告音
❸ パワーシステムの出力を制御
❹ ヘッドアップワーニング

誤発進抑制機能および後方誤発進抑制機能が作動しないとき
前進：急な坂道やシフトポジションが、[P]、[R]、[N]のとき
後退：

- 急な坂道やシフトポジションが[R]以外のとき
- パーキングセンサーシステムをリヤのみ OFF にしているとき

➡ **設定** P.285

■システムの ON と OFF

マルチインフォメーションディスプレイを使用して、システムの ON/OFF を切り換えることができます。

表示の切り換えかた P.106

安全支援情報 P.116

機能を OFF にした状態でパワーモードを OFF にした場合でも、再度パワーモードを ON にすると自動的に ON になります。

システムの ON と OFF

バッテリー再接続後、踏み間違い衝突軽減システムが一時的に OFF になる場合があります。

車速 15km/h 以上でしばらく走行すると自動で ON になります。

ON にならないときは Honda 販売店で点検を受けてください。

次ページに続く

■作動解除の条件

誤発進抑制機能および後方誤発進抑制機能の解除条件

- アクセルペダルを離したとき
- アクセルペダルを約 4 秒間踏み続けたとき
- ブレーキペダルを踏んだとき

近距離衝突軽減ブレーキの解除条件

近距離衝突軽減ブレーキが作動してから、一定時間経過したとき

■踏み間違い衝突軽減システムの条件と制限

次のような状態のときは、システムが正常に作動しない場合があります。

■システムが検知しない障害物の事例

- 人・雪・布・スポンジなど音波を反射しにくい障害物のとき
- フェンス・自転車・標識の支柱など細い障害物のとき
- 背が低い・小さい障害物のとき
- フロントバンパーおよびリヤバンパーのすぐ近くにある障害物のとき
- 地面に対して垂直でない壁などの障害物のとき
- 移動する物体など進路上に飛び出してきた障害物のとき

■システムが障害物を正しく検知できない事例

- ソナーセンサーが汚れているとき(雪、氷、泥などで覆われているとき)
- 車両が高温または低温の状況にあるとき
- 障害物に対して斜めに接近する場合やハンドルを大きく切っているとき

作動解除の条件

近距離衝突軽減ブレーキ、誤発進抑制機能および後方誤発進抑制機能が一度作動した後は、同じ障害物に近づいた場合は作動しません。
作動後一定距離走行した場合に再作動が可能となります。

近距離衝突軽減ブレーキ、誤発進抑制機能および後方誤発進抑制機能は、前進時と後退時にそれぞれ作動することができます。
(例：前進時に作動し一定距離走行前でも、後退時には作動する)
ただし近距離衝突軽減ブレーキが作動した場合、誤発進抑制機能および後方誤発進抑制機能の再作動には一定距離の走行が必要となります。

■その他システムが正しく作動しない事例

- トランクやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- 雨・霧・雪など悪天候のとき
- 気温・湿度が高いまたは低いとき
- 急勾配の坂道を走行するとき
- 他の車両のソナーセンサーなど、超音波を発するものが付近にあるとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- サスペンションを変更したとき

■次のような場合は衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります

- 低いゲートや狭いゲートなどの間を通過しようとするとき
- 凸凹な路面や、草地、段差がある場所を走行するとき
- 高い位置に斜めの柱や壁などが突き出しているとき
- 道路脇に障害物があるとき
- 旗や幕、木の枝、踏切や ETC ゲートのバーなどに向かって走行するとき
- 冠水した道を走行するとき

急アクセル抑制機能*

アクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる急加速を抑制するとともに、音と表示で知らせる運転支援機能です。

≫急アクセル抑制機能*

⚠警告

急アクセル抑制機能は、運転者の運転を支援するためのシステムであり、あらゆる状況でアクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる衝突を回避したり、衝突による被害を軽減できるものではありません。
システムに頼った運転をすると衝突など思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。
運転者はシフトポジションやペダルの位置や常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ走行してください。

急アクセル抑制機能はHonda販売店で機能が作動するように設定された Honda スマートキーが必要となります。
設定についてはHonda販売店にご相談ください。

急アクセル抑制機能が作動するように設定されていないキーと同時持ち込みをしないでください。
同時持ち込みをすると急アクセル抑制機能が起動しないことがあります。
起動のためには必ず設定されているキーで、内蔵キーを使わずに解錠するようにしてください。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■システムを作動させるには



急アクセル抑制機能が作動するように設定された Honda スマートキーを携帯していることを確認し、内蔵キーを使わずに解錠する。

▶パワーシステムを起動したとき、急アクセル抑制機能の起動メッセージ、急アクセル抑制機能表示灯の点灯を確認してください。

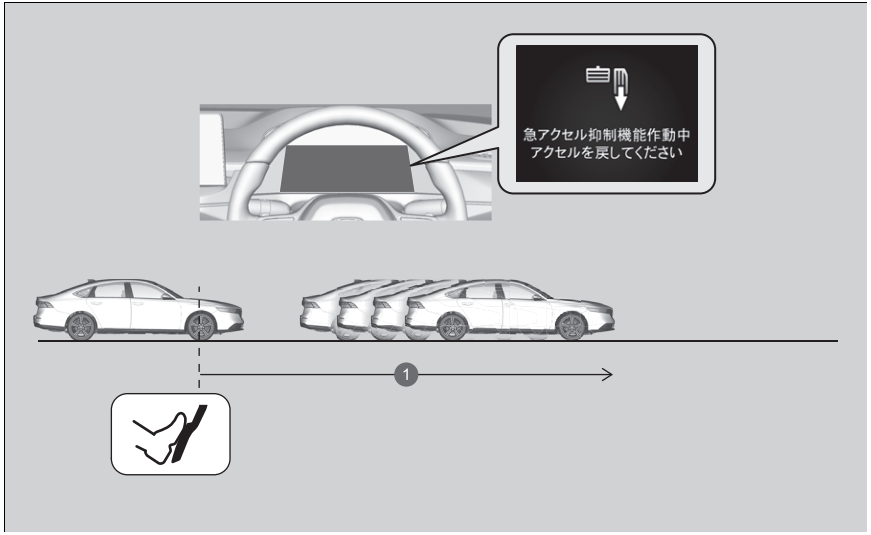
システムを作動させるには

電池切れの場合、急アクセル抑制機能が起動しない場合があります。

次ページに続く

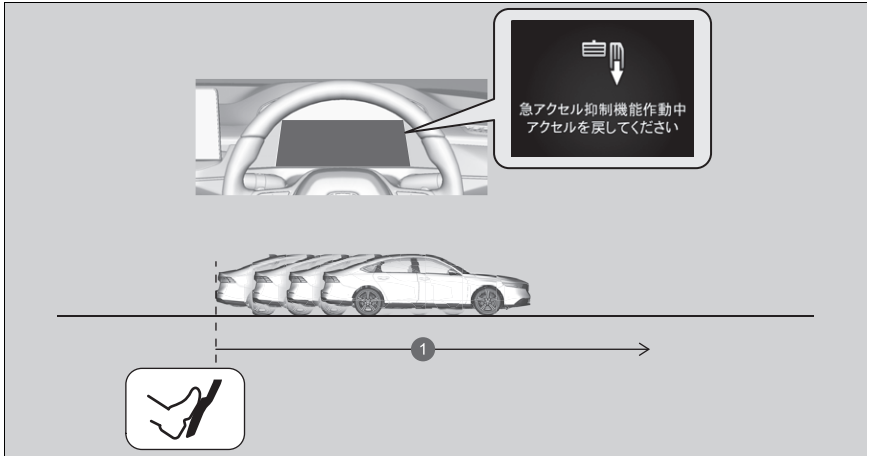
■システムの作動

車速が約 30km/ h 以下のとき、踏み間違いや踏みすぎでアクセルペダルを素早く強く踏み込んだ場合には、音と表示で知らせるとともに急加速を抑制します。



❶ 急加速を抑制

加速抑制状態中に、アクセルペダルを数秒間踏み続けたときや、加速抑制状態になった後、すぐにアクセルペダルを早く強く踏み直したときは、一定の速度まで徐々に加速します。



❶ 一定の速度まで徐々に加速

次の場合、急アクセル抑制機能は作動しません。

- 方向指示器が点滅中、または、消灯後、約 2 秒間
- ブレーキペダルを踏んでいるとき、またはブレーキペダルを離したあと、約2秒間
  ▶ オートマチックブレーキホールド作動時に急発進しようとすると、急アクセル抑制機能が作動する場合があります。
- 上り坂を走行しているとき

次ページに続く

■作動解除の条件

- アクセルペダルを離したとき

■急アクセル抑制機能の条件と制限

次のような状態のときは、急アクセル抑制機能が正常に作動しない場合があります。
また、加速したい場合に作動することがあります。

■道路状況

- 坂道、凸凹道、砂利道など非舗装路の走行
- 雪道などスリップが発生するような道路の走行
- 坂道の出口など、車両姿勢が急激に変化したとき
- スピードブレーカー、縁石など、大きな段差を乗り越えたとき

■自車の状態

- トランクやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき

■その他

- 惰性走行から急いで加速したとき（たとえば、ETC レーン通過後の加速）

前方交差車両警報

レーダーセンサーやセンサーカメラにより前方で交差する車両の接近を運転者に知らせる機能です。

前方交差車両警報

⚠警告

このシステムは前方の左右確認などをサポートするためのものであり、衝突を防止するためのシステムではありません。

必ず目視やミラーなどで前方および周囲の安全を直接確認して運転してください。
状況によっては、検知のできない可能性があるため、ブザーや画面の表示のみを頼って前進すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

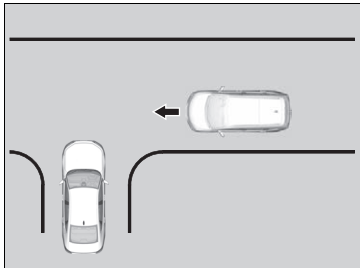
レーダーセンサーの取り扱いについては下記を参照してください。
➔ **レーダーセンサー** P.547

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。
➔ **フロントセンサーカメラ** P.545

パワーシステムを起動後、約 15 秒の間は前方交差車両警報は作動しません。

次ページに続く

■システムの作動条件



システムは以下の条件を満たしたときに作動します。

- シフトポジションがPまたは、R以外のとき
- 自車の車速が約 16km/h 以下のとき
- 交差車両が約 10km/h 以上で自車の前方付近を通過するとき

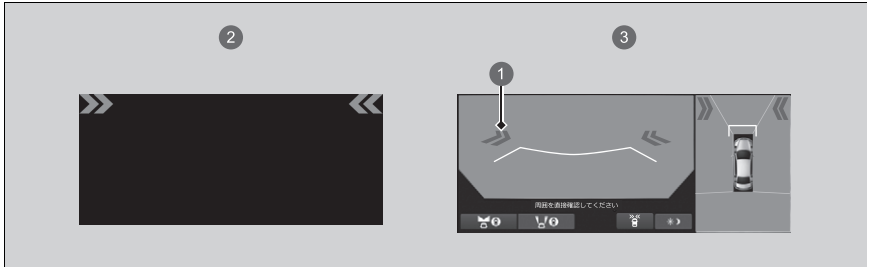
▶システムの作動条件

接近する歩行者、自転車、二輪車などに対して検知する場合があります。

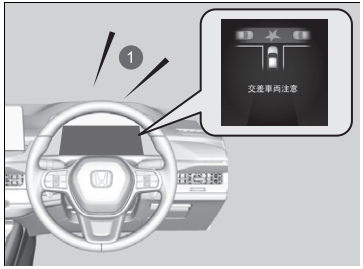
パワーシステム起動から発進の直後は前方交差車両警報は作動しません。

■システムが車両を検知したとき

システムが交差車両を検知している間は、ヘッドアップディスプレイおよびディスプレイオーディオ画面に車両検知矢印を表示します。



❶ 車両検知矢印
❷ ヘッドアップディスプレイ
❸ ディスプレイオーディオ画面



システムが交差車両を検知している状態で、自車が停車していないと判断されたときは、上記に加えメーター表示と音で警報を行います。

❶ 警告音

システムが車両を検知したとき

カスタマイズ機能を使用して、車両検知矢印を表示するかどうかをカスタマイズすることができます。

➔ **設定** P.285

次ページに続く

■前方交差車両警報の ON と OFF

マルチインフォメーションディスプレイを使用して、システムの ON/OFF を切り換えることができます。

➡ **表示の切り換えかた** P.106

➡ **安全支援情報** P.116

前方交差車両警報 を OFF にした状態でパワーモードを停止にした場合でも、再度パワーシステムを起動すると自動的に ON になります。

ディスプレイオーディオ画面の(前方交差車両警報アイコン)を押して、ディスプレイオーディオ画面の車両検知矢印の表示の ON/OFF を切り換えることができます。
パワーシステムを起動したときは、パワーシステムを停止する前の状態を保持します。

前方交差車両警報の ON と OFF

ディスプレイオーディオ画面のがに変わったときは、フロントバンパーや Honda エンブレム付近に雪や泥などが付着していることにより一時的にシステムが動作しません。フロントバンパーや Honda エンブレム付近の付着物を取り除いてください。

ディスプレイオーディオ画面にが表示されたとき、またはマルチビューカメラシステムで前方を表示しているときにが表示されないときは、システムに異常があります。Honda 販売店で点検を受けてください。

■前方交差車両警報の条件と制限

次のような場合、前方交差車両警報が正常に作動しない、または意図せずに作動してしまう場合があります。

➔ フロントセンサーカメラ P.545
➔ レーダーセンサー P.547

■環境によりシステムが正しく検知できない事例

- 雨・霧・雪など悪天候のとき
- 塀などの構造物が自車と交差車両の間に存在するとき
- 他の車両のレーダーや強い電波を発する設備などが付近にあるとき
- 車内の物がフロントガラスに反射したとき
- 周辺に構造物などがない開けた道路を走行するとき

■道路の状態によりシステムが正しく検知できない事例

- 自車または交差車両がカーブや坂道を走行しているとき
- 車両の周囲に電波を強く反射する物があるとき

■自車の状態によりシステムが正しく検知できない事例

- フロントグリルやフロントバンパーの周辺が汚れ、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリー、ステッカーやフィルムなどで覆われているとき
- トランクやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- フロントガラスの内側が曇っているとき

次ページに続く

■対象の状態によりシステムが正しく検知できない事例

- 交差車両の背が低い・小さいとき
- 交差車両の最低地上高が極端に高いとき
- 交差車両が特殊な形状の車両のとき
- 交差車両の速度が速いとき
- 接近する対象が歩行者や自転車、二輪車などのとき

■その他正常に作動しない、または意図せずに作動してしまう事例

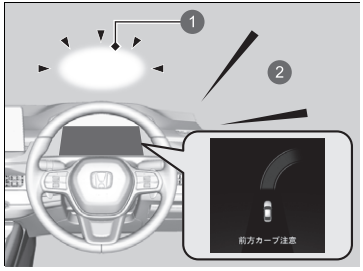
- 自車と前走車の間を交差車両がすり抜けるとき
- 自車進路の斜めから交差車両が接近するとき
- 自車または交差車両が駐車場などから突然交差車線へ急に割り込んだとき
- 自車または交差車両が急減速したとき
- 自車または交差車両が急加速や急なハンドル操作したとき
- 交差車両が遠方で交差するとき
- 停車している車両の横を通過するとき
- 路側の設置物(ガードレール、電柱、草木、建物、壁など)に接近したとき
- 近くの歩道や駐車場などを車両や歩行者が移動しているとき
- 交差車両が自車手前で停止や右左折をするとき
- 交差車両が自車の後方を通過するとき
- 交差車両より先に自車が交差点を通過するとき
- 分離帯などによって分離された車線を交差車両が通過するとき
- 信号待ちをしている際に交差車両が接近したとき
- 自車側面に車両や歩行者が接近するとき
- 対向車とすれ違うときや、他車が並走または割り込みをするとき
- モノレールなどの立体交差物が自車と交差するとき
- 融雪時の散水、水しぶきなどを通過するとき

Honda SENSING 360+ 装備車

カーブ路外逸脱早期警報

カーブ路外逸脱早期警報は、高速道路や自動車専用道(一部を除く)で自車が高車速でカーブに進入するおそれがあるときに、運転者のブレーキ操作を促すシステムです。

■システムの作動



❶ ヘッドアップワーニング
❷ 警告音

高速道路や自動車専用道を走行時に、適正車速を超える車速でカーブに進入するおそれがあるときに、メーターや、ヘッドアップワーニングで警告表示します。
また、状況に応じて警告音やブレーキ操作を支援し、運転者の操作を促します。
なお、運転者が一定以上のブレーキ操作やアクセル操作をしたときは、運転者の操作を優先し、システムは解除されます。

≫カーブ路外逸脱早期警報

⚠警告

カーブ路外逸脱早期警報は補助システムとして使用してください。
カーブ路外逸脱早期警報は自動運転システムではありません。あくまでも運転者をアシストするための機能です。

機能に頼った運転をすると、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

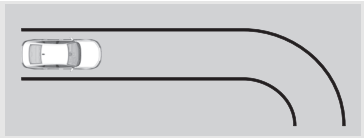
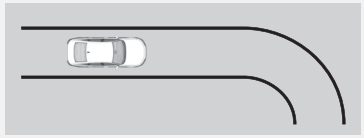
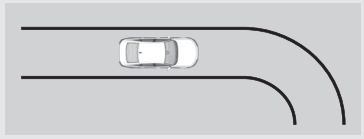
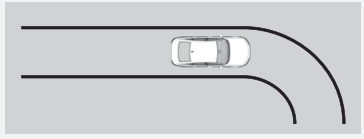
常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけて走行してください。

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。
➔ **フロントセンサーカメラ** P.545

次ページに続く

■作動の流れ

カーブ路外逸脱早期警報は状況に応じて４つの段階があります。カーブへの進入速度により作動タイミングは異なります。また、急な車線変更などの状況によっては途中の段階から作動する事があります。

自車とカーブまでの距離		状況	ブザーと表示による警告	減速操作
第 1 段階		適正車速以上でカーブに進入するおそれがある状況	警告表示が点灯する。	加速を制限
第 2 段階		運転者の操作がなく、第 1 段階が継続している状況	警告表示およびブザーにより警報を行う。	加速を制限
第 3 段階		運転者の操作がなく、第 2 段階が継続している状況		軽いブレーキ
第 4 段階		運転者の操作がなく、第 3 段階が継続している状況	警告表示およびブザーによる警報を一定時間継続する。	—

※：カーブ路外逸脱早期警報によるブレーキが作動しているときは制動灯が点灯します。

■カーブ路外逸脱早期警報の ON と OFF

マルチインフォメーションディスプレイを使用して、システムの ON/OFF を切り換えることができます。

➔ **表示の切り換えかた** P.106

➔ **安全支援情報** P.116

パワーシステムを起動したときは、パワーモードを OFF する前の状態(ON または OFF)を保持します。

■カーブ路外逸脱早期警報の条件と制限

以下の条件下では、システムが正常に作動しない場合があります。

■環境によりシステムが正しく検知できない事例

- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで周囲の明るさが変化したとき
- 強い光が路面に反射しているとき
- 先行車による水しぶきや雪の巻上げがあるとき
- 夜明けや夕暮れ時に太陽に向かって走行するとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- トンネル内やビル群周辺など、全球測位衛星システム GNSS の受信精度が低下する場所を走行したとき
- 車内の物がフロントガラスに反射したとき
- 白線(黄線)と道路表面の区別ができないとき
- 白線(黄線)の付近に影が映っているとき(木々、建物、ガードレール、車両など)
- 前方の車両との距離が極端に短く、車線や路面がかくれているとき

次ページに続く

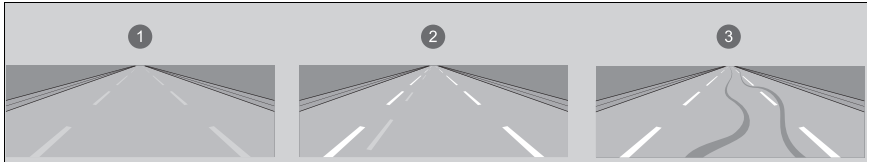
- 周辺に構造物などがない開けた道路を走行するときや交通量が少ないとき
- 地図登録情報と実際の道路状況が工事などで一致しないとき

■自車の状態によりシステムが正しく検知できない事例

- 急な車線変更をしたとき
- トランクやリヤシートに重い荷物を積んで、車両が傾いているとき
- フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリー、ステッカーやフィルムによりカメラ前方が覆われているとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところで、ヘッドライトが点灯していない状態で走行しているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれて、暗いところで前方が見にくいとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- フロントガラスの内側が曇っているとき

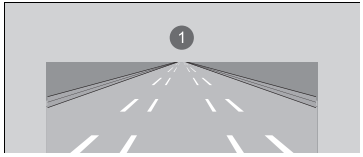
■道路の状態によりシステムが正しく検知できない事例

- 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- 道路の修復や劣化などにより重複やかすれている白線(黄線)、タイヤ痕、さまざまな線が道路にあるとき



❶ 線が薄くなっている
❷ 古い車線の消し残し
❸ タイヤ痕

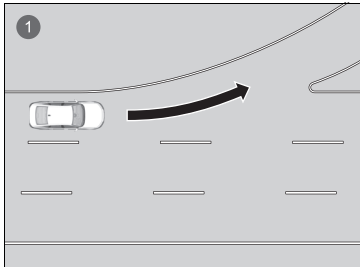
- 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき



❶ 車線幅が極端に広い／狭い

次ページに続く

- 車両などが白線(黄線)の一部を隠しているとき
- 坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき
- 工事区間(パイロン)が続くような道路を走行している場合
- 路上のもの(縁石、ガードレール、パイロンなど)を白線(黄線)と認識したとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
- 車線が二重に描かれている道路を走行するとき
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- 雪上路や路上の雪・水溜まりなどで舗装路が部分的に見えているとき
- 路面に水溜まりや水膜があるとき
- カーブ、うねった道路、坂道など、道路状況により白線(黄線)を正しく認識できないとき
- 未舗装路やわだちのある道路を走行しているとき
- 分岐・合流路などを走行するとき

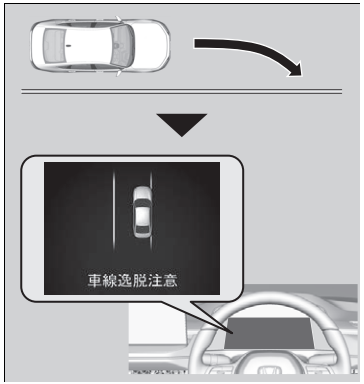


❶ 線のひかれていない分岐

路外逸脱抑制機能

路外逸脱抑制機能は、システムが車両の車線逸脱、草、砂利などの道路境界や対向車両への接近の可能性を検知すると、路外逸脱を回避するように運転を支援し警告で知らせる機能です。

■システムの作動



このシステムは、フロントガラス上部に設置されたカメラによって左右の白線(黄線)、草、砂利などの道路境界や対向車両を検知し、方向指示器(ウィンカー)を使用せずに白線(黄線)を逸脱した、または、草、砂利などの道路境界や対向車両へ接近したことを判断したとき、作動します。

▶車線区画線(白線や黄線)を検出できない場合、対向車両への接近を回避する支援は行いません。

マルチインフォメーションディスプレイにより警告を行うとともに、ハンドルを短時間振動させることで運転者の操作を促し、さらに逸脱を防ぐ方向にハンドル操作を支援します。

次ページに続く

▨路外逸脱抑制機能

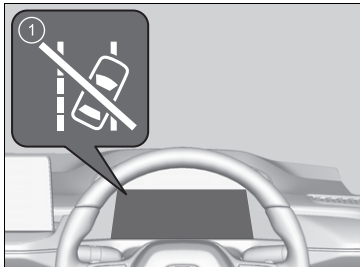
⚠警告

路外逸脱抑制機能は、補助システムとして使用してください。路外逸脱抑制機能は、自動運転システムではなく、運転者のハンドル操作に代わるものではありません。あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。

システムに頼った運転をすると、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけて走行してください。

路外逸脱抑制機能は、方向指示器(ウィンカー)を使用しない車線逸脱、草、砂利などの道路境界や対向車両への接近を検知したときに警告します。
車線区画線(白線や黄線)や車線逸脱を検出できない場合があります。草、砂利などの道路境界や対向車両への接近を検出できない場合があります。天候、速度や路面状況によっては、支援できない場合があります。



❶ 路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯

繰り返し路外逸脱抑制機能が作動しても運転者の操作がない場合は警報音が鳴ります。その後、路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯が点灯し操舵アシストが一時停止して、警報音のみで警告します。

一時停止状態から数分経過すると、路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯が消灯し路外逸脱抑制機能は復帰します。

≫路外逸脱抑制機能

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。
➡ **フロントセンサーカメラ** P.545

レーダーセンサーの取り扱いについては下記を参照してください。
➡ **レーダーセンサー** P.547

パワーシステムを起動後、約 15 秒の間は路外逸脱抑制機能は作動しません。

路外逸脱抑制機能は、正常に作動しないことがあります。
➡ **路外逸脱抑制機能の条件と制限** P.426

運転者による操作が行われているときや、路面の状況によっては支援が感じられないことがあります。

路外逸脱抑制機能

カスタマイズ機能でシステムの設定を変更することができます。

車線維持支援システム(LKAS)、またはトラフィックジャムアシスト(渋滞運転支援機能)を作動させていない場合、車線逸脱、草、砂利などの道路境界や対向車両への接近の可能性を検知したときに以下のメッセージが表示されることがあります。

➔ **設定** P.285



次ページに続く

■システムの作動条件

路外逸脱抑制機能は、以下の条件を満たすとき、作動します。

- 直線またはゆるやかなカーブの道路を走行しているとき
- 方向指示器(ウィンカー)を使用していないとき
- システムがアクセル、ブレーキ、ハンドルの操作の量と頻度から運転意志がないと判断したとき
- 白線(黄線)の場合
  車速が約 65km/h ～ 120km/h のとき
  ▶ 対向車両が走行している場合
  車速が約 30km/h ～ 120km/h のとき
- 草、砂利などの道路境界の場合
  車速が約 30km/h ～ 120km/h のとき

システムの作動条件

路外逸脱抑制機能は自動的に OFF になり、安全支援情報警告灯(オレンジ)および路外逸脱制御機能警告灯(オレンジ)が点灯する場合があります。

警告灯 P.83

下記の条件下では路外逸脱抑制機能を抑制しています。

- カーブ内側に、はみ出して走行してしまっているとき
- 車線幅が狭いとき

■システムの ON と OFF

マルチインフォメーションディスプレイを使用して、システムの ON/OFF を切り換えることができます。

➡ **表示の切り換えかた** P.106

➡ **安全支援情報** P.116

パワーシステムを起動したときは、パワーモードを OFF する前の状態(ON または OFF)を保持します。

システムの ON と OFF

システムの設定をカスタマイズすることができます。
カスタマイズ機能で「操舵アシストなし　警報のみ」を選択した場合、システムはハンドル制御を行いません。

➡ **設定** P.285

12V バッテリー再接続後、VSA(ビークルスタビリティアシスト)警告灯と渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)警告灯(オレンジ)*、ACC/LKAS システム警告灯(オレンジ)*、安全支援情報警告灯(オレンジ)、ブレーキシステム警告灯(オレンジ)が一時的に点灯する場合があります。
車速 20km/h 以上でしばらく走行すると消灯します。消灯しないときは Honda 販売店で点検を受けてください。

次ページに続く

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■路外逸脱抑制機能の条件と制限

以下の条件下では、システムは白線(黄線)、草、砂利などの道路境界や対向車両を検知できず、システムが正しく機能しない場合があります。

■環境の状態によりシステムが正しく検知できない事例

- 白線(黄線)と道路表面の区別ができないとき
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 夜明けや夕暮れ時に太陽に向かって走行するとき
- 白線(黄線)の付近に影が映っているとき(木々、建物、ガードレール、車両など)
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで周囲の明るさが変化したとき
- 強い光が路面に反射しているとき
- 先行車による水しぶきや雪の巻上げがあるとき
- 夜間やトンネル内などで周囲が暗く、車線や路面、対向車両の全体が照らされていないとき
- 前方の車両との距離が極端に短く、車線や路面がかくれているとき
- 道路境界が草や砂利以外などのとき
- 他の車両のレーダーや強い電波を発する設備などが付近にあるとき
- 周辺に構造物などがない開けた道路を走行するときや交通量が少ないとき

■道路の状態によりシステムが正しく検知できない事例

- 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- 道路の修復や劣化などにより重複やかすれている白線(黄線)、タイヤ痕、さまざまな線が道路にあるとき
- 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき
- 車両などが白線(黄線)の一部を隠しているとき
- 坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき
- 路上のもの(縁石、ガードレール、パイロンなど)を白線(黄線)と認識したとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
- 車線が二重に描かれている道路を走行するとき
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- 分岐・合流路などを走行するとき
- 雪上路や路上の雪・水溜まりなどで舗装路が部分的に見えているとき
- 未舗装路やわだちのある道路を走行しているとき
- カーブ、うねった道路、坂道など、道路状況により白線(黄線)を正しく認識できないとき
- 狭い鉄橋を走行しているときなど、車両の周囲に電波を強く反射する物があるとき

次ページに続く

■自車の状態によりシステムが正しく検知できない事例

- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれて、暗いところで前方が見にくいとき
- フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリー、ステッカーやフィルムによりカメラ前方が覆われているとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところで、ヘッドライトが点灯していない状態で走行しているとき
- 運転者がアクセル、ブレーキまたはステアリングを操作したとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- トランクやリヤシートに重い荷物を積んで、車両が傾いているとき
- サスペンションを変更したとき
- フロントグリルやフロントバンパーの周辺が汚れ、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリー、ステッカーやフィルムなどで覆われているとき

■対向車両の状態により正しく検知できない事例
- 対向車両が横、または斜めを向いているとき
- 前方に対向車両が飛び出したとき
- 対向車両が背景に紛れて検知できないとき
- 暗がりで対向車両が片側点灯または無灯火のとき
- 対向車両との距離が極端に短いとき
- 対向車両の一部が前方の車両によりかくれているとき
- 対向車線が複数あるとき、または右左折専用車線があるとき
- 隣接車線に駐停車もしくは極端に遅い速度で移動している車両があるとき
- 車両の最低地上高が極端に高いとき
- 路側の設置物(ガードレール、電柱、木、駐車車両、建物、壁など)を検知したとき

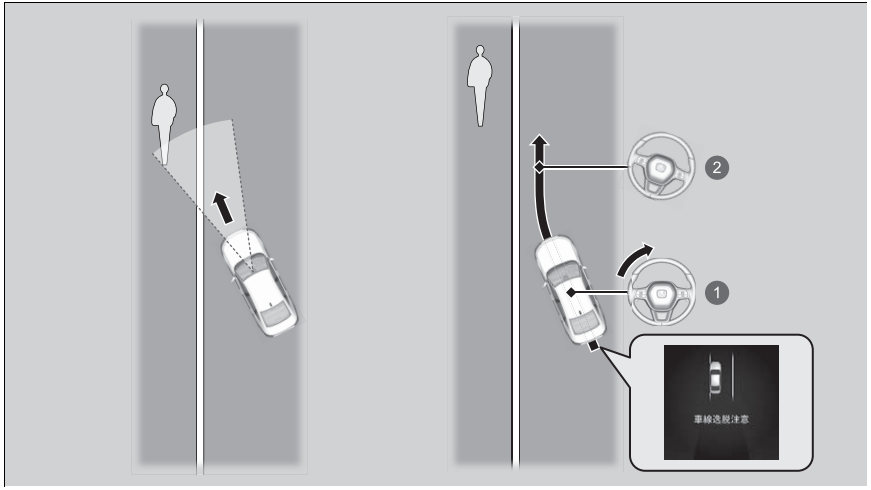
■その他、作動できない事例
- 対向車両が特殊な形状の車両
- 対向車両の形状をシステムが正しく検知できないとき
- 対向車を適切に検知するのが困難なカーブ、または起伏のある坂道を走行しているとき

■衝突の可能性のない場合の作動について
以下のとき、路外逸脱抑制機能が作動することがあります。
- カーブ走行などで自車の正面に対向車両がいるとき

歩行者事故低減ステアリング

カメラにより歩行者と白線(黄線)を検出し、ステアリング操作を支援することにより運転者の衝突回避操作を促します。

■システムの作動



❶ 警報と支援
❷ 運転者の回避操作
カメラが白線(黄線)および歩行者を検出します。
路肩の歩行者との衝突のおそれがある場合、表示と警報音で警報し、さらにステアリング支援で回避操作を促すので、必ず回避行動をとってください。
車両と歩行者の位置関係によっては衝突軽減ブレーキ(CMBS)の作動が優先される場合があります。

≫歩行者事故低減ステアリング

⚠警告

歩行者事故低減ステアリングは、運転者の運転操作を支援するシステムです。
あらゆる状況での歩行者事故を、軽減したり回避できるものではありません。

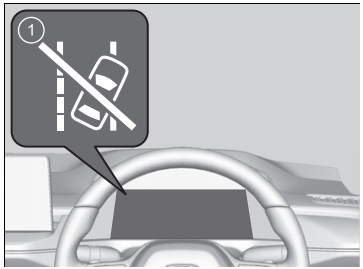
システムに頼った運転をすると、衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

運転者は周囲の状況を確認し、歩行者と適切な距離を保ち安全運転を行ってください。

車線内を走行していないときは、歩行者事故低減ステアリングは作動しません。

パワーシステム起動後、約 15 秒の間は歩行者事故低減ステアリングは作動しません。

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。
➡ **フロントセンサーカメラ** P.545



❶ 路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯

繰り返し歩行者事故低減ステアリングが作動しても運転者の操作がない場合は警報音が鳴ります。その後、路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯が点灯し操舵アシストが一時停止して、警報音のみで警告します。

一時停止状態から数分経過すると、路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯が消灯し歩行者事故低減ステアリングは復帰します。

歩行者事故低減ステアリング

歩行者事故低減ステアリングは、正常に作動しないことがあります。

歩行者事故低減ステアリングシステムの条件と制限 P.434

運転者による操作が行われているときや、路面の状況によっては支援が感じられないことがあります。

次ページに続く

■システムの作動条件

歩行者事故低減ステアリングは、以下の条件を満たすとき作動します。

- 白線(黄線)が連続しているとき
- 車速が約 10 ～ 40km/h で走行しているとき
- 直線の道路を走行しているとき
- 方向指示器(ウィンカー)を使用していないとき
- システムがアクセル、ブレーキ、ハンドルの操作の量と頻度から運転意志がないと判断したとき

■システムの ON と OFF

歩行者事故低減ステアリングは、路外逸脱抑制機能がONのときに作動します。マルチインフォメーションディスプレイを使用して、システムの ON/OFF を切り換えることができます。

➡ **表示の切り換えかた** P.106

➡ **安全支援情報** P.116

パワーシステムを起動したときは、パワーモードを OFF する前の状態(ON または OFF)を保持します。

システムの ON と OFF

カスタマイズ機能で路外逸脱抑制機能の設定を「操舵アシストなし　警報のみ」を選択した場合、歩行者事故低減ステアリングはステアリング制御を行いません。

➡ **設定** P.285

12V バッテリー再接続後、VSA(ビークルスタビリティアシスト)警告灯と渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)警告灯(オレンジ)*、ACC/LKAS システム警告灯(オレンジ)*、安全支援情報警告灯(オレンジ)、ブレーキシステム警告灯(オレンジ)が一時的に点灯する場合があります。
車速 20km/h 以上でしばらく走行すると消灯します。消灯しないときは Honda 販売店で点検を受けてください。

次ページに続く

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■歩行者事故低減ステアリングシステムの条件と制限

以下の条件で、歩行者事故低減ステアリングの支援が遅れたり、支援できない場合があります。
運転者が周囲の状況を確認し、歩行者と適切な距離を保ち安全運転を行ってください。

■環境によりシステムが正しく検知できない事例

- 白線(黄線)と道路表面の区別ができないとき
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 夜明けや夕暮れ時に太陽に向かって走行するとき
- 強い光が歩行者や路面に反射しているとき
- 白線(黄線)の付近に影が映っているとき(木々、建物、ガードレール、車両など)
- 前方の車両による水しぶきや雪の巻上げがあるとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで周囲の明るさが変化したとき
- 夜間やトンネル内などで周囲が暗く、車線や路面、歩行者の全体が照らされていないとき
- 前方の車両との距離が極端に短く、車線や路面がかくれているとき

■道路の状態によりシステムが正しく検知できない事例

- 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- 道路の修復や劣化などにより重複やかすれている白線(黄線)、タイヤ痕、さまざまな線が道路にあるとき
- 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき
- 車両などが白線(黄線)の一部を隠しているとき
- 坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき
- 路上のもの(縁石、ガードレール、パイロンなど)を白線(黄線)と認識したとき
- カーブ、うねった道路、坂道など、道路状況により白線(黄線)や歩行者を正しく認識できないとき
- 未舗装路やわだちのある道路を走行しているとき
- 車線が二重に描かれている道路を走行するとき
- 分岐・合流路などを走行するとき
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
- 雪上路や路上の雪・水溜まりなどで舗装路が部分的に見えているとき

次ページに続く

■自車の状態によりシステムが正しく検知できない事例

- ワイパーの拭き残しがあるとき
- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれて、暗いところで前方が見にくいとき
- トランクやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリー、ステッカーやフィルムによりカメラ前方が覆われているとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところで、ヘッドライトが点灯していない状態で走行しているとき
- サスペンションを変更したとき
- 運転者がアクセル、ブレーキまたはステアリングを操作したとき

■歩行者の状態によりシステムが正しく検知できない事例

- 歩行者との距離が極端に短いとき
- 歩行者との速度差が大きいとき
- 前方に歩行者が飛び出したとき
- 歩行者がベビーカーや自転車などを押しているとき
- 歩行者の一部(頭や手足など)が荷物などによりかくれているとき
- 歩行者が背景に紛れて検知できないとき
- 歩行者が前かがみやしゃがんだ姿勢をとっているとき、手を挙げたり、走っているとき
- 歩行者の身長が約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
- 歩行者が集団で前方にいるとき

■その他、作動できない事例

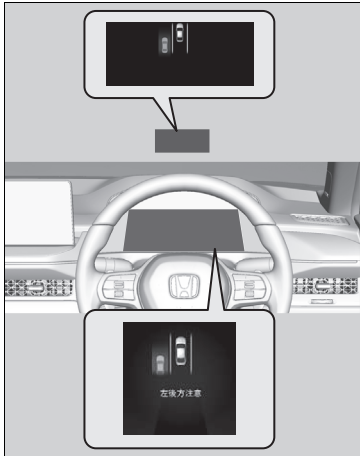
- 運転者が急加速やステアリング操作をしながら、前方の歩行者に接近したとき
- 歩行者の形状をシステムが正しく検知できないとき
- 自転車や二輪車、車いす、特殊な形状の車両などのとき

車線変更時衝突抑制機能

車線変更などの操作時に後方の側方車両との衝突のおそれがあるとき、表示と警報音で運転者の操作を促し、ハンドル操作を支援する機能です。

■システムの作動





以下の条件を満たしているときに、後側方車両と衝突のおそれがある車線変更をしようとすると、車線変更時衝突抑制機能警告灯が点滅し、表示と音で警報を行い、衝突を回避する方向にハンドル操作を支援します。

- 車速が約 48 ～ 120km/h で走行しているとき
- 左右に白線(黄線)が引かれている車線の中央付近を走行しているとき
- 左右の白線(黄線)を検知しているとき
- 直線またはゆるやかなカーブの道路を走行しているとき
- 追い越される場合： 後方の側方から接近する車両と自車の速度差が約50km/h以下のとき
- 追い越しの場合： 追い越した車両と自車の速度差が約 14km/h 以下のとき

≫車線変更時衝突抑制機能

⚠警告

車線変更時衝突抑制機能は、運転者の運転を支援するためのシステムであり、あらゆる状況での事故を回避したり、軽減できるものではありません。

システムに頼った運転をすると、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。
常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけて走行してください。

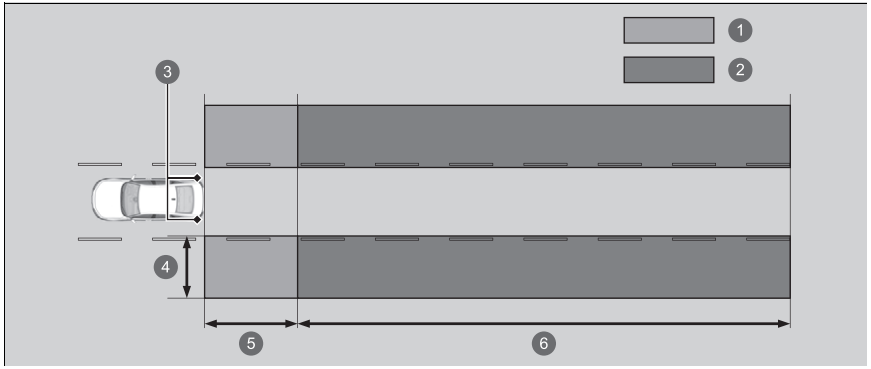
パワーシステムを起動後、約 15 秒の間は車線変更時抑制機能は作動しません。

レーダーセンサーの取り扱いについては下記を参照してください。
➔ **レーダーセンサー** P.547

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。
➔ **フロントセンサーカメラ** P.545

システムの作動中に運転者が操作した場合は運転者の操作を優先します。

■車線変更時衝突抑制機能の検知範囲



❶ 検知範囲 1
❷ 検知範囲 2
❸ レーダーセンサー：リヤバンパーの内側にあります
検知距離
❹ 側面から約 0.5 ～ 3m
❺ リヤバンパーから約 3m 後方
❻ リヤバンパーから後方約 3 ～ 50m（接近する車両が自車に対して速いほど、より遠くから検知します。）

次ページに続く

■車線変更時衝突抑制機能の ON と OFF

マルチインフォメーションディスプレイを使用して、システムの ON/OFF を切り換えることができます。

➔ **表示の切り換えかた** P.106

➔ **安全支援情報** P.116

パワーシステムを起動したときは、パワーシステムを停止にする前の状態(ON または OFF)を保持します。

▶車線変更時衝突抑制機能の ON と OFF

操舵アシスト、警報音、警報表示の設定をカスタマイズすることができます。

➔ **設定** P.285

■車線変更時衝突抑制機能の条件と制限

以下のような場合、車線変更時衝突抑制機能警告灯が点灯しないことがあります。

- レーダーセンサーによって検知されていないものに接近したり、通過したりしたとき

以下の場合、システムが影響を受け正確に表示しないなどの可能性があります。

- 二輪車が検知範囲に入ったときや、電波を反射しないものが検知範囲にあるとき
- リヤバンパーまたは、レーダーセンサーが不適切に修理されているか、リヤバンパーが変形している。

次のような場合、レーダーが車両を正しく検知できず、車線変更時衝突抑制機能が正常に作動しない場合があります。

- 自車が隣接する車線を走行する車両を追い越した直後
- カーブの内側の車線を大きくはみ出して走行しているとき
- ルーフに長い荷物を載せてフロントガラス上にかかっているとき
- 交差点を右左折しているとき
- 自車または周辺の車両が、車線の片側にかたよって走行しているとき

次ページに続く

次のような場合、システムが白線(黄線)や車両を正しく検知できず、車線変更時衝突抑制機能が正常に作動しない場合があります。

■環境によりシステムが正しく検知できない事例

- 白線(黄線)と道路表面の区別ができないとき
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 夜明けや夕暮れ時に太陽に向かって走行するとき
- 白線(黄線)の付近に影が映っているとき(木々、建物、ガードレール、車両など)
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで周囲の明るさが変化したとき
- 夜間やトンネル内などで周囲が暗く、車線や路面が照らされていないとき
- 前方の車両との距離が極端に短く、車線や路面がかくれているとき
- 強い光が路面に反射しているとき
- 先行車による水しぶきや雪の巻上げがあるとき
- 太陽の光など強い光が直接または間接的にフロントセンサーカメラに入るとき
- 他の車両のレーダーや強い電波を発する設備などが付近にあるとき
- 周辺に構造物などがない開けた道路を走行するときや交通量が少ないとき

■道路状況によりシステムが正しく検知できない事例

- 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- 道路の修復や劣化などにより重複やかすれている白線(黄線)、タイヤ痕、さまざまな線が道路にあるとき
- 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき
- 車両などが白線(黄線)の一部を隠しているとき
- 坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき
- 路上のもの(縁石、ガードレール、パイロンなど)を白線(黄線)と認識したとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
- 車線が二重に描かれている道路を走行するとき
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- 雪上路や路上の雪・水溜まりなどで舗装路が部分的に見えているとき
- 路面に水溜まりや水膜があるとき
- カーブ、うねった道路、坂道などのとき
- 未舗装路やわだちのある道路を走行しているとき
- 分岐・合流路などを走行するとき
- トンネルや狭い鉄橋を走行しているときなど、車両の周囲に電波を強く反射する物があるとき
- 路側の設置物(ガードレール、電柱、木、駐車車両、建物、壁など)を検知したとき

次ページに続く

■自車状態によりシステムが正しく検知できない事例

- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれて、暗いところで前方が見にくいとき
- フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリー、ステッカーやフィルムによりカメラ前方が覆われているとき
- フロントグリルやフロントバンパーの周辺が汚れ、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリー、ステッカーやフィルムなどで覆われているとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところで、ヘッドライトが点灯していない状態で走行しているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- トランクやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- サスペンションを変更したとき
- 車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを取り付けているとき
- 滑りやすい路面などで車両の動きが不安定なとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき

■周辺の車両の状態によりシステムが正しく検知できない事例

- 車両との距離が極端に短いとき
- 自車と隣接する車線を走行する車両との速度差が大きいとき
- 車両が特殊な形状の車両のとき
- 車両の最低地上高が極端に高いとき
- 荷物を積んでいないトラックなど前側に対して後側の高さが低い、もしくは幅が狭い車両

■その他作動できない事例

- 隣接する車線に駐車車両があるとき
- 他の車両が隣接する車線よりさらに外側から接近してきたとき
- 自車と隣接する車線を走行する車両が二輪自動車などの小型な車両のとき
- 自車が隣接する車線を走行する車両を追い越した直後
- 接近する後側方車両との衝突回避の支援時に、その他の車両(二輪車含む)と衝突する可能性があるとき

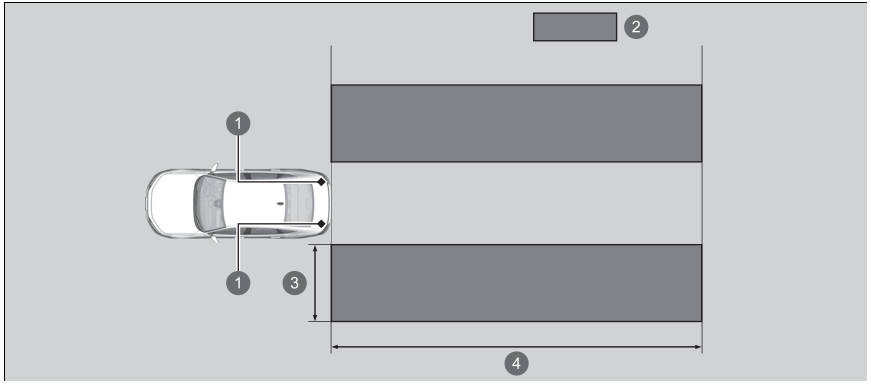
Honda SENSING 360+ 装備車

降車時車両接近警報

駐停車中に自車側方を通過する車両がいることを知らせ、降車を支援するシステムです。

■システムの作動条件

自車が停車しているとき、レーダーセンサーが検知範囲内を走行している車両を検知します。



❶ レーダーセンサー：リヤバンパー左右内側
❷ 検知範囲
❸ 車両側面から約 1.5m
❹ リヤバンパーから後方最大 40m（接近する車両が自車に対して早いほど、より遠くから検知）

≫降車時車両接近警報

⚠警告

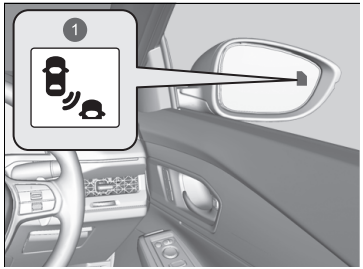
降車の際は目視やミラーなどで確認する。
状況により、車両を検知できない場合があります。直接確認をせずに降車を行うと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

他の運転支援システムと同様に、降車時車両接近警報には制限があります。

以下の場合は、Honda 販売店にご相談ください。
- リヤバンパーやレーダーセンサー周辺に衝撃が加わったとき
- 検知範囲内を他の車両が走行しているときに警告灯が点灯しないことが続くとき
- リヤバンパーや関連するシステムの修理を行うとき

システムを正しく作動させるために、必ず次のことをお守りください。
- リヤバンパーやレーダーセンサー周辺は常にきれいにしておく
- リヤバンパーの周辺にシールなどを貼り付けない

■システムが車両を検知したとき



❶ 車線変更時衝突抑制機能警告

車線変更時衝突抑制機能警告灯：両側のドアミラー内にあります。

車線変更時衝突抑制機能警告灯が点灯する条件：停車中にドアを閉めた状態で、後方から他の車両が 10km/h 以上の速度で接近してきたとき

車線変更時衝突抑制機能警告灯が点滅し、警報音が鳴る条件：車線変更時衝突抑制機能警告灯が点灯している状態で、検知された車両側のドアを開けたとき

▶ このとき警報音が 3 回鳴ります。

降車時車両接近警報

降車時車両接近警報はパワーシステム起動中に作動し、パワーシステム停止後もしばらく作動します。

以下の場合、降車時車両接近警報は作動しません。

- パワーシステム停止後約 3 分経過したとき
- Honda スマートキーシステムやキーレスエントリーシステムにより施錠したとき
- システムアップデートを開始したとき

システム終了時は、車線変更時衝突抑制機能警告灯が 3 回点滅します。

12V バッテリー再接続後、VSA（ビークルスタビリティアシスト）警告灯とACC/LKASシステム警告灯（オレンジ）、安全支援情報警告灯（オレンジ）、ブレーキシステム警告灯（オレンジ）が一時的に点灯する場合があります。
車速 20km/h 以上でしばらく走行すると消灯します。消灯しないときは Honda 販売店で点検を受けてください。

次ページに続く

■降車時車両接近警報の ON と OFF

マルチインフォメーションディスプレイを使用して、システムの ON/OFF を切り換えることができます。

➔ **表示の切り換えかた** P.106

➔ **安全支援情報** P.116

パワーシステムを起動したときは、パワーモードを OFF する前の状態（ON または OFF）を保持します。

▶降車時車両接近警報の ON と OFF

警報音の設定をカスタマイズすることができます。

➔ **設定** P.285

■降車時車両接近警報の条件と制限

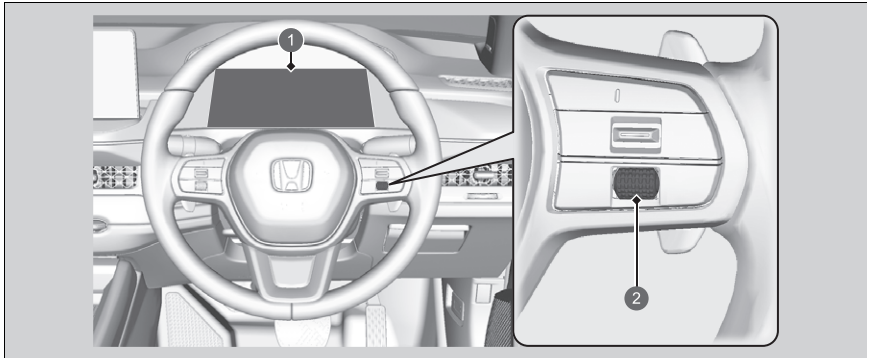
以下のような場合、システムが正常に作動しない場合があります。

- 自車側方を通過する車両の速度が大きいとき
- 自車側方を通過する車両が小さいとき
- 自車側方を通過する車両が発進した直後のとき
- 自転車や二輪車が他の車両との間をすり抜けてきたとき
- 自車後方に駐車車両があるとき
- 路側の設置物(ガードレール、電柱、木、駐車車両、建物、壁など)を検知したとき
- 歩行者が検知範囲に入ったときや、電波を反射しないものが検知範囲にあるとき
- 車両が進路変更や旋回をして接近してきたとき
- 他の車両のレーダーや強い電波を発する設備などが付近にあるとき
- リヤバンパーやレーダーセンサー周辺が土・泥・雪・氷で覆われているとき
- リヤバンパーやレーダーセンサー周辺が破損、変形しているとき
- 悪天候(雨、雪、霧など)のとき
- 旋回や路面の凹凸により車体が傾いているとき
- 急勾配の坂道に停車しているとき

Honda SENSING 360 装備車

ドライバー注意力モニター

ドライバー注意力モニターは運転者のハンドル操作に応じて居眠り運転や不注意運転を検知します。システムが検知したハンドル操作に応じて、マルチインフォメーションディスプレイ内に運転者の注意力レベルを表示します。



❶ マルチインフォメーションディスプレイ
❷ ライトセレクターホイール

ドライバー注意力モニター

ドライバー注意力モニターは、運転者の疲労や注意力を常時検知するものではありません。
ドライバー注意力レベルの表示に関わらず、疲労を感じたときは、安全な場所で十分に休憩をとってください。



マルチインフォメーションディスプレイで「ドライバー注意力レベル」を選択すると、ドライバー注意力レベルを白い目盛りで表示します。

➡ **表示の切り換えかた** P.106

❶ ドライバー注意力レベル



注意力の目盛りが 2 になると「ドライバー注意力レベル低下」が表示されます。

次ページに続く



注意力の目盛りが 1 になると「ドライバー注意力レベル低下　休憩をとってください」が表示され、警報音とハンドル振動で運転者に知らせます。
このメッセージが表示されたら、安全な場所に車を停車し、十分に休憩をとってください。
ライトセレクターホイールを回すか、システムが運転を正常と判断するとメッセージが消えます。
運転者が休憩をとらず、システムが注意力低下を検知し続けた場合、15 分後にメッセージ表示、警報音、ハンドル振動により再度運転者に知らせます。
30 分未満の運転では、メッセージは表示しません。

■ドライバー注意力モニターのリセット

次の場合にドライバー注意力レベルがリセットされます。

- パワーモードを OFF モードにしたとき
- 停車中に運転者がシートベルトを外し、ドアを開けたとき

■ドライバー注意力モニターの作動条件

- 車速が 40km/h を超えているとき
- EPS（電動パワーステアリング）システム警告灯が消灯しているとき

■ドライバー注意力モニターが作動しない事例

- 車線維持支援システム（LKAS）、またはトラフィックジャムアシスト（渋滞運転支援機能）のステアリングアシスト作動中
- 道路の状態が悪い（舗装されていない道路や荒れた道路など）
- 風が強いとき
- 車線変更や加減速を多く繰り返す走行をしているとき

■設定の変更

ディスプレイオーディオ画面を使用してシステムの設定を変更することができます。

設定 P.285

ドライバー注意力モニターの作動条件

ドライバー注意力モニターが作動していないときは、ドライバー注意力レベル表示の目盛りがグレーになります。

Honda SENSING 360+ 装備車

ドライバー注意力モニター

ドライバー注意力モニターはドライバーモニタリングカメラが運転者の運転状態を検知し、状態に応じてメーターに休憩や注意を促します。眠気や疲労を感じたときは安全な場所に停車し、十分に休憩をとってください。

➔ **ドライバーモニタリングカメラ** P.544

■システムの作動



ドライバーモニタリングカメラが運転者の眠気を検知するとメッセージが表示されます。



運転者の眠気がより強いとシステムが判断した場合は、メッセージ(オレンジ)が表示され、警報音が鳴ります。
ライトセレクターホイールを回すとメッセージが消えます。

▶ このメッセージが表示されたら、安全な場所に車を停車し、十分に休憩をとってください。

ドライバー注意力モニター

ドライバーモニタリングカメラが運転者を正しく検出していない場合はシステムは作動しません。
運転者が感じる眠気や脇見状態と、システムが検出する状態は異なる場合があります。

➔ **ドライバーモニタリングカメラ** P.544

ドライバー注意力モニターの ON/OFF を切り替えることができます。

➔ **設定** P.285



ドライバーモニタリングカメラが運転者の脇見を検知するとメッセージ(オレンジ)が表示され、警報音が鳴ります。

▶ 低速走行中はメッセージは表示されません。

渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール（ACC）

渋滞追従機能付 ACC は、フロントグリルにある Honda エンブレムの奥に設置してあるレーダーセンサーとフロントガラス上部に設置してあるカメラが先行車との車間距離を測定して、高速道路の渋滞時に適切な加減速を行い、設定車間距離を保持しながら、運転者がアクセルやブレーキを操作せずに走行、停車出来るよう支援するシステムです。

渋滞追従機能付 ACC によるブレーキが作動しているときは、制動灯が点灯します。

Honda SENSING 360+ 装備車

一部の機能は、ハンズオフ機能付高度車線内運転支援機能と同期して使用します。

渋滞追従機能付 ACC を作動させるには：

渋滞追従機能付 ACC システムは、シフトポジションが D のときに使用することができます。

≫渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)

⚠警告

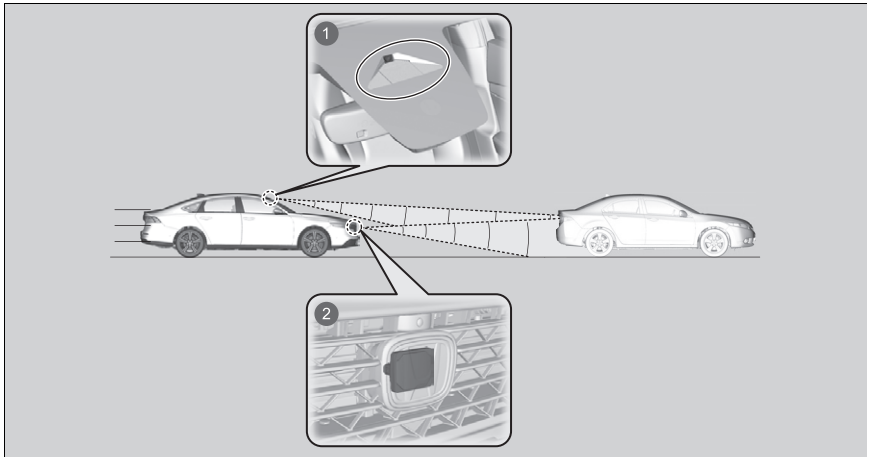
渋滞追従機能付 ACC の不適切な使用は事故につながります。取扱説明書の操作手順に従い操作してください。
高速道路や自動車専用道路でのみ使用してください。

⚠警告

渋滞追従機能付 ACC は、補助システムとして使用してください。渋滞追従機能付 ACC は、自動運転システムではありません。あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。

システムに頼った運転をすると、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ、走行してください。



❶ フロントガラス上部にカメラを装備
❷ フロントグリルにある Honda エンブレムの奥に、レーダーセンサーを装備

ブレーキペダルを踏んでいるときは、渋滞追従機能付 ACC は作動しません。
悪天候などで、レーダーセンサーが先行車との車間距離を測定できないときは、システムが作動しないことがあります。

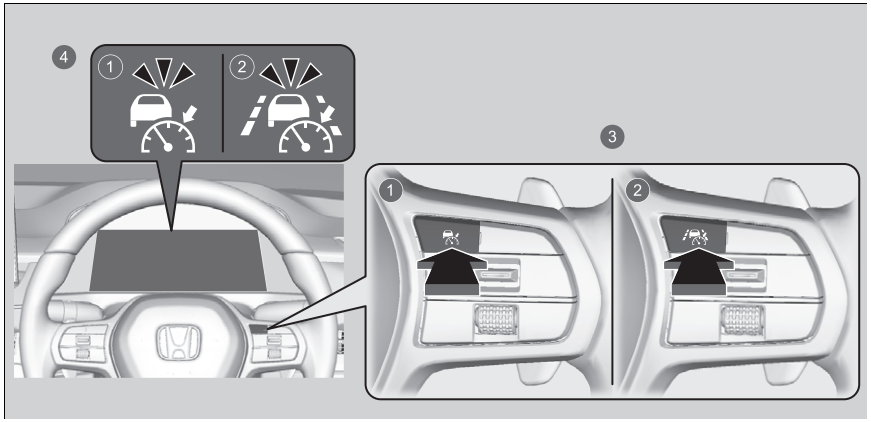
渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)

⚠警告

渋滞追従機能付 ACC の作動中に停車した車両から、適切な駐車操作無しで外に出ると車両が操作無しで動き出す可能性があります。
適切な駐車操作無しで動く車両は、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。
渋滞追従機能付 ACC で停車した車両から絶対に外に出ないでください。

次ページに続く

■システムを作動させるには



❶ Honda SENSING 360 装備車
❷ Honda SENSING 360+ 装備車
❸ ハンドルの※1/※2 スイッチを押す
❹ メーター内に※1/※2（ホワイト）が点灯し、渋滞追従機能付 ACC が操作可能になります

Honda SENSING 360+ 装備車

▶条件を満たせば、同時に車線維持支援システム（LKAS）またはトラフィックジャムアシスト（渋滞運転支援機能）が待機状態になります。

※1：Honda SENSING 360 装備車
※2：Honda SENSING 360+ 装備車

渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール（ACC）

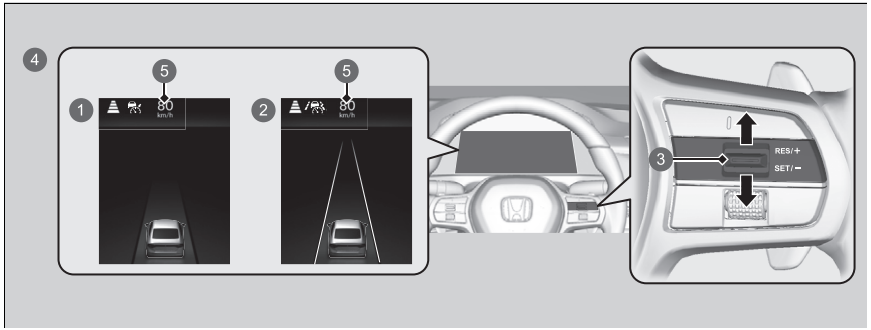
使用上の注意：
渋滞追従機能付 ACC は、運転者を支援するシステムです。天候や環境などによって機能しないことがあります。必要なときはブレーキペダルを使用し、常に安全な車間距離を保ってください。

パワーシステムを起動後、約 15 秒の間は渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール（ACC）は作動しません。

レーダーセンサーの取り扱いについては下記を参照してください。
レーダーセンサー P.547

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。
フロントセンサーカメラ P.545

■車速をセットするには



❶ Honda SENSING 360 装備車
❷ Honda SENSING 360+ 装備車
❸ RES/+/SET/- スイッチ
❹ 渋滞追従機能付 ACC 開始時に点灯
❺ 設定車速（ホワイト）

ブレーキペダルを操作していないときに RES/+/SET/- スイッチを上か下に押すと現在の車速が設定車速とされ、渋滞追従機能付 ACC が作動し、メーターにアイコンや設定車速が表示されます。

Honda SENSING 360+ 装備車

条件を満たせば、同時に車線維持支援システム（LKAS）またはトラフィックジャムアシスト（渋滞運転支援機能）が待機状態になります。

≫車速をセットするには

下記の状況のときは、渋滞追従機能付 ACC を使用しないでください。

- 車線変更や急な加減速を繰り返すような交通状況では、適切な車間距離が保てません。
- 急カーブのある道では道路状況にあった速度で走行できません。
- 高速道路などで、料金所、インターチェンジ、サービスエリア、パーキングエリアに進入するときは、自車の前から先行車がいなくなることで設定車速まで加速を始めてしまいます。
- 悪天候（雨、霧、雪など）のときは先行車との車間距離を正確に測定できない場合があります。
- 凍結路や積雪路などの滑りやすい路面ではタイヤが空転して車のコントロールを失うおそれがあります。
- 急な上り坂や急な下り坂を走行しているとき。
- 起伏のある坂道を走行しているとき。

次ページに続く

LKASを使用せずに、渋滞追従機能付ACCを使用するとStraight Driving Assist（直進保舵支援機能）が作動します。
これはEPS（電動パワーステアリング）の機能であり、直進におけるハンドル保舵力を低減し、直進走行しやすくします。

車速が 30km/h 以下で走行しているとき：
先行車を検知している場合のみ作動させる事ができ、現在の車速にかかわらず設定車速が約 30km/h に設定されます。車両が動いていない場合は、ブレーキペダルを踏んでいても作動することができます。

車速をセットするには

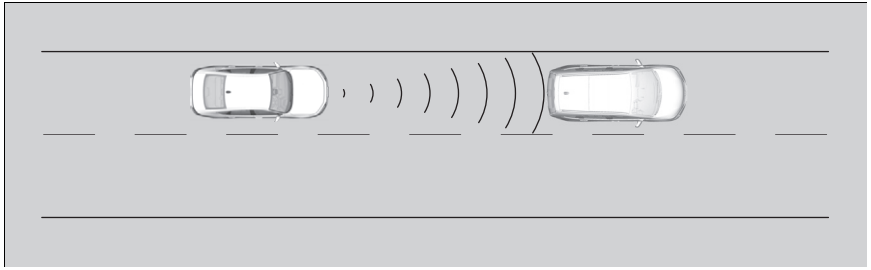
12Vバッテリー再接続後、VSA（ビークルスタビリティアシスト）警告灯と渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール（ACC）警告灯（オレンジ）*、ACC/LKAS システム警告灯（オレンジ）*、安全支援情報警告灯（オレンジ）、ブレーキシステム警告灯（オレンジ）が一時的に点灯する場合があります。
車速 20km/h 以上でしばらく走行すると消灯します。消灯しないときは Honda 販売店で点検を受けてください。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■渋滞追従機能付 ACC の作動

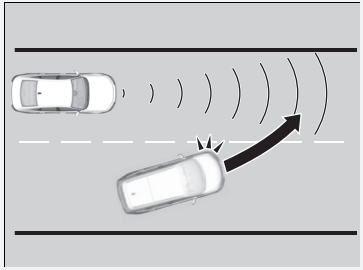
■先行車がいるとき

渋滞追従機能付 ACC は先行車がレーダーセンサーの検知範囲に入ると、先行車の車速変化に合わせ、設定車速の範囲内で車間距離を保ちながら追従走行します。

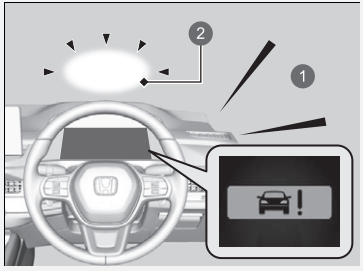


▨渋滞追従機能付 ACC の作動

先行車が急減速したり、遅い車両が割り込んできたときは、警告音が鳴りマルチインフォメーションディスプレイの警告で視覚への警告が表示されます。

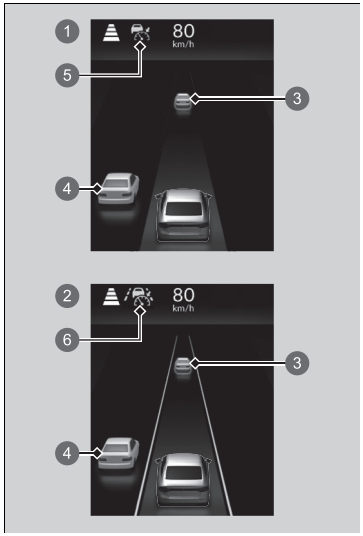


ブレーキを踏み、適切な車間距離を保ってください。



❶警告音
❷ヘッドアップワーニング

次ページに続く



❶ Honda SENSING 360 装備車
❷ Honda SENSING 360+ 装備車
❸ 検知範囲に入ると車のアイコンが表示されます。
❹ 検知範囲外の車などのアイコンが表示されます。
❺ (グリーン)
❻ (グリーン)

制御対象車両アイコン：ホワイト、車両輪郭グリーン
制御対象外車両アイコン：グレー

設定車速より遅い速度で走行する先行車や割り込み車が前方にあらわれた場合、システムは減速制御を行います。

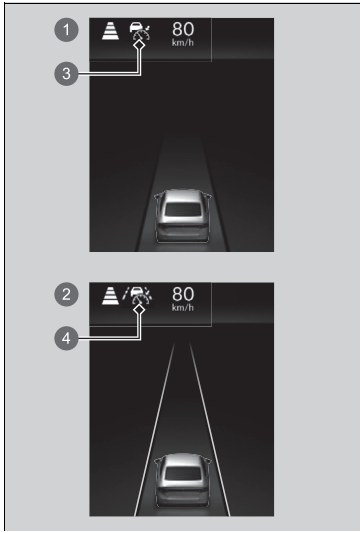
渋滞追従機能付 ACC の作動

先行車または割り込み車の車速が自車よりも速く、次第に離れていく場合、先行車との距離が短くても警報が出ず、そのまま追従することがあります。

カスタマイズ機能で先行車検知音の有り / 無しを設定できます。
➡ **設定** P.285

制限：
安全な車間距離を保つために、渋滞追従機能付 ACC を使用中でもブレーキペダルを使用しブレーキをかける必要があります。また、天候や環境などにより渋滞追従機能付 ACC が適切に作動しないことがあります。
➡ **渋滞追従機能付 ACC の条件と制限** P.467
➡ **車間距離を設定するには** P.477

■先行車がいないとき



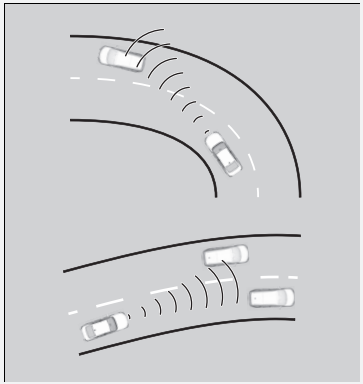
❶ Honda SENSING 360 装備車
❷ Honda SENSING 360+ 装備車
❸ (ホワイト / グリーン)
❹ (ホワイト / グリーン)

先行車がいない場合、設定した車速で定速走行します。
先行車が車線変更などでいなくなると、設定車速までゆるやかに加速後、定速走行します。

急な下り坂では、過度な加速を防ぐと共に設定した車速を保持するために減速制御を行いますが、設定した車速を超えてしまう場合があります。

渋滞追従機能付 ACC の作動

- 道路状況(カーブなど)や自車の状況(ハンドル操作や車線内の位置)によっては、一時的にとなりの車線の車や周囲の物に対して車間距離制御を行う場合があります。



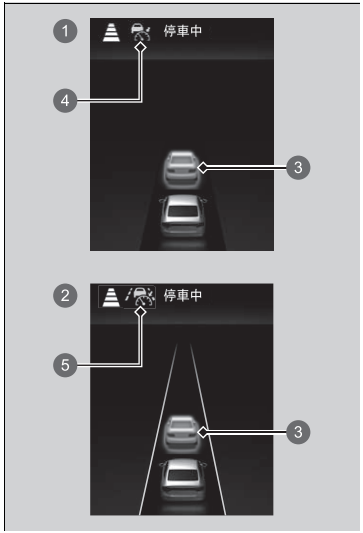
- 先行車がインターチェンジやサービスエリアなどに入る際、自車の前から先行車がいなくなるときは、車間距離制御が少しの間継続する場合があります。

次ページに続く

■アクセルペダルを踏んだとき

- アクセルペダルを踏み込むと、渋滞追従機能付 ACC が一時的に解除され車速が上がります。このとき、渋滞追従機能付 ACC の警告範囲内に先行車がいても警告音やマルチインフォメーションディスプレイの警告表示はでません。
- アクセルペダルを離すと、渋滞追従機能付 ACC が復帰し追従走行または定速走行を再開します。

■先行車が減速して停車するとき



❶ Honda SENSING 360 装備車
❷ Honda SENSING 360+ 装備車
❸ 先行車
❹ (グリーン)
❺ (グリーン)

先行車が停車すると、自車も自動で停車します。メーターにメッセージが表示されます。
先行車の動きに合わせて RES/+/SET/- スイッチを上か下に押すか、アクセルペダルを踏むことで発進し、以前の設定車速の範囲内で追従走行します。

Honda SENSING 360+ 装備車

▶ ハンズオフ機能付高度車線内運転支援機能が作動しているとき、停車後に一定時間以内に先行車の発進を検知した場合は、自車も先行車に合わせて自動で発進します。
運転手が前方を見ていないとシステムが判断したときは、自動で発進しません。

➡ **ハンズオフ機能付高度車線内運転支援機能** P.512

次ページに続く

Honda SENSING 360+ 装備車

■被合流車線支援機能

ハンズオフ機能付高度車線内運転支援機能が作動しているときに、合流車線から合流してくる車両をシステムが検知した場合、自車の前方に合流できるよう減速制御を行います。

➔ **ハンズオフ機能付高度車線内運転支援機能** P.512

■渋滞追従機能付 ACC の条件と制限

一定の条件でシステムは自動解除する場合があります。以下の条件では渋滞追従機能付 ACC の機能の一部を発揮できない場合があります。

➔ **フロントセンサーカメラ** P.545
➔ **レーダーセンサー** P.547

■環境によりシステムが正しく検知できない事例

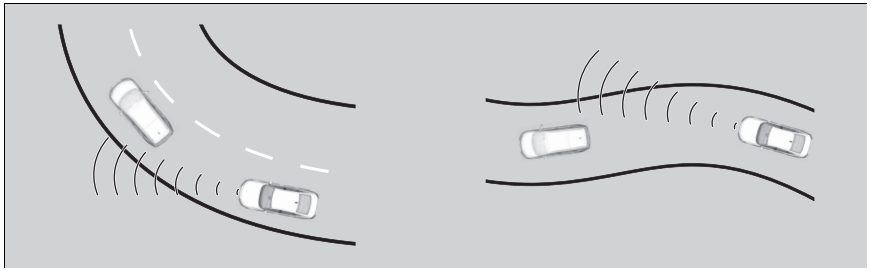
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 先行車による水しぶきや雪の巻上げがあるとき
- 他の車両のレーダーや強い電波を発する設備などが付近にあるとき
- 夜明けや夕暮れ時に太陽に向かって走行するとき
- 車内の物がフロントガラスに反射したとき
- 周辺に構造物などがない開けた道路を走行するときや交通量が少ないとき

Honda SENSING 360+ 装備車

- 地図登録情報と実際の道路状況が工事などで一致しないとき

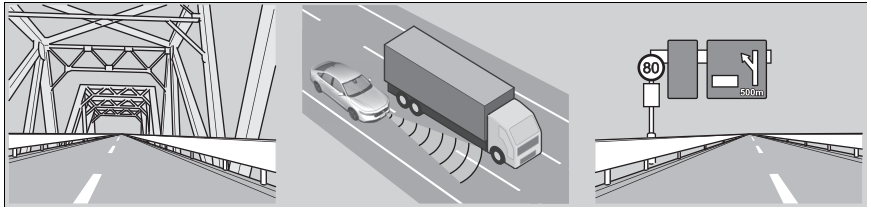
■道路の状態によりシステムが正しく検知できない事例

- カーブ、うねった道路、坂道などのとき



次ページに続く

- 雪道や未舗装路などわだちのある道路
- 狭い鉄橋を走行しているときなど、車両の周囲に電波を強く反射する物があるとき



Honda SENSING 360+ 装備車

- 工事区間（パイロン）が続くような道路を走行している場合

■自車の状態によりシステムが正しく検知できない事例

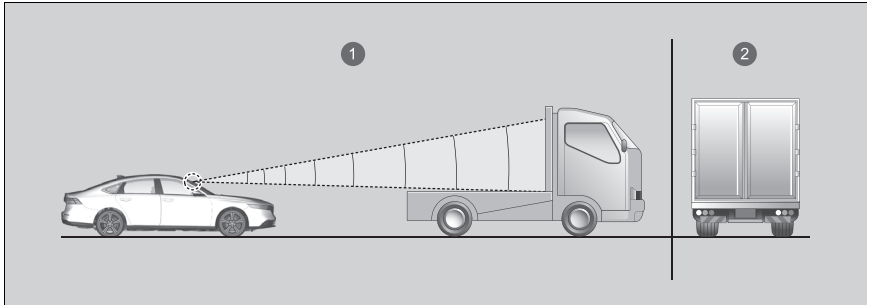
- フロントグリルやフロントバンパーの周辺が汚れ、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリー、ステッカーやフィルムなどで覆われているとき
- 適正なタイヤを使用していないとき
- トランクやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき

■前方の車両の状態によりシステムが正しく検知できない事例

- 自車の前方に車両が急に割り込んだとき
- 前方の車両との距離が極端に短いとき

■その他、システムが正しく作動しない事例

- 前方の車両が駐停車していたり、自車との速度差が大きいとき
- 前方の車両が急減速したとき
- 前方の車両がパネルトラックや特殊な形状の車両のとき

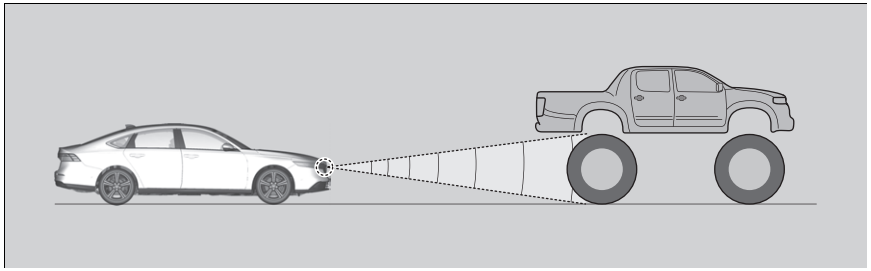


❶ トラックの上部を検知
❷ パネルトラックやタンクローリーなど

- 自車または前方の車両が、車線の片側にかたよって走行しているとき
- 前方の車両が二輪車など幅の狭い車両のとき

次ページに続く

- 前方の車両の最低地上高が極端に高いとき



■カーブ車速調整機能

渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)が作動しているときにカメラが前方のカーブを検知、あるいはドライバーがカーブに沿ってハンドル操作をすると、カーブの通過を補助するために減速制御を行ないます。

Honda SENSING 360+ 装備車

▶ハンズオフ機能付高度車線内運転支援機能が作動しているときは、高精度地図情報も用いて前方のカーブを検知します。

➔ **ハンズオフ機能付高度車線内運転支援機能** P.512

カーブ車速調整機能によるブレーキが作動しているときは、制動灯が点灯します。

カーブ車速調整機能

すべての車線区画線(白線や黄線)を検出できない場合があります。また天候や速度、路面状況によっては、カーブ車速調整機能が機能しないことがあります。
運転者が周囲の道路状況を確認し、安全運転を心がけて走行してください。

カスタマイズ機能でシステムの設定を変更することができます。

➔ **設定** P.285

次ページに続く

以下の条件では、システムが車線境界線やカーブを正しく検知できず、 カーブ車速調整機能が正常に作動しない場合があります。

■環境によりシステムが正しく検知できない事例

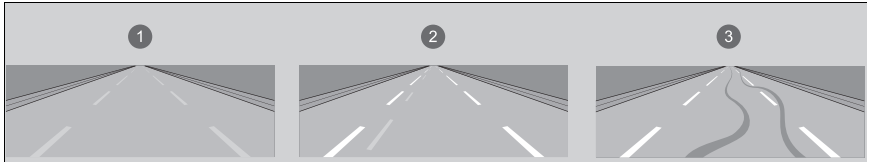
- 白線（黄線）と道路表面の区別ができないとき
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 夜明けや夕暮れ時に太陽に向かって走行するとき
- 白線（黄線）の付近に影が映っているとき（木々、建物、ガードレール、車両など）
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで周囲の明るさが変化したとき
- 夜間やトンネル内などで周囲が暗く、車線や路面が照らされていないとき
- 前方の車両との距離が極端に短く、車線や路面がかくれているとき
- 強い光が路面に反射しているとき
- 周辺に構造物などがない開けた道路を走行するときや交通量が少ないとき

Honda SENSING 360+ 装備車

- 地図登録情報と実際の道路状況が工事などで一致しないとき

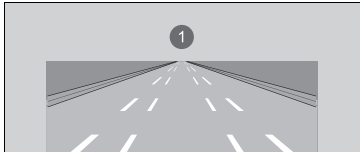
■道路の状態によりシステムが正しく検知できない事例

- 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- 道路の修復や劣化などにより重複やかすれている白線(黄線)、タイヤ痕、さまざまな線が道路にあるとき



❶ 線が薄くなっている
❷ 古い車線の消し残し
❸ タイヤ痕

- 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき

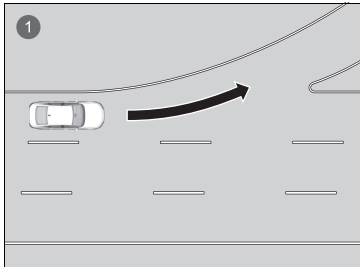


❶ 車線幅が極端に広い／狭い

- 車両などが白線(黄線)の一部を隠しているとき
- 坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき

次ページに続く

- 工事区間（パイロン）が続くような道路を走行している場合
- 路上のもの（縁石、ガードレール、パイロンなど）を白線（黄線）と認識したとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
- 車線が二重に描かれている道路を走行するとき
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- 雪上路や路上の雪・水溜まりなどで舗装路が部分的に見えているとき
- 路面に水溜まりや水膜があるとき
- カーブ、うねった道路、坂道など、道路状況により白線（黄線）を正しく認識できないとき
- 未舗装路やわだちのある道路を走行しているとき
- 分岐・合流路などを走行するとき



❶ 線のひかれていない分岐

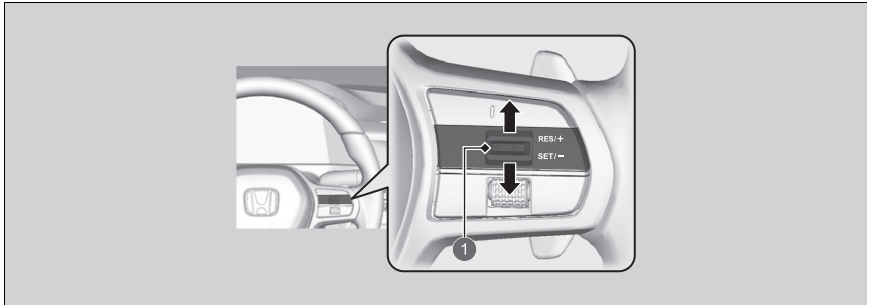
■自車の状態によりシステムが正しく検知できない事例

- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれて、暗いところで前方が見にくいとき
- フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリー、ステッカーやフィルムによりカメラ前方が覆われているとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところで、ヘッドライトが点灯していない状態で走行しているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- トランクやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- サスペンションを変更したとき
- フロントガラスの内側が曇っているとき

次ページに続く

■設定車速を調整するには

手元の RES/+/SET/- スイッチの操作で、設定車速を上げ / 下げすることができます。



❶ RES/+/SET/- スイッチ

RES/+ 側

- 1 回押すごとに 1km/h ずつ設定車速が上がる
- 押し続けると 10km/h ずつ設定車速が上がり、手を離したときの設定車速に固定

SET/- 側

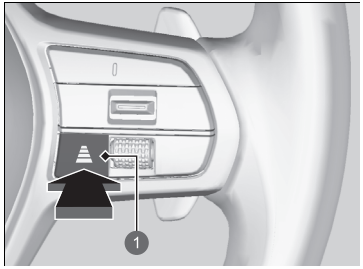
- 1 回押すごとに 1km/h ずつ設定車速が下がる
- 押し続けると 10km/h ずつ設定車速が下がり、手を離したときの設定車速に固定

▶設定車速を調整するには

検知した先行車の車速が自車が上げた設定車速よりも遅い場合は、自車の車速を加速させない場合があります。
これは設定した先行車との車間距離を維持するためです。

アクセルペダルを踏み、 RES/+/SET/- スイッチを下に押すと、現在の車速が設定車速になります。

■車間距離を設定するには



ディスタンススイッチを押し、車間距離を設定します。
先行車との車間距離設定は、4 段階に切り換えることができます。
ディスタンススイッチを押すごとに、最長→長→中→短と切り換わります。
適切な車間距離の設定を決定してください。

❶ ディスタンススイッチ

次ページに続く

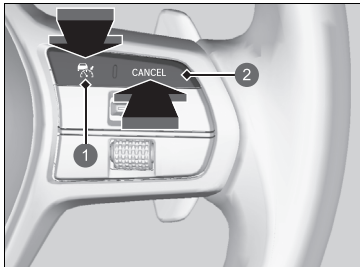
車速が低くなるほど、車間距離は短くなります。車間距離の目安は以下の通りです。
常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ、実際の交通状況に応じて車間距離を選択して、走行してください。

車間距離設定		車速 80km/h のとき	車速 104km/h のとき
短		約 25m	約 31m
中		約 33m	約 42m
長		約 47m	約 61m
最長		約 65m	約 86m

先行車が停車し、自車も自動で停車したときの車間は車間距離設定により変わります。

■解除するには

Honda SENSING 360 装備車



❶ スイッチ
❷ CANCEL スイッチ

以下のいずれかの操作をすると、渋滞追従機能付 ACC が解除されます。

- CANCEL スイッチを押す
  ▶メーター内の(グリーン)が(ホワイト)になります。
- スイッチを押す
  ▶メーター内の(グリーン)が消灯します。
- 車両が前進しているときにブレーキペダルを踏む
  ▶メーター内の(グリーン)が(ホワイト)になります。

※1 ：Honda SENSING 360 装備車
※2 ：Honda SENSING 360+ 装備車

解除するには

解除前の設定車速を復帰させるには：

渋滞追従機能付 ACC を解除したあと、先行車を検知している場合、停車状態でも RES/+/SET/- スイッチを上に押すとメーター上に表示されている解除前の設定車速(グレー)で作動を開始することができます。

CANCEL スイッチまたはブレーキペダルで解除した場合、その直前の設定車速がグレーで表示されます。RES/+/SET/- スイッチを上に押した場合、この車速で作動が開始されます。

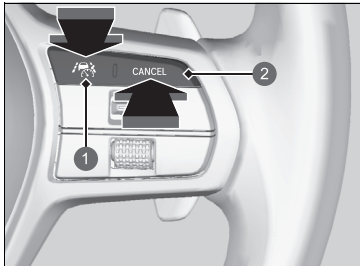
また、※1/※2(ホワイト)が表示され、解除前の設定車速(グレー)の表示が無い状態で RES/+/SET/- スイッチを上に押した場合は、RES/+/SET/- スイッチを下に押した場合と同様に現在の車速が設定されます。

ただし、以下の場合は復帰しません。

- ※1/※2 スイッチを押して渋滞追従機能付 ACC を OFF したあと
- 30km/h 以下で先行車がいないとき

次ページに続く

Honda SENSING 360+ 装備車

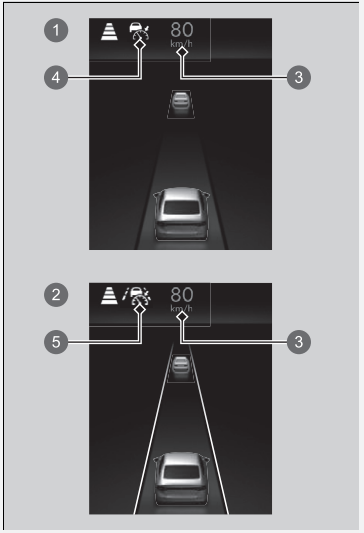


❶ スイッチ
❷ CANCEL スイッチ

以下のいずれかの操作をすると、渋滞追従機能付 ACC が解除されます。このとき同時に車線維持支援システム(LKAS)またはトラフィックジャムアシスト(渋滞運転支援機能)が解除されます。

- CANCEL スイッチを押す
  ▶ メーター内の(グリーン)が(ホワイト)になります。
- スイッチを押す
  ▶ メーター内の(グリーン)が消灯します。
- 車両が前進しているときにブレーキペダルを踏む
  ▶ メーター内の(グリーン)が(ホワイト)になります。

≫解除するには



❶ Honda SENSING 360 装備車
❷ Honda SENSING 360+ 装備車
❸ 解除前の設定車速(グレー)
❹ (ホワイト)
❺ (ホワイト)

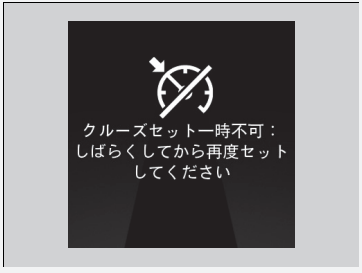
■渋滞追従機能付 ACC の自動解除

次の場合は、メッセージが表示され、「ピー」とブザーが鳴り、渋滞追従機能付 ACC が自動解除されます。

- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- フロントグリルが汚れたとき
- 先行車を安定して検知できないとき
- タイヤの異常を検知したとき
- 悪路の走行や山岳路を長時間走行したとき
- 急なハンドル操作をしたとき
- ABS や VSA、衝突軽減ブレーキ（CMBS）または踏み間違い衝突軽減システムや急アクセル抑制機能* が作動したとき
- ABS 警告灯または VSA 警告灯が点灯したとき
- 急斜面で停車しているとき
- パーキングブレーキをかけたとき
- 検知した先行車との車間距離が短すぎるとき
- 急加速したとき
- フロントガラス上部のカメラまたはカメラ付近が汚れているとき
- パワーモードを OFF モードにしたとき
- トランクやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところを走行したとき

解除するには

加減速を多く繰り返す走行や長い下り坂の走行、重い荷物を積んで走行しているときなどに渋滞追従機能付 ACC が自動解除された後、条件が継続する場合は、その後一時的に渋滞追従機能付 ACC をセットできない場合があります。



次ページに続く

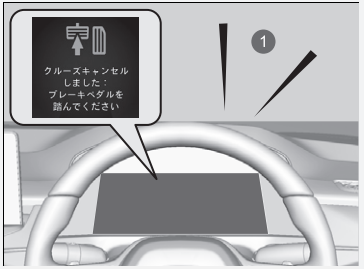
✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

- 停車中に運転席のシートベルトを外したとき
- 車両が 10 分以上停車しているとき
- ブレーキシステム警告灯（オレンジ）が点灯したとき
- 長い下り坂などで減速を繰り返したとき
- LKAS またはトラフィックジャムアシスト（渋滞運転支援機能）が作動しているときに、システムが一定時間運転者の操作がないと判断したとき

≫解除するには

停車中の解除：

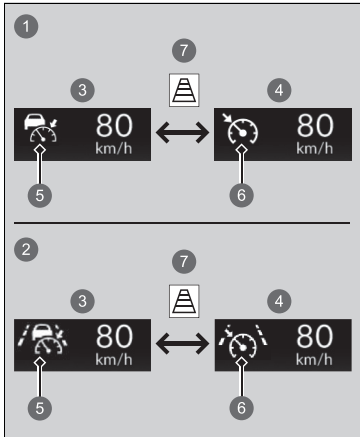
渋滞追従機能付 ACC によって自車が自動的に停車しているときに渋滞追従機能付 ACC が解除された場合に、警告音が鳴りマルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。



❶警告音

すみやかにブレーキを踏み、適切な車間距離を保ってください。

■クルーズモードへの切換え



❶ Honda SENSING 360 装備車
❷ Honda SENSING 360+ 装備車
❸ 渋滞追従機能付 ACC ON
❹ クルーズモード ON
❺ ※1/※2（ホワイト）
❻ ※1/※2（ホワイト）
❼ ディスタンススイッチ

ディスタンススイッチを 1 秒間押し続けます。
マルチインフォメーションディスプレイに「クルーズモードに設定しました」と表示された後、クルーズモードに切り換わります。
同時に、メーター内の※1/※2（ホワイト）が※1/※2（ホワイト）に変わります。
再度ディスタンススイッチを 1 秒間押し続けると、マルチインフォメーションディスプレイに「ACC モードに設定しました」と表示された後、渋滞追従機能付 ACC に戻ります。

※1 ：Honda SENSING 360 装備車
※2 ：Honda SENSING 360+ 装備車

クルーズモードへの切換え

現在のモードがどちらなのかを常に意識して使用してください。クルーズモード中は先行車との車間距離を保持しません。

以下の場合、モードを切り換えられません。
- 車速をセットしているとき
- ※1/※2 スイッチが OFF のとき

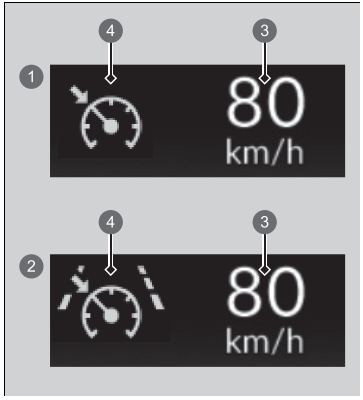
クルーズモードへ切り換えた状態でも※1/※2 スイッチを押して ON にし直すたびに、渋滞追従機能付 ACC に戻ります。

次ページに続く

■車速をセットするには

希望の車速になったらペダルから足を離し、 RES/+/SET- スイッチを上か下に押します。

RES/+/SET- スイッチを上か下に押して離すと、離したときの車速にセットされ自動定速走行になります。



同時に、メーターに※1/※2（グリーン）と設定車速が表示されます。

❶ Honda SENSING 360 装備車
❷ Honda SENSING 360+ 装備車
❸ 設定車速
❹ ※1/※2（グリーン）

※1：Honda SENSING 360 装備車
※2：Honda SENSING 360+ 装備車

■作動条件

約 30km/h 以上で走行しているとき

LKAS を使用せずに、クルーズモードを使用すると Straight Driving Assist（直進保舵支援機能）が作動します。
これはEPS（電動パワーステアリング）の機能であり、直進におけるハンドル保舵力を低減し、直進走行しやすくします。

次ページに続く

■車速を調節するには

RES/+ 側

- 1 回押すごとに 1km/h ずつ設定車速が上がる
- 押し続けると 10km/h ずつ設定車速が上がり、手を離したときの設定車速に固定

SET/- 側

- 1 回押すごとに 1km/h ずつ設定車速が下がる
- 押し続けると 10km/h ずつ設定車速が下がり、手を離したときの設定車速に固定

■解除するには

次の操作をすると、自動定速走行が解除されます。

- CANCEL スイッチを押す
  ▶ メーター内の※1/※2（グリーン）が※1/※2（ホワイト）になります。
- ※1/※2 スイッチを押す
  ▶ メーター内の※1/※2（グリーン）が消灯します。
- ブレーキペダルを踏む
  ▶ メーター内の※1/※2（グリーン）が※1/※2（ホワイト）になります。

※1 ：Honda SENSING 360 装備車
※2 ：Honda SENSING 360+ 装備車

次ページに続く

解除するには

解除前の設定車速を復帰させるには：

自動定速走行を解除したあとでも、30km/h 以上の車速で走行中に RES/+/SET/- スイッチを上に押すとメーター上に表示されている解除前の設定車速（グレー）で作動を開始することができます。

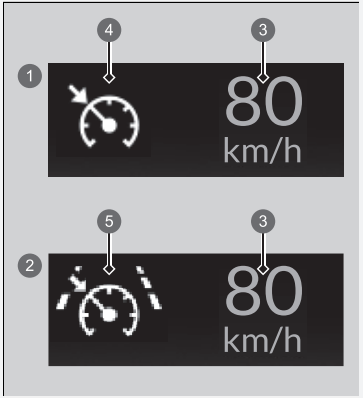
CANCEL スイッチまたはブレーキペダルで解除した場合、その直前の設定車速がグレーで表示されます。RES/+/SET/- スイッチを上に押した場合、この車速で作動が開始されます。

また、※1/※2（ホワイト）が表示され、解除前の設定車速（グレー）の表示が無い状態で RES/+/SET/- スイッチを上に押した場合は、RES/+/SET/- スイッチを下に押した場合と同様に現在の車速が設定されます。

ただし、下記の場合は復帰できません。

- 車速が 30km/h 未満のとき
- ※1/※2スイッチでOFF操作をしたとき

≫解除するには



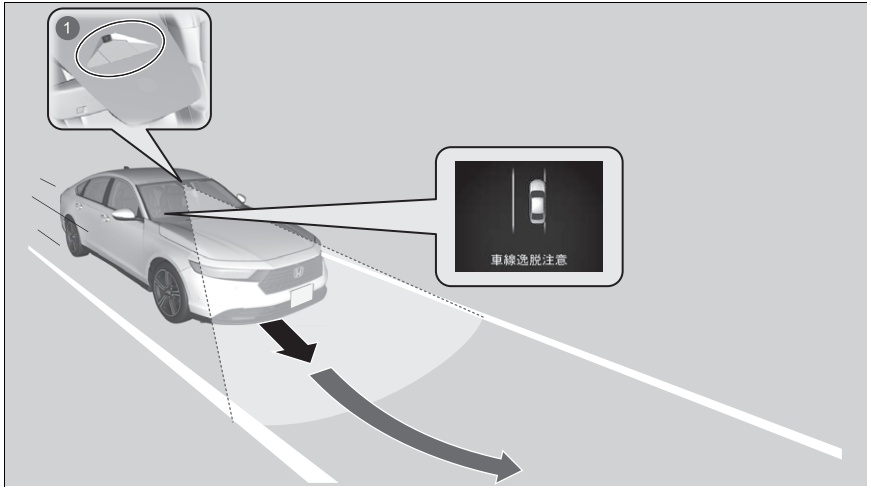
❶Honda SENSING 360 装備車
❷Honda SENSING 360+ 装備車
❸解除前の設定車速（グレー）
❹（ホワイト）
❺（ホワイト）

車速が 25km/h 未満になると自動的に自動定速走行が解除になります。

車線維持支援システム(LKAS)

LKAS は、フロントガラス上部に設置してあるカメラによって、左右の白線(黄線)をとらえ、電動パワーステアリングの動きをアシストし、車線維持走行を補助するためのシステムです。

■システムの作動



❶ フロントセンサーカメラ

状況によっては、方向指示器(ウィンカー)を操作せずに車線変更を行うと、LKAS が作動して電動パワーステアリングのアシストを行います。

次ページに続く

車線維持支援システム(LKAS)

⚠警告

LKAS は補助システムとして使用してください。LKAS は、自動運転システムではありません。あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。

システムに頼った運転をすると、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

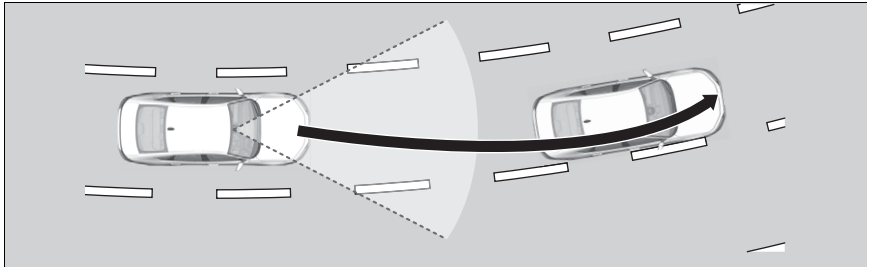
常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけて走行してください。

LKAS は、急なカーブや加速・減速の繰り返しが続く道路では、システムが正常に機能しないおそれがあります。LKAS は、高速道路や自動車専用道路などを運転するときに使用してください。

インストルメントパネル上部に物をおかないでください。物がフロントガラスに反射して車線を正確に検知できない場合があります。

■車線維持支援機能

車が車線中央を走行するようにアシストし、白線(黄線)に近づくと電動パワーステアリングの操舵力が強くなります。



≫車線維持支援システム(LKAS)

LKAS は方向指示器(ウィンカー)を出さずに車線変更を検知した時のみ警告します。
LKAS は、すべての車線区画線(白線や黄線)や車線逸脱を検出できない場合があります。また天候や速度、路面状況によっては、システムが機能しないことがあります。
運転者が周囲の道路状況を確認し、安全運転を心がけて走行してください。

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。
➔ **フロントセンサーカメラ** P.545

レーダーセンサーの取り扱いについては下記を参照してください。
➔ **レーダーセンサー** P.547

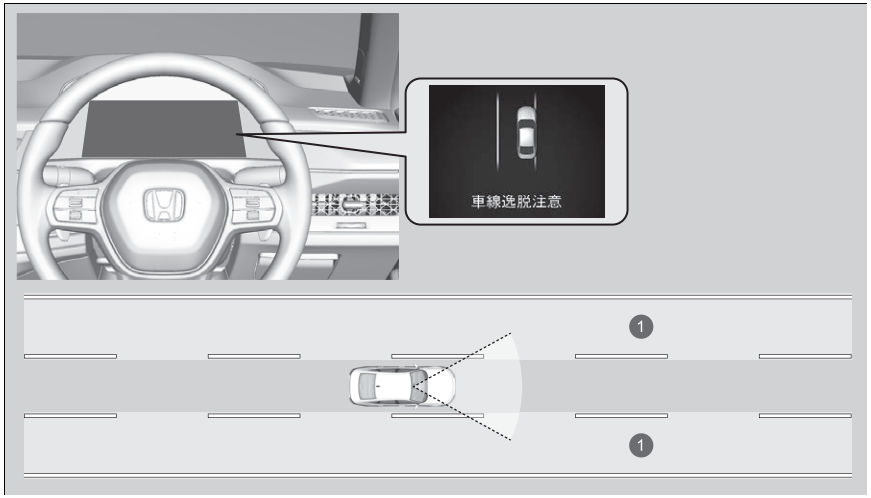
LKAS は条件により正常に作動しない場合があります。
➔ **LKAS の条件と制限** P.499

車線の検知ができないときは、一時的にシステムが解除されます。車線を検知するとシステムが自動復帰します。

パワーシステムを起動後、約15秒の間はLKASは作動しません。

■車線逸脱警告機能

車が警報エリアに入ると車線逸脱の警報をハンドルの振動と音およびディスプレイ表示で行います。



❶ 警報エリア

次ページに続く

■ LKAS を作動させるには

LKAS は、以下の条件で作動します。

- 左右に白線（黄線）が引かれている車線の中央付近を走行しているとき
- 直線またはゆるやかなカーブの道路を走行しているとき
- 方向指示器（ウィンカー）を出していないとき
- 渋滞追従機能付 ACC が作動しているとき※2
- 車速が約 65 ～ 120km/h で走行しているとき

※1：Honda SENSING 360 装備車
※2：Honda SENSING 360+ 装備車

LKAS を作動させるには

システムが作動しているときに、左右の白線（黄線）に偏る場合は、システムを停止し Honda 販売店で点検を受けてください。

白線（黄線）を正しく検知できず走行位置を正しく設定できない場合があります。
LKAS の条件と制限 P.499

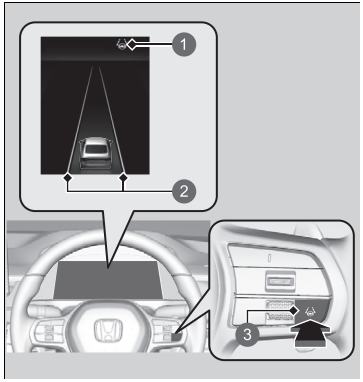
システムを正しく作動させるために、必ず次のことをお守りください。

- カメラ付近のガラスは常にきれいにしておく
- フロントガラスのお手入れをするときは、ガラスクリーナーなどがカメラのレンズに付着しないようにする
- カメラのレンズには触れない
- カメラ付近のガラスにステッカーを貼らない

システムが作動可能状態のときに※1/※2スイッチを押すと、LKAS は待機状態なしで制御を開始します。

■システムの作動方法

Honda SENSING 360 装備車



❶ (ホワイト)
❷ 車線表示(ホワイト)
❸ スイッチ

1. スイッチを押す。
▶ (ホワイト)が点灯します。
システムが待機状態になります。
▶ カメラが両側の白線(黄線)を検知すると、メーターに車線表示(ホワイト)が点灯します。

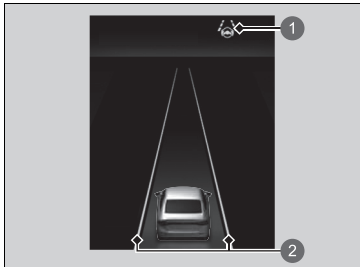
LKAS を作動させるには

作動中に運転者がハンドルから手を放したり、ハンドルの操作量が少ない場合は下記の警告を表示します。



繰り返し上記の警告が表示されても、運転者の操作がない場合は、警報音が鳴り作動が解除されます。

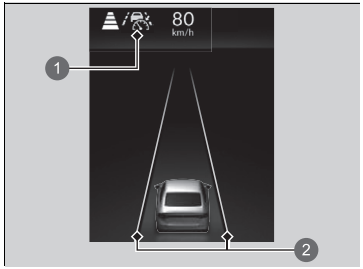
次ページに続く



❶ (グリーン)
❷ 車線表示(グリーン)

2. 車線の中央付近を走行する。
▶ 車線中央付近を走行中にカメラが両側の白線(黄線)を検知すると、メーターの車線表示とがグリーンに切り替わり、LKAS の制御を開始します。

Honda SENSING 360+ 装備車



❶ (グリーン)
❷ 車線表示(グリーン)

渋滞追従機能付 ACC を作動させる。

▶ 車線中央付近を走行中に車線を検知すると、メーターの(LKAS の状態表示部)と車線表示がホワイトからグリーンに切り替わり、LKAS が作動します。

➡ **渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)** P.456

システムの作動方法

Honda SENSING 360+ 装備車

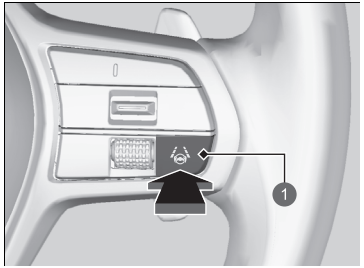
渋滞追従機能付 ACC を作動させても LKAS が作動しない場合は、LKAS の設定を ON にしてください。

➡ **LKAS の ON と OFF** P.498

次ページに続く

■解除するには

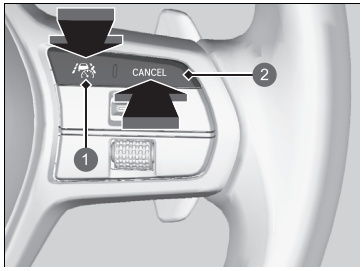
Honda SENSING 360 装備車



❶ スイッチ

スイッチを押すと、LKAS が解除されます。
前回走行時にLKASがON状態でも、パワーモードをOFFモードにする度にLKASはOFFになります。

Honda SENSING 360+ 装備車

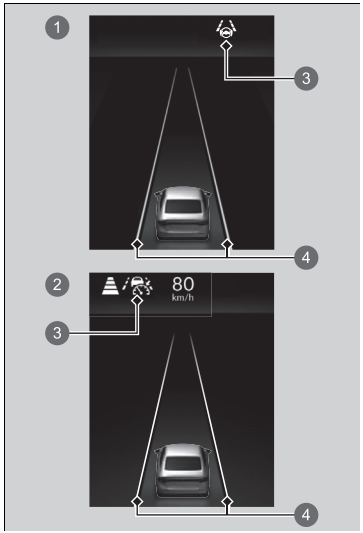


❶ スイッチ
❷ CANCEL スイッチ

スイッチまたは CANCEL スイッチを押すと、LKAS が解除されます。
また、ブレーキペダルを踏んだ場合も LKAS は解除されます。

■LKAS が自動的に一時解除されるとき

次の場合、メーターの車線表示と[※1]/[※2](LKAS の状態表示部)※2 がホワイトに切り替わり、LKAS が自動解除されます。



- 白線(黄線)を検知できないとき
- 急なハンドル操作をしたとき
- ハンドル操作をしていないとき
- 急なカーブを走行したとき
- 制限速度を超えた速度で走行したとき
- 路外逸脱抑制機能が作動したとき
- ABS、VSA、CMBS、踏み間違い衝突軽減システムが作動したとき
- 急ブレーキをかけたとき※1

これらの条件が続かなければ、システムは自動的に再開されます。

❶ Honda SENSING 360 装備車
❷ Honda SENSING 360+ 装備車
❸ [※1]/[※2](LKAS の状態表示部)※2(ホワイト)
❹ 車線表示(ホワイト)

※1：Honda SENSING 360 装備車
※2：Honda SENSING 360+ 装備車

次ページに続く

LKAS が自動的に一時解除されるとき

カスタマイズ機能で自動解除ブザーの ON/OFF を設定できます。

➡ **設定** P.285

Honda SENSING 360+ 装備車

■ LKAS の ON と OFF

マルチインフォメーションディスプレイを使用して、システムの ON/OFF を切り換えることができます。

➔ **表示の切り換えかた** P.106

➔ **車線維持支援システム*** P.118

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■ LKAS の条件と制限

以下の条件では、システムは白線（黄線）を検知できず、LKAS が正しく機能しない場合があります。

■環境によりシステムが正しく検知できない事例

- 白線（黄線）と道路表面の区別ができないとき
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 夜明けや夕暮れ時に太陽に向かって走行するとき
- 白線（黄線）の付近に影が映っているとき（木々、建物、ガードレール、車両など）
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで周囲の明るさが変化したとき
- 夜間やトンネル内などで周囲が暗く、車線や路面が照らされていないとき
- 前方の車両との距離が極端に短く、車線や路面がかくれているとき
- 強い光が路面に反射しているとき
- 車内の物がフロントガラスに反射したとき
- 他の車両のレーダーや強い電波を発する設備などが付近にあるとき
- 周辺に構造物などがない開けた道路を走行するときや交通量が少ないとき

LKAS の条件と制限

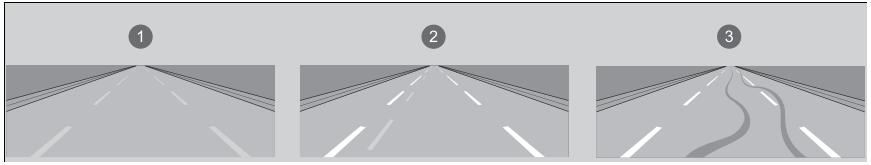
次のような状況では、運転者がステアリング操作をしていなくても手放し警告がでず、Honda SENSING 360/Honda SENSING 360+ の一部機能が継続して作動することがあります。

- ステアリングに物や体が接触しているとき、または接近しすぎているとき

次ページに続く

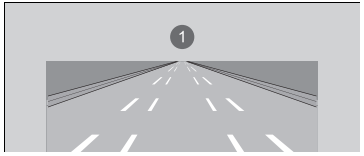
■道路の状態によりシステムが正しく検知できない事例

- 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- 道路の修復や劣化などにより重複やかすれている白線(黄線)、タイヤ痕、さまざまな線が道路にあるとき



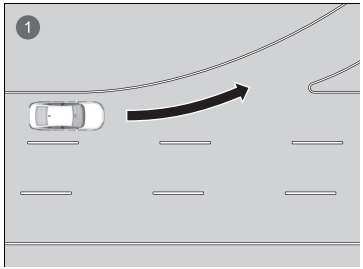
❶ 線が薄くなっている
❷ 古い車線の消し残し
❸ タイヤ痕

- 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき



❶ 車線幅が極端に広い／狭い

- 車両などが白線（黄線）の一部を隠しているとき
- 坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき
- 路上のもの（縁石、ガードレール、パイロンなど）を白線（黄線）と認識したとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
- 車線が二重に描かれている道路を走行するとき
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- 雪上路や路上の雪・水溜まりなどで舗装路が部分的に見えているとき
- 路面に水溜まりや水膜があるとき
- カーブ、うねった道路、坂道など、道路状況により白線（黄線）を正しく認識できないとき
- 未舗装路やわだちのある道路を走行しているとき
- 分岐・合流路などを走行するとき



❶ 線のひかれていない分岐

次ページに続く

■自車の状態によりシステムが正しく検知できない事例

- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれて、暗いところで前方が見にくいとき
- フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリー、ステッカーやフィルムによりカメラ前方が覆われているとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところで、ヘッドライトが点灯していない状態で走行しているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- トランクやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- サスペンションを変更したとき
- フロントガラスの内側が曇っているとき

■その他、システムが正常に作動しない事例

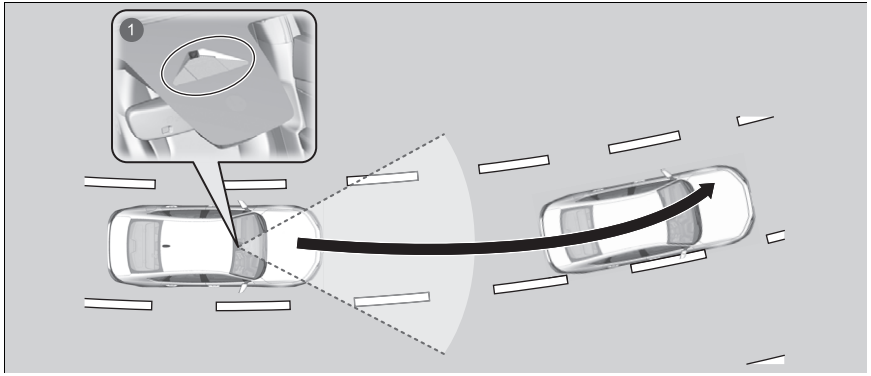
- 手袋を着用しているとき
- ステアリングに保護カバーを取り付けているとき

トラフィックジャムアシスト(渋滞運転支援機能)

トラフィックジャムアシストは、フロントガラス上部に設置してあるカメラによって、左右の白線(黄線)をとらえ、車線の中央を走行するようにハンドル操作をアシストし、渋滞時に車線維持走行を補助するための機能です。

■トラフィックジャムアシストの作動

車線維持支援システム(LKAS)作動中の渋滞時に白線(黄線)を検知すると、車線の中央を走行するようにハンドル操作をアシストします。



❶ フロントセンサーカメラ

状況によっては、方向指示器(ウィンカー)を操作せずに車線変更を行うと、トラフィックジャムアシストが作動して電動パワーステアリングのアシストを行います。

トラフィックジャムアシスト(渋滞運転支援機能)

⚠警告

トラフィックジャムアシストは補助機能として使用してください。トラフィックジャムアシストは、自動運転システムではありません。あくまでも運転者をアシストするための機能です。

機能に頼った運転をすると、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけて走行してください。
高速道路や自動車専用道路でのみ使用してください。

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

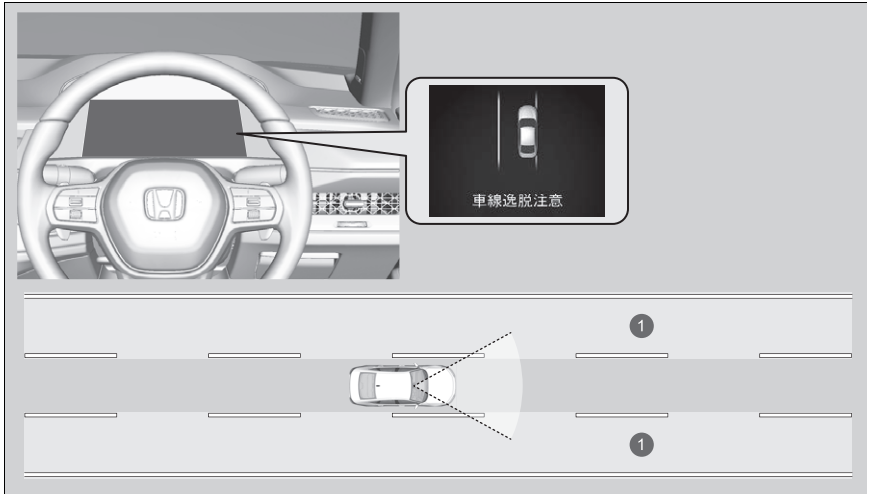
➔ **フロントセンサーカメラ** P.545

次ページに続く

機能の作動中に運転者が操作した場合は運転者の操作を優先します。
運転者による操作が行われているときや、路面の状況によってはアシストが感じられないことがあります。

■車線逸脱警報機能

車が警報エリアに入ると車線逸脱の警報をハンドルの振動と音およびディスプレイ表示で行います。



❶ 警報エリア

トラフィックジャムアシスト(渋滞運転支援機能)

トラフィックジャムアシストは方向指示器(ウィンカー)を出さずに車線変更を検知した時のみ警告します。
トラフィックジャムアシストは、すべての車線区画線(白線や黄線)や車線逸脱を検出できない場合があります。また天候や速度、路面状況によっては、システムが正しく機能しないことがあります。
運転者が周囲の道路状況を確認し、安全運転を心がけて走行してください。

トラフィックジャムアシストは条件により正常に作動しない場合があります。
トラフィックジャムアシストの条件と制限 P.508

レーダーセンサーの取り扱いについては下記を参照してください。
レーダーセンサー P.547

パワーシステムを起動後、約 15 秒の間はトラフィックジャムアシストは作動しません。

■トラフィックジャムアシストを作動させるには

トラフィックジャムアシストは、以下の条件で作動します。

- LKAS が ON のとき
- 左右に白線（黄線）が引かれている車線の中央付近を走行しているとき
- 車速が約 0 ～ 65km/h で走行しているとき
- 直線またはゆるやかなカーブの道路を走行しているとき
- シフトポジションが D のとき
- 方向指示器（ウィンカー）を出していないとき
- 渋滞追従機能付 ACC が作動しているとき※1

下記の状況のときは、トラフィックジャムアシストを使用しないでください。

- 急カーブのある道のとき
  ▶ 道路状況に応じた走行ができなくなることがあります。
- 高速道路などで、料金所、インターチェンジ、サービスエリア、パーキングエリアに進入するとき
- 悪天候（雨、霧、雪など）のとき
- 凍結路や積雪路などの滑りやすい路面のとき
  ▶ タイヤが空転して車のコントロールを失うおそれがあります。

※1 ：Honda SENSING 360+ 装備車

トラフィックジャムアシストを作動させるには

LKAS の取り扱いについては下記を参照してください。

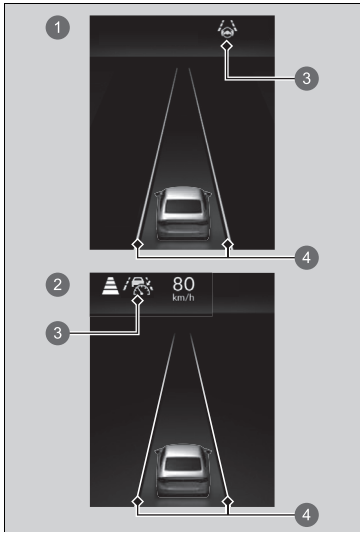
➡ **車線維持支援システム（LKAS）** P.489

各機能のステアリングスイッチと表示については下記を参照してください。

➡ **各機能を作動させるためのスイッチと表示** P.376

次ページに続く

■トラフィックジャムアシストの作動方法



❶ Honda SENSING 360 装備車
❷ Honda SENSING 360+ 装備車
❸ ※1/※2(グリーン)
❹ 車線表示(グリーン)

車線の中央付近を走行する。

▶両側の白線(黄線)を検知するとシステムが作動を開始し、メーターの※1/※2(トラフィックジャムアシストの状態表示部)※2 と車線表示がホワイトからグリーンになります。

※1：Honda SENSING 360 装備車
※2：Honda SENSING 360+ 装備車

トラフィックジャムアシストの作動方法

トラフィックジャムアシストが作動しているときに、白線(黄線)の左右に寄って走行してしまう場合は、トラフィックジャムアシストを停止し、Honda 販売店で点検を受けてください。

白線(黄線)を正しく検知できず走行位置を正しく設定できない場合があります。

トラフィックジャムアシストの条件と制限
P.508

作動中に運転者がハンドルから手を放したり、ハンドルの操作量が少ない場合は下記の警告を表示します。



繰り返し上記の警告が表示されても、運転者の操作がない場合は、警報音が鳴り作動が解除されます。

■解除するには

Honda SENSING 360 装備車

スイッチを押すとトラフィックジャムアシストが解除されます。

Honda SENSING 360+ 装備車

スイッチまたは CANCEL スイッチを押すとトラフィックジャムアシストが解除されます。

また、ブレーキペダルを踏んだ場合もトラフィックジャムアシストは解除されます。

■トラフィックジャムアシストが自動的に一時解除されるとき

以下の場合、トラフィックジャムアシストが一時的に解除されます。

- 白線（黄線）を検知できないとき
- 急なハンドル操作をしたとき
- ハンドル操作をしていないとき
- 急なカーブを走行したとき
- ABS、VSA、CMBS、踏み間違い衝突軽減システムが作動したとき
- 白線（黄線）上を走行しているとき
- 急ブレーキをかけたとき※1

これらの条件が長く続かなければ、機能は自動的に再開されます。

※1：Honda SENSING 360 装備車

» トラフィックジャムアシストが自動的に一時解除されるとき

カスタマイズ機能「LKAS（車線維持支援システム）制御解除警報音」で自動解除ブザーの ON/OFF を設定できます。

➔ **設定** P.285

次ページに続く

■トラフィックジャムアシストの条件と制限

以下の条件では、システムは白線（黄線）を検知できず、トラフィックジャムアシストが正しく機能しない場合があります。

■環境によりシステムが正しく検知できない事例

- 白線（黄線）と道路表面の区別ができないとき
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 夜明けや夕暮れ時に太陽に向かって走行するとき
- 白線（黄線）の付近に影が映っているとき（木々、建物、ガードレール、車両など）
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで周囲の明るさが変化したとき
- 夜間やトンネル内などで周囲が暗く、車線や路面が照らされていないとき
- 前方の車両との距離が極端に短いときや交差点などで、車線や路面が見えないとき
- 強い光が路面に反射しているとき
- 先行車による水しぶきや雪の巻上げがあるとき
- 車内の物がフロントガラスに反射したとき
- 他の車両のレーダーや強い電波を発する設備などが付近にあるとき
- 周辺に構造物などがない開けた道路を走行するときや交通量が少ないとき

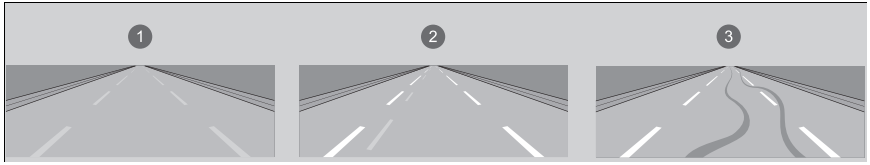
▶▶トラフィックジャムアシストの条件と制限

次のような状況では、運転者がステアリング操作をしていなくても手放し警告がでず、Honda SENSING 360/Honda SENSING 360+ の一部機能が継続して作動することがあります。

- ステアリングに物や体が接触しているとき、または接近しすぎているとき

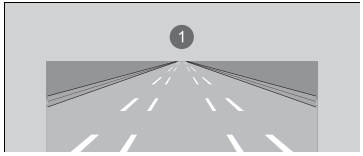
■道路の状態によりシステムが正しく検知できない事例

- 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- 道路の修復や劣化などにより重複やかすれている白線(黄線)、タイヤ痕、さまざまな線が道路にあるとき



❶ 線が薄くなっている
❷ 古い車線の消し残し
❸ タイヤ痕

- 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき

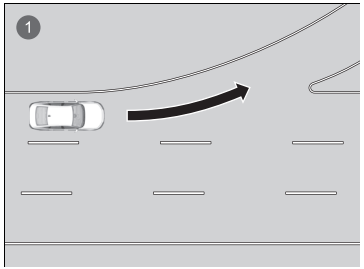


❶ 車線幅が極端に広い／狭い

- 狭い鉄橋を走行しているときなど、車両の周囲に電波を強く反射する物があるとき

次ページに続く

- 車両などが白線（黄線）の一部を隠しているとき
- 坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき
- 路上のもの（縁石、ガードレール、パイロンなど）を白線（黄線）と認識したとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
- 車線が二重に描かれている道路を走行するとき
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- 雪上路や路上の雪・水溜まりなどで舗装路が部分的に見えているとき
- 路面に水溜まりや水膜があるとき
- カーブ、うねった道路、坂道など、道路状況により白線（黄線）を正しく認識できないとき
- 未舗装路やわだちのある道路を走行しているとき
- 分岐・合流路などを走行するとき



❶ 線のひかれていない分岐

■自車の状態によりシステムが正しく検知できない事例

- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれて、暗いところで前方が見にくいとき
- フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリー、ステッカーやフィルムによりカメラ前方が覆われているとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところで、ヘッドライトが点灯していない状態で走行しているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- トランクやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- サスペンションを変更したとき
- フロントグリルやフロントバンパーの周辺が汚れ、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリー、ステッカーやフィルムなどで覆われているとき
- フロントガラスの内側が曇っているとき

■その他、システムが正常に作動しない事例

- 手袋を着用しているとき
- ステアリングに保護カバーを取り付けているとき

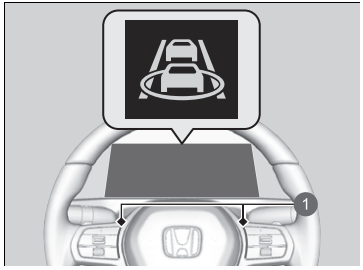
Honda SENSING 360+ 装備車

ハンズオフ機能付高度車線内運転支援機能

高速道路や自動車専用道本線上で渋滞追従機能付ACC、LKASが作動しているときに、高精度地図や全球測位衛星システムGNSS、各種センサーの情報を用いてシステムが自車の位置を特定すると高度な車線内運転を支援します。

➔ **渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)** P.456
➔ **車線維持支援システム(LKAS)** P.489
➔ **高精度地図 / 全球測位衛星システム GNSS(Global Navigation Satellite System)** P.543
➔ **フロントセンサーカメラ** P.545
➔ **レーダーセンサー** P.547

■システムの作動



❶ ハンドル表示灯

ハンズオフ機能付高度車線内運転支援機能が作動するとメーター表示灯(グリーン)が点灯します。システムがハンズオフ可能と判断した場合にメーターとハンドルの表示灯(ブルー)が点灯します。

ハンズオフ機能付高度車線内運転支援機能

⚠警告

ハンズオフ機能付高度車線内運転支援機能は運転者の運転操作を支援するためのシステムです。あらゆる状況で加減速・ハンドル操作をするシステムではありません。
高速道路や自動車専用道本線ではない道路で使用した場合や、システムに頼った運転をした場合は、思わぬ事故につながり、死亡または重大な障害にいたるおそれがあります。
運転者は常に運転姿勢を保ち、周囲の状況を確認し、運転操作をする必要があります。
常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけて走行してください。

ハンズオフ機能付高度車線運転支援機能が使用できない区間があります。詳しくは Honda ホームページをご覧ください。



運転者による操作が必要になるときは、ハンドル表示灯(オレンジ)が点滅しメーター表示、ブザーにより操作要求します。
メーター表示にしたがって運転操作してください。

システムの作動中に運転者が操作した場合は運転者の操作を優先します。

ドライバーモニタリングカメラで運転者の状態を検知しています。システムが居眠り、わき見などの状態にあると判断した場合メーターなどでお知らせします。
➡ **ドライバーモニタリングカメラ** P.544

次ページに続く

■システムの条件と制限

以下の条件では、ハンズオフ支援中に運転操作を要求する場合やハンズオフ支援が一時的に使用できない場合があります。

- 手袋を着用しているとき
- ステアリングに保護カバーを取り付けているとき
- ルーフに載せた荷物の影響で自車位置を測位できないとき
- トンネル、遮音壁、谷間など全球測位衛星システムGNSS（Global Navigation Satellite System）が受信困難で自車位置が特定できないとき
- 工事区間など交通規制のある区間を検知したとき
- 高精度地図と実際の道路環境が一致していないとき
- 高精度地図の情報と自車が検知している状態が異なるとき
- 目的地キャンセルやリルートのとき
- 中央分離帯がない高速道路を走行するとき
- 急なカーブにさしかかったとき
- 料金所の手前にきたとき
- 分岐・合流路などを走行するとき
- 合流などで側方車両が接近してきたとき
- 自車付近に人を検知したとき
- 前走車が発進した後もブレーキを踏みつづけたとき
- 急な割込みがあったとき
- 車線を逸脱したとき
- 障害物を検知したとき
- 車両が衝撃を検知したとき
- 荒れた路面などでハンドルがとられたとき
- 自車の走行車線が隣接車線と合流（車線減少）するとき
- 路肩に車両が停止しているとき

Honda SENSING 360+ 装備車

レコメンド型車線変更支援機能

高速道路や自動車専用道本線上で、ハンズオフ機能付車線内運転支援が作動している場合、前方の遅い車両や後方から速い車両が接近すると、システムが車線変更のタイミングを通知します。車線変更時には、方向指示器(ウィンカー)点滅・加減速・ハンドル操作を支援します。

レコメンド型車線変更支援機能

⚠警告

レコメンド型車線変更支援機能は運転者の運転操作を支援するためのシステムです。あらゆる状況で車線変更に伴う加減速・ハンドル操作をするシステムではありません。

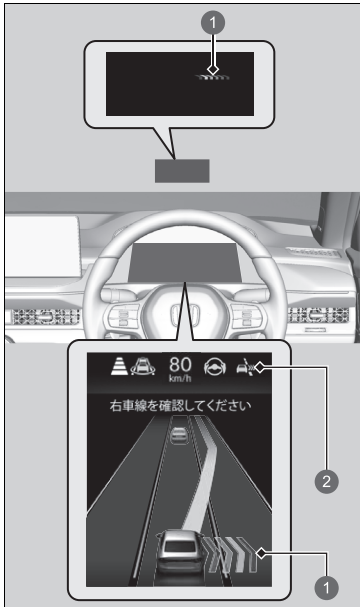
高速道路や自動車専用道本線ではない道路で使用した場合や、システムに頼った運転をした場合は、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

運転者は常に運転姿勢を保ち車線変更先の状況を含めた周囲の状況を確認し、運転操作をする必要があります。

常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけて走行してください。

次ページに続く

■システムの作動



❶ 車線変更表示
❷ レコメンド型車線変更支援機能表示灯(グリーン)

ハンズオフ機能付高度車線内運転支援機能が作動しているときに、車線変更可能なタイミングを運転者に通知します。
ハンドルを握った状態で スイッチを押すとレコメンド型車線変更支援機能表示灯(グリーン)が点灯し、車線変更を開始します。車線変更が終わると表示灯が消灯します。

ナビゲーションで目的地設定を行っている場合は、ジャンクションや出口に近づくと車線変更可能なタイミングを運転者に通知します。
車線の状況により車線変更できない場合は、状況に応じた運転操作をしてください。

システムの作動中に運転者が操作した場合は運転者の操作を優先します。

システムの作動

目的地設定を行ってレコメンド型車線変更支援機能を使用するためには、以下の設定を確認してください。

- ナビゲーション(Googleアプリおよびサービスの Google マップ)を起動する
  ▶ 起動した後に別の画面に切り替えても作動します。
- ディスプレイオーディオシステムの**本体設定→プライバシー→権限一括設定**から「位置情報」の設定をオンにする
  ➡ **設定** P.285
- ナビゲーション(Googleアプリおよびサービスの Google マップ)の「位置情報」をオンにする
  ▶ Google マップ起動時に位置情報をオンにする案内が表示される場合には画面指示に従って位置情報の設定をオンにしてください。
- ナビゲーション(Google アプリおよびサービスの Google マップ)のオフラインマップから「自動ダウンロード設定」をオンにする
  ▶ GoogleマップはVehicle Map Service(VMS)を経由して情報を提供し、レコメンド型車線変更支援機能の作動をサポートします。
  ➡ **Google アプリおよびサービス** P.275

詳細については、Google のホームページをご覧ください。

パワーシステムを起動後、約 15 秒の間はレコメンド型車線変更支援機能は作動しません。

■システムの作動条件

レコメンド型車線変更支援機能は以下の条件で作動します。

- ハンズオフ機能付高度車線内運転支援機能表示灯(グリーンまたはブルー)が点灯しているとき
- レコメンド型車線変更支援機能表示灯(ホワイト)が点灯しているとき
- 車速が約 70km/h 以上で走行しているとき
- 移動先車線の前方後方に車両がいないとき
- 車線変更する側の車線境界線が破線のとき
- 直線またはゆるやかなカーブの道路を走行しているとき

システムの作動条件

レコメンド型車線変更支援機能の ON/OFF を変更することができます。

設定 P.285

次ページに続く

■解除するには

以下の操作をするとレコメンド型車線変更支援機能が解除されます。

- 車線変更を開始した車線内でもう一度スイッチを押す

■システムの条件と制限

以下の条件では、システムが正常に作動しない場合があります。

■環境によりシステムが正しく検知できない事例

- 白線(黄線)と道路表面の区別ができないとき
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 夜明けや夕暮れ時に太陽に向かって走行するとき
- 白線(黄線)の付近に影が映っているとき(木々、建物、ガードレール、車両など)
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで周囲の明るさが変化したとき
- 夜間やトンネル内などで周囲が暗く、車線や路面が照らされていないとき
- 前方の車両との距離が極端に短く、車線や路面がかくれているとき
- 前方や後方の車両により接近する車両がかくれているとき
- 強い光が路面に反射しているとき
- 先行車による水しぶきや雪の巻上げがあるとき
- 車内の物がフロントガラスに反射したとき
- 他の車両のレーダーや強い電波を発する設備などが付近にあるとき
- 周辺に構造物などがない開けた道路を走行するときや交通量が少ないとき

▶▶システムの条件と制限

次のような状況では、運転者がステアリング操作をしていなくても手放し警告がでず、Honda SENSING 360+ の一部機能が継続して作動することがあります。

- ステアリングに物や体が接触しているとき、または接近しすぎているとき

■道路の状態によりシステムが正しく検知できない事例

- 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- 道路の修復や古い白線(黄線)のため、かすれや重複、タイヤ痕、さまざまな白線(黄線)が道路にあるとき
- 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき
- 車両などが白線(黄線)の一部を隠しているとき
- 坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき
- 路上のもの(縁石、ガードレール、パイロンなど)を白線(黄線)と認識したとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
- 車線が二重に描かれている道路を走行するとき
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- 雪上路や路上の雪・水溜まりなどで舗装路が部分的に見えているとき
- 路面に水溜まりや水膜があるとき
- カーブ、うねった道路、坂道など、道路状況により白線(黄線)を正しく認識できないとき
- 未舗装路やわだちのある道路を走行しているとき
- 分岐・合流路などを走行するとき
- 狭い鉄橋を走行しているときなど、車両の周囲に電波を強く反射する物があるとき
- 路側の設置物(ガードレール、電柱、木、駐車車両、建物、壁など)を検知したとき

次ページに続く

■自車の状態によりシステムが正しく検知できない事例

- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれて、暗いところで前方が見にくいとき
- フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリー、ステッカーやフィルムによりカメラ前方が覆われているとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところで、ヘッドライトが点灯していない状態で走行しているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- トランクやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- サスペンションを変更したとき
- フロントガラスの内側が曇っているとき
- ルーフ上の大きな荷物がフロントガラスの上部に接触しているとき
- 滑りやすい路面などで車両の動きが不安定なとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき
- フロントグリルやフロントバンパーの周辺が汚れ、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリー、ステッカーやフィルムなどで覆われているとき

■その他、作動できない事例

- 手袋を着用しているとき
- ステアリングに保護カバーを取り付けているとき
- ルーフに載せた荷物の影響で自車位置を測位できないとき
- ナビゲーション(Google アプリおよびサービスの Google マップ)のソフトウェアが最新バージョンでないとき
- ディスプレイオーディオシステムのソフトウェアが最新バージョンでないとき
- 新しい道路情報がナビゲーション上の地図に反映されていないとき
- 新しい道路が建設された場合
- 制限速度が変更された場合
- 車載センサーが検知した自車の経路と実際の車両の経路が異なる場合
- 自車の走路に対して、隣接した速度の異なる道路が存在する場合
- カメラが一時的な速度標識を認識することができない場合
- トンネル内やビル群周辺など、全球測位衛星システム GNSS の受信精度が低下する場所を走行したとき
- 前走車が小さい二輪車やサイドカー付き二輪車、特殊な形状の車両および車いすのとき
- 前走車の形状をシステムが正しく検知できないとき
- 前走車が背景に紛れて検知できないとき
- 対象外道路の標識を認識したとき

その他、作動できない事例

ナビゲーション(Google マップ)、ディスプレイオーディオシステムのソフトウェア更新については、下記を参照してください。

➔ **システムアップデート** P.241
➔ **Google アプリおよびサービス** P.275

車線変更支援機能

高速道路や自動車専用道(一部を除く)で、方向指示器(ウィンカースイッチ)を操作すると車線変更に伴なうハンドル操作を支援します。

▶車線変更支援機能

⚠警告

車線変更支援機能は、補助機能として使用してください。
車線変更支援機能は、自動運転システムではありません。あくまでも運転者をアシストするための機能です。

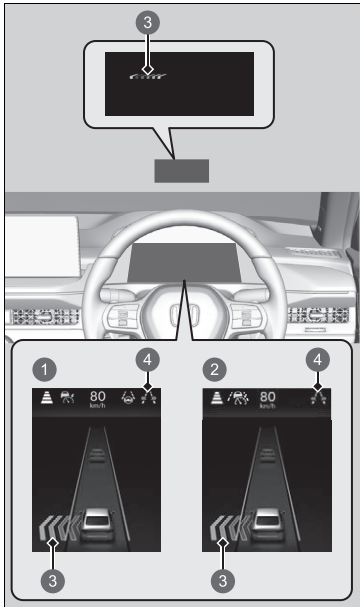
機能に頼った運転をすると、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。
常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけて走行してください。高速道路や自動車専用道路でのみ使用してください。

レーダーセンサーの取り扱いについては下記を参照してください。
➔ **レーダーセンサー** P.547

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。
➔ **フロントセンサーカメラ** P.545

パワーシステムを起動後、約 15 秒の間は車線変更支援機能は作動しません。

■システムの作動



❶ Honda SENSING 360 装備車
❷ Honda SENSING 360+ 装備車
❸ 車線変更表示
❹ 車線変更支援機能表示灯（グリーン）

車線変更支援機能が作動すると、メーター内の車線変更支援機能表示灯（グリーン）と車線変更表示が点灯し車線変更に伴なうハンドル操作を支援します。
車線変更が終わるとウィンカーが消灯し、ハンドル操作の支援が終了します。
システムの作動中に運転者が操作した場合は運転者の操作を優先します。

車線変更支援機能

Honda SENSING 360 装備車

車線変更支援機能を使用するためには、以下の設定を確認してください。

- ナビゲーション（Googleアプリおよびサービスの Google マップ）を起動する
  ▶ 起動した後に別の画面に切り替えても作動します。
- ディスプレイオーディオシステムの**本体設定→プライバシー→権限一括設定**から「位置情報」の設定をオンにする
  設定 P.285
- ナビゲーション（Googleアプリおよびサービスの Google マップ）の「位置情報」をオンにする
  ▶ Google マップ起動時に位置情報をオンにする案内が表示される場合には画面指示に従って位置情報の設定をオンにしてください。
- ナビゲーション（Googleアプリおよびサービスの Google マップ）のオフラインマップから「自動ダウンロード設定」をオンにする
  ▶ Google マップは Vehicle Map Service（VMS）を経由して情報を提供し、車線変更支援機能の作動をサポートします。
  Google アプリおよびサービス P.275

詳細については、Google のホームページをご覧ください。

次ページに続く

■システムを作動させるには

車線変更支援機能は、以下の条件で作動します。

- 渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)と車線維持支援システム(LKAS)が作動しているとき
- 片側 2 車線以上で対向車線と分離された高速道路や自動車専用道路(一部を除く)を走行しているとき
- ハンドル操作をしているとき
- 車速が約 70km/h 以上で走行しているとき
- 移動先車線の前方後方に他の車両がいないとき
- 車線変更する側の車線境界線が破線のとき
- 直線またはゆるやかなカーブの道路を走行しているとき

システムを作動させるには

渋滞追従機能付 ACC の取り扱いについては下記を参照してください。

➡ **渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)** P.456

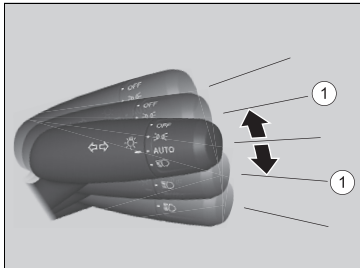
車線維持支援システム(LKAS)の取り扱いについては下記を参照してください。

➡ **車線維持支援システム(LKAS)** P.489

車線変更支援機能の ON/OFF を変更することができます。

➡ **設定** P.285

■システムの作動方法



常に周辺の安全を確認し、車線変更時は、先行車や並走車との距離や周囲の状況を目視で確認してください。

車線変更支援機能表示灯(ホワイト)またはレコメンド型車線変更支援機能表示灯(ホワイト)※1 が点灯しているときに方向指示器(ウィンカースイッチ)を(①)の位置で「ピ」とブザーが鳴るまで保持します。

▶車線変更支援機能表示灯(グリーン)が点灯し、システムが作動します。

▶「ピピピ」とブザーが鳴るときは作動しません。

システムの作動方法

追越車または後続車が接近するなど状況により車線変更支援を中止します。

他の車両が左右から接近してきた場合などでも作動してしまう場合があります。

走行を開始してから遠方の後続車を検知していない場合など、車線変更支援機能表示灯が点灯しないことがあります。

※1 ：Honda SENSING 360+ 装備車

次ページに続く

■解除するには

車線変更を開始した車線内で以下の操作をすると、車線変更支援機能が解除されます。

- ワンタッチターンシグナル操作をしたとき
  ▶ このとき車線変更が中止されます。

■車線変更支援機能の条件と制限

以下の条件では、システムが正常に作動しない場合があります。

■環境によりシステムが正しく検知できない事例

- 白線(黄線)と道路表面の区別ができないとき
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 夜明けや夕暮れ時に太陽に向かって走行するとき
- 白線(黄線)の付近に影が映っているとき(木々、建物、ガードレール、車両など)
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで周囲の明るさが変化したとき
- 夜間やトンネル内などで周囲が暗く、車線や路面が照らされていないとき
- 前方の車両との距離が極端に短く、車線や路面がかくれているとき
- 強い光が路面に反射しているとき
- 先行車による水しぶきや雪の巻上げがあるとき
- 車内の物がフロントガラスに反射したとき
- 他の車両のレーダーや強い電波を発する設備などが付近にあるとき
- 周辺に構造物などがない開けた道路を走行するときや交通量が少ないとき

※1：Honda SENSING 360 装備車
※2：Honda SENSING 360+ 装備車

解除するには

以下の場合も車線変更支援機能が解除されます。

- ハンドルを大きく操作したとき
- 車両が前進しているときにブレーキペダルを踏んだとき
- CANCEL スイッチを押したとき
- ※1/※2 スイッチを押したとき
- スイッチを押したとき※1
- 方向指示器(ウィンカースイッチ)を保持される位置まで操作したとき
- ハザードスイッチを押したとき

車線変更支援機能の条件と制限

次のような状況では、運転者がステアリング操作をしていなくても手放し警告がでず、Honda SENSING 360/Honda SENSING 360+ の一部機能が継続して作動することがあります。

- ステアリングに物や体が接触しているとき、または接近しすぎているとき

■道路の状態によりシステムが正しく検知できない事例

- 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- 道路の修復や古い白線(黄線)のため、かすれや重複、タイヤ痕、さまざまな白線(黄線)が道路にあるとき
- 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき
- 車両などが白線(黄線)の一部を隠しているとき
- 坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき
- 路上のもの(縁石、ガードレール、パイロンなど)を白線(黄線)と認識したとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
- 車線が二重に描かれている道路を走行するとき
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- 雪上路や路上の雪・水溜まりなどで舗装路が部分的に見えているとき
- 路面に水溜まりや水膜があるとき
- カーブ、うねった道路、坂道など、道路状況により白線(黄線)を正しく認識できないとき
- 未舗装路やわだちのある道路を走行しているとき
- 分岐・合流路などを走行するとき
- 狭い鉄橋を走行しているときなど、車両の周囲に電波を強く反射する物があるとき
- 路側の設置物(ガードレール、電柱、木、駐車車両、建物、壁など)を検知したとき

次ページに続く

■自車の状態によりシステムが正しく検知できない事例

- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれて、暗いところで前方が見にくいとき
- フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリー、ステッカーやフィルムによりカメラ前方が覆われているとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところで、ヘッドライトが点灯していない状態で走行しているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- トランクやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- サスペンションを変更したとき
- フロントガラスの内側が曇っているとき
- ルーフ上の大きな荷物がフロントガラスの上部に接触しているとき
- 滑りやすい路面などで車両の動きが不安定なとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき
- フロントグリルやフロントバンパーの周辺が汚れ、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリー、ステッカーやフィルムなどで覆われているとき

■その他、作動できない事例

- 手袋を着用しているとき
- ステアリングに保護カバーを取り付けているとき
- ルーフに載せた荷物の影響で自車位置を測位できないとき
- ナビゲーション(Google アプリおよびサービスの Google マップ)のソフトウェアが最新バージョンでないとき
- ディスプレイオーディオシステムのソフトウェアが最新バージョンでないとき
- 新しい道路情報がナビゲーション上の地図に反映されていないとき
- 新しい道路が建設された場合
- 制限速度が変更された場合
- 車載センサーが検知した自車の経路と実際の車両の経路が異なる場合
- 自車の走路に対して、隣接した速度の異なる道路が存在する場合
- カメラが一時的な速度標識を認識することができない場合
- トンネル内やビル群周辺など、全球測位衛星システム GNSS の受信精度が低下する場所を走行したとき
- 前走車が小さい二輪車やサイドカー付き二輪車、特殊な形状の車両および車いすのとき
- 前走車の形状をシステムが正しく検知できないとき
- 前走車が背景に紛れて検知できないとき
- 対象外道路の標識を認識したとき

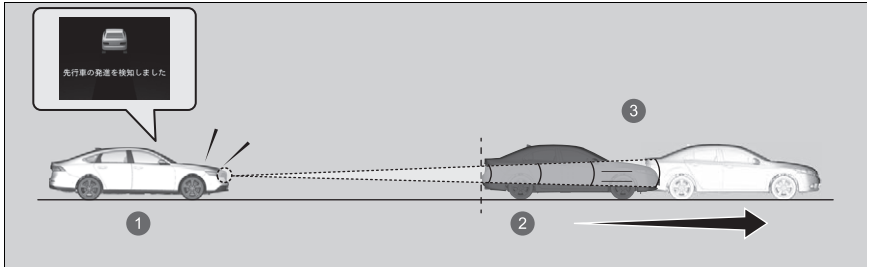
その他、作動できない事例

ナビゲーション(Google マップ)、ディスプレイオーディオシステムのソフトウェア更新については、下記を参照してください。

➔ **システムアップデート** P.241
➔ **Google アプリおよびサービス** P.275

先行車発進お知らせ機能

信号待ちなどで、先行車が発進したことに気づかず停止し続けたときに、音と表示で運転者に知らせるシステムです。



❶ 停止
❷ 先行車停止
❸ 先行車発進

≫先行車発進お知らせ機能

⚠警告

先行車発進お知らせ機能は、運転者をアシストするための補助システムです。安全に発進できる状況を知らせるシステムではありません。

取扱説明書に従い使用しないと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

発進するときは、運転者が目視で周囲と前方の安全を十分に確認し、適切な車間距離を保ち運転してください。

他の運転支援システムと同様に、先行車発進お知らせ機能は、天候や環境などによって機能しないことがあります。

先行車発進お知らせ機能を OFF にすることができます。
➔ **設定** P.285

■システムの作動条件

先行車に続いて停車(停止状態での車間距離が約10m以内、かつ自車・先行車がしばらく停止)すると先行車を認識し続け、先行車の発進を検知しても自車が停止し続けたときに作動します。

■シフトポジションがDの場合

ブレーキペダルを踏んでいる、オートマチックブレーキホールドのブレーキ保持機能が作動している、または渋滞追従機能付 ACC が作動中で停車している。

■シフトポジションがNの場合

ブレーキペダルを踏んでいる、パーキングブレーキが作動している、またはオートマチックブレーキホールドのブレーキ保持機能が作動している。

先行車発進お知らせ機能

渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)警告灯が点灯しているときは、先行車発進お知らせ機能は作動しません。

➔ **渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)** P.456

レーダーセンサーの取り扱いについては下記を参照してください。

➔ **レーダーセンサー** P.547

システムの作動タイミングを標準・早めの2段階から選択することができます。

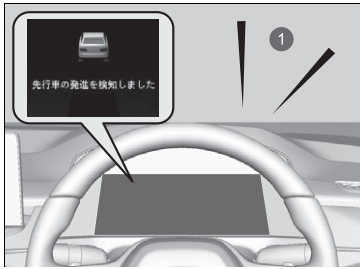
➔ **設定** P.285

標準は先行車が停止状態から約3m以上進んだときに作動します。

早めは先行車の発進を検知したときに作動します。

次ページに続く

■システムの作動状態



システムが作動すると、「ポーン」とブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

❶ 警告音

■先行車発進お知らせ機能の条件と制限

次のような場合、先行車が発進していなくてもシステムが作動したり、先行車が発進していてもシステムが作動しないことがあります。

■自車の状態によりシステムが正しく検知できない事例

- トランクやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- フロントグリルやフロントバンパーの周辺が汚れ、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリー、ステッカーやフィルムなどで覆われているとき
- 自車の停車している時間が短いとき

■環境によりシステムが正しく検知できない事例

- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 前方の車両による水しぶきや雪の巻上げがあるとき

■道路の状態によりシステムが正しく検知できない事例
- カーブ、うねった道路、右左折直後、坂道などのとき
- 狭い鉄橋を走行しているときなど、車両の周囲に電波を強く反射する物があるとき

■先行車の状態によりシステムが正しく検知できない事例
- 先行車の停車している時間が短いとき
- 先行車との距離が極端に短いとき
- 先行車が極端に遅い速度で移動しているとき
- 先行車が右左折や急旋回したとき

■その他、システムが正しく検知できない事例
- 歩行者や自転車、二輪車、特殊な形状の車両など
- 自車と先行車の間に別の車両や歩行者、自転車などが割り込んできたとき
- 先行車が自車の正面にいないとき

標識認識機能

標識認識機能は走行中に認識した道路標識情報をメーターとヘッドアップディスプレイに表示し、運転者にお知らせする機能です。
表示される道路標識は以下の 4 つです。

- 最高速度
- はみ出し通行禁止
- 一時停止
- 車両進入禁止

■作動のしかた

走行中にフロントガラス上部にあるカメラで特定の道路標識を認識し、メーターとヘッドアップディスプレイに道路標識情報を表示します。

運転中に道路標識が認識されない場合や認識できない場合、道路標識は表示されません。



❶ 最高速度
❷ メーター
❸ ヘッドアップディスプレイ

▶標識認識機能

⚠警告

標識認識機能は補助機能として使用する。
標識認識機能は、あらゆる状況で作動する機能ではありません。あくまでも、運転者をアシストするための機能です。
常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ、走行してください。

この機能は、日本の道路標識を認識するよう設計されていますが、すべての標識が表示されるわけではありません。
また、表示される道路標識であっても新しいデザインの道路標識は表示されません。

パワーシステムを起動後、約 15 秒の間は路外逸脱抑制機能は作動しません。

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。
➔ **フロントセンサーカメラ** P.545

カスタマイズ機能で以下の設定ができます。

- 標識認識機能表示
- 標識認識機能速度超過お知らせ
- 標識認識機能速度超過量

➔ **設定** P.285

標識認識機能は以下の条件で作動します。
- 最高速度 / はみ出し通行禁止：速度に関係なく作動
- 一時停止 / 車両進入禁止：自車の速度が約 60km/h 以下のとき

以下のときは、道路標識情報が別のものに切り替わります。
- 表示中の最高速度と異なる最高速度標識を認識したとき
- 一時停止標識または、車両進入禁止標識を認識したとき

以下のときは道路標識情報が消えます。
- 最高速度とはみ出し通行禁止は、標識を通過してから標識ごとに設定された距離(数百～千数百 m)を走行したとき、または終了を示す補助標識を認識したとき
- 一時停止は、標識を通過したとき
- 車両進入禁止は、進入せず標識を通過したとき
- 交差点で方向指示器(ウィンカー)を出しながら右左折したとき

標識認識機能

走行中に認識された最高速度の標識に対して、速度超過したときは表示された最高速度アイコンが点滅します。

➡ **設定** P.285

次ページに続く

■標識認識機能の条件と制限

以下の場合などにおいては、標識を正しく認識できない場合や、標識の認識が遅れたり、認識できない場合があります。

■環境によりシステムが正しく検知できない事例

- 夜明けや夕暮れ時の太陽に向かって走行するとき
- 強い光が道路に反射しているとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところ
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 前方の車両による水しぶきや雪の巻上げがあるとき

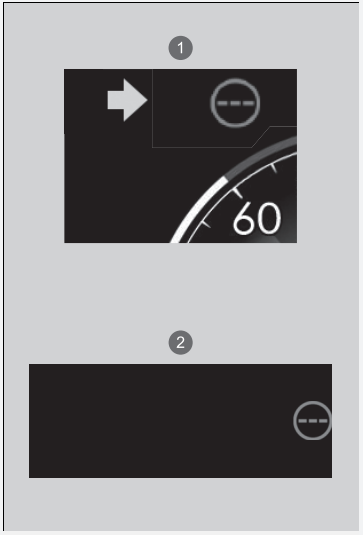
■道路の状態によりシステムが正しく検知できない事例

- 段差などにより車両が大きく揺れたとき

▶標識認識機能の条件と制限

標識認識機能が故障した場合はメーターとヘッドアップディスプレイに⊖が表示されます。

⊖のメッセージが消えないときは、Honda 販売店で点検を受けてください。



❶メーター

❷ヘッドアップディスプレイ

■自車の状態によりシステムが正しく検知できない事例

- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれて、暗いところで前方が見にくいとき
- フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリー、ステッカーやフィルムによりカメラ前方が覆われているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- トランクやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- サスペンションを変更したとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところで、ヘッドライトが点灯していない状態で走行しているとき
- フロントガラスの内側が曇っているとき

■標識の位置や状態によりシステムが正しく検知できない事例

- 標識の周囲が煩雑で標識を見つけにくい場合
- 自車から遠く離れた位置にある標識
- 自車のヘッドライトの光が届きにくい位置にある標識
- 曲がり角やカーブの先に設置された標識
- 色あせた標識や折れ曲がった標識
- 向きが変えられた標識や破損した標識
- 泥、雪、又は、霜で覆われた標識
- 一部が樹木などで隠れていたり、車両などの陰になった標識
- 標識の表面上に光(街灯など)や影が映り込んでいる場合
- 明るすぎたり、暗い標識(電光式標識)
- 小さいサイズの標識(終了を示す補助標識など)

次ページに続く

■その他、システムが正しく検知できない事例

- 高い速度で走行しているとき

以下の場合などにおいては、標識認識が正しく作動せず、自車の走路に対する規制内容とは異なる表示をしたり、実際には対象となる標識が無いのに表示したりすることがあります。
(最高速度標識においては、実際の規制速度よりも高い数値を表示したり、低い数値を表示したりすることがあります。)

- 標識の上や下に、規制の地点(始まり、終わりなど)や条件(曜日、時間帯など)を示す補助標識がある場合
- 数字の判別がつきにくい標識(電光式標識、数字がかすれた標識など)
- 自車の走路に対しての標識ではないが、自車の走路付近にあり、標識が自車の走路に向いている場合(側道が本線に合流する地点の一時停止標識など)
- 認識対象の標識の色、形、図形に似たものがある場合(類似の標識、電光掲示板、看板、のぼり旗、構造物など)

■メーターの表示

同時に二つまで道路標識情報を表示します。右側には最高速度または一時停止標識、左側にははみ出し通行禁止または車両進入禁止標識を表示します。

■表示例



❶ 最高速度
❷ メーター
❸ ヘッドアップディスプレイ

左側は車両進入禁止、右側は一時停止を優先表示します。

メーターの表示

車両進入禁止区域に進入すると車両進入禁止アイコンが点滅します。
約5秒間点滅したあと、車両進入禁止アイコンは消えます。

Honda SENSING 360+ 装備車

ドライバー異常時対応システム

ドライバー異常時対応システムは、運転者の体調急変等により運転を継続することができないと判断した場合に車線逸脱と加速を抑制して減速・停車させるシステムです。

■システムの作動

シフトポジションがDで10km/h以上で走行しているとき、以下のいずれかの状況で作動します：

- ドライバーモニタリングカメラが運転姿勢の異常を検知したとき
- ドライバーモニタリングカメラが運転者の目が一定時間以上閉じているのを検知したとき
- ハンドル操作が必要なときに、ハンドルから手を放した状態が一定時間以上続いたとき
- 緊急通報ボタンを押したとき

≫ドライバー異常時対応システム

⚠警告

緊急時停車支援機能は、運転者が一定時間システムからの操作要求に応じない場合に作動するシステムです。あらゆる状況で安全な停車、衝突回避や衝突による被害軽減を保証するシステムではありません。

意図的にシステムを作動させると、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがありますので絶対に意図的にシステムを作動させないでください。

常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけて走行してください。



システムが作動すると警報音が鳴り、システムの作動状態と車両減速が始まることをメーターに表示し、車線内を維持するようステアリングを自動で操作します。

作動開始から一定時間内にシステムのキャンセル操作が行われない場合、アクセルペダルを踏んでも加速しない制御を行います。



その後もキャンセル操作が行われない場合は、ホーンが連続的に鳴り、非常点滅表示灯が点滅しながら車両が停止するまで自動で減速を行います。

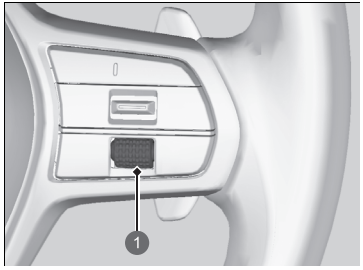
車両停止するまでシステムが継続した場合、自動でパーキングブレーキがかかり、シフトポジションがPになりドアが解錠されます。また、Honda Total Care プレミアムをご契約されている場合は自動で緊急通報を開始します。

緊急通報 P.693

システムによる停車後、システムを解除するまでホーンは吹鳴と停止を繰り返し、非常点滅表示灯の点滅とブレーキランプの点灯は継続します。

次ページに続く

■解除するには



システムはライトセレクターホイールを押すと解除されます。

また、以下の操作でも解除できます。

- ハンドルを握り、アクセルペダルを踏みなおしたとき
- システムによる停車後、シフトポジションを[P]以外に切り換えたとき

❶ ライトセレクターホイール

■ドライバー異常時対応システムの条件と制限

以下のような場合、システムが正常に作動しない場合があります。

- ドライバーモニタリングカメラが運転者の顔の向きや位置、目などを検知できないとき

  ➡ ドライバーモニタリングカメラ P.544
- 天候や道路状況などによりシステムが制限されるとき

  ▶ Honda SENSING 360+ の各機能の条件と制限を参照してください。

  ➡ Honda SENSING 360*/Honda SENSING 360+* P.374

■その他、システムが正常に作動しない事例

- 手袋を着用しているとき
- ステアリングに保護カバーを取り付けているとき

≫ドライバー異常時対応システムの条件と制限

次のような状況では、運転者がステアリング操作をしていなくても手放し警告がでず、Honda SENSING 360+ の一部機能が継続して作動することがあります。

- ステアリングに物や体が接触しているとき、または接近しすぎているとき

✣：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

Honda SENSING 360+ 装備車

高精度地図 / 全球測位衛星システム GNSS（Global Navigation Satellite System）

高精度地図

高速道路や自動車専用道の車線情報や道路構造、道路標識などさまざまな道路情報を記録した地図です。
高精度地図はサーバーとの通信接続により更新データが取得され、パワーモードを ON モードのとき自動で更新されます。

高精度地図情報の調査時期と更新時期により地図情報と道路が異なる場合や、地震や地殻変動で大きく変動した場合など、システムの判断により高精度地図を利用した一部の機能が制限されます。
高精度地図サーバの計画停止や障害が発生した場合、またはネットワーク基地局の障害や電波状況により、高精度地図を利用する一部の機能が制限されることがあります。
高精度地図の更新が停止する場合は、更新停止約 1 年前にディスプレイオーディオ画面で通知します。高精度地図を利用した一部の機能が使用できません。

全球測位衛星システム GNSS（Global Navigation Satellite System）

全球測位衛星システム GNSS（Global Navigation Satellite System）は衛星測位システムの総称で、自車位置の特定に利用されます。

高精度地図と、全球測位衛星システム GNSS（Global Navigation Satellite System）のデータや、各制御センサーの情報を用いて、自車位置の特定を行います。

高精度地図 / 全球測位衛星システム GNSS（Global Navigation Satellite System）

「高精度地図」は、ダイナミックマップ基盤株式会社が整備する高精度3次元位置情報に株式会社ゼンリンが情報を付加し、作成したものです。

高精度地図のご利用には、Honda Total Care のお申込みが必要です。
Honda Total Care の詳細はホームページをご覧ください。

車両への高精度地図配信にはTomTom Global Content B.V.（以下「TomTom」）のソフトウェアおよびサービスを使用しています。

- 本ソフトウェアおよびサービスにかかる著作権、その他一切の知的財産権は、TomTom またはそのサプライヤーに帰属します。
- お客様は、いかなる形式においても本ソフトウェアおよびサービスの全部または一部を複製、改変、解析等をすることはできません。
- 無断で本ソフトウェアおよびサービスの一部または全部を複製、改変、解析等をする行為は、刑事責任及び民事責任を問われるおそれがございます。

©2006-2025 TomTom

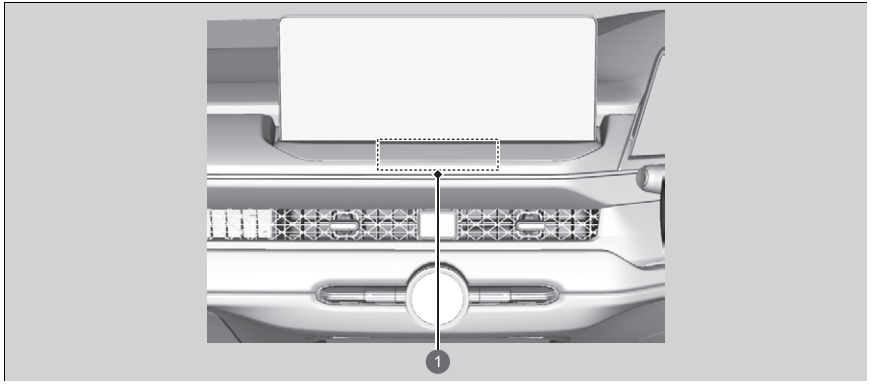
Honda SENSING 360+ 装備車

ドライバーモニタリングカメラ

ドライバーモニタリングカメラは運転支援機能の一部の機能に使用されています。

カメラが顔の向きや位置、目や姿勢などを検知します。

➡ **ハンズオフ機能付高度車線内運転支援機能** P.512
➡ **ドライバー異常時対応システム** P.540
➡ **ドライバー注意力モニター** P.454



❶ ドライバーモニタリングカメラ

ドライバーモニタリングカメラ

カメラを正しく作動させるために、必ず次のことをお守りください。

- 強い衝撃や荷重を与えない
- カメラ周辺にものを置いたり、ステッカー（透明なものを含む）を貼ったり、アクセサリーなどを取り付けない
- カメラ周辺部はきれいにしておく
- カメラを取り外さない

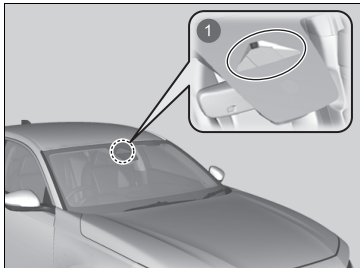
以下のような場合は運転者を正しく検出できないことがあります。

- マスクや眼鏡、サングラスなどで顔を認識できないとき
- カメラとの間に遮蔽物があるとき
- 目をしばらく閉じたり、頻繁に瞬きしたとき
- 目を細めたときや伏し目のとき
- 頭を大きく傾けたとき
- ドライバーモニタリングカメラのレンズが太陽光に照らされているとき

近赤外線光源部から赤い LED 光が見えることがあります。

運転者を正しく検出できないときは運転支援機能の一部が作動しない場合があります。

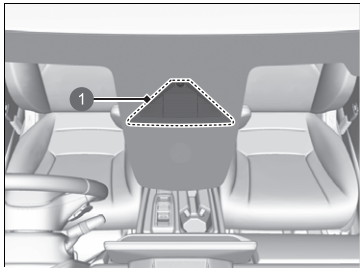
フロントセンサーカメラ



❶ フロントセンサーカメラ

カメラはフロントガラス上部に設置されています。

炎天下に駐車したときなど、室内温度が高温になり、カメラ機能が一時停止する場合があります。一時停止を防ぐため、駐車時は太陽光を避けて日陰に駐車することをおすすめします。反射サンシェードを使用する場合、カメラを覆わないでください。覆うとカメラに熱を集中させてしまう可能性があります。



❶ ステッカー貼り付け不可範囲

フロントガラスにフィルムを貼ったり、カメラの視野を遮るものを取り付けないでください。

フロントセンサーカメラ

カメラの視野内のフロントガラスにキズ、打痕、損傷があると、システムが正常に作動しなくなることがあります。この問題が発生した場合、フロントガラスの交換をお勧めします。
Honda 純正品以外のフロントガラスを使用するとシステムが正常に作動しなくなる場合があります。
フロントガラスの修理や交換をする場合はHonda 販売店にご相談ください。

カメラのレンズを汚したり傷つけたりしないでください。
➔ **車内の清掃** P.638

インストルメントパネル上部に物をおかないでください。
物がフロントガラスに反射して車線を的確に検知できない場合があります。

カメラを取り外さないでください。システムが正常に作動しなくなる場合があります。
次の場合は Honda 販売店にご相談ください。
- カメラ及び周辺部に衝撃が加わったとき

フロントガラスが曇った場合は曇りをとってください。
必要に応じてデフロスターモードを使用してください。

次ページに続く

フロントセンサーカメラ

ボンネットやフロントグリルの上にカメラの視野を妨げるものを装着しないでください。カメラの視野を妨げシステムが正常に作動しない場合があります。

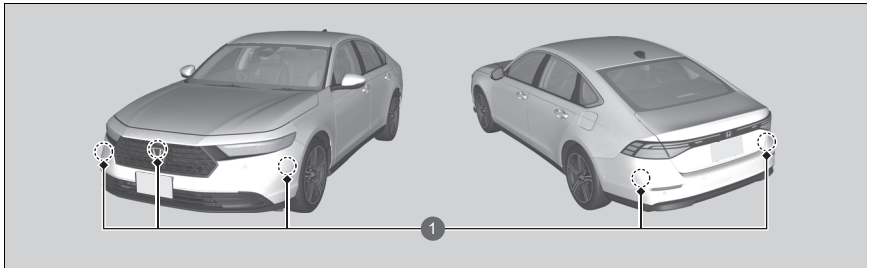
マルチインフォメーションディスプレイに「運転支援システムの一部が使用できません　カメラの温度が下がるまでお待ちください」が表示される場合：

- エアコンを使用して車内の温度を下げてください。必要に応じてデフロスターモードを使用し、風がカメラに向かうようにしてください。
- 車両を走行させ、フロントガラスとセンサーカメラ周辺の温度を下げてください。

マルチインフォメーションディスプレイに「運転支援システムの一部が使用できません　カメラ視界不良のため認識できません」が表示される場合：

- 安全な場所に車を駐車し、フロントガラスが汚れていないか確認をしてください。フロントガラスが汚れている場合は、汚れを落としてください。フロントガラスの汚れを落とし、しばらく走行した後でもメッセージが消えない場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

レーダーセンサー



❶ レーダーセンサー

レーダーセンサーはフロントグリルにある Honda エンブレムの奥に設置されています。
上記のほか、フロントバンパーとリヤバンパーの内側にもレーダーセンサーが設置されています。

レーダーセンサー

システムを正しく作動させるために、必ず次のことをお守りください。

- エンブレムやフロントグリル、バンパーは常にきれいにしておく
  ▶ お手入れにはベンジン、シンナー類、クレンザーなどの磨き粉類を使わないでください。
- エンブレムやフロントグリル、バンパーを塗装したり、ステッカーなどを貼らない
- エンブレムやフロントグリル、バンパーを傷つけない
- エンブレムやフロントグリル、バンパーを交換しない
- レーダーセンサーを取り外したり、分解しない

次の場合は、Honda 販売店にご相談ください。

- レーダーセンサーに衝撃が加わった場合
- フロントグリルやバンパーの修理を行うとき

次ページに続く

レーダーセンサー

以下のときは、レーダーセンサーが正常に作動しなくなる場合があるため、Honda 販売店で点検を受けてください。

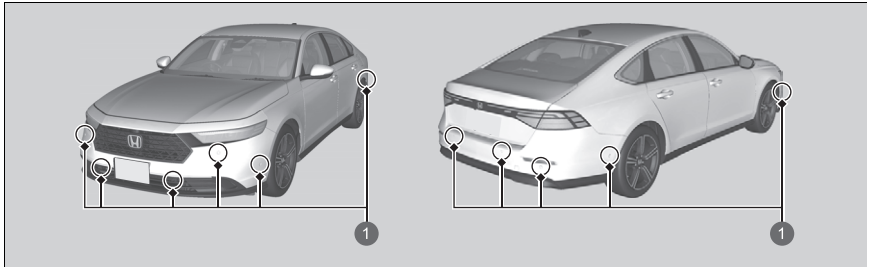
- フロントグリルやバンパーが段差、縁石、輪留め、スロープ、盛り土などに接触したとき
- 深い水たまりに進入したとき
- 車両前方が衝突、接触したとき

パワーモードをONモードにするときは、車を静止させてください。駐車場のターンテーブル上など、車両が動いているときにパワーモードをONモードにすると、各機能が作動しない場合があります。

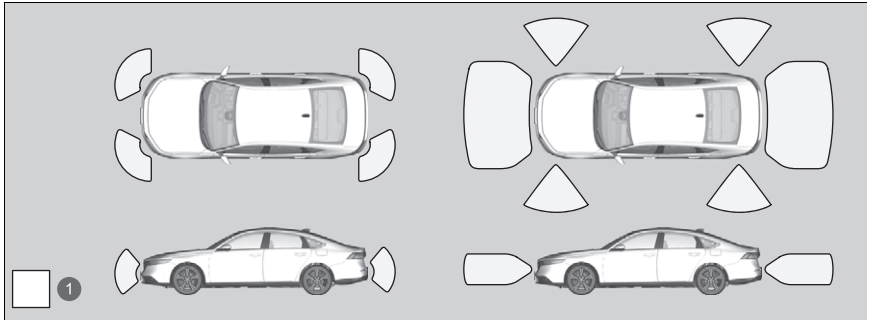
ソナーセンサー

■センサーの取り付け位置と検知範囲

ソナーセンサーはフロントバンパーおよびリヤバンパーに設置されています。



❶ ソナーセンサー



❶ センサーの検知範囲

Honda パーキングパイロットが作動しているときは、フロントバンパーとリヤバンパーの側面にあるソナーセンサーも作動します。

ソナーセンサー

ソナーセンサーの取り扱いについて

- センサーやその周囲にステッカーなどを貼り付けない。
- センサーの周囲に強い衝撃をあたえない。
- 分解は行わない。
- センサーの近くにアクセサリーを取り付けない。

次の場合は、Honda 販売店にご相談ください。

- ソナーセンサーに衝撃が加わったとき
- ソナーセンサー周辺の修理を行うとき

以下のときはソナーセンサーが正常に作動しなくなる場合があるため、Honda 販売店で点検を受けてください。

- フロントバンパーが段差、縁石、輪留め、盛り土などに接触したとき
- 車両前方または後方が衝突、接触したとき
- 深い水たまりに進入したとき

ブレーキシステム

■電子制御パーキングブレーキ

主に停車中や駐車時に使用するブレーキです。自動での解除および手動での操作ができます。

■手動で操作するとき

パーキングブレーキスイッチの操作で、パーキングブレーキをかけたり解除したりできます。
急な下り坂の発進時などに、手動でパーキングブレーキを解除すると、スムーズな発進を行うことができます。



❶ パーキングブレーキスイッチ

■手動でパーキングブレーキをかける

パーキングブレーキスイッチをゆっくりと確実に引き上げてください。

▶ パーキングブレーキが作動すると、スイッチのインジケーターとメーター内のブレーキ警告灯(レッド)が点灯します。

≫ブレーキシステム

ブレーキペダルを踏んだとき、ブレーキ装置の作動のため、エンジンルームからモーター音などが聞こえることがありますが、異常ではありません。

≫電子制御パーキングブレーキ

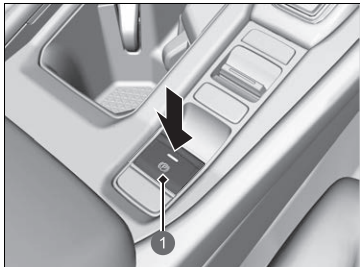
アドバイス

パーキングブレーキをかけたり解除したときに作動音が聞こえます。
これはブレーキシステムが作動している音で異常ではありません。

パーキングブレーキをかけたり解除するとブレーキペダルが動くことがあります。
これはブレーキシステムの作動によるもので異常ではありません。

12V バッテリーがあがっているときは、パーキングブレーキをかけたり、解除することはできません。
➔ 12V バッテリーがあがったとき P.670

走行中にパーキングブレーキスイッチを引き続けると、その間はパーキングブレーキがかかります。



❶ パーキングブレーキスイッチ

■手動でパーキングブレーキを解除する

1. パワーモードがONモードのときに、右足でブレーキペダルをしっかりと踏む。

2. パーキングブレーキスイッチを押す。

▶パーキングブレーキが解除され、スイッチのインジケーターとメーター内のブレーキ警告灯(レッド)が消灯します。

■自動パーキングブレーキ作動機能

自動パーキングブレーキ作動機能が ON になっているとき：
パワーモードを OFF モードにするとパーキングブレーキが自動でかかります。
パーキングブレーキがかかっていることを、ブレーキ警告灯(レッド)で確認してください。

➡ **自動作動機能を ON/OFF するには** P.553

電子制御パーキングブレーキ

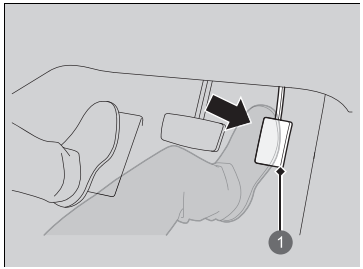
以下の状態のときは、パーキングブレーキが自動で作動します。

- 10分以上渋滞追従機能付ACCまたはオートマチックブレーキホールドシステムが作動している状態で停車しているとき
- 渋滞追従機能付 ACC またはオートマチックブレーキホールドシステムが作動している状態で運転席のシートベルトを外したとき
- 渋滞追従機能付 ACC またはオートマチックブレーキホールドシステムが作動している状態でパワーシステムを停止したとき
- オートマチックブレーキホールドシステムが作動している状態でシステムに問題が発生したとき

次ページに続く

■自動解除するとき

アクセルペダルの操作とパーキングブレーキの解除が連動します。
渋滞や上り坂での発進に便利です。



❶ アクセルペダル

アクセルペダルをゆっくりと踏んでください。

▶パーキングブレーキが解除され、ブレーキ警告灯(レッド)が消灯します。

パーキングブレーキの自動解除は、次の条件が揃ったときに行えます。

- 運転席シートベルトを着用しているとき
- パワーシステムが起動しているとき
- シフトポジションがP、N以外のとき

≫自動解除するとき

パーキングブレーキを自動で解除できないときは、手動で解除してください。

次の警告灯が点灯しているときは、自動解除できません。

- PGM-FI 警告灯
- トランスミッション警告灯

次の警告灯が点灯しているときは、自動解除できないことがあります。

- ブレーキシステム警告灯(オレンジ)
- VSA 警告灯
- ABS 警告灯
- エアバッグシステム警告灯

■自動作動機能を ON/OFF するには

パーキングブレーキの自動作動機能は、パワーモードがONモードのときに以下の操作で ON と OFF を切り替えることができます。

1. シフトポジションを P にする。

2. ブレーキペダルを踏まずに、パーキングブレーキスイッチを引き上げます。
▶ ブレーキ警告灯(レッド)が点灯していることを確認してください。

3. パーキングブレーキスイッチを引き上げたままにする。
「ピーッ ピーッ ピーッ ・・・・」と鳴り始めたら手を離し、3 秒以内に再びパーキングブレーキスイッチを引き上げたままにする。

4. 操作完了音が聞こえたらスイッチから手を離す。
▶ 自動作動機能が ON になると、「ピーッ ピーッ」と鳴ります。
▶ 自動作動機能が OFF になると、「ピー」と鳴ります。
▶ パーキングブレーキの作動状態は、ブレーキ警告灯(レッド)で確認してください。

また、下記操作を行うことで、パーキングブレーキの自動作動を一時的に OFF することもできます。

1. ブレーキペダルを踏んで停車する。

2. パワーモードをOFFモードにした後、2秒以内にパーキングブレーキスイッチを押す。
▶ 自動作動機能の ON/OFF 設定は変わりません。
▶ 渋滞追従機能付 ACC およびオートマチックブレーキホールドシステムの機能が OFF になっている状態で行ってください。
▶ パーキングブレーキの作動状態は、ブレーキ警告灯(レッド)で確認してください。

電子制御パーキングブレーキ

寒冷時に、パーキングブレーキをかけると、凍結することがあります。
自動作動機能を OFF にして、石などで輪留めをしてください。
また、けん引の場合は、必要に応じて自動作動機能を OFF にして、パーキングブレーキがかからないようにしてください。

次ページに続く

■フットブレーキ

車の減速や停止をするためのメインのブレーキです。ブレーキペダルで操作します。
緊急制動時により大きな制動力を発生させる電子制御ブレーキアシストが装備されています。

➔ **電子制御ブレーキアシスト** P.561

また、ブレーキのロックを防止する ABS（アンチロックブレーキシステム）で、安全性の向上を図っています。

➔ **ABS（アンチロックブレーキシステム）** P.559

▶フットブレーキ

水たまりを走行したときは、ブレーキの効き具合を確認してください。
効きが悪いときは、効き具合が戻るまでブレーキペダルを何回か軽く踏んでください。

ブレーキを踏んでいる間、絶えず金属的な摩擦音が聞こえる場合はブレーキパッドを交換する必要があります。
Honda 販売店で点検を受けてください。

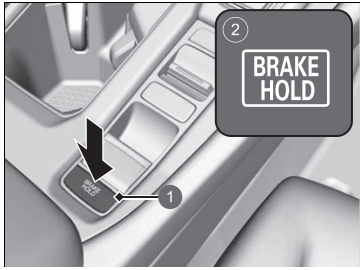
長い下り坂でブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキが過熱し、ブレーキの効きが悪くなり危険です。
そのため、長い下り坂などでは回生ブレーキを使用します。
アクセルペダルから足を離し、減速セレクターを使用すると、回生ブレーキの強さが調整できます。

➔ **減速セレクター** P.355

■オートマチックブレーキホールド

停車中に、ブレーキペダルを踏み続けなくても、自動的にブレーキを保持する機能です。保持中にアクセルペダルを操作すると、自動でブレーキが解除され発進することができます。信号待ちなどの一時的に停止したいときの使用に適しています。

■機能を ON させるには



❶ オートマチックブレーキホールドスイッチ
❷ オートマチックブレーキホールドシステム表示灯点灯

シートベルトを着用し、パワーシステムを起動してからオートマチックブレーキホールドスイッチを押す。

▶ オートマチックブレーキホールドシステム表示灯が点灯し、機能がONになります。

パワーシステムを一度停止してから運転席のシートベルトを着用し再度起動しても、前回と同じ設定で復帰します。

オートマチックブレーキホールド

⚠警告

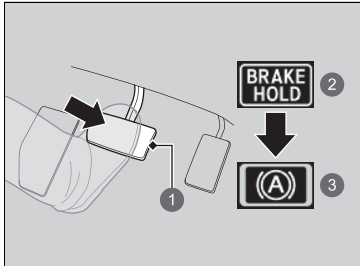
急な坂道やすべりやすい路面の場所では、ブレーキペダルから足を離さない。
急な坂道やすべりやすい路面の場所では、オートマチックブレーキホールドが作動していても、ブレーキペダルから足を離したときに車が動くことがあります。
不意に車が動くことにより衝突の原因となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠警告

駐車をする目的でオートマチックブレーキホールドを作動させない。
不意に車が動くことにより衝突の原因となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
オートマチックブレーキホールドシステム作動中は絶対に車から離れないでください。駐車する際はシフトポジションをPにしてパーキングブレーキをかけてください。

次ページに続く

■ブレーキを保持させるには



❶ ブレーキペダル
❷ オートマチックブレーキホールドシステム表示灯
❸ オートマチックブレーキホールド表示灯点灯

シフトポジションが P R 以外のときにブレーキペダルを踏んで停車する。

▶ オートマチックブレーキホールド表示灯が点灯し、自動でブレーキが 10 分間保持されます。

▶ オートマチックブレーキホールド表示灯が点灯後、ブレーキペダルから足を離してください。

≫オートマチックブレーキホールド

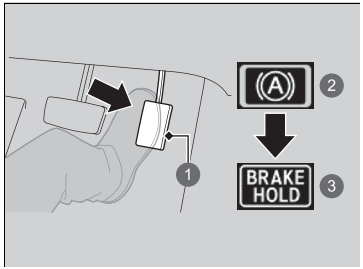
⚠警告

オートマチックブレーキホールドを使用する際は、オートマチックブレーキホールド表示灯が点灯するまでブレーキペダルから足を離さない。
不意に車が動くことにより衝突の原因となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
オートマチックブレーキホールド表示灯が点灯した後にブレーキペダルから足を離してください。

システムが作動していても通常と同じ手順でパワーシステムの停止が行えます。
駐停車操作 P.563

ブレーキ保持中にタイヤの回転を検知すると、ブレーキ力を強めるために作動音が発生する場合があります。

■車両を発進させるには



❶ アクセルペダル
❷ オートマチックブレーキホールド表示灯
❸ オートマチックブレーキホールドシステム表示灯点灯

シフトポジションが P N 以外のときにアクセルペダルを踏むと機能が解除し、発進します。

▶ オートマチックブレーキホールド表示灯が消灯し、自動でブレーキが解除されます。

■ブレーキ保持機能が自動的に解除されるとき

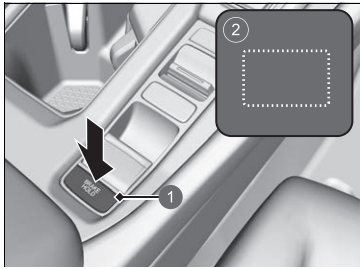
- パーキングブレーキスイッチを引いたとき
- シフトポジションが P もしくは R で、ブレーキペダルを踏んでいるとき

以下の状態のときは、パーキングブレーキが自動で作動した後、オートマチックブレーキホールドシステムによるブレーキ保持が解除されます。

- 10 分以上ブレーキを保持したとき
- 運転席のシートベルトを外したとき
- パワーシステムを停止したとき
- オートマチックブレーキホールドシステムに問題が発生したとき

次ページに続く

■機能を OFF させるには



❶ オートマチックブレーキホールドスイッチ
❷ オートマチックブレーキホールドシステム表示灯消灯

機能がONのときにオートマチックブレーキホールドスイッチを押します。
▶ オートマチックブレーキホールドシステム表示灯が消灯します。

オートマチックブレーキホールド表示灯が点灯中にOFFにしたいときは、ブレーキペダルを踏みながらオートマチックブレーキホールドスイッチを押します。

▶▶機能を OFF させるには

自動洗車機を使用するときは、システムがOFF になっていることを確認してください。

機能がONのときに運転席のシートベルトを外す、またはパワーシステムを停止すると機能が OFF になります。この場合は、運転席のシートベルトを着用し、パワーシステムを起動すると、オートマチックブレーキホールドスイッチ操作なしで機能が ON になります。

ABS(アンチロックブレーキシステム)

■ ABS とは

ABS(アンチロックブレーキシステム)とは、急制動や滑りやすい路面で制動するとき、車輪のロックを防止することで車両の姿勢を安定させ、ハンドルの効きを確保しようとするための装置です。

■ABS の作動と警告灯

ブレーキペダルを踏んだとき、ブレーキペダルが小刻みに動くことがありますが、これは ABS の正常な動作です。そのままブレーキペダルを強く踏み続けてください。

なお、低速(車速約 10 km/h 以下)では ABS は作動せず、通常のブレーキと同じ作動となります。



ABS 警告灯

パワーモードを ON モードにすると数秒間点灯し消灯するのが正常な状態。

≫ABS(アンチロックブレーキシステム)

アドバイス

種類やサイズの異なるタイヤが混在していると、ABS が正常に機能しないことがあります。

タイヤは必ず、同一指定サイズ、同一種類のタイヤを指定空気圧で使用してください。

ABS 警告灯が運転中に点灯するときは、システムの異常が考えられます。

通常のブレーキ操作には支障はありませんが、ABS が作動していない可能性があります。

ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

ABS は、制動距離を短くするためのものではありません。

ABS を装備していない車両と同様に、路面が滑りやすいほど長い制動距離が必要になります。

ABS が作動した状態でも車両の姿勢やハンドルの効きには限界がありますので、安全運転に心がけてください。また、次のような場合、ABS の装着されていない車両に比べ、制動距離が長くなることがあります。

- 砂利道、深い新雪、凸凹路などの悪路
- 舗装の継ぎ目やマンホールなどの段差

次ページに続く

ABS（アンチロックブレーキシステム）

パワーシステムの起動直後や走行中、システムチェックのためエンジンルームからモーター音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

電子制御ブレーキアシスト

■電子制御ブレーキアシストとは

緊急制動時に、より大きな力を発生させ運転者のブレーキ操作を補助する装置です。

■電子制御ブレーキアシストの作動

ブレーキペダルを強く踏み込んだときに、ブレーキがより強く効くようになります。

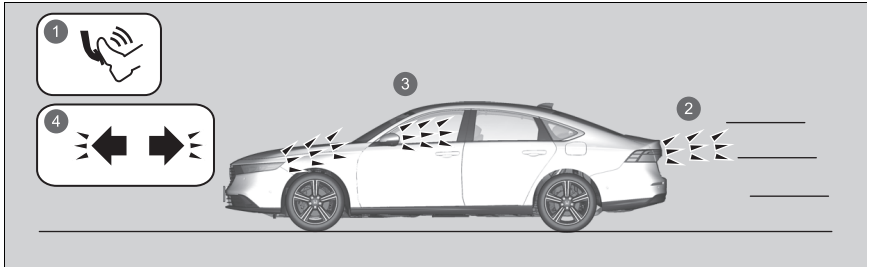
ブレーキアシストが作動すると、ペダルが小刻みに動いたり、作動音が聞こえたりすることがあります。これはブレーキアシストが作動しているときの現象で異常ではありません。そのままブレーキペダルを強く踏み続けてください。

➔ VSA(ビークルスタビリティアシスト) P.366

エマージェンシーストップシグナル

エマージェンシーストップシグナルは、自車が急ブレーキをかけたことを非常点滅表示灯が自動的に高速で点滅して後続車に知らせ、追突される可能性を低減するシステムです。60km/h 以上で走行しているときに急ブレーキをかけると作動します。

■作動のしくみ



❶ 急ブレーキをかける
❷ 制動灯点灯
❸ 非常点滅表示灯が高速で点滅
❹ メーター内の方向指示器表示灯が左右同時に高速で点滅

エマージェンシーストップシグナルは、以下の状態になると作動が停止します。

- ブレーキペダルを離したとき
- ABS が停止したとき
- 急減速でなくなったとき
- ハザードスイッチを ON にしたとき

エマージェンシーストップシグナル

エマージェンシーストップシグナルは、追突されるおそれを低減するシステムであり、追突を完全に防ぐものではありません。運転するときは不必要な急ブレーキを避け、安全運転を心がけてください。

ハザードスイッチがONのときは、エマージェンシーストップシグナルは作動しません。

ABS が一定時間以上作動しないとき、システムが作動しない場合があります。

駐車する

1. ブレーキペダルをしっかり踏んで車両を停止させる。
2. ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキスイッチをゆっくりと確実に引き上げる。
3. シフトポジションを[P]にする。
▶ メーターにシフトポジション[P]が表示されるまでブレーキペダルを離さないでください。
4. パワーシステムを停止する。
▶ 車から離れるときは必ず施錠してください。

坂道に駐車をするときは、必ずパーキングブレーキをかけてください。

仮眠するときは、パワーシステムを停止してください。
無意識にシフトポジションを操作したり、アクセルペダルを踏み込んだりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

駐停車操作

⚠注意

駐車時はパワーシステムをオフにする。
万一、シフトポジションが[P][N]以外に入っていた場合、クリープ現象により車が動き出したり、乗り込む際に誤ってアクセルペダルを踏み、急発進するおそれがあります。

⚠注意

停車中の空ぶかしはしない。
万一、シフトポジションが[P][N]以外に入っていた場合、思わぬ急発進のもとになります。

シフトポジションを[N]にすると同時に[POWER]を押さないでください。
[N]ポジションの状態になることがあります。
シフトポジションは[P]にしてください。

枯れ草や紙、油、木材など燃えやすいものがあるところには駐停車しないでください。
排気管や排気ガスの熱により、着火するおそれがあります。

植え込みなどの近くに駐停車するときは、排気ガスが植え込みに当たらないように車の向きを決めてください。

次ページに続く

アドバイス

アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。また、上り坂でP N以外に入れた状態で、アクセルを調節しながら車を停車させたりしないでください。

トランスミッションが過熱し、故障の原因となります。

アドバイス

車が完全に止まらないうちにPに入れないでください。

トランスミッション破損の原因となります。

車内の見えるところに貴重品などを置かないでください。

車内にライターや炭酸飲料缶を放置しないでください。

車内温度上昇によりライターなどの可燃物が自然発火したり、缶などは破裂したりするおそれがあります。

寒冷時に、パーキングブレーキをかけると、凍結することがあります。

パーキングブレーキをかけずに、輪留めをしてください。

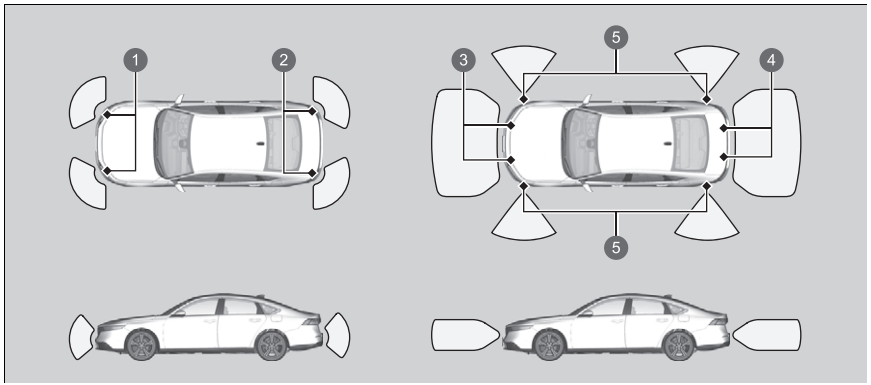
輪留めをしないと車が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

パーキングセンサーシステム

車両前方のフロントセンターセンサーおよびフロントコーナーセンサーと車両側面のサイドセンサーと車両後方のリヤセンターセンサーおよびリヤコーナーセンサーが障害物を検知し、障害物と車両の距離を警報音と表示で知らせます。

➔ **ソナーセンサー** P.549

■パーキングセンサーの取付位置と検知範囲



❶ フロントコーナーセンサー
❷ リヤコーナーセンサー
❸ フロントセンターセンサー
❹ リヤセンターセンサー
❺ サイドセンサー

パーキングセンサーシステム

駐車する前に車両の周りに障害物がないことを確認してください。

次のようなときは、システムが正常に働かないことがあります。
- センサーが雪、氷、泥などで覆われているとき
- 車両が高温または低温の状況にあるとき
- 超音波や周波数の高い音を発するものが近くにあるとき
- 雨・霧・雪など悪天候のとき

次のようなときは、システムが障害物を検知できないことがあります。
- 障害物が細いとき、または低いとき
- 雪、布、スポンジなど吸音しやすい材質があるとき
- バンパーの真下に障害物があるとき

次のようなときは、システムが誤って障害物を検知することがあります。
- 凸凹な路面や、草地、段差があるとき
- 他の車両のソナーセンサーなど、超音波を発するものが付近にあるとき
- 大雨などによりセンサー付近に水しぶきがかかったとき

次ページに続く

パーキングセンサーシステム

センサーの近くにアクセサリーを取り付けない。リアセンサーや、その周囲にアクセサリー(自転車ラックなど)を取り付けた場合、アクセサリーを障害物として検知して踏み間違い衝突軽減システムが作動する恐れがありますので、リアパーキングセンサーを OFF にしてください。

設定 P.285

■パーキングセンサーの ON と OFF

マルチインフォメーションディスプレイを使用して、システムの ON/OFF を切り換えることができます。
警報音および表示が OFF になります。

➡ **表示の切り換えかた** P.106

➡ **安全支援情報** P.116

フロントコーナーセンサーおよびリヤセンサーは、シフトポジションが R で、車速が 8km/h 以下のとき障害物を検知します。

フロントセンサーは、シフトポジションが P R 以外で、車速が 8km/h 以下のとき障害物を検知します。

Honda パーキングパイロットが作動しているときは、パーキングセンサーシステムが ON になります。
車速が 4km/h 以下で走行しているとき、すべてのパーキングセンサーが障害物を検知します。

パーキングセンサーの ON と OFF

パワーシステムを起動したときは、パワーモードを OFF する前の状態(ON または OFF)を保持します。

車速が 8km/h 以下で走行しているとき、車両前方の障害物を検知し、障害物との距離が近づくと前方のカメラ画像がディスプレイオーディオ画面に表示されます。

➡ **マルチビューカメラシステム** P.574

障害物が検知されなくなるか、障害物が検知範囲と非検知範囲の間にある場合、ディスプレイは前の画面に戻ります。
障害物が検知されたときに前方のカメラ画像を表示するかどうかをカスタマイズすることができます。

➡ **設定** P.285

ディスプレイオーディオ画面を使用して、リアパーキングセンサー警報設定の ON/OFF を切り換えることができます。

➡ **設定** P.285

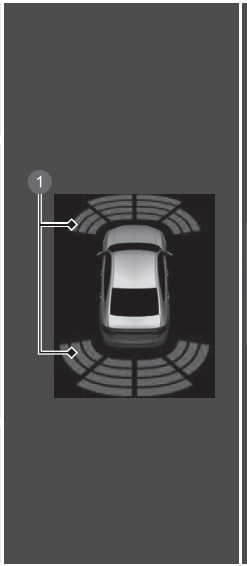
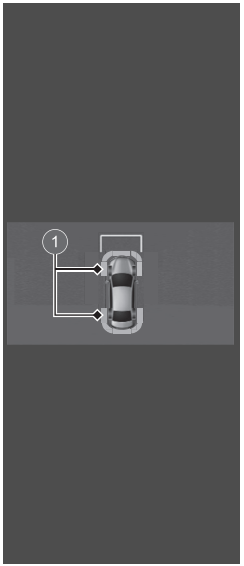
次ページに続く

■障害物を検知したときの作動状態

パーキングセンサー警告灯

パーキングセンサー警告灯が点滅します。

▶ システムを OFF にしても障害物を検知するとパーキングセンサー警告灯のみが点滅します。

警報音の間隔	障害物との距離			インジケーター	マルチインフォメーションディスプレイ	ディスプレイオーディオ画面
	コーナーセンサー	センターセンサー	サイドセンサー※4			
長い	—	フロント：約 90-72cm リヤ：約 111-61cm	—	点灯※1/ 点滅※2（イエロー※3）		
短い	フロント：約 65-45m リヤ：約 60-45cm	フロント：約 72-62cm リヤ：約 61-46cm	—	点灯※1/ 点滅※2（オレンジ）		
非常に短い	約 45-35cm	フロント：約 62-52cm リヤ：約 46-36cm	約 45-35cm※5			
連続	約 35cm 以下	フロント：約 52cm 以下 リヤ：約 36cm 以下	約 35cm 以下※5	点灯※1/ 点滅※2（レッド）		

※1 ：マルチインフォメーションディスプレイ
※2 ：ディスプレイオーディオ画面
※3 ：このときは、センターセンサーのみが障害物を検知します。
※4 ：Honda パーキングパイロットが作動している間は、フロントバンパーとリヤバンパーの側面にあるセンサーも作動可能です。
※5 ：Honda パーキングパイロットが動作している間は、警告音が連続または非常に短く鳴り、インジケーターがレッドまたはオレンジで点滅します。
❶ 障害物を検知した場所をインジケーターで知らせる

警報音を一時的にOFFにするには、警報音がなっているときにライトセレクターホイールを押してください。シフトポジションを切り替えるか 14 km/h 以上で走行すると一時 OFF が解除されます。

後退出庫サポート

駐車場などから後退で出庫するときに、リヤバンパー左右にあるレーダーにより車両後方の左右から接近する他の車両を検知し、運転者に知らせる機能です。

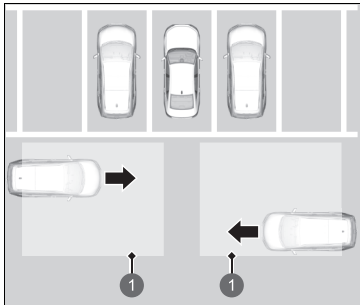
▶後退出庫サポート

⚠注意

このシステムは出庫時の後方確認などをサポートするためのものであり、衝突を防止するためのシステムではありません。

後退時は、必ず目視やミラーなどで後方および周囲の安全を直接確認して運転してください。
状況によっては、検知のできない可能性があるため、ブザーや画面の表示のみを頼って後退すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■作動条件と作動タイミング



❶ 検知範囲

パワーモードがONモードでシフトポジションがRのときにシステムを ON にしていると、自車の車速が約5 km/h以下の場合に車両後方の左右から接近する他の車両を検知し、ブザーと画面の表示でお知らせします。

自車の真後ろから接近する他の車両は検知しません。また、検知している他の車両が自車の真後ろまで到達した時点でお知らせを停止します。

自車から離れていく車両に対しては検知をしません。また接近する歩行者、自転車、二輪車などに対して検知する場合があります。

次ページに続く

後退出庫サポート

以下のような状況では、接近する車両を検知できなかったり、検知が遅くなったり、接近する車両がいないのに検知したりする場合があります。

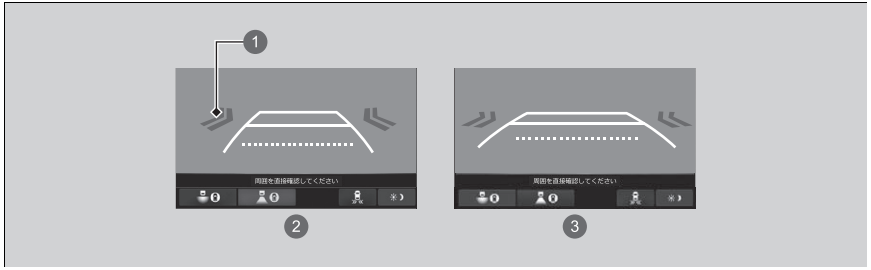
- リヤバンパーの周囲に他の車両や壁などがあり、レーダーの検知範囲が影響を受けたとき
- 自車の車速が約 5km/h を超えているとき
- 接近する他の車両の車速が約 10 ～ 25km/h 以外のとき
- レーダーなどを装備した他の車両が近くにいるとき
- 近くに強い電波を発する設備があるとき
- リヤバンパー側面に雪や泥などが付着しているとき
- 悪天候で、接近する他の車両をシステムが認識できないとき
- 坂道またはトランクや座席に重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- 壁、ポール、他の車両などに近付くように後退したとき
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- 周辺に構造物などがない開けた道路を走行するときや交通量が少ないとき

リヤバンパーに衝撃が加わったり、リヤバンパー周辺の修理を行ったときは、Honda 販売店で点検を受けてください。

リヤバンパー側面にシールなどを貼らないでください。レーダーの電波がさえぎられるため、他の車両を正しく検知できません。

■画面表示について

接近してくる車両を検知している間は、接近方向矢印が表示されます。



❶ 接近方向矢印
❷ リアワイドビュー
❸ リアノーマルビュー

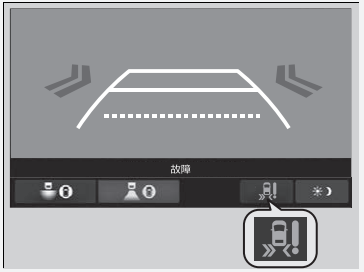
≫後退出庫サポート

システムを正しく作動させるために、リヤバンパー側面は常にきれいにしておいてください。

パーキングセンサーシステムが最短距離を検出しているときは、パーキングセンサーシステムのブザーが優先され、後退出庫サポートのブザーは鳴りません。

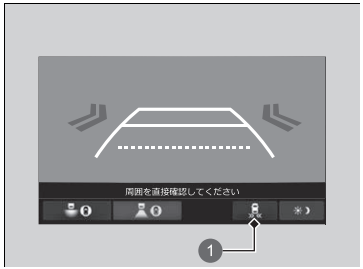
≫画面表示について

画面右下のアイコンが から (オレンジ)に変わったときは、リヤバンパー側面に雪や泥などが付着していることにより一時的にシステムが動作しません。リヤバンパー側面の付着物を取り除いてください。



画面右下のアイコンが上記の表示に変わったときは、システムに異常がありますので、システムを使用せず、Honda 販売店で点検を受けてください。

■後退出庫サポートの ON と OFF



❶ 後退出庫サポートアイコン

後退出庫サポートアイコンを押して、システムの ON/OFF を切り換えます。
また、カスタマイズ機能を使用して、システムの ON/OFF を切り換えることができます。

➡ **設定** P.285

≫画面表示について

シフトポジションを R にしても画面が切り換わらないときは、カメラシステムに異常があります。このとき、後退出庫サポートも正常に作動できなくなります。Honda 販売店で点検を受けてください。

マルチビューカメラシステム

マルチビューカメラシステムは、運転席から死角となる部分を、ディスプレイオーディオ画面に映る画像で確認するシステムです。このシステムを補助的に使用することで、次のような場合に運転者の負担を軽減します。

- 狭い道でのすれ違いや路肩への幅寄せ、車庫入れなどで前方の障害物を確認する
  前方と前方側面の障害物を確認するには P.581
  前方側面の障害物を確認するには P.584

- 後方の障害物を確認する
  後方の障害物を確認するには P.585

マルチビューカメラシステム

⚠警告

周囲の安全は、マルチビューカメラシステムの画像だけに頼らず、目視やミラーなどで直接確かめてください。

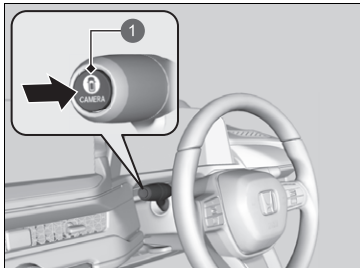
このシステムは運転者の操作をサポートするためのものであり、事故や衝突を防止するためのシステムではありません。

運転操作時は、必ず目視やミラーなどで後方および周囲の安全を直接確認して運転してください。

状況によっては、表示できない可能性があるため、画面の表示のみを頼って操作すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

事故防止のため、周囲の安全を確かめてご使用ください。

マルチビューカメラの画像を表示させるには



❶ CAMERAスイッチ

前方表示：

停車中または速度が 20km/h 以下のときにCAMERAスイッチを押します。

- ▶画面は、CAMERAスイッチを押して切り換えます。
- ▶ホーム画面のマルチビューカメラアイコンにタッチして切り換えることもできます。

後方表示：

停車中にシフトポジションをRにします。

- ▶画面は、CAMERAスイッチを押して切り換えます。
- ▶ホーム画面のマルチビューカメラアイコンにタッチして切り換えることもできます。

表示設定はカスタマイズできます。

➡ **設定** P.285

マルチビューカメラの画像を表示させるには

パーキングセンサーが障害物を検知すると、インジケーターが表示されます。

➡ **パーキングセンサーシステム** P.565

車両が後方から接近していることが検知されると、後退出庫サポートが警告します。

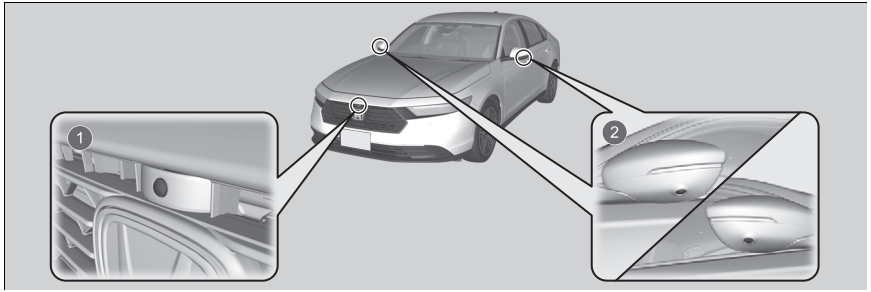
➡ **後退出庫サポート** P.570

シフトポジションがRのときは、オーディオとナビゲーションシステムは操作できません。

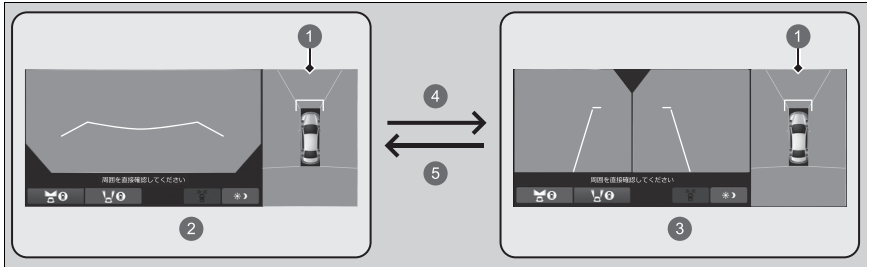
速度が25km/h以上のときにCAMERAを押すと、待機画面が表示されます。
速度が 20km/h 以下になると自動的にマルチビューカメラシステム画面に戻ります。

次ページに続く

■カメラの設置場所と画像について



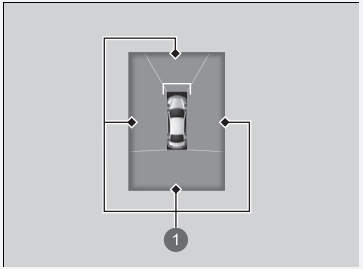
❶ フロントカメラ
❷ サイドカメラ



≫カメラの設置場所と画像について

Honda パーキングパイロットが作動している間、カメラが障害物を検知した場所のインジケーターが点灯します。

➡ **カメラの設置場所と画像について** P.576



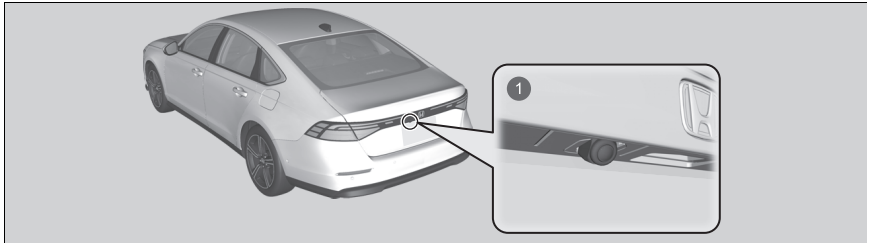
❶ 障害物を検知した場所をインジケーターで知らせる

➡ **Honda パーキングパイロット** P.587

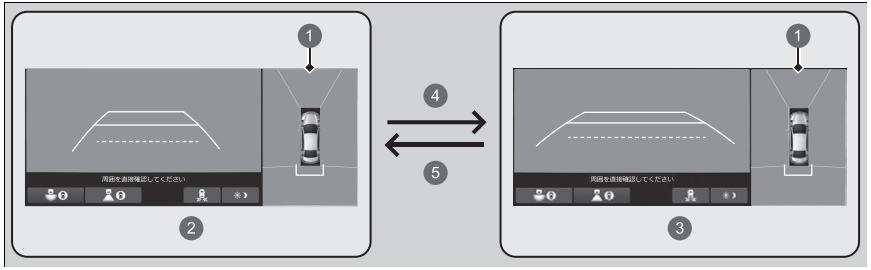
❶ グラウンドビュー：4 台のカメラでとらえた合成画像で、車両を真上から見たイメージで表現されます。
❷ フロントビュー+ グラウンドビュー
❸ 左右サイドビュー+ グラウンドビュー
❹ 、または CAMERA スイッチ
❺

カメラは特殊なレンズを使用しています。そのため、画面上の距離と実際の距離が異なって見えたり、対象物が変形して表示されることがあります。車両から離れるほど、その傾向は強くなります。

次ページに続く



❶ リアカメラ



❶ グラウンドビュー：4 台のカメラでとらえた合成画像で、車両を真上から見たイメージで表現されます。
❷ リアワイドビュー+ グラウンドビュー
❸ リアビュー+ グラウンドビュー
❹ 、または CAMERA スイッチ
❺ 、または CAMERA スイッチ

カメラは特殊なレンズを使用しています。そのため、画面上の距離と実際の距離が異なって見えたり、対象物が変形して表示されることがあります。車両から離れるほど、その傾向は強くなります。

次ページに続く

■目安ガイド線と予測ガイド線表示

マルチビューカメラシステムが起動している状態のときに以下のガイド線を表示できます。
目安ガイド線：車両からの距離を表示することができます。この距離は、実際の距離とは異なる場合があります。
予測ガイド線：ハンドル操作に応じて、車両の動く方向を表示することができます。

▶目安ガイド線と予測ガイド線表示

目安ガイド線および予測ガイド線とカメラ画像が示す距離は、車高の変化や路面の状態の影響などにより、実際の距離と異なることがあります。
目安ガイド線および予測ガイド線はあくまでも参考としてお使いください。

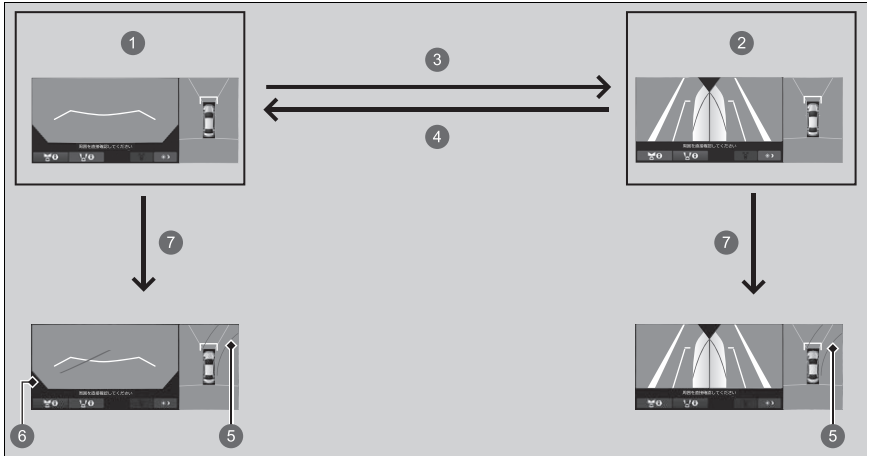
目安ガイド線および予測ガイド線はカスタマイズにより表示/非表示を切り換えることができます。
設定 P.285

目安ガイド線および予測ガイド線を非表示にした場合、再度表示にするまで非表示の状態が維持されます。

■マルチビューカメラの使いかた

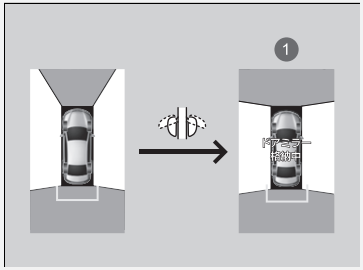
■前方と前方側面の障害物を確認するには

CAMERAスイッチを押すと前方画面表示が表示できます。車速が 20km/h 以下のときにCAMERAスイッチを押すと、画像が以下のように切り換わります。



»マルチビューカメラの使いかた

ドアミラーを格納してもグラウンドビューは表示されます。ただし、ドアミラー格納中は表示エリアおよび死角が異なりますので注意してください。



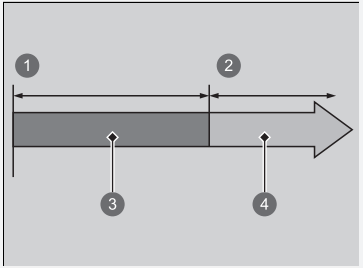
❶格納中の表示

次ページに続く

❶ フロントビュー+ グラウンドビュー
❷ 左右サイドビュー+ グラウンドビュー
❸ 、または CAMERA スイッチ
❹
❺ 予測ガイド線は、車両の外側から約 35cm の位置に表示されます。
❻ 死角になる部分は黒く表示されます。
❼ ハンドルを 90 度以上切る

前方と前方側面の障害物を確認するには

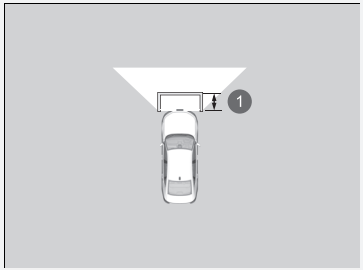
車速が 25km/h を超えるとフロントビューまたはサイドビュー画面は自動的にディスプレイオーディオ画面に切り換わります。



❶ 0 km/h
❷ 25 km/h
❸ カメラ画面
❹ ディスプレイオーディオ画面

前方と前方側面の障害物を確認するには

ガイド線の距離は、おおよその距離です。

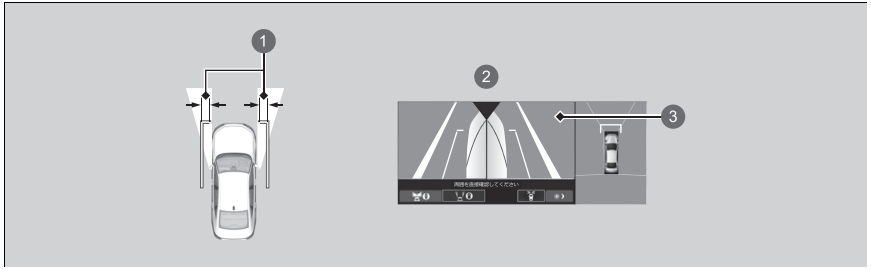


❶約 1.1m

次ページに続く

■前方側面の障害物を確認するには

左右サイドビュー画面は路肩や料金所に幅寄せしたり、狭い道でのすれ違いの際に使用すると便利です。



❶ 40cm
❷ サイドビュー画像
❸ サイドビュー：サイドカメラの画像です。

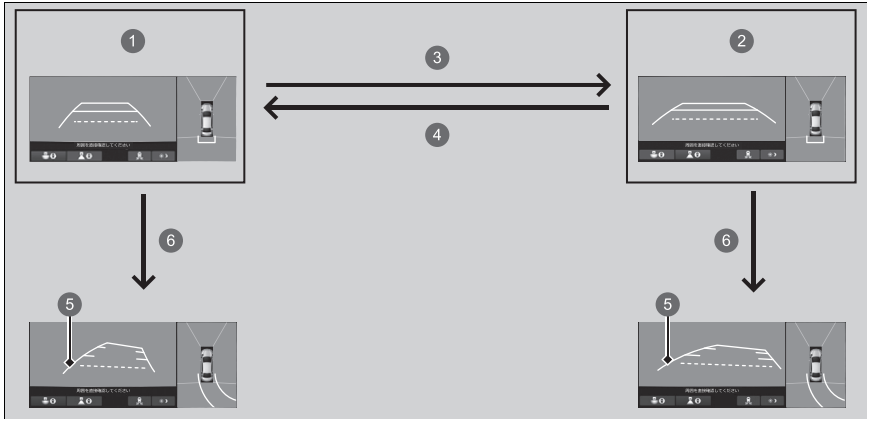
目安ガイド線の距離車両外側から約 40cm

≫前方側面の障害物を確認するには

左右サイドビューは、ドアミラーを格納しているときは表示されません。

■後方の障害物を確認するには

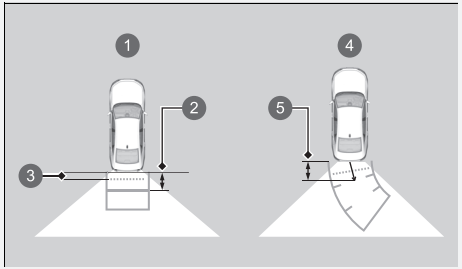
シフトポジションを[R]にすると、自動的に後方画面表示に切り換わります。



❶ リアワイドビュー+ グラウンドビュー
❷ リアビュー+ グラウンドビュー
❸ 、または[CAMERA]スイッチ
❹ 、または[CAMERA]スイッチ
❺ 予測ガイド線は、車両の外側から約 35cm の位置に表示されます。
❻ ハンドルを 90 度以上切る

後方の障害物を確認するには

シフトポジションを[R]に切り換えたときに、後方画面表示が遅れて切り換わることがあります。



おおよその距離
❶ 目安ガイド線の距離
❷ 約 1.1m
❸ 約 60cm
❹ 予測ガイド線の距離
❺ 約 1.1m

次ページに続く

■マルチビューカメラシステムの制限

次の状態では、システムは適切に働きません。

状態		対処のしかた
予測ガイド線が不正確		Honda 販売店で点検を受けてください。
カメラの画像が不鮮明	• 雨、霧、雪などの悪天候のとき、または周囲が暗い場合 • カメラが高温になった場合 • トンネルの出入り口などで明るさが変化した場合 • 夜明けや夕暮れ時に太陽に向かって走行する場合 • カメラのレンズに傷がついた場合	システムが適切に作動するまでマルチビューカメラシステムを使用せず、目視やミラーで直接周囲を確認してください。
	• カメラのレンズが汚れ、水滴、ちりなどでおおわれている場合 • 水滴や虫などがついた場合	レンズが汚れたときは、水や中性洗剤、ガラスクリーナーなどを含ませた柔らかい布で汚れを拭き取ってください。
	• 画面が指紋などで汚れている場合	ディスプレイオーディオ画面の汚れを柔らかい布で拭き取ってください。
カメラの位置がずれた	カメラもしくは、その周囲に強い衝撃が加わったことが考えられます。	マルチビューカメラシステムの使用をやめて、ただちに Honda 販売店にご相談ください。
マルチビューカメラシステムを使用中に画面にエラーメッセージが表示された		
20km/h 以下で走行中に、画面に映像が表示されない		

Honda パーキングパイロット

駐車や出庫で運転を支援するシステムです。
カメラおよびソナーによって駐車スペースの検知、駐車や出庫するための経路生成を行います。
また、駐車や出庫の際の加減速、ハンドル操作やシフトチェンジ操作を支援します。

Honda パーキングパイロット

⚠注意

Honda パーキングパイロットは、自動駐車システムではありません。
あくまでも運転者を支援するためのシステムです。

機能に頼った運転をすると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

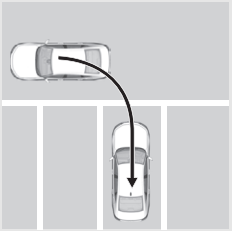
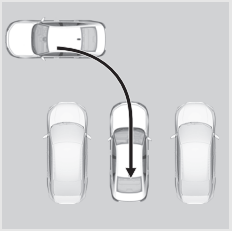
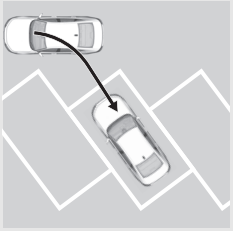
システム作動中に以下の状況になった場合、停車またはシステムの中止などをし、運転者自身の操作で回避してください。

- 障害物や人、他の車両等に接触しそうなとき
- 乗り越えてはいけない縁石や段差、輪留め等に入りそうなとき
- 進入してはいけないエリアに入りそうなとき

通常の駐車時と同様に、必ず目視で周囲の安全を直接確認してください。

次ページに続く

このシステムは以下の場合に使用できます。

駐車パターン	区画線のある駐車場	区画線のない駐車スペース
バック駐車		
斜めバック駐車※1		—

※1：区画線が3本以上あり車両が2台以上の駐車ができるときに駐車候補枠の検知が可能です。

▶Honda パーキングパイロット

⚠注意

使用に適さない場所では使用しない。
傾斜がある場所や、駐車スペースの形状や状況など、Honda パーキングパイロットの使用に適さない場所では使用しないでください。

➔ **システムの使用に適さない場所** P.590

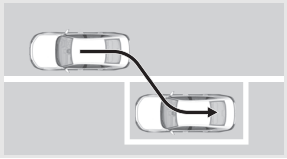
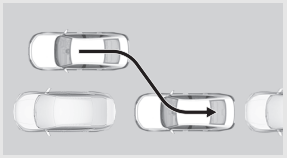
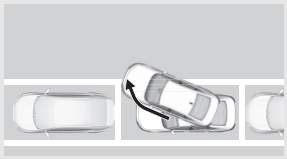
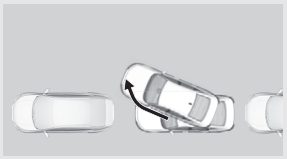
Honda パーキングパイロット作動中は、車両停止、または走行時に音が聞こえることがあります。

フロント / サイド / リアカメラについては下記を参照してください。

➔ **カメラの設置場所と画像について** P.576

ソナーセンサーの取り扱いについては下記を参照してください。

➔ **ソナーセンサー** P.549

駐車パターン	区画線のある駐車場	区画線のない駐車スペース
縦列駐車		
縦列出車※1		

※1 ：前車がある場合に限ります。

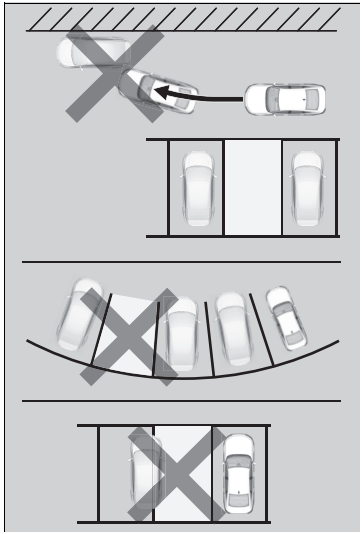
次ページに続く

■システムの使用に適さない場所

前進や後退ができない場所、スリップしやすい場所や以下のような駐車スペースは、Honda パーキングパイロットの使用に適しません。

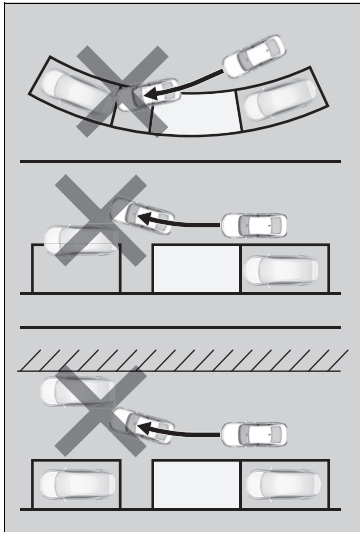
- 傾斜している場所
- 段差や凹凸のある場所
- 砂地や砂利、草地などの舗装されていない場所
- 雪が積もっている場所
- 凍結路など滑りやすい場所
- 通路幅が狭い場合
- 前進する方向に障害物がある場合
- 駐車スペースが湾曲している場合
- 周囲の車両が駐車枠からはみ出している場合

バック駐車



次ページに続く

縦列駐車・出庫

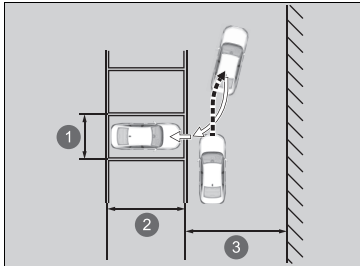


■ Honda パーキングパイロットの使いかた

■駐車場に駐車するには

駐車スペースに以下のような区画線や、それに代わる目安となるものがある場所で使用することができます。目安に対して広すぎたり狭すぎるときは正しく駐車できないことがあります。

バック駐車※1



❶ 約 2.5m 以上
❷ 車両全長 + 約 0.5m 以上
❸ 道路幅 5.5m 以上

※1 ：区画線がない場合、他車両間の距離が約 3.2m 以上

次ページに続く

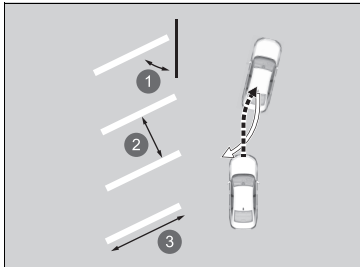
⚠注意

ハンドルに手などが巻き込まれないように注意する。

ハンドルが自動で回ります。手などが巻き込まれないように注意してください。

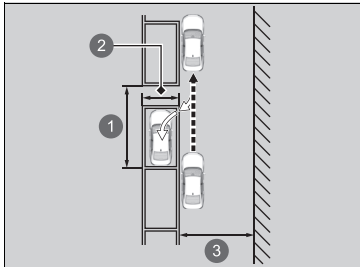
Honda パーキングパイロット使用中は、オーディオの音量調節はできません。

斜めバック駐車



❶ 約 60 度または 45 度
❷ 約 2.5m 以上
❸ 車両全長 + 約 0.5m 以上

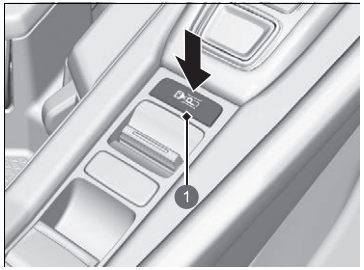
縦列駐車※1



❶ 車両全長 + 約 1.5m 以上
❷ 白線約 2.5m 以上
❸ 約 5.5m 以上

※1 ：区画線がない場合、他車両間の距離が車両全長 + 約 1.5m 以上

次ページに続く

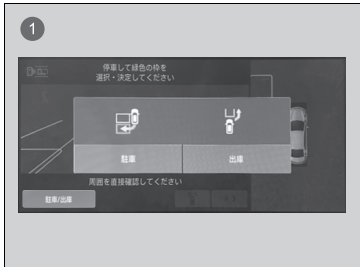


❶ Hondaパーキングパイロット
スイッチ

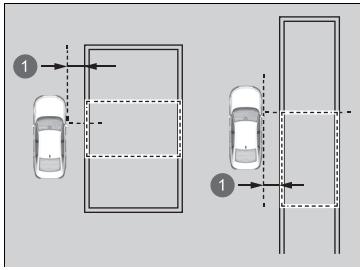


❶ [P](グレー)
❷ モード切替アイコン

1. Honda パーキングパイロットスイッチを押し、Honda パーキングパイロット画面を表示させる。
▶ 画面左上に[P](グレー)が表示されます。
▶ 出庫モードになっている場合、モード切替アイコンをタッチし、駐車モードを選択してください。



❶ モード切替画面



❶ 約 1m

2. 駐車したい場所の付近まで車両を移動させ、駐車スペースに対して約1 m の付近を駐車スペースと平行になるようにゆっくり前進する。
画面上に駐車候補枠(グリーン)が表示されたら停車する。
▶駐車候補枠を検知すると音でお知らせします。
▶検知された駐車候補枠(グリーン)は自車位置などにより補正されることがあります。

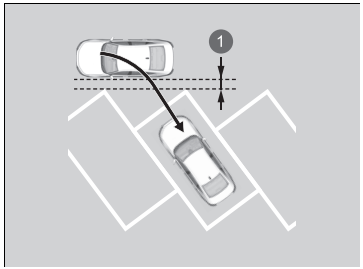
駐車場に駐車するには

目標位置が表示されない場合は、Honda パーキングパイロットの使用はできません。

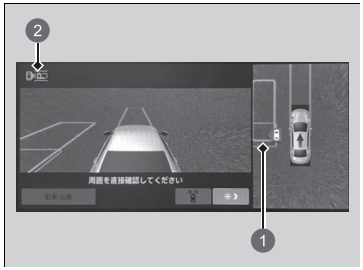
駐車候補枠検知のコツ
区画線のある駐車スペース：
運転席が駐車スペースの真横よりやや手前になるよう停車する
区画線のない駐車スペース：
運転席が駐車スペースを少しすぎたところで停車する

駐車スペースを直接確認してから駐車スペースを選択してください。

次ページに続く



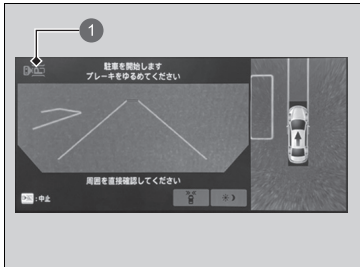
❶ 約 1m



❶ 駐車候補枠(グリーン)/
目標位置(ブルー)
❷ (グレー)

3. 停車した状態で、駐車候補枠(グリーン)を画面上でタッチして選択する。
▶ バック駐車または縦列駐車を選択する画面が表示される場合は、必要に応じたモードを選択してください。
▶ 選択した駐車候補枠(グリーン)が目標位置(ブルー)となります。





❶ (ブルー)

4. ブレーキペダルを踏んだまま、Honda パーキングパイロットスイッチを押す。
▶作動開始を知らせる音が鳴り、画面左上の(ブルー)が点滅します。
▶進行方向に応じてシフトポジションが切り替わります。

5. 周囲、画面上の経路、停止位置を確認し、ブレーキペダルを離す。
▶車両が動き始めます。必要に応じてブレーキペダルで速度を調節してください。
▶駐車が終了するとシフトポジションがPになり、パーキングブレーキが自動で作動します。
画面上に『駐車を完了しました』と表示され、ディスプレイオーディオ画面になります。
▶必要に応じて、駐車位置や駐車姿勢の調整をしてください。
▶駐車後、シフトポジションがPになっていることを確認してください。

駐車場に駐車するには

制御開始後、経路上に障害物が存在する場合はブレーキペダルを踏んで停止してから、Honda パーキングパイロットスイッチを押し、システムの使用を中止してください。

目標位置の近くに移動した後、車両が再び移動して車両位置を調整することがあります。
周囲を確認し、必要に応じて車両を停止してください。

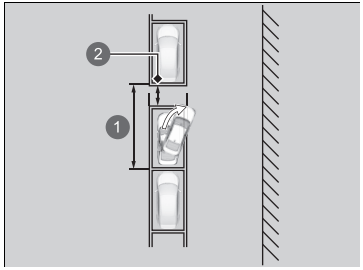
駐車終了時のパーキングブレーキ自動作動についてはカスタマイズで変更できます。
設定 P.285

次ページに続く

■縦列駐車した車両を出庫するには

下図のような駐車スペースで、前方に駐車車両がある場合のみ使用することができます。

縦列出庫

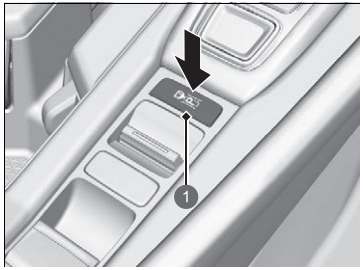


❶ 車両全長 + 約 1.5m 以上
❷ 他車両間の距離が約 50cm 以上

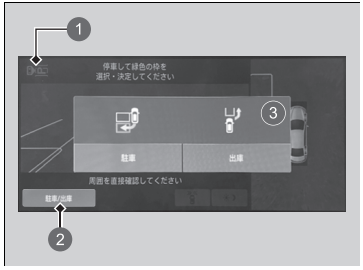
縦列駐車した車両を出庫するには

⚠注意

ハンドルに手などが巻き込まれないように注意する。
ハンドルが自動で回ります。手などが巻き込まれないように注意してください。



❶ Honda パーキングパイロットスイッチ



❶ (グレー)
❷ モード切替アイコン
❸ モード切替画面

1. Honda パーキングパイロットスイッチを押し Honda パーキングパイロット画面を表示させる。

▶ 画面左上に(グレー)が表示されます。

▶ 駐車モードになっている場合、モード切替アイコンをタッチし、出庫モードを選択してください。

▶ 画面の案内に従ってシフトポジションを R にしてください。

縦列駐車した車両を出庫するには

自車の前方に二重駐車されている場合は出庫モードは使用できません。

自車と前後車両との距離が非常に短い場合や車両間に人がいたり障害物がある場合は、出庫モードは使用できません。

作動開始後、パーキングセンサーが人物や障害物を検知した場合でも、出庫モードが作動し続けます。

走行車両が後方から接近している場合は、ブレーキペダルを踏んで停止してください。

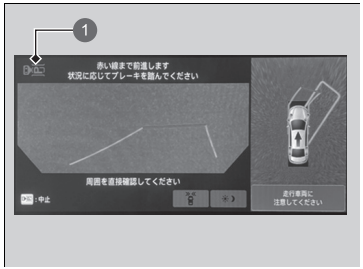
次ページに続く



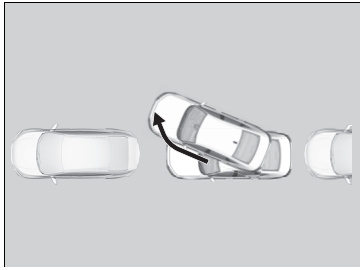
2. 出庫する向きを画面をタッチして選択する。

3. ブレーキペダルを踏んだまま Honda パーキングパイロットスイッチを押す。
- ▶作動開始を知らせる音が鳴り、画面左上の(ブルー)が点滅します。
- ▶進行方向に応じてシフトが切り替わります。

4. ブレーキを踏んだままパーキングブレーキスイッチを解除し、ブレーキペダルを離す。
- ▶車両が動き始めます。周囲の状況に応じてブレーキペダルで速度を調節してください。
- ▶出庫する向きの周辺状況に注意してください。
- ▶出庫アシスト完了位置に到達すると、画面左上に『出庫を完了しますブレーキを踏んでください』と表示されます。



❶ (ブルー)



5. 案内に従いブレーキを踏む

▶画面左上に『出庫を完了しました』と表示され、アシストが終了します。

▶ブレーキを離すとクリープ現象により車が動き出します。運転操作を行ってください。

次ページに続く

■Honda パーキングパイロットの中止



❶ 中止アイコン

システムを中止するには Honda パーキングパイロットスイッチを押してください。
制御開始後、中止する場合はブレーキペダルを踏んで停止してから、Honda パーキングパイロットスイッチを押してください。

▶ 中止アイコンをタッチしても　Honda パーキングパイロットは中止できません。

システムが中止すると警告音が鳴り、画面左上に『駐車・出庫を中止しました』と表示されます。

▶ 画面が Honda パーキングパイロットを使用する前の画面に戻ります。システムによる制御はされていないため、ブレーキを離すとクリープ現象により車が動き出します。運転操作をしてください。

中止した場合、再開をさせる事はできません。
最初から操作をやり直すか、運転者自身で運転操作をしてください。

■中止される事例

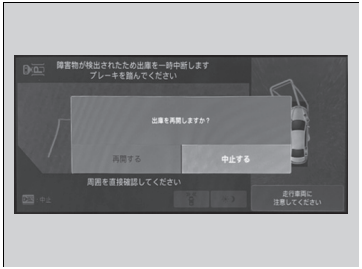
- シフトポジションを[P]にしたとき
- パーキングブレーキを作動させたとき
- 作動開始から一定の時間が経過したとき
- VSA が作動したとき
- VSA を OFF にしたとき
- 異常が検出されたとき
- 踏み間違い衝突軽減システムが作動したとき
- 衝突軽減ブレーキ(CMBS)が作動したとき
- 何らかの影響で作動車速を超えたとき
- 勾配があり作動できないとき
- 段差があり乗り越えられないとき
- 駐車場所の奥に障害物があり、アシスト開始後に十分なスペースがないことを検知したとき
- 一定回数以上切り返したとき
- ルートから外れたとき、またはルートが案内できないとき

次ページに続く

■Honda パーキングパイロットの中断と再開



システムが途中で中断すると音が鳴り、画面左上に中断メッセージが表示されます。ブレーキを踏んで車両を停車させてください。



中断後、車両がアシストを再開できる状態になると画面上に『駐車・出庫を再開しますか？』と表示されます。ブレーキを踏んだまま画面上の『再開する』をタッチするとアシストを再開します。ブレーキペダルを離してください。

- ▶車両が動き始めます。周囲の状況に応じてブレーキペダルで速度を調節してください。
- ▶ブレーキを踏んだまま画面上の中止するをタッチするとアシストが終了し、画面左上にHondaパーキングパイロットを終了しますと表示されます。運転者自身で操作してください。
- ▶アシストが再開できない場合、『再開する』をタッチできません。

■中断される事例

- 運転者がシートベルトを外したとき
- 進路上に人や障害物を検知したとき
- アクセルペダルを踏んだとき
- ハンドルを操作したとき
- シフトポジションを[D],[R],[N]にしたとき
- ドア、トランクを開けたとき

■エラーメッセージ

システムの使用中に次の状態が発生した場合、Honda パーキングパイロットに問題があります。

ブレーキペダルを踏んで車両を停止し、シフトポジションを一度[P]にして、シフトポジションを確認してから手動で車両を操作します。

- 画面が表示されないとき
-  が点滅しないとき
- 警告音が鳴らないとき
-  はオレンジ色で、エラーメッセージが画面に表示されているとき

次ページに続く

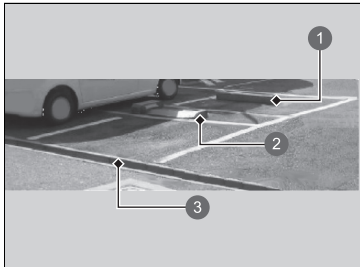
■ Honda パーキングパイロットの条件と制限

次のような場合、正常に作動しないことがあります。
(例：目標位置がずれて認識されるまたは認識されない、駐車できない。また、経路や切り返し位置が適切に設定できないことにより途中で中止されてしまう、障害物の手前で停止できない。)

■環境により正しく検知できない事例

- 駐車枠線がかすれていたり、汚れているとき
- 駐車枠線がロープやブロック、タイルなどのとき
- 駐車枠線と路面とのコントラストが低いとき
- 駐車枠線の幅が極端に細い、太いまたは短いとき
- 駐車枠線が 1 本しか見えないとき
- 駐車スペースが広すぎるもしくは狭すぎるとき
- 駐車エリアに対し停車位置が近すぎる(遠すぎる)とき
- 駐車エリアの路面の色が一様でなかったり、凹凸があるとき
- 駐車エリアに駐車枠線に見えるような影や段差、ペイント、書き直しの枠線などがあるとき
- 夜間や暗い屋内駐車場など、駐車枠線が見にくいとき
- 強い光が駐車スペースの塗装面や路面などに反射しているとき
- 朝日や夕日などの太陽光が直接または間接的にカメラに入るとき
- 雪や融雪剤などで駐車枠線が部分的に見えているとき
- 隣接する駐車車両や駐車スペースの付近に影が映っているとき(木々、建物、ガードレール、車両など)
- 穴、溝、崖や突起物があるとき
- 他の車両のソナーセンサーなど、超音波を発するものが付近にあるとき
- 悪天候 (雨、霧、雪など) のとき

- 建物などで複数の窓サッシなど同じような形状のものが並んでいるとき
- コインパーキングのフラップ板、ストッパー、付随する構造物などがあるとき



❶ 輪留め
❷ フラップ板
❸ 段差

■自車の状態により正しく検知できない事例

- 駐車エリアに対し、自車が傾いて停車しているとき
- カメラのレンズの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリー、ステッカーやフィルムによりカメラ前方が覆われているとき
- ソナーセンサーが汚れているとき(雪、氷、泥などで覆われているとき)
- ソナーセンサーが傷ついていたり、角度がずれているとき
- 車両が高温または低温の状況にあるとき
- トランクやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき

次ページに続く

■障害物を正しく検知できない事例

- 人・雪・布・スポンジなど音波を反射しにくい障害物のとき
- フェンス・自転車・標識の支柱など細い障害物のとき
- 背が低い・小さい障害物のとき
- 縁石、車止め、段差や路面に取り付けられている障害物のとき
- バンパーのすぐ近くにある障害物のとき
- 地面に対して垂直でない壁などの障害物のとき
- 移動する物体など進路上に飛び出してきた障害物のとき
- 高い位置に障害物が存在したり、高い位置に斜めの柱や壁などが突き出しているとき
- 他車両を含めた障害物が特殊な形状のとき
- トラックなど前側に対して後側の高さが低い、もしくは幅が狭い車両のとき
- 前方の車両の最低地上高が極端に高いとき
- 車両側方にある障害物のとき
- 他車両を含めた障害物の位置が、自車に対して近すぎるまたは離れているとき
- 障害物に対して斜めに接近する場合やハンドルを大きく切っているとき

指定燃料について

■指定燃料

無鉛レギュラーガソリン レギュラーバイオ混合ガソリン(E10/ETBE22)

■タンク容量

48 リットル

給油のしかた

1. 助手席側にガソリンスタンドの給油機がくるように車を停める。
2. パワーシステムを停止させる。
3. 運転席ドアを解錠する。
▶ 車の外側のフューエルリッドが解錠されます。
➔ **車内での施錠 / 解錠** P.147

次ページに続く

»指定燃料について

アドバイス

指定燃料以外の燃料(粗悪ガソリン、軽油、灯油等)を補給したり、不適切な燃料添加剤を使用しないでください。
以下のような状態になるおそれがあります。
- 触媒装置などの損傷
- エンジンや燃料系などの損傷
- エンジンなどへの悪影響

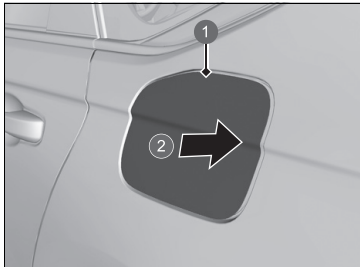
プレミアムガソリンをお使いになることもできますが、この場合、本来のエンジン性能が大きく変わることはありません。

»給油のしかた

⚠警告

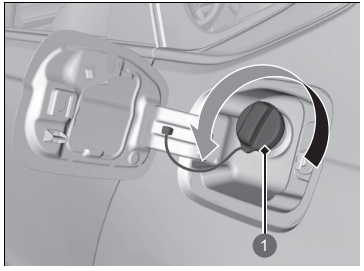
燃料補給時は火気厳禁。
燃料や燃料蒸気は引火しやすいため火災や爆発のおそれがあります。燃料を扱っているときは下記の項目を厳守してください。
- エンジンは常に停止させる
- 炎、火花を近づけない
- たばこを吸わない
- 燃料の取り扱いは屋外で行う
- こぼれた燃料はすみやかに拭き取る

ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。



❶ フューエルリッド
❷ 押す

4. フューエルリッドの右端を「カチッ」と音がするまで押し、手を離す。
▶ リッドが少し浮き上がります。



❶ キャップ

5. ツマミをゆっくり回し、フューエルキャップを開ける。

給油のしかた

⚠警告

燃料補給作業は、フューエルキャップを開ける前に車体などの金属に触れて身体の静電気を除去してから行う。
静電気の放電による火花により気化したガソリンに引火し、やけどを負うおそれがあります。

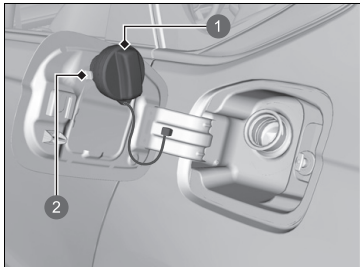
⚠注意

キャップはゆっくり開ける。
急激に開けると燃料補給口より吹き返しが発生し、火災になるおそれがあります。

⚠注意

給油ノズルの自動停止後は、追加補給しない。
気温などの変化により燃料があふれ、火災になるおそれがあります。

キャップが確実に閉まっていることを確認する。
閉まっていないと燃料がもれ、火災になるおそれがあります。



❶ キャップ
❷ ホルダー

6. キャップをホルダーにかける。
7. 給油ノズルを奥まで差し込み、給油する。
▶満タンになると、給油ノズルの自動停止がはたらき、給油が停止します。
8. 給油後、「カチッ」という音が1回以上するまでキャップを締め付ける。
▶フューエルリッドは、手で押さえ付けて閉めます。

給油のしかた

「シュー」という音がする場合は、その音が止まってからゆっくり開けてください。

燃料補給は、静電気を放電した人のみで行ってください。
燃料補給中に車内に戻ると、再び帯電することがあります。再度、静電気を放電してください。

燃料蒸気を吸わないでください。
燃料成分には有害物質を含んでいる場合があります。

降車時オートドアロック機能を使用すると、フューエルリッドも施錠されます。 フューエルリッドを開ける前に、必ず運転席ドアとフューエルリッドの両方が解錠されていることを確認してください。
➔ **施錠するには（降車時オートドアロック機能）** P.141

気温などの変化により燃料があふれないように、タンク容量に達すると燃料タンクに空間を残して給油ノズルの自動停止がはたらくようになっています。

自動停止後に追加補給をすると、燃料が満タン容量以上に入ることがあります。

Honda 純正以外のキャップを使わないでください。
純正品を使用しないと、火災などを起こすおそれがあります。

メンテナンス

この章では、基本的なメンテナンスについて記載しています。



メンテナンスの前に
- 点検整備について 615
- メンテナンスを安全に行うために 616
- メンテナンスに関する注意事項..... 617

エンジンルーム内のメンテナンス
- エンジンルーム内のメンテナンス項目...618
- ボンネットを開ける..... 619
- 推奨エンジンオイル..... 621
- ウィンドウォッシャー液の補給..... 622

電球の交換..... 623
ワイパーブレードラバーの点検と整備 .. 625
タイヤの点検と整備
- タイヤの点検 628
- タイヤとホイールの交換 630
- タイヤのローテーション 631
- 冬期のタイヤ 632

Honda スマートキー
- Honda スマートキーの取り扱いと電池交換..... 633

エアコンのお手入れ
- エアクリーンフィルター 636

清掃
- 車内の清掃 638
- 車外の清掃 641

アクセサリーと改造 645

点検整備について

道路運送車両法により、法定点検と日常点検が義務づけられています。正しい点検整備で、車を安全・快適にお使いください。
普段と違う点(音、におい、ブレーキフルードの不足、地面に油のあとが残っているなど)に気づいたら、Honda 販売店で点検を受けてください。
点検整備の詳細については、別冊のメンテナンスノートも併せてご覧ください。

■点検整備の種類

■日常点検
長距離走行前や洗車・給油時などに、お客様自身の判断で行う点検です。

■定期点検
12か月および24か月ごとに実施する点検です。法律で定められているものと、Honda が指定するものがあります。

■その他
新車時の無料点検や定期交換、厳しい使われかたをしたときの点検整備があります。

点検整備について

作業に不慣れな場合や難しい場合は、Honda 販売店にご相談ください。

メンテナンスを安全に行うために

メンテナンスを行う際は、メンテナンスノートと下記の安全に関する注意事項をよくお読みのうえ、安全を確保して行ってください。
お客さま自身でメンテナンスを実施したときは、メンテナンス点検整備記録簿のメンテナンスレコードに記録してください。

■メンテナンスを行う場所や備品についての安全事項

- 火災や爆発防止のため、タバコの火、火花、炎を引火性の液体やガスから遠ざける。
- エンジンルーム内の、タオルや可燃物の置き忘れに注意する。
  ▶ 火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。
- エンジンの排気ガスに含まれる一酸化炭素の毒作用に注意する。
  ▶ エンジンを始動するときは必ず十分な換気を行ってください。

■車についての安全事項

- エンジンルーム内を点検するときは、冷却ファンが止まってから行ってください。
  ▶ 車両の状態によっては、パワーモードを OFF モードにしていても冷却ファンが作動することがあります。
- 熱くなった部品によるやけどに注意する。
  ▶ 部品に触れる前に、エンジンと排気システムを十分に冷やしてください。
- 可動部品によるけがに注意する。
  ▶ 指示されたとき以外は、パワーモードを OFF モードにして作業してください。ONモードでは、ガソリンエンジンが自動的に動き出したり、エンジン停止中でも冷却ファンが回りだすことがあります。

メンテナンスを安全に行うために

⚠警告

適切なメンテナンスを行い、走行前に故障がないようにする。
走行時に故障がある状態や、適切なメンテナンスがなされていないと、重大な傷害や死亡に至る事故を引き起こす可能性があります。
必ず、取扱説明書に記載されている点検とメンテナンスに関する注意事項や別冊のメンテナンスノートに記載の点検時期を守ってください。

メンテナンスは、指示と注意事項を守って行う。
メンテナンスの指示と注意事項を守らないと重大な傷害や死亡のおそれがあります。
必ず、取扱説明書に記載されている手順と注意事項を守ってください。

メンテナンスに関する注意事項

■メンテナンスサービスで使用する部品やオイル

メンテナンスサービスを受けるときは、Honda 純正部品やオイル類を使用することをおすすめします。Honda 純正部品は、車で使われている部品と同じ高品質の基準に基づいて製造されているため、性能と耐久性の面で安心です。

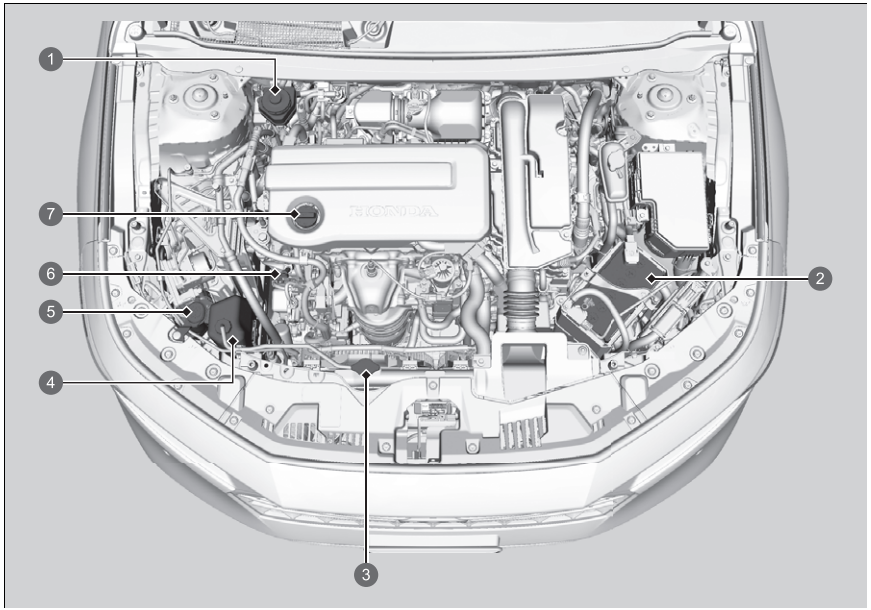
メンテナンスに関する注意事項

アドバイス

エンジンカバーを強く押さないでください。

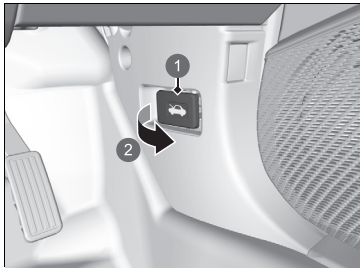
エンジンカバーとその周辺部品が損傷することがあります。

エンジンルーム内のメンテナンス項目



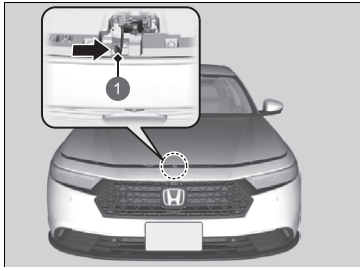
❶ ブレーキフルードリザーブタンク※
❷ 12V バッテリー※
❸ ラジエーターキャップ※
❹ 冷却水リザーブタンク※
❺ ウィンドウォッシャー液注入口
❻ エンジンオイルレベルゲージ※
❼ エンジンオイル注入口※
※：点検整備については、メンテナンスノートをご覧ください。

ボンネットを開ける



❶ ボンネット解除ノブ
❷ 引く

1. 車を停め、パーキングブレーキをかける。
2. 運転席足元にある、ボンネット解除ノブを引く。
▶ ボンネットが少し浮き上がります。



❶ レバー

3. ボンネット中央のレバーを右に押してロック機構を解除し、ボンネットを開ける。

ボンネットを開ける

⚠注意

ボンネットを閉めるときは、手などをはさまないように注意する。

アドバイス

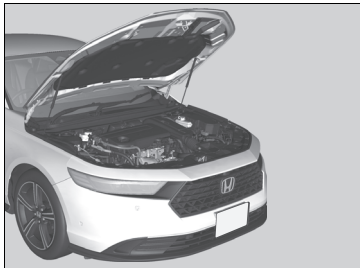
ワイパーアームを起こした状態で、ボンネットを開けないでください。
ボンネットがワイパーに当たり、ボンネットやワイパーが損傷することがあります。

アドバイス

エンジンカバーを強く押さないでください。
エンジンカバーとその周辺部品が損傷することがあります。

ボンネットを閉めたときは、ボンネットが確実にロックされていることを確認してください。

次ページに続く



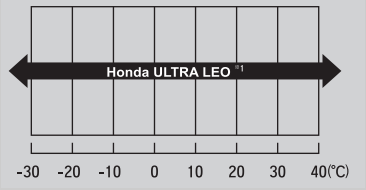
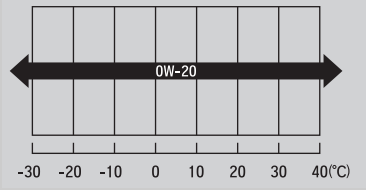
4. ボンネットを全開にする。

閉めるときは、ボンネットを下げ、ボンネット中央前端のロック部を手でおさえつけるように閉めます。

推奨エンジンオイル

純正および市販のエンジンオイルは、種類と、(外気温に応じた)粘度について以下の表にもとづきお使いください。

エンジンオイルは、量が少なかったり劣化したものを使用していると、エンジンの不調や破損につながることがあります。

純正エンジンオイル	市販エンジンオイル
Honda 純正油 • Honda ULTRA LEO※1	API SN 級以上かオイル缶に、API CERTIFICATION(エーピーアイサーティフィケーション)マークの入ったエンジンオイル
 外気温	 外気温

※1 ：最も省燃費性に優れた Honda 純正オイルです。

推奨エンジンオイル

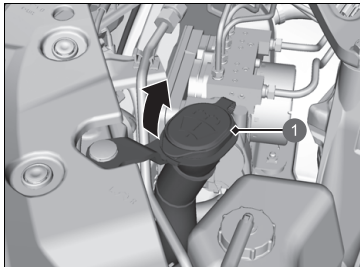
冬期はエンジンオイルの劣化が激しくなります。
冬期に主として短距離、市街地を運転する場合は、早めに交換してください。

API CERTIFICATION(エーピーアイサーティフィケーション)マークは下記のとおりです。



ウィンドウォッシャー液の補給

ウォッシャー液の量を確認します。



減っていた場合は、ウォッシャー液キャップを外し、ウォッシャータンクに補給します。

❶ キャップ

ウィンドウォッシャー液の補給

ウォッシャー液以外の液体を、タンクに入れないでください。
ウォッシャー液は必要に応じて水(軟水)で薄めてください。

冬期はウォッシャー液の凍結を防ぐため、ウォッシャー液の濃度を上げてください。

ヘッドライト電球

ロービームヘッドライト、ハイビームヘッドライトは LED を使用しています。点検、交換は Honda 販売店に依頼してください。

前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯電球

前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯は LED を使用しています。点検、交換は Honda 販売店に依頼してください。

デイタイムランニングライト / 車幅灯電球

デイタイムランニングライト / 車幅灯は LED を使用しています。点検、交換は Honda 販売店に依頼してください。

アクティブコーナリングライト電球

アクティブコーナリングライトは LED を使用しています。点検、交換は Honda 販売店に依頼してください。

側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯電球

側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯は LED を使用しています。点検、交換は Honda 販売店に依頼してください。

制動灯、尾灯、後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯、後退灯電球

制動灯、尾灯、後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯、後退灯は LED を使用しています。点検、交換は Honda 販売店に依頼してください。

番号灯電球

番号灯はLEDを使用しています。点検、交換はHonda販売店に依頼してください。

ハイマウントストップランプ電球

ハイマウントストップランプはLEDを使用しています。点検、交換はHonda販売店に依頼してください。

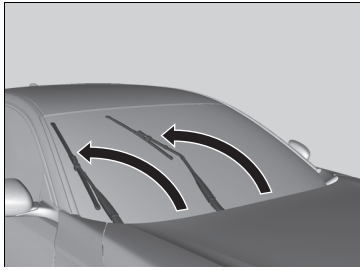
車外ドアハンドルランプ電球

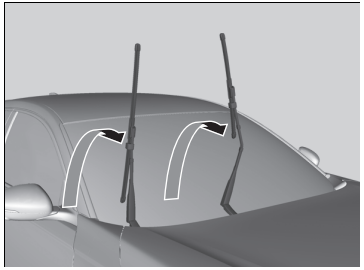
車外ドアハンドルランプはLEDを使用しています。点検、交換はHonda販売店に依頼してください。

ワイパーブレードラバーの点検

ワイパーブレードラバーが傷んでいると、拭きムラになったり、ウィンドーガラスを傷つけたりします。定期的にワイパーブレードラバーの状態を点検し、傷んでいる場合は交換してください。

ワイパーアームの起こしかた





1. パワーモードを OFF モードにする。

2. パワーモードを OFF モードにしてから 10 秒以内に、ワイパースイッチのレバーを **MIST** の位置へ 2 秒以上押し上げる。

▶ 両方のワイパーアームが、ワイパーメンテナンスポジションにセットされます。

3. 両方のワイパーアームを起こす。

» ワイパーアームの起こしかた

アドバイス

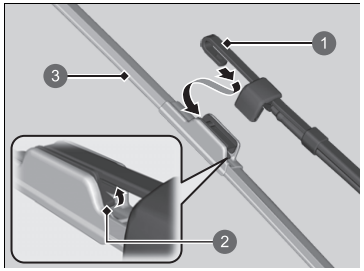
ワイパーアームを起こす際は、必ず手順にしたがってワイパーメンテナンスポジションへ動かしてください。

手動でワイパーアームを動かすと、故障の原因となります。

アドバイス

ワイパーアームを起こした状態でボンネットを開けたりワイパーを作動させたりすると、ボンネットとワイパーアームを損傷します。

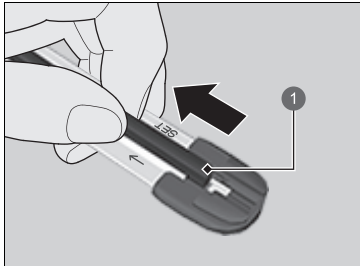
ワイパーブレードラバーの交換



❶ ワイパーアーム
❷ ノブ
❸ ブレード

1. 両方のワイパーアームを起こす。
➡ **ワイパーアームの起こしかた** P.625

2. ノブを押し上げながら、ワイパーアームからブレードをスライドさせて外す。



❶ ラバー

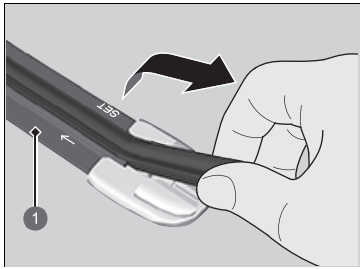
3. ラバーのストッパーがブレードのツメから外れるまで引き、そのままラバーをブレードから引き抜く。

≫ワイパーブレードラバーの交換

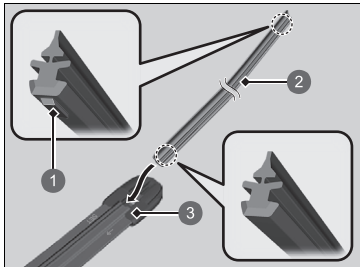
アドバイス

ブレードを外した状態でワイパーアームが倒れると、ガラスが損傷するおそれがあります。

メンテナンス



❶ ブレード



❶ 突起部
❷ ラバー
❸ ブレード

4. ラバーを突起部のない側を下にしてブレードに沿って差し込む。
▶ ラバーの突起部がブレード先端のツメに挿入されるよう、確実に固定します。
5. ブレードをワイパーアームに取り付ける。
▶ 正しく固定されているか確認してください。
6. 両方のワイパーアームを戻す。
7. パワーモードを ON モードにする。
8. ワイパースイッチのレバーを**MIST**の位置に押し上げて、両方のワイパーアームを通常の位置に戻す。

タイヤの点検

■タイヤの点検について

タイヤが摩耗・損傷していたり、適正な空気圧でないと、安全な走行ができないばかりか乗り心地も損なわれます。
安全な走行のために求められるタイヤの条件は下記のとおりです。

- 種類とサイズが適正であること
- 接地面の状態が良好であること
- 空気圧が適正であること
- 摩耗、傷、亀裂、異物などがないこと

これらの条件を満たすために下記の点検を行い、常にタイヤを最適な状態に保ってください。

■日常的な点検

乗車前に必ず行う点検です。下記の項目を確認し、状況によってはメンテナンスをしてください。

- タイヤがつぶれているように見えないか？
  ▶ つぶれているように見えたら、すぐに空気圧をチェックしてください。
- 激しい摩耗、傷、亀裂、異物はないか？
  ▶ 状況に応じて、タイヤを交換してください。

タイヤの点検について

⚠警告

摩耗が激しいタイヤ、空気圧が適正でないタイヤを使用しない。
不適切なタイヤを使用すると、重大な傷害や死亡に至る事故につながるおそれがあります。

■空気圧測定器による点検

すべてのタイヤの空気圧を測定してください。空気圧が下がっている場合は、パンクを入念に調べます。

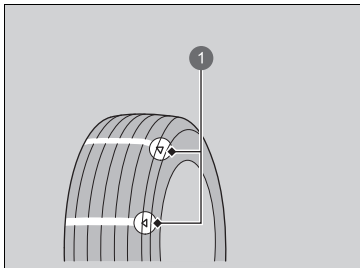
タイヤの指定空気圧は、下記を参照してください。

仕様 P.697

■損傷、異物、摩耗の点検

下記の項目を点検してください。

- タイヤの接地面と側面の突起、膨らみが正常か？
  ▶異常が見られた場合は、タイヤを交換する必要があります。
- タイヤ側面に、裂け目、亀裂がないか？
  ▶裂け目や亀裂がある場合は、タイヤを交換する必要があります。
- 接地面とウェアインジケーターが同じ高さになっていないか？



❶ ウェアインジケーターの位置を示すマークの代表例

ウェアインジケーター（摩耗限界表示）

ウェアインジケーターはタイヤの接地面にあり、他の部分より溝が1.6mm浅くなっています。

接地面が摩耗して、ウェアインジケーターと同じ高さになったら、タイヤを交換してください。

タイヤの点検について

タイヤの空気圧は、タイヤ温度が低いときに測定してください。

必要な場合は、指定空気圧になるまで空気を注入または排出してください。

タイヤが高温のときに空気圧を測っても、低温のときより高めになるため正しく測定できません。

指定空気圧は、運転席横の車体に貼ってあるラベルにも記載されています。

取扱説明書が手元にない場合は、車のラベルをご覧ください。

タイヤとホイールの交換

タイヤは、四輪とも同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。
サイズ、種類、銘柄や摩耗度合いの異なるタイヤを使用すると、運転に関わるシステムが正常に機能しなくなったり、動力伝達装置に悪影響を与えたりします。

同時にすべての4 つのタイヤを交換することをお勧めします。それができない場合は、前輪または後輪タイヤの左右を一緒に交換してください。

ホイールの仕様が純正ホイールと同一のものか確認してください。

タイヤとホイールの交換

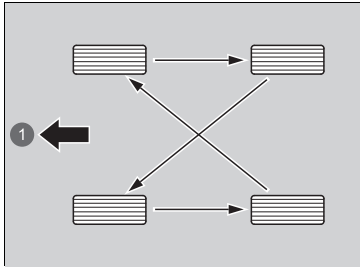
⚠警告

必ず、サイズと種類が適切なタイヤを使用する。
不適切なタイヤを使用すると、重大な傷害や死亡に至る事故につながるおそれがあります。

タイヤのローテーション

5,000km 走行したときタイヤローテーションをしてください。
タイヤローテーションを行うのは、特定のタイヤが摩耗するのを防ぐためです。

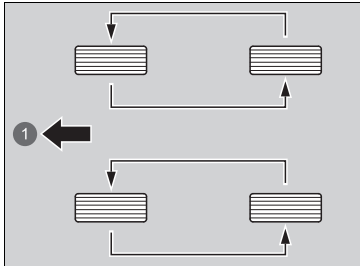
■回転指示マークがないタイヤの場合



図のように、タイヤをローテーションさせます。

❶ 前

■回転指示マークがあるタイヤの場合

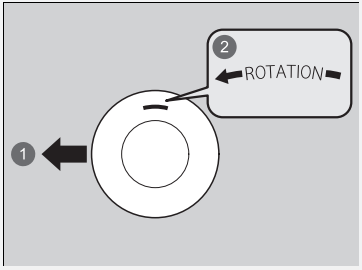


図のように、タイヤをローテーションさせます。

❶ 前

タイヤのローテーション

タイヤ回転方向が指定されているタイヤには、タイヤ回転指示マークがあります。
図のように回転指示マークが前へ向くように取り付けてください。



❶ 前
❷ 回転指示マークの代表例

ホイールナット締め付けトルク
108 N・m (11 kgf・m)

冬期のタイヤ

雪道や凍結した道路を走行する場合は、スノータイヤを装着し、速度を落として十分に車間距離をとって運転してください。
また、横滑りの原因となりますのでハンドルやブレーキの操作は、特に慎重に行ってください。

スノータイヤは、走行条件や法令により装着が必要とされた場合に使用します。
装着する場合は、下記のポイントを参照してください。

スノータイヤの場合：
- 四輪とも同じ種類、指定サイズのタイヤを選ぶ
- 四輪すべてにスノータイヤを装着する

タイヤチェーンは使用できません。
タイヤチェーンを使用すると、ボディやサスペンション、ブレーキ配管などを破損するおそれがあります。

Honda スマートキーの取り扱いと電池交換

■取り扱いについて

Honda スマートキーの取り扱いは、下記の点に注意してください。

- 発信器を落としたり投げたりしない
- 温度が極端に高い / 低い場所に置かない
- 液体にひたさない

■電池交換のしかた

作動距離が不安定になった場合は、電池の消耗が考えられます。
ボタンを押したときにインジケーターが点灯しない場合は、電池切れです。電池を交換してください。

取り扱いについて

Honda スマートキーをなくした場合は、Honda 販売店へご連絡ください。

電池交換のしかた

⚠警告

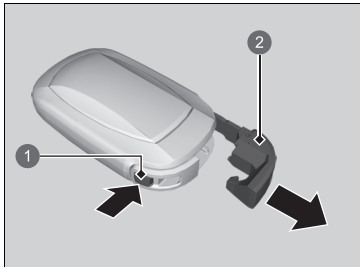
ボタン電池は、お子さまが飲み込まないように注意する。
重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。
飲み込んだ時は、ただちに医師の診察を受けてください。

電池交換の際は、破損などのおそれがあるため、Honda販売店での交換をおすすめします。

電池交換の際は、カバーを確実に取り付けてください。
確実に取り付けられていないと、耐水性能の低下や故障の原因となります。

電池は Honda 販売店または時計店、カメラ店などでお求めください。

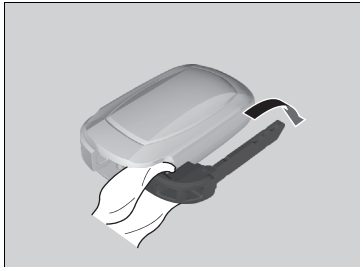
次ページに続く



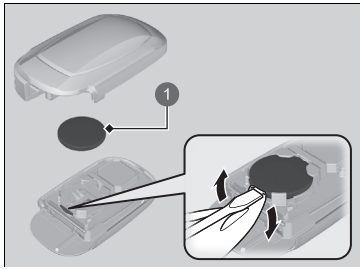
❶ ボタン
❷ 内蔵キー

ボタン電池 CR2032

1. ボタンを押しながら、内蔵キーを取り出す。



2. ボタンを下にしてカバーを外す。
▶ 内蔵キーのグリップを差し込んで回します。
▶ カバーに傷が付かないように、グリップに布などを巻いてカバーを取り外します。



❶ 電池

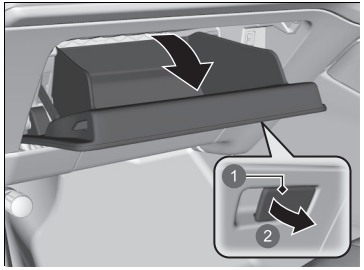
3. 電池を取り外す。
▶ケースに傷が付かないように、マイナスドライバーに布などを巻いて電池を取り外します。
4. ⊕ と ⊖ を間違えないよう、電池を交換する。

エアクリーンフィルター

■エアクリーンフィルターの交換時期

エアクリーンフィルターは、通常 1 年または 15,000km ごとに交換してください。粉じんなどの多い場所で使用される場合は、早めの交換をおすすめします。

■エアクリーンフィルターの交換

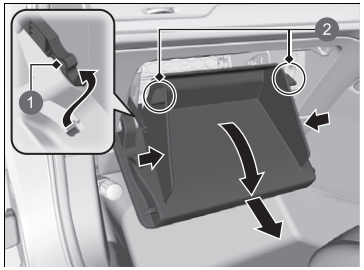


❶ ノブ
❷ 引く

1. グローブボックスを開ける。

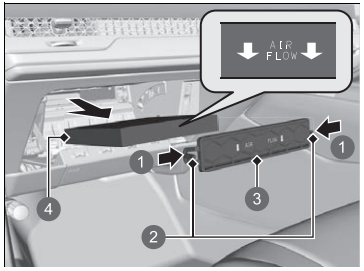
▶▶エアクリーンフィルター

エアコンの風量が著しく減少したり、ガラスが曇りやすくなったときは、フィルターの目詰まりが考えられます。フィルターを交換してください。



❶ ダンパー
❷ ストッパー

2. ダンパーの先端を外す。
3. グローブボックスの両側に付いているストッパーを内側に押し込み、グローブボックスを下ろす。



❶ 押す
❷ ツメ
❸ カバー
❹ エアクリーンフィルター

4. 左右にあるツメを押しながら、エアクリーンフィルターケースのカバーを外す。
5. エアクリーンフィルターを引き出す。
6. 新品と交換する。
▶「AIR　FLOW」マークの矢印が、下向きになるように取り付けます。

車内の清掃

内装の清掃は、掃除機で塵やほこりを取り除いてから汚れを落としてください。ぬるま湯に中性洗剤を溶かしたものを柔らかい布に軽く含ませ、固く絞って汚れを落とします。その後、真水を含ませたきれいな布で、洗剤分をきれいに落としてください。

■シートベルトの清掃

ぬるま湯に中性洗剤を溶かしたものをブラシにつけて清掃し、その後空気乾燥させます。

»車内の清掃

室内に水をかけないでください。
室内の部品に水がかかると故障や、さびの原因となります。

オーディオ、スイッチなどの電装品にシリコン系のスプレーを塗布しないでください。
故障や車両火災の原因となるおそれがあります。万一、電装品にシリコン系のスプレーを塗布したときは、Honda 販売店にご相談ください。

ケミカル類、液体芳香剤は成分により、樹脂部品、布材の変色、しみ、ひび割れなどを起すことがあります。
ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤、酸、アルカリ性の溶剤は使用しないでください。

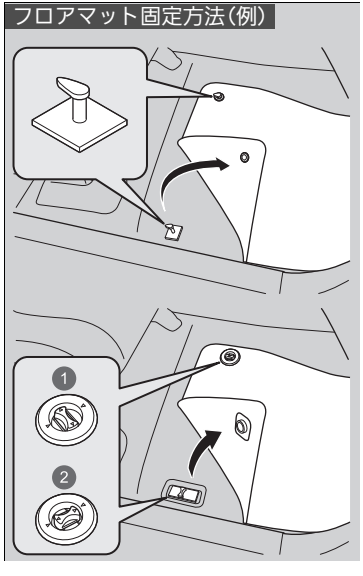
ケミカル類を使用したあとは、必ず乾いた布で軽く拭き取ってください。
使用した布をそのまま樹脂部品、布材の上に長時間放置しないでください。

液体芳香剤は、こぼさないよう確実に固定してください。

■ガラスのお手入れ

ガラスクリーナーなどで拭いてください。

■フロアマット



運転席のフロアマットが前方にずれるのを防止するため、フロアアンカーで確実に固定してください。

フロアアンカーで固定されているフロアマットの上に、他のフロアマットを重ねないでください。

❶ 解錠
❷ 固定

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

次ページに続く

ガラスのお手入れ

フロントガラスは、ガラスの内側にアンテナ線が装着されています。
リヤガラスは、ガラスの内側に電熱線やアンテナ線✤ が装着されています。
傷付けないよう、これに沿って柔らかい布で拭いてください。

ルームミラー周辺にある電子機器のカバーや周辺に水やガラスクリーナーなどの液体がかからないようにしてください。

フロアマット

他のフロアマットをご使用の際は、フロアアンカーでしっかりと固定できるものをご使用ください。
後席のフロアマットを使用する際は、正しく取り付けてください。

■本革のお手入れ

塵やほこりを掃除機や乾いた布で取り除いてください。
ウール用中性洗剤の 10% 水溶液を柔らかい布に軽く含ませ汚れを落とします。その後、真水を含ませた柔らかい布を固く絞り、洗剤分をきれいに拭き取ります。乾いた布で水分を拭き取り、風通しをよくして日陰で乾燥させます。濃色のデニムなど、衣類の染料が本革に移ってしまうことがあります。
汚れが付着したらすぐに拭き取ってください。

車外の清掃

走行後は、塗装面に付着したほこりなどを毛はたきなどで払い落としてください。飛び石などによる塗装面の傷は錆の原因になります。見つけたら早めに補修してください。

■洗車について

月に一度は洗車をするようにしてください。以下の場合は、必ず洗車をしてください。

- 凍結防止剤を散布した道路を走行したとき
- 海岸地帯を走行したとき
- コールタール、ばい煙、鳥のふん、虫、樹液などが付いたとき

■自動洗車機を使うとき

- 自動洗車機に記載されている指示にしたがう
- ドアミラーを格納する
- ワイパースイッチを OFF にする

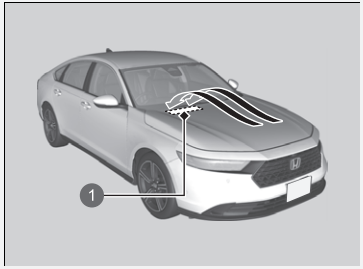
■高圧洗浄機を使うとき

- 洗車ノズルと車体の距離を十分に離す
- ドアガラスやドアまわりなど開閉部分は、特に注意する
  ▶ 近づけすぎると室内に水が入ることがあります。
- カメラやカメラ周辺には、直接水をかけない
  ▶ レンズ内に水が入り、故障の原因となります。

洗車について

故意にエンジンルームや空気取り入れ口に水をかけないでください。

電装品などに水がかかると、故障や車両火災の原因となるおそれがあります。



❶空気取り入れ口

洗車するときは、運転席ドア(フューエルリッド)を施錠してください。

フューエルリッド付近に水をかけるとフューエルリッドが勢いよく開いて、車体に傷を付けるおそれがあります。

ワイパーアームを起こす場合は、ワイパーアームをワイパーメンテナンスポジションにセットしてください。

➡ **ワイパーアームの起こしかた** P.625

次ページに続く

■ワックスをかけるとき

ワックスは、月に1回程度または水をはじかなくなったときにかけてください。洗車した後や、車体表面が体温以下に下がっているときにかけるようにしてください。

■バンパーなどの樹脂塗装部品のお手入れ

樹脂塗装部品に、ガソリン、オイル、ラジエーター液、バッテリー液などが付着するとしみや塗膜はがれの原因となります。付着した場合は、すぐに柔らかい布で拭き取ってください。

≫洗車について

洗車時に水やケミカル類がブレーキに付着した際は、走行してブレーキを数回かけてから駐車してください。
ブレーキが濡れたまま駐車しておくと、錆びて張り付くことがあります。

≫ワックスをかけるとき

アドバイス

みがき粉(コンパウンド)入りのワックスは、使わないでください。塗装面に細かい傷が残ることがあります。
ワックスは Honda 純正ケミカル用品をお使いください。

≫バンパーなどの樹脂塗装部品のお手入れ

樹脂塗装部品の補修をする場合は、Honda 販売店にご相談ください。
不適当な塗料を使うと塗膜を傷めます。

■ガラスのお手入れ

ガラスクリーナーなどで拭いてください。

■はっ水ガラスについて

前席ウィンドー(ドアガラス)にはっ水膜がコーティングしてあり、水滴をはじきます。水洗いするか、柔らかい湿った布などで拭き取ってください。

ガラスクリーナーを使うと一時的に水はじきが悪くなることがありますが、水洗いをすれば元に戻ります。水はじきが悪くなったときは、Honda 販売店にご相談ください。

■アルミホイールのお手入れ

アルミは塩分や汚れを嫌います。道路凍結防止剤や海水が付いたときは、柔らかい布やスポンジに中性洗剤を含ませ汚れを早めに落としてください。
洗車後は、水が乾かないうちに拭きとってください。

■ヘッドライト、制動灯の曇り

ヘッドライト、制動灯などのランプは、雨天走行や洗車などにより、レンズ面が一時的に曇ることがあります。また、ランプ内と外気との温度差により、レンズ内面が結露することもあります。
これは雨天時などに窓ガラスが曇るのと同様の自然現象で、機能上の問題ではありません。
また、ランプの構造上、レンズの縁に水滴が付着することがありますが、機能上の問題ではありません。但し、ランプ内に水がたまっている場合や大粒の水滴が付いている場合はHonda 販売店で点検を受けてください。

次ページに続く

ガラスのお手入れ

水滴をはじく効果の持続時間には限りがあります。長持ちさせるために次のことをお守りください。

- 泥などの汚れがひどいときは、開閉をなるべく行わない
- みがき粉(コンパウンド)入りガラスクリーナーやワックス、洗剤等は使わない
- 金属製のもので霜取りなどを行わない
- 自動洗車機を使うときは、先に泥などの汚れを落とす

アルミホイールのお手入れ

この車専用のホイールをお使いください。
専用以外のホイールを使うと、走行装置やブレーキ装置に支障をきたすおそれがあります。ホイール交換は、Honda 販売店にご相談ください。

硬いブラシやコンパウンド(研磨剤)の入った洗剤などは使わない。
変色やしみ、光沢の変化の原因になったり、傷をつけるおそれがあります。

■親水ミラーのお手入れ

雨天時の視認性向上のため、ミラー表面に付着した雨滴を膜のように広げる親水効果を持つコーティングを施しています。

■親水効果の回復

ミラー表面に汚れなどが付着して親水効果が低くなったときは、以下の手順を行うことにより効果が回復します。

1. ミラー表面を水洗いし、汚れを落とす。

2. 水を含ませたきれいな布で拭き取る。

▶ 汚れが落ちない場合は純正ガラスクリーナーや家庭用中性洗剤を使用して洗浄後、十分な水で洗い流してください。

3. 5～9時間ほどミラー表面に太陽光を当てる。

≫親水ミラーのお手入れ

アドバイス

ミラーの親水効果が失われますので、以下の点にご注意ください。

- ミラー表面に撥水剤やワックスを付着させない
- 砂の付いた布や油膜取り剤(コンパウンドなど)でミラー表面をこすらない

アクセサリー

アクセサリーを取り付ける場合は、下記の項目を確認してください。

- アクセサリーをフロントガラスに取り付けていないか？
  ▶ アクセサリーの揺れる動きが車外の状況認識を遅らせることがあります。また、吸盤がレンズのはたらきをして、火災につながるおそれがあります。
- フロントガラス、ドアガラスやフロント、センター、リヤの各ピラーまわりにアクセサリーを取り付けていないか？
  ▶ サイドカーテンエアバッグの作動の妨げになるので、上記の場所にはアクセサリーを取り付けないでください。

⚠警告

不正改造は、法律に触れることはもちろん、思わぬ事故につながる可能性があります。
適正な性能や機能を発揮しなかったり、思わぬ事故につながる可能性があります。

電装品の分解、改造は行わないでください。故障や火災など思わぬ事故につながる可能性があります。

⚠警告

高電圧バッテリーは、純正品の使用をおすすめします。純正品以外のバッテリーを使用した場合、過充電や火災など思わぬ事故につながる可能性があります。

改造や部品交換について

車の改造はしないでください。

Honda 純正部品以外の、車の性能や機能に適さない部品を使用しないでください。

Honda が国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、違反になることがあります。

診断コネクターは、故障診断用の診断装置などの機器のみを接続するためのものです。
それ以外の機器を接続すると、車の電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがるなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。

無線装置などの取り付けの際には、必ず Honda 販売店にご相談ください。装置や取り付け方法が適切でない場合、電子機器部品に悪影響をおよぼすことがあります。

アクセサリーと改造

車の性能、品質を維持するために、Honda 車に最も適した Honda 純正部品をお使いください。
純正部品には下記のマークが付いています。



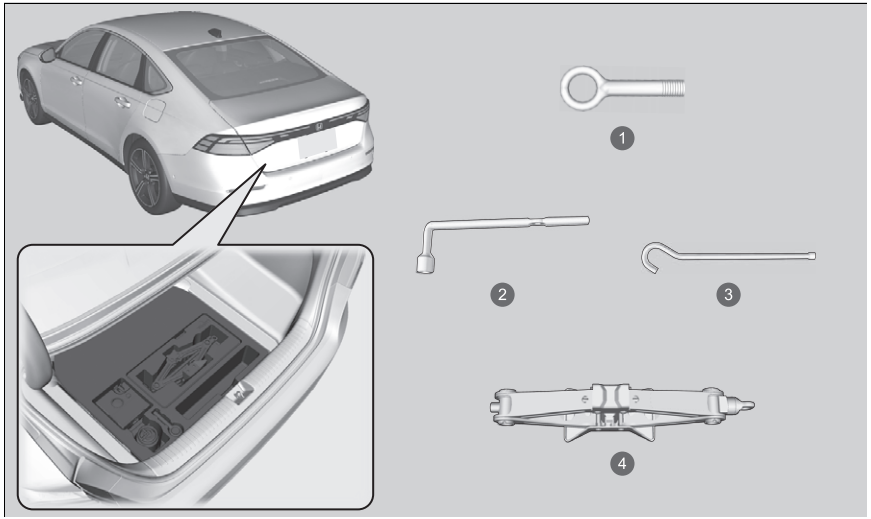
お求め、装着に際しては、Honda 販売店にご相談ください。

万一の場合には

この章では、万一の場合の対応方法について記載しています。

工具、非常信号灯 648
パンクしたとき
パンクしたタイヤの応急修理.....650
ジャッキの取り扱い.....663
パワーシステムが起動しない
パワーシステムの確認.....665
Honda スマートキーの電池が切れたとき 667
緊急時のパワーシステム起動方法.....668
緊急時のパワーシステム停止方法.....669
12V バッテリーがあがったとき 670
オーバーヒート 673
警告灯の点灯 / 点滅.....676
ヒューズ
ヒューズの設置場所 683
ヒューズの点検と交換..... 687
けん引..... 690
フューエルリッドが解錠できないとき .. 691
トランクが開かないとき..... 692
緊急時や車両トラブルのとき..... 693

工具の種類



❶ アイボルト
❷ ホイールナットレンチ（兼ジャッキハンドル）（別売り）
❸ ジャッキハンドルバー（別売り）
❹ ジャッキ（別売り）

≫工具の種類

工具はトランク内に収納できます。

非常信号灯

高速道路や踏切などの危険な場所で故障したときに使います。
非常信号灯に記載されている次のことをよく読んであらかじめ確認しておいてください。

- 使いかた
- 使用上の注意

➔ **非常信号灯** P.2

非常信号灯

電池が消耗していないか、ときどき作動させて点灯状態を確認してください。電池が切れていたり発光が弱いときは電池を交換してください。
電池を交換しても点灯しなかったり、発光が弱いときは、最寄りの Honda 販売店で点検を受けてください。

パンクしたタイヤの応急修理

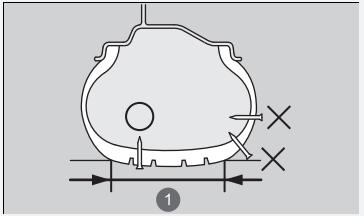
スペアタイヤの装備はありません。タイヤの損傷が激しい場合は、乗り物をけん引する必要があります。
単にタイヤに小さな穴がある場合、永久的な修理をするために最寄りの販売店へ運転することができるよう、損傷を一時的に補修するタイヤパンク応急修理キットで応急修理ができます。
パンクしたときは、ハンドルをしっかり握り徐々にブレーキをかけてスピードを落とし安全な場所に停車してください。

1. 地面が固く、滑らない、水平なところに車を停める。
2. パーキングブレーキをかける。
3. シフトポジションを P にする。
4. 非常点滅表示灯を点滅させ、パワーモードを OFF モードにする。

▶パンクしたタイヤの応急修理

以下のような場合、タイヤパンク応急修理キットは使用できません。Honda 販売店またはロードサービスにご連絡ください。

- 応急修理剤の有効期限が切れているとき
- タイヤが 2 本以上パンクしているとき
- 約 4mm 以上の切り傷や刺し傷によるパンクのとき
- 路面接地部以外が損傷を受けパンクしたとき



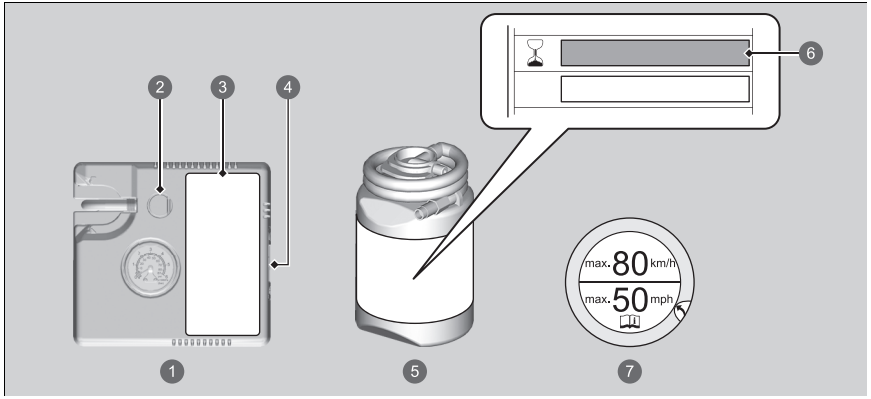
❶ 接地面

釘やネジなど	直径 4mm 以下 ○
	直径 4mm より大きい ×

- ほとんど空気が抜けた状態で走行したとき
- タイヤがホイールから外れているとき
- ホイールが破損しているとき

タイヤに刺さったクギなどは抜かないでください。
抜いてしまうと、タイヤパンクの応急修理キットでは応急修理が不可能になる場合があります。

■タイヤ応急修理の準備



❶ コンプレッサー
❷ 減圧ボタン
❸ ラベル
❹ スイッチ
❺ タイヤパンク応急修理剤
❻ 有効期限年月日〇〇／〇〇／〇〇
日　月　年
❼ 速度制限シール(応急修理剤ボトル底面)

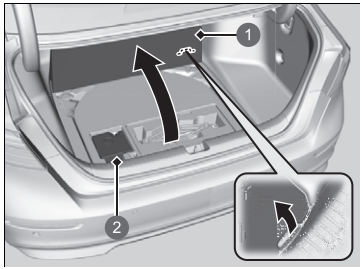
タイヤ応急修理の準備

応急修理をスムーズに行うため、タイヤパンク応急修理キットに付属のラベルをお読みください。

コンプレッサーを使用する際は、以下の点に注意してください。

- 降雨時などは水がかからないようにしてください。
- 砂埃などを吸い込むと故障の原因になるため砂地など砂埃の多い場所に直接置いて使用しないでください。
- オイルや潤滑油などを注油しないでください。
- 分解、改造などは絶対にしないでください。また、衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

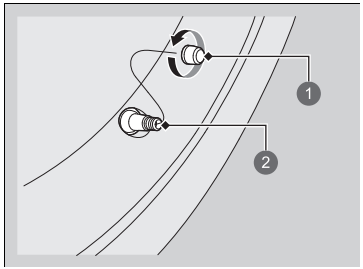
次ページに続く



❶ カーゴリッド
❷ タイヤパンク応急修理キット

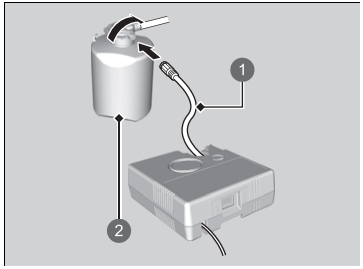
1. カーゴリッドを開ける。
2. タイヤパンク応急修理キットを取り出す。
3. 交通から遠ざけ、パンクしたタイヤ付近にキットを水平に置く。

■応急修理剤とエアの注入



❶ バルブキャップ
❷ バルブ

1. バルブからバルブキャップを取り外す。



❶ コンプレッサーホース
❷ ボトル

2. 応急修理剤のボトルをよく振る。
3. ボトルにコンプレッサーホースをきつく締め付ける。

⨠応急修理剤とエアの注入

⚠警告

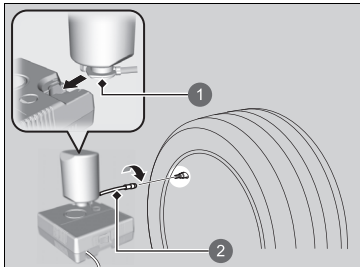
応急用修理剤は、飲用すると有害で、致命的になりうる物質を含んでいます。
誤って飲用した場合、
- できるだけたくさんの水を飲んでください。
- ただちに医師の診察を受けてください。

目に入ったり皮膚に付いた場合
- 水でよく洗い流してください。
- 異常を感じたときはただちに医師の診察を受けてください。

お子さまが誤って手を触れないよう、保管、取り扱いに注意してください。

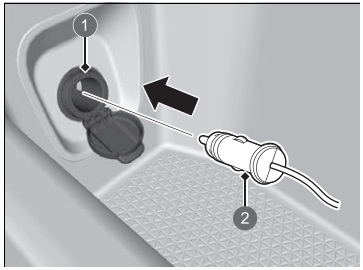
応急修理剤が衣類などに付着すると、落ちないおそれがありますのでご注意ください。

次ページに続く

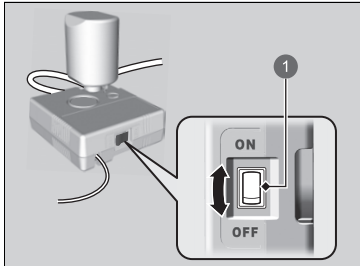


❶ ボトルキャップ
❷ ボトルホース

4. コンプレッサーにボトルキャップを取り付ける。
5. バルブにボトルホースをきつく締め付ける。



❶ アクセサリーソケット
❷ 電源プラグ



❶ スイッチ

6. コンプレッサーの電源コードの電源プラグを、アクセサリーソケットに差し込む。
▶ ドアや窓にコードをはさまないように注意してください。
➔ **アクセサリーソケット** P.202

7. パワーシステムを起動する。
➔ **一酸化炭素について** P.79

8. コンプレッサーのスイッチをONにする。
▶ コンプレッサーはタイヤに応急修理剤とエアを注入し始めます。
▶ 応急修理剤の注入が完了すると、エアのみ注入されます。

応急修理剤とエアの注入

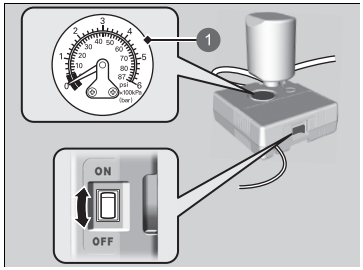
⚠警告

一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。
一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。
密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

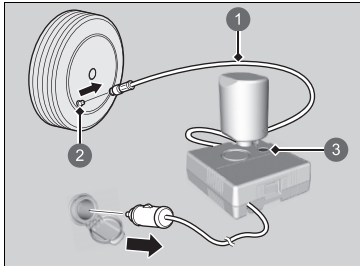
降雪時や積雪のある場所では、パワーシステムを起動したままにしない。
周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどしてください。

アドバイス
15分以上コンプレッサーを使用しないでください。
コンプレッサーは過熱し、破損するおそれがあります。

次ページに続く



❶ 空気圧計



❶ ボトルホース
❷ バルブ
❸ 減圧ボタン

9. 指定の空気圧に達したら、コンプレッサーのスイッチを OFF にする。
▶ コンプレッサーの空気圧計を確認してください。

10. コンプレッサーの電源コードの電源プラグを、アクセサリーソケットから外す。
▶ 使用直後は電源プラグ先端が熱くなるため、素手で触らないように注意してください。

11. タイヤバルブからボトルホースを外しバルブキャップを取り付ける。
▶ ボトルホースを外すときは応急修理剤のふきこぼれに注意してください。ふきこぼれた修理剤は、布などで拭き取ってください。

12. コンプレッサーからボトルを外す。

13. 減圧ボタンを押して、空気圧計が 0 kPa になるまでエアを抜く。

14. タイヤパンク応急修理キットをカーゴスペースに格納する。

応急修理剤とエアの注入

コンプレッサーホースを取り付けるときは、コンプレッサーのスイッチを OFF にしてください。

コンプレッサーのスイッチをONにすると、振動して音が聞こえます。

応急修理剤が注入されている間、圧力は一時的に高くなります。注入が完了すると圧力は落ちますが、再度上昇します。これは正常です。
正しい空気圧を測定するためには、応急修理剤が注入された後にコンプレッサーのスイッチを OFF にしてください。

指定空気圧は、運転席側横の車体にある空気圧ラベルを確認してください。

10 分以内に指定空気圧にならないときは、応急修理剤による応急修理はできません。
Honda 販売店やロードサービスに連絡してください。

Honda 販売店やロードサービスにタイヤ交換または修理を依頼する際には、タイヤパンク応急修理剤を使用したことを知らせてください。

応急修理剤とエアの注入

アドバイス

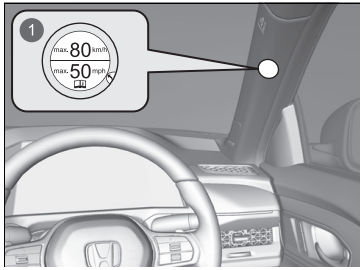
備え付けのコンプレッサーは、乗用車タイプの空気充填用です。取り扱いの際には、以下の点にご注意ください。

- コンプレッサーの電源は自動車用12V専用です。他の電源は使用しないでください。
- 使用中、コンプレッサーの表面が熱くなります。15 分以上は連続して使用しないでください。また、再使用する場合は、コンプレッサーが冷えてからお使いください。

タイヤパンク応急修理剤の購入および空きボトルの適切な処分については販売店にお尋ねください。

次ページに続く

■点検走行



❶ 速度制限シール

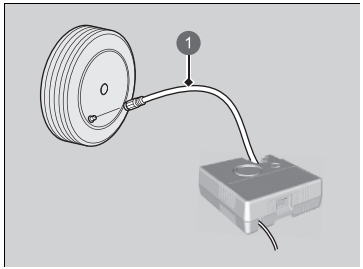
1. 速度制限シールを、運転者のよく見える位置に貼る。
2. 点検走行を開始する。
▶ 法定速度を守ってください。高速道路では 80km/h 以下を厳守してください。
3. 10 分または 5km 走行したあと安全な場所に車を停める。

≫点検走行

⚠警告

一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。
一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。
密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、パワーシステムを起動したままにしない。
周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどしてください。



❶ コンプレッサーホース

4. タイヤのバルブにコンプレッサーホースをきつく締め付ける。

5. コンプレッサーに付属の空気圧計で空気圧を測定する。

- 空気圧が 130kPa 未満の場合：
  応急修理剤では修理はできません。
  運転を中止して Honda 販売店またはロードサービスに連絡してください。
- 空気圧が 240kPa の場合：
  応急修理は完了です。
- 空気圧が 130kPa 以上、240kPa 以下の場合：
  コンプレッサーを使って指定空気圧まで高める。
  Honda 販売店または専門修理工場に到着するまで、ステップ 2 から 5 までを繰り返す。

▶法定速度を守ってください。高速道路では 80km/h 以下を厳守してください。

▶急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け通常より注意深く慎重に運転してください。

▶速やかに Honda 販売店または専門修理工場でタイヤの修理、交換を行ってください。

次ページに続く

≫点検走行

⚠注意

ハンドルのパッドにシールを貼らない。
SRSエアバッグが正常に機能しなくなります。

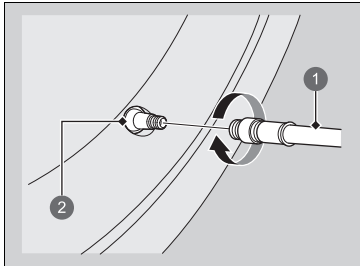
警告灯やスピードメーターが見えない位置に貼らない。
安全運転の妨げとなります。

走行前に、コンプレッサーなどの積み忘れがないか、しっかりと確認してください。

6. タイヤバルブからコンプレッサーホースを外しバルブキャップを取り付ける。
7. 減圧ボタンを押して、圧力計が 0kPa になるまでエアを抜く。
8. キットを車両に戻す。

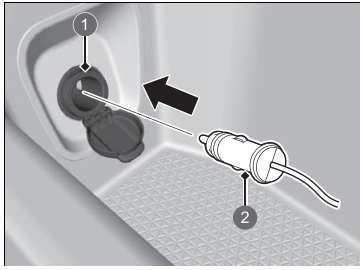
■タイヤ空気圧の補充

装備されているコンプレッサーを使用して、パンクしていないタイヤの空気圧を補充することができます。



❶ コンプレッサーホース
❷ バルブ

1. コンプレッサーを準備する。
2. 交通から遠ざけ、空気を補充するタイヤ付近にキットを水平に置く。
3. バルブからバルブキャップを取り外す。
4. バルブにコンプレッサーホースを確実に取り付ける。



❶ アクセサリーソケット
❷ 電源プラグ

5. コンプレッサーの電源コードの電源プラグを、アクセサリーソケットに差し込む。
▶ ドアや窓にコードをはさまないように注意してください。
➔ **アクセサリーソケット** P.202
6. パワーシステムを起動する。
➔ **一酸化炭素について** P.79

次ページに続く

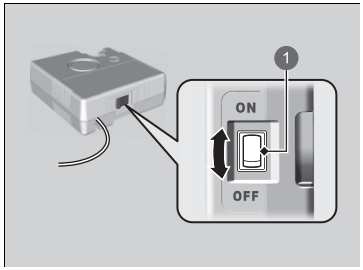
タイヤ空気圧の補充

⚠警告

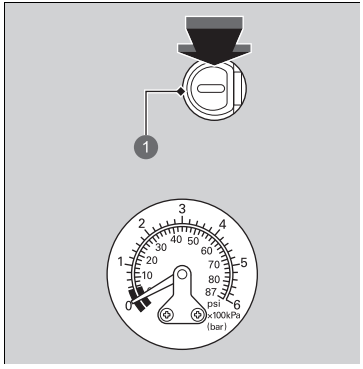
一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。
一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。
密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、パワーシステムを起動したままにしない。
周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどしてください。

コンプレッサーのスイッチをONにすると、振動して音が聞こえます。



❶ スイッチ



❶ 減圧ボタン

7. コンプレッサーのスイッチをONにして、指定の空気圧まで高める。

8. コンプレッサーのスイッチをOFFにする。
- ▶ コンプレッサーに付属の空気圧計で、空気圧を確認します。
- ▶ もし空気圧が高ければ、減圧ボタンを押して減圧します。

9. パワーシステムを停止し、コンプレッサーの電源コードの電源プラグを、アクセサリーソケットから外す。
- ▶ 使用直後は電源プラグ先端が熱くなるため、素手で触らないように注意してください。

10. タイヤバルブからコンプレッサーホースを外しバルブキャップを取り付ける。

11. キットを車両に戻す。

≫タイヤ空気圧の補充

アドバイス

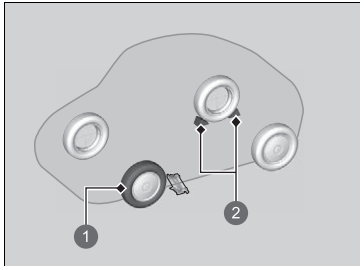
備え付けのコンプレッサーは、乗用車タイプの空気充填用です。取り扱いの際には、以下の点にご注意ください。

- コンプレッサーの電源は自動車用12V専用です。他の電源は使用しないでください。
- 使用中、コンプレッサーの表面が熱くなります。15 分以上は連続して使用しないでください。また、再使用する場合は、コンプレッサーが冷えてからお使いください。

タイヤの空気圧を空気圧計で確認するときは、コンプレッサーのスイッチをOFFにしてください。

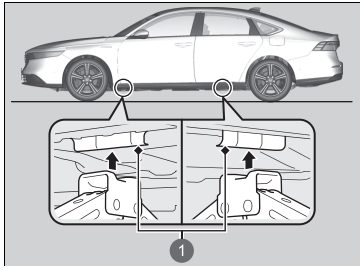
ジャッキのかけかた

1. 地面が固く、滑らない、水平なところに車を停める。
2. パーキングブレーキをかける。
3. シフトポジションを P にする。
4. パワーモードを OFF モードにする。
5. 交換するタイヤの対角線上にあるタイヤの前後に、石などで輪留めをする。



❶ 交換タイヤ
❷ 輪留め

6. 交換するタイヤにもっとも近いジャッキポイントの下にジャッキ(別売り)を置く。



❶ ジャッキポイント

次ページに続く

ジャッキのかけかた

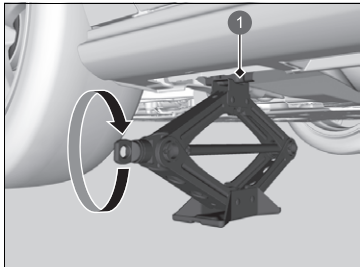
⚠警告

車がジャッキだけで支えられているときは、車の下に入らない。
車がジャッキから外れて、車の下にいる人が重大な傷害を負うおそれがあります。

⚠注意

ジャッキを使うときは安全のため、次のことを必ず守る。
- パワーシステムを起動したままにしない
- 地面が固い平らなところ以外では使用しない
- ジャッキポイント以外にかけない
- 人や荷物を乗せたままにしない
- ジャッキ使用中に車内に入らない
- ジャッキの上や下にものを入れたりしない

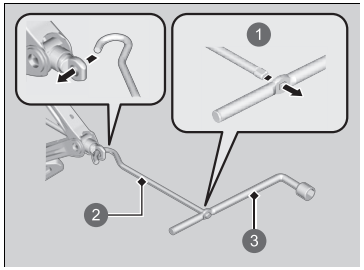
この車には、ジャッキが標準で搭載されていません。ジャッキアップをする場合は、この車専用のジャッキをお使いください。詳しくは Honda 販売店にご相談ください。
他のジャッキでは支えられる重量(呼荷重)が不足したり、形状が合わないことがあります。



❶ ジャッキポイント

7. ジャッキの上部がジャッキポイントに接触するまで図の部分を矢印の方向に回す。

▶ ジャッキの溝にジャッキポイントがはまったことを確認します。



❶ 奥まで差し込む
❷ ジャッキハンドルバー（別売り）
❸ ジャッキハンドル（別売り）

8. ジャッキハンドル（別売り）とジャッキハンドルバー（別売り）を使って、タイヤが地面から離れるまで車体を上げる。

パワーシステムの確認

パワーシステムが起動しない場合、以下のことが考えられます。項目を確認し、適切な処置を行ってください。

項目	状況	対処のしかた
関連した警告灯か警告メッセージが表示されるかどうかを確認する	「キーのHondaエンブレムでスイッチに触れてください」のメッセージが表示されている	ボタンを押してもキーのインジケーターが点灯しないときは ➡ **Honda スマートキーの電池が切れたとき** P.667
	「外気温が低いために起動できません　パワーモードをOFFにしてお待ちください」のメッセージが表示されている	ガレージ内で保管するなど、高電圧バッテリーが極低温状態にならないようにしてください。 必要に応じて Honda 販売店に相談してください。
	トランスミッション警告灯が点滅し、「トランスミッション異常　停車時はパーキングブレーキを確実にかけてください」とメッセージが表示されている	➡ **トランスミッション警告灯が点滅しメッセージが表示した** P.682
シフトポジションの位置を確認する	P以外のシフトポジションが選択されている	シフトポジションをPにしてください。
パワーシステム起動の手順を実行する		もう一度、正しいパワーシステム起動操作をしてみてください。 ➡ **パワーシステムの起動** P.342
イモビライザーシステム表示灯を確認する	イモビライザーシステム表示灯が点滅しているときは、パワーシステムの起動ができません。	➡ **イモビライザーシステム** P.155 ➡ **イモビライザーシステム表示灯** P.94
ヒューズを点検する		全てのヒューズを確認してください。 ➡ **ヒューズの点検と交換** P.687

以上の確認をしてもパワーシステムが起動しない場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

次ページに続く

すぐに車を動かす必要がある場合は、ブースターバッテリーを利用してジャンプスタートさせます。

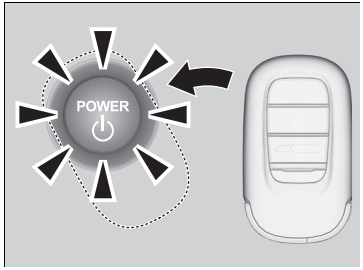
➔ **ジャンプスタートの方法** P.670

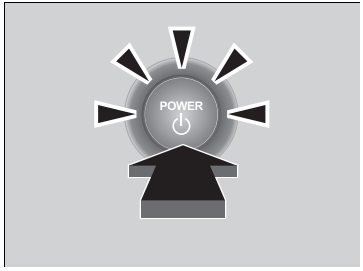
状況によっては、緊急時のパワーシステム起動方法を行うことで、一時的にパワーシステムを起動することができます。

➔ **緊急時のパワーシステム起動方法** P.668

Honda スマートキーの電池が切れたとき

ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに「キーのHondaエンブレムでスイッチに触れてください」とメッセージが表示されるか、 POWER が点滅しているときは、READY 表示灯が点灯しません。
以下の手順でパワーシステムを起動してください。





1. POWER を押す。
   ▶ ブザーが鳴り、 POWER が約30秒間点滅します。
2. POWER が点滅している間に、Honda スマートキーの Honda エンブレムをスイッチに接触させる。
   ▶ ブザーが鳴り、 POWER が約 10 秒間点灯します。
3. POWER が点灯している間に、ブレーキペダルを踏みながら、 POWER を押す。
   ▶ READY 表示灯が点灯します。
   ▶ ブレーキペダルを踏んでいないときは、アクセサリーモードになります。

緊急時のパワーシステム起動方法

通常のパワーシステムの起動方法で、パワーシステムが起動しない場合は、次の操作でパワーシステムが起動する場合があります。
緊急時など必要な場合以外は、この操作をしないでください。

1. パーキングブレーキがかかっていることを確認する。
2. シフトポジションが P であることを確認し、パワーモードをアクセサリーモードにする。
3. ブレーキペダルをしっかり踏んだまま、 POWER を約15秒以上押し続ける。

上記の操作でパワーシステムが起動できてもシステムの異常が考えられます。
ただちに Honda 販売店で点検をうけてください。

緊急時のパワーシステム停止方法

POWER スイッチは走行中、緊急事態の場合にパワーシステムを停止するために使用することができます。
パワーシステムを停止しなければならない場合は、以下のいずれかを行ってください：

- POWER を約 2 秒間押す。
- POWER を連続して 3 回押す。

このときハンドルはロックしません。

パワーシステムが停止すると、パワーモードはアクセサリーモードになります。
車が停止すると、自動的にシフトポジションが P になり、パワーモードが OFF モードになります。

緊急時のパワーシステム停止方法

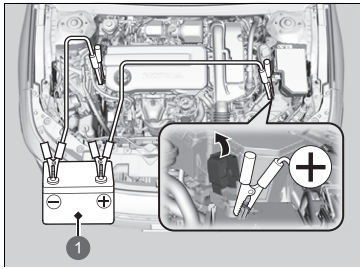
アドバイス

緊急時など必要な場合以外は、走行中に POWER を押さないでください。
走行中に POWER を押すとブザーが鳴ります。

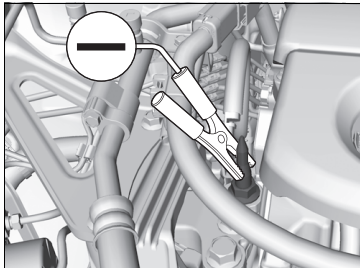
ジャンプスタートの方法

■処置のしかた

まず、ボンネットを開け、12V バッテリーの状態を確認します。バッテリー液が凍っている場合はバッテリー液が溶けるまでジャンプスタートはできません。
次に、オーディオやライトなどの電源を OFF にしてください。
ブースターケーブルのクリップは、エンジンの振動などで外れないように確実に固定してください。また、ケーブルの巻き込みに注意してください。



❶ 救援車のバッテリー



1. 自車と救援車のパワーモードを OFF モードにする。
2. ブースターケーブルを、自車の 12V バッテリーの ⊕ 端子に接続する。
3. ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの ⊕ 端子に接続する。
▶ 救援車には、12V のバッテリーを装着している車を使用してください。
▶ 自動車用充電器を使用する場合は、電圧を 15V 以下に設定してください。
4. もう 1 本のブースターケーブルを、救援車のバッテリーの ⊖ 端子に接続する。
5. ケーブルの反対側を、自車のエンジンのスタッドボルトに接続する。
6. 救援車のエンジンを始動し、回転数を少し高めにする。
7. 自車のパワーシステムを起動する。

≫ジャンプスタートの方法

⚠警告

ジャンプスタートは、正しい手順で慎重に行う。
ジャンプスタートの操作を間違えると、12V バッテリーが爆発し、重大な傷害を受けるおそれがあります。
タバコの火、火花、炎を12Vバッテリーから遠ざけ、正しい手順で行ってください。

アドバイス

気温が極端に低い場所に 12V バッテリーを長時間にわたって置くと、内部のバッテリー液が凍結するおそれがあります。
バッテリー液が凍結した 12V バッテリーでジャンプスタートすると、12V バッテリーが壊れることがあります。

寒冷時は、12Vバッテリーの性能が低下します。
パワーシステム起動に支障をきたすことがありますので、液量、比重の確認をし、必要に応じて液の補給や補充電をしてください。

金属どうしがきちんと接続されているか確認してください。
ケーブルをエンジンのスタッドボルト以外に接続しないでください。

バッテリー液が不足しているときは、使用しないでください。
12Vバッテリー内部の劣化が進むおそれがあります。

■システム起動後の作業

自車のパワーシステムが起動したら、下記の手順でブースターケーブルを取り外します。

1. 自車のエンジンのスタッドボルトからケーブルを外す。
2. ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの ⊖ 端子から外す。
3. 自車の 12V バッテリーの ⊕ 端子からケーブルを外す。
4. ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの ⊕ 端子から外す。
5. 12V バッテリーの電圧が回復するまでアイドリングしてください。
▶ READY 表示灯が点灯すれば走行可能です。
▶ ブレーキ、ブレーキシステム、ABS、VSA の警告灯が点灯し消灯しない場合は、パワーシステムを OFF にして、再度、自車のパワーシステムを起動してください。警告灯が消灯しない場合は、異常が考えられますので、販売店で点検してください。
▶ パワーシステムが起動しないときは、ジャンプスタートを繰り返してください。

Honda 販売店や最寄りのガソリンスタンドなどで点検を受けてください。

次ページに続く

システム起動後の作業

⚠警告

12V バッテリーを扱うときは、火気を近づけない。
12V バッテリーから発生する可燃性のガスに引火すると、12V バッテリーが爆発し、重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。
12V バッテリーを扱うときは、保護衣・保護面を着用するか、Honda 販売店で 12V バッテリーのメンテナンスを受けてください。

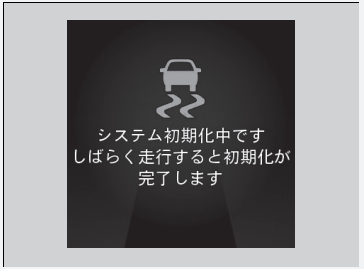
バッテリー液の取り扱いに注意する。
バッテリー液は希硫酸です。目や皮ふに付くとその部分が侵されますので十分注意してください。
- 万一、付着したときはすぐに多量の水で少なくとも 5 分間以上洗浄する
- 飲み込んだときはすぐに多量の飲料水を飲む

応急処置後は、専門医の診察を受けてください。

ブースターケーブルの端子どうしが接触しないよう注意してください。

システム起動後の作業

12V バッテリーを外して再接続した後、POWER を押してパワーモードを ON にすると、VSA(ビークルスタビリティアシスト)警告灯と渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)警告灯(オレンジ)、安全支援情報警告灯(オレンジ)、ブレーキシステム警告灯(オレンジ)が一時的に点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに以下のメッセージが表示される場合があります。



このとき車速 20km/h 以上でしばらく走行すると、これらの警告灯やメッセージが消えます。消えないときは、Honda 販売店で点検を受けてください。

オーバーヒートしたときの対処方法

次のようなときは、オーバーヒートです。

- マルチインフォメーションディスプレイに「パワーシステム高温 急発進・急加速・高速走行を避けてください」とメッセージが表示される
- マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温　安全な場所に停車し運転を停止してください」が表示される
- エンジンルームから蒸気が立ちのぼっている

■マルチインフォメーションディスプレイに「パワーシステム高温 急発進・急加速・高速走行を避けてください」とメッセージが表示されたとき

パワーシステムが高温になると、マルチインフォメーションディスプレイに「パワーシステム高温 急発進・急加速・高速走行を避けてください」とメッセージが表示されます。

1. ただちに車を安全な場所に停める。

▶ パーキングブレーキをかけて、シフトポジションを P にします。すべてのアクセサリーの電源を切り、非常点滅表示灯を点滅させます。

2. パワーシステムを起動したまま、警告メッセージが消えるのを待つ。

▶ 警告メッセージが消えない場合は、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。

次ページに続く

オーバーヒートしたときの対処方法

⚠警告

蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けない。
ラジエーターから噴き出る蒸気や熱湯に触れると、重大な傷害を受けるおそれがあります。

パワーシステムが熱いうちにラジエーターキャップを外さない。
冷却水が噴き出し、重大な傷害を受けるおそれがあります。必ずラジエーターが十分に冷えてからキャップを外してください。

マルチインフォメーションディスプレイに「パワーシステム高温 急発進・急加速・高速走行を避けてください」とメッセージが表示された場合、加速しにくくなります。また、上り坂などでの発進が困難になる場合があります。

■マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温　安全な場所に停車し運転を停止してください」とメッセージが表示されたとき

■最初にすること

1. ただちに車を安全な場所に停める。

▶ パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にします。

2. すべてのアクセサリーの電源を切り、非常点滅表示灯を点滅させます。

▶ **蒸気が出ていない場合：**パワーシステムを起動したままボンネットを開ける。

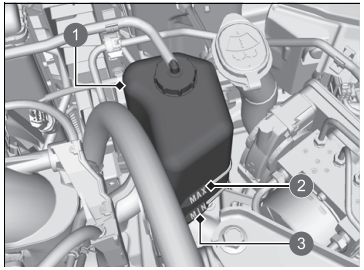
▶ **蒸気が出ている場合：**パワーシステムを停止し、蒸気が出なくなってからボンネットを開ける。

アドバイス

マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温　安全な場所に停車し運転を停止してください」とメッセージが表示された状態で運転すると、エンジンを著しく損傷するおそれがあります。

冷却水がもれている場合は、Honda 販売店に修理を依頼してください。

■次にすること



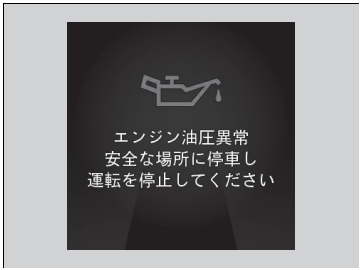
❶ リザーブタンク
❷ 上限
❸ 下限

1. 冷却ファンの作動を確認し、マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温　安全な場所に停車し運転を停止してください」のメッセージが表示されなくなったらパワーシステムを停止する。
▶ 冷却ファンが作動していない場合は、すぐにパワーシステムを停止します。
2. エンジンが冷えてから冷却水量、ホースなどからの水漏れを点検する。
▶ 冷却水量が不足していたら、ラジエーターとリザーブタンクに冷却水を補給します。冷却水がない場合は、応急的に水を補給します。

■最後にすること

- 十分にエンジンが冷えたら、パワーシステムを起動しマルチインフォメーションディスプレイの「エンジン冷却水高温　安全な場所に停車し運転を停止してください」の表示が消えている場合は、運転を再開します。表示が消えないときは、Honda 販売店に修理を依頼します。

「エンジン油圧異常」の警告メッセージが表示された



■表示の理由

エンジン内部を潤滑しているオイルの油圧が低下すると表示されます。

■表示されたらすぐにすること

1. ただちに車を水平で安全な場所に停車する。
2. 非常点滅表示灯を点滅させる。

■車を停車してからすること

1. パワーシステムを停止させ、3 分間ほど放置する。
2. ボンネットを開け、エンジンオイルの量を確認する。
   ▶必要に応じて、エンジンオイルを補給してください。
3. エンジンを始動する。
   ▶**「エンジン油圧異常」の警告メッセージが消えた：**運転を再開してください。
   ▶**「エンジン油圧異常」の警告メッセージが消えない：**パワーシステムを停止させ、ただちに Honda 販売店に修理を依頼してください。

»「エンジン油圧異常」の警告メッセージが表示された

アドバイス

油圧が低い状態でエンジンを回転させると、エンジンが破損するおそれがあります。

12V バッテリー充電警告灯が点灯した



■点灯の理由
12V バッテリーが充電されていないと点灯します。

■点灯したらすること
安全な場所に停車して、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

「ブレーキ性能低下」の警告メッセージが表示された



■表示の理由
ブレーキ性能が低下すると表示されます。

■表示されたらすぐにすること
速度を落として注意して運転してください。
ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

» 12V バッテリー充電警告灯が点灯した

一時的に停車する場合は、パワーシステムを停止させないでください。
パワーシステムの起動は、12V バッテリーを使用しますので、再起動できなくなるおそれがあります。

PGM-FI 警告灯が点灯 / 点滅した



■点灯 / 点滅の理由

- エンジンの排気ガス制御システムまたはパワーシステムが異常のときに点灯します。
- エンジン各気筒の失火状態を検知したときに点滅します。

■点灯したときは

- 高速走行を避けて、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
- 燃料がなくなり、エンジンで発電できないときに点灯することがあります。その場合は給油してから、パワーモード ON、走行、パワーモード OFF を数回繰り返すと、警告灯は消灯します。警告灯が消灯しないときは、Honda 販売店で点検を受けてください。

■点滅したときは

枯草などの可燃物のない安全な場所に停車し、10 分以上エンジンを停止して冷えるまでお待ちください。

≫PGM-FI 警告灯が点灯 / 点滅した

アドバイス

点灯したときは

PGM-FI 警告灯が点灯したまま運転すると、排気ガス制御システムとエンジンを損傷する場合があります。

点滅したときは

エンジン再始動後、警告灯が再び点滅するときは、50km/h 以下の速度で最寄りの Honda 販売店まで走行し点検を受けてください。

ブレーキ警告灯(レッド)が点灯 / 点滅した



■点灯の理由

- ブレーキフルードが減っているときに点灯します。
- ブレーキ配分機能が異常のときに点灯します。

■走行中に点灯したらすること

- ブレーキペダルを軽く踏んで、ペダルの圧力を確認する。
- ブレーキフルード量を確認する。

■点滅の理由

電子制御パーキングブレーキが異常のときに点滅します。

■点滅したときは

パーキングブレーキを使用せずに、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

▩ブレーキ警告灯(レッド)が点灯 / 点滅した

ただちに、Honda 販売店に修理を依頼してください。

ブレーキフルードが減っている状態で運転することは危険です。

ブレーキペダルに抵抗がない場合は、ただちに安全な場所に車を停めてください。必要に応じて、回生ブレーキを用いて減速を手助けするために減速セレクターの[−]を引いてください。

ABS警告灯と同時に点灯した場合は、急ブレーキ時に車両が不安定になる可能性があります。高速走行や急ブレーキを避けてください。
ただちに、Honda 販売店に修理を依頼してください。

ブレーキシステム警告灯(オレンジ)の点灯と同時に点滅した場合は、パーキングブレーキが作動しないことがあります。パーキングブレーキを使用せずに、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

➔ **ブレーキシステム警告灯(オレンジ)の点灯と同時にブレーキ警告灯(レッド)が点灯または点滅した** P.681

EPS(電動パワーステアリング)システム警告灯が点灯した



■点灯の理由

- EPS システム、ドライバー注意力モニター* が異常のときに点灯します。

■点灯したらすること

- 安全な場所に停車し、パワーシステムを再起動する。
  その後も走行中に点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
- マルチインフォメーションディスプレイに「走行しないでください」が表示した場合は、ただちに安全な場所に停車し、Honda 販売店にご連絡ください。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

ブレーキシステム警告灯(オレンジ)の点灯と同時にブレーキ警告灯(レッド)が点灯または点滅した


(オレンジ)

■ブレーキシステム警告灯(オレンジ)の点灯と同時にブレーキ警告灯(レッド)が点灯または点滅したときは

手動または自動でパーキングブレーキを解除してください。

➡ **電子制御パーキングブレーキ** P.550


(レッド)

- ブレーキ警告灯(レッド)が同時に点灯または点滅し続けているときは、ただちに安全な場所に停車し Honda 販売店へご連絡ください。
  ▶ 車両が動き出さないように、シフトポジションを P にしてください。

- ブレーキ警告灯(レッド)だけが消灯したときは、パーキングブレーキを使用せずに、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

» ブレーキシステム警告灯(オレンジ)の点灯と同時にブレーキ警告灯(レッド)が点灯または点滅した

パーキングブレーキをかけると、パーキングブレーキが解除できなくなることがあります。

ブレーキ警告灯(レッド)が同時に点灯しているときは、パーキングブレーキが作動しています。

ブレーキ警告灯(レッド)が同時に点滅しているときは、システムの点検中でパーキングブレーキが作動していない可能性があります。

電子制御パーキングブレーキを短時間にくり返し操作するとシステムの過熱防止のために作動が停止し警告灯が点滅します。
約 1 分経過すると元に戻ります。

トランスミッション警告灯が点滅しメッセージが表示した



■点滅の理由

トランスミッションが故障すると表示します。

■点滅したらすること

- ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

トランスミッション警告灯が点滅しメッセージが表示した

システムを起動できないことがあります。

停車するときは、確実にパーキングブレーキをかけてください。

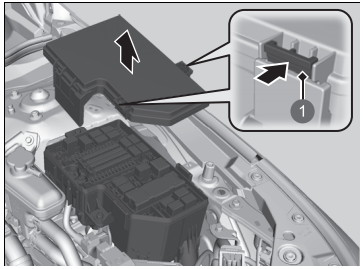
走行できないときは、専門業者に連絡してください。

非常時のけん引 P.690

ヒューズの設置場所

電気装置が作動しない場合、パワーモードを OFF モードにして、ヒューズが切れていないか確認します。ヒューズは、エンジンルームと室内のヒューズボックスに入っています。

■エンジンルーム内のヒューズボックス



❶ タブ

■ヒューズボックス

エンジンルーム内の助手席側にあります。

1. タブを押してフタを開ける。

» エンジンルーム内のヒューズボックス

ヒューズボックスのフタに、ヒューズの場所が表示してあります。
ヒューズ番号とフタの表示で、該当するヒューズの位置を確認してください。

次ページに続く

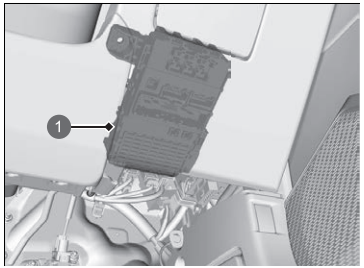
■各ヒューズの装備と容量

	表示	装備	容量
1		バッテリー	175A
2	—	—	30A
	—	—	40A
		ヒューズボックス オプション 1	60A
		A/C PTC 1	(40A)
		ヒューズボックス オプション 2	60A
	—	—	60A
		ヒューズボックス メイン	60A
3		オーディオアンプ	(30A)
	—	—	30A
		A/C PTC 3	(40A)
	—	—	30A
	—	—	50A
		ヒーターモーター	40A
		リヤデフロスター	40A
4		ABS/VSA FSR	40A
		ABS/VSA モーター	40A
		ウォーターポンプ	40A
		電動サーボブレーキ	40A
		イグニッションメイン	30A
		冷却ファンサブ	40A
		リレーモジュール 2	30A

	表示	装備	容量
5		サブ ヒューズボックス 1	30A
		ワイパー	30A
		EPS	70A
		リレーモジュール 1	30A
		冷却ファンメイン	40A
		P-ACT モーター	(30A)
		ヒューズボックス メイン 2	60A
6	—	—	—
7		イグニッション メイン 2	30A
8	—	—	—
9		バックアップ	15A
10		ウォッシャー	15A
11	—	—	—
12		リヤシートヒーター	(20A)
13	—	—	—
14	—	—	—
15		シャッターグリル	(10A)
16	—	—	—
17	—	—	—
18		ホーン	10A
19	—	—	—
20		オーディオ	7.5A
21		EVTC	20A
22		DBW	15A

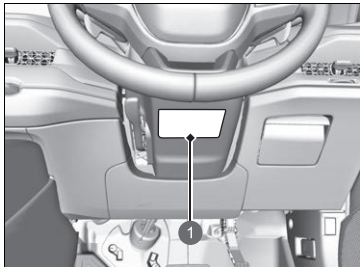
	表示	装備	容量
23		非常点滅表示灯	15A
24		バックアップ FI-ECU	10A
25		IGP	15A
26		P-ACT DRV	(10A)
27		LCM L	20A
28		INJ	20A
29		制動灯	10A
30		LCM R	20A
31		イグニッションコイル	15A
32		ICM	10A
33		PCU EWP	10A
34	—	—	—
35	—	—	—
37	—	—	—
38	—	—	—
39		IGA	10A
40		IGB	10A
41	—	—	—
42		MON 2	7.5A
45		IGPS[LAF]	10A
46	—	—	—

■室内運転席側のヒューズボックス



インストルメントパネルの奥にあります。
▶ 下から確認できます。

❶ ヒューズボックス



❶ ヒューズラベル

室内運転席側のヒューズボックス

コラムカバー下に貼ってあるラベルに、ヒューズの場所が表示してあります。
ヒューズ番号とラベルの表示で、該当するヒューズの位置を確認してください。

次ページに続く

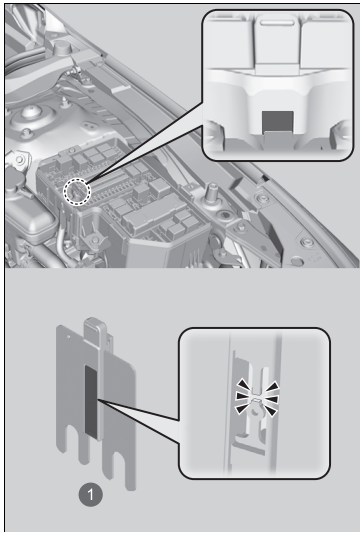
■各ヒューズの装備と容量

表示		装備	容量
1		運転席 パワーウィンドー	20A
2		助手席 パワーウィンドー	20A
3		後席右側 パワーウィンドー	20A
4		後席左側 パワーウィンドー	20A
5		オプション	10A
6		SRS	10A
7		TRUNK LOCK ACT	10A
8		RVU	(10A)
9		フロント アクセサリーソケット (フロントコンソール)	20A
10		ドアロック	20A
11		メーター	10A
12		—	(10A)
13		オプション 2	10A
14		MISS SOL	10A
15		—	(10A)
16		マルチビューカメラ システム	(7.5A)
17	—	—	—
18	—	—	—

表示		装備	容量
19	—	—	—
20		CGW	10A
21	—	—	—
22		HONDA スマートキー システム	10A
23		—	(10A)
24		ADS	(15A)
25		シフトバイワイヤー	(5A)
26		SRS	10A
27		ACG	10A
28		VSA/ABS	10A
29		フューエルポンプ	20A
30		左側ドアアンロック	10A
31		右側ドアアンロック	10A
32		—	(20A)
33		センターディスプレイ	(7.5A)
34		USB チャージャー	10A
35		—	(20A)
36		オートヘッドライト アジャスター	(10A)
37	—	—	—
38		IGA 2	(20A)
39		右側ドアロック	10A
40		運転席パワーシート (SLIDE/FR HI)	(20A)
41		運転席パワーシート (REC/RR HI)	(20A)

表示		装備	容量
42		オプション 3	(10A)
43		エアコン	10A
44		デイタイム ランニングライト	10A
45		ACC	10A
46		ACC キーロック	10A
47		左側ドアロック	10A
48		フロント シートヒーター	(20A)
49		助手席パワーシート (REC)	(20A)
50		運転席 ランバーサポート	(10A)
51	—	—	—
52	—	—	—
53		助手席パワーシート (SLIDE)	(20A)
54		オプション 1	10A
55	—	—	—
56	—	—	—

ヒューズの点検と交換



❶ メインヒューズ

1. パワーモードを OFF モードにし、ヘッドライトとすべてのアクセサリーを OFF にする。
2. エンジンルーム内のヒューズボックスのフタを取り外す。
3. 図の位置からメインヒューズを点検する。
▶ ヒューズが切れている場合は、Honda 販売店に修理を依頼してください。

≫ヒューズの点検と交換

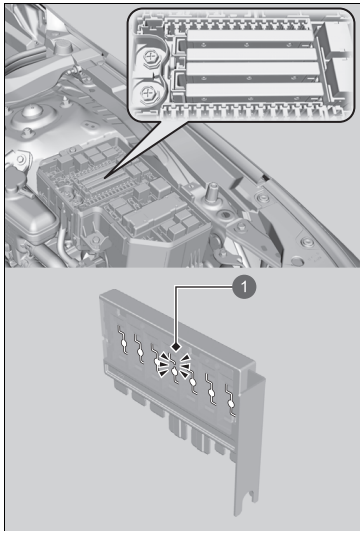
アドバイス

規定容量より大きいヒューズに交換すると、電気系統を損傷する危険性が高くなります。
交換したあと、すぐにヒューズが切れるような場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

ヒューズは同じ規定容量のヒューズと交換してください。
➔ **ヒューズの設置場所** P.683

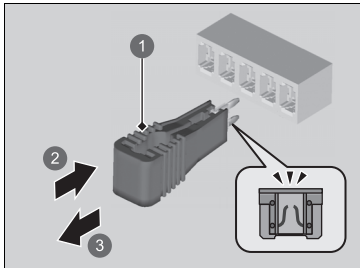
エンジンルーム内のヒューズボックスには、フタの裏にヒューズプラーがついています。
ヒューズプラーは、切れている小さいヒューズを引き抜くときに使います。

次ページに続く



❶ 切れているヒューズ

4. メインヒューズ以外の大きいヒューズを点検する。
▶ ヒューズが切れている場合は、Honda販売店に修理を依頼してください。



❶ ヒューズプラー
❷ 取り付ける
❸ 外す

5. エンジンルーム内と、室内の小さいヒューズを点検する。
▶切れているヒューズがあったら、ヒューズプラーで引き抜き、新しいものと交換してください。

非常時のけん引

けん引するときは、Honda 販売店にご連絡ください。
けん引は専門業者に依頼して四輪または前輪を持ち上げて行ってください。

≫非常時のけん引

アドバイス

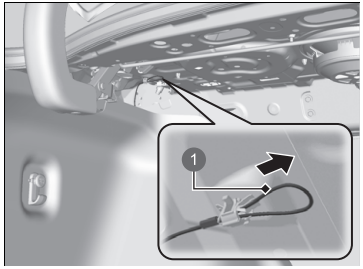
バンパーで車を持ち上げたり、けん引すると、バンパーがいちじるしく損傷します。
バンパーは車の重量を支えるようにはできていません。

パーキングブレーキが解除されていることをブレーキ警告灯(レッド)で確認してください。パーキングブレーキが解除できないときは、必ず四輪を持ち上げてけん引してください。
➔ **電子制御パーキングブレーキ** P.550

ロープやチェーンなどを使ってけん引されるときは、車体に当たる部分に布を巻いてください。
そのままけん引されると、車体に傷が付くことがあります。

■解錠できないときの対処方法

万一、フューエルリッドが解錠できなくなったときは、応急処置として次の方法で解錠してください。



❶ 解錠ケーブル

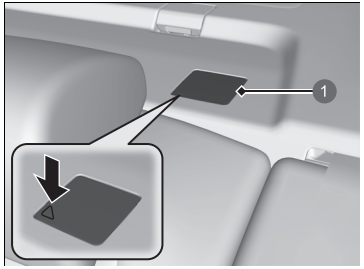
1. トランクを開ける。
2. 解錠ケーブルを矢印の方向に引く。
▶ 解錠ケーブルを引くとフューエルリッドが解錠されます。
▶ 解錠ケーブルを引いた後は、ケーブルを図の位置に戻してください。
3. フューエルリッドを開ける。
➔ **給油のしかた** P.611

解錠できないときの対処方法

応急処置後は、Honda 販売店で点検を受けてください。

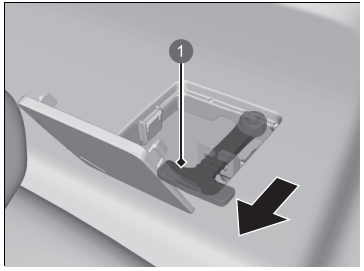
■開かないときの対処方法

万一、トランクを開けることができなくなったときは、応急処置として次の方法で開けてください。



❶ カバー

1. カバーの左下を押して、カバーを開ける。



❶ トランクリリースレバー

2. トランクリリースレバーを引く。
▶トランクが開きます。

≫開かないときの対処方法

応急処置後は、Honda 販売店で点検を受けてください。

緊急通報

緊急通報とは、事故発生時や急病などの緊急時に、オペレーターがお客様のかわりに警察や消防へ通報するサービスです。

緊急通報

ご利用には、Honda Total Careプレミアムのお申込みが必要です。詳しくは Honda Total Care プレミアムのホームページをご確認ください。
https://www.honda.co.jp/hondatotalcare/premium/

緊急通報はパワーモードがONモードのときに利用可能です。

オペレーターとの接続は、車両側から終了させることはできません。オペレーターのみが車両との接続を終了することができます。

次の場合にはインジケーターが赤色に点滅し、オペレーターに接続できない可能性があります。
- バックアップバッテリーの電圧が低いとき
- トンネル内や地下駐車場など電波環境が悪いとき

次の場合にはインジケーターが赤色に点灯し、オペレーターに接続できない可能性があります。
- システム、またはマイクやスピーカーなどの機器に問題があるとき

次ページに続く

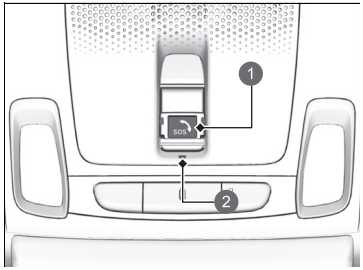
■自動通報機能

車両のエアバッグが展開、またはドライバー異常時対応システムが作動して車両が停止した場合、車両は自動的にオペレーターへの接続を開始します。接続時には車両に関する情報(場所、車両の状態など)がオペレーターに送信されます。

ドライバー異常時対応システム P.540

■手動通報機能

事故発生時や急病などの緊急時に、緊急通報ボタンを押すことで手動でオペレーターに接続することが可能です。



❶ 緊急通報ボタン(カバー付き)
❷ インジケーター

1. 緊急通報ボタンのカバーを開ける。
2. 緊急通報ボタンを押す。
▶ オペレーターに接続されます。
▶ オペレーターに接続中はインジケーターが緑色に点滅します。

緊急通報

インジケーターが赤色で点灯を続ける場合はHonda 販売店で点検を受けてください。

インストルメントパネル上部に物を置かないでください。通信用のアンテナが内蔵されているため、オペレーターとの通話が繋がりにくくなったり、車両の位置情報がずれる場合があります。

自動通報機能

エアバッグが展開しなくても、車両に一定以上の衝撃が加わった場合、車両は自動的にオペレーターへの接続を開始します。

手動通報機能

Honda SENSING 360+ 装備車

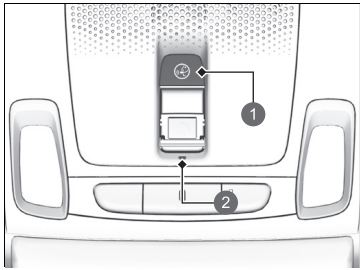
特定の条件下で緊急通報ボタンを押すことにより、ドライバー異常時対応システムが作動します。

ドライバー異常時対応システム P.540

ドライバー異常時対応システムの解除操作を行わなかった場合、手動通報終了後に再度緊急通報が開始されます。

トラブルサポート

トラブルサポートとは、警告灯が点灯した場合や車両トラブルなど、乗車中の困ったときにHonda Total Care 緊急サポートセンターへ接続して、車の使い方やロードサービスの手配をサポートするサービスです。



❶ トラブルサポートボタン
❷ インジケーター

パワーモードがONモードのときにトラブルサポートボタンを押すと、Honda Total Care 緊急サポートセンターに接続します。

▶ 接続中はインジケーターが緑色に点滅します。
▶ 再度トラブルサポートボタンを押すと接続が終了します。

トラブルサポート

ご利用には、Honda Total Careプレミアムのお申込みが必要です。詳しくは Honda Total Care プレミアムのホームページをご確認ください。
https://www.honda.co.jp/hondatotalcare/premium/

次の場合にはインジケーターが赤色に点滅し、Honda Total Care緊急サポートセンターに接続できない可能性があります。
- バックアップバッテリーの電圧が低いとき
- トンネル内や地下駐車場など電波環境が悪いとき

次の場合にはインジケーターが赤色に点灯し、Honda Total Care緊急サポートセンターに接続できない可能性があります。
- システム、またはマイクやスピーカーなどの機器に問題があるとき

インジケーターが赤色で点灯を続ける場合はHonda 販売店で点検を受けてください。

インストルメントパネル上部に物を置かないでください。通信用のアンテナが内蔵されているため、オペレーターとの通話が繋がりにくくなったり、車両の位置情報がずれる場合があります。

資料

この章には、仕様に関する情報が記載されています。



仕様 697
オープンソースライセンス 698

仕様

■仕様

名称	ACCORD
排気量	1,993cm³
車体形状	4ドアセダン
乗車定員	5名

■点火プラグ

NGK	DILZKAR7G11Y

点火プラグは、イリジウムプラグを使用しています。
交換時期は「メンテナンスノート」をご覧ください。

■確認

ブレーキペダル	遊び	7.8-15.6mm
	床板とのすき間	146mm以上 {約196N(20kgf)の力}

■燃料

燃料種類	無鉛レギュラーガソリン レギュラーバイオ混合ガソリン (E10/ETBE22)
燃料タンク容量	48L

■エアクリーナーエレメント

タイプ	湿式

■12Vバッテリー

容量/タイプ	36AH(5)45AH(20)/46B24R

■ウォッシャー液

タンク容量	1.5L

■電球

ヘッドライト(ロービーム)	LED
ヘッドライト(ハイビーム)	LED
前面方向指示器/ 前面非常点滅表示灯	LED
デイタイムランニングライト/車幅灯	LED
アクティブコーナリングライト	LED
側面方向指示器/ 側面非常点滅表示灯	LED
制動灯	LED
後面方向指示器/ 後面非常点滅表示灯	LED
尾灯	LED
後退灯	LED
ハイマウントストップランプ	LED
番号灯	LED
トランク照明灯	LED
前席/後席マップランプ	LED
アンビエントランプ	LED
バニティミラー照明灯	LED
グローブボックス照明灯	LED
車外ドアハンドルランプ	LED
ドア開閉灯	LED
フットランプ	LED
センターコンソールランプ	LED

■ブレーキフルード

指定液	Honda 純正ブレーキフルード DOT3またはDOT4

■トランスミッションフルード

指定液	Honda 純正 ウルトラHEVF-Type 1	2.5L(交換時)

■エンジンオイル

推奨	・Honda ULTRA LEO※1 ・API SN級以上 0W-20	
規定量	オイル交換時	3.7L
	オイル、 オイルフィルター 同時交換時	4.0L

※1 ： 最も省燃費性に優れたオイルです。

■冷却水

指定液	Honda純正ウルトラeクーラント
規定濃度	50%
規定量	5.66L(交換時：リザーブタンク0.71L含む)

■タイヤ

サイズ	235/45R18 98W	
空気圧 kPa(kgf/cm²)	前輪	240(2.4)
	後輪	240(2.4)
リムサイズ	18×8J	

オープンソースライセンス

メーター オープンソースライセンス

QNX
本製品に組み込まれたソフトウェアは、オープンソースソフトウェアを含みます。
オープンソースソフトウェアの詳細に関しては、以下のウェブサイトをご覧ください。
https://www.denso.com/global/en/opensource/meter/honda/

TCU オープンソースライセンス

この製品に含まれている GPL、LGPL、MPL、Open Source Code 及びライセンス条項、著作権表示、その他の関連文書にアクセスするには、下記 URL をご確認ください。
http://opensource.lge.com
また、Open Source Code のご提供を希望される場合は、LG Electronics（opensource@lge.com）にご連絡ください。
費用（media 費用、輸送、取り扱いなど）をお支払いいただくことで、CD-ROM でご提供差し上げます。
この製品の最後の出荷から 3 年の間、この情報を受け取った方に有効です。

マルチビューカメラ オープンソースライセンス

Free/Open Source Software 情報
この製品は、Free/Open Source Software(FOSS) を含みます。FOSS のライセンス情報及びソースコードは下記 URL を参照ください。

http://car.panasonic.jp/oss/n03pkdl6

Honda SENSING 360+ 装備車

ドライバーモニタリングカメラ オープンソースライセンス

http://www.embedded-carmultimedia.jp/RTOS/License/oss/DMS_0301/

オープンソースライセンス

Honda SENSING 360+ 装備車

高精度地図ユニット オープンソースライセンス

本製品のソフトウェアには以下のオープンソースソフトウェアを含んでいます。

ERIKA Enterprise
ライセンス情報は下記 Web サイトを参照してください。
http://erika.tuxfamily.org/drupal/content/erika-enterprise-license

newlib
ライセンス情報は下記 Web サイトを参照してください。
https://sourceware.org/newlib/COPYING.NEWLIB

GCC Runtime Library
ライセンス情報は下記 Web サイトを参照してください。
https://www.gnu.org/licenses/gcc-exception-3.1.en.html

また、対象となるソフトウェアモジュールに関するお問い合わせについては、以下のホームページよりお願いします。
ホームページアドレス：https://www.astemo.com/jp/inquiry/#anchor-other-aftermarket
自動運転・先進運転支援システム

数字

12Vバッテリーがあがったとき 670
12Vバッテリー充電警告灯 84, 677

A

A/C(エアコン) 209, 636
ABS(アンチロックブレーキシステム) 559
ABS警告灯 86, 559
ACC(アダプティブクルーズコントロール) 456
ACC警告灯 88
ACC表示灯 97

C

CMBS(衝突軽減ブレーキ) 384

E

e:HEV 6
EPS(電動パワーステアリング)システム警告灯 87, 680
eボタン 10

H

Honda SENSING 360 ..... 24, 374
Honda SENSING 360+ 24, 374
Honda Total Careプレミアム 5
Hondaスマートキー 135, 137
緊急時のパワーシステム起動方法 668
緊急時のパワーシステム停止方法 669
電池交換のしかた 633
Hondaパーキングパイロット 587

I

ISOFIX/i-Size 72

L

LKAS(車線維持支援システム) 489
LKAS警告灯 89
LKAS表示灯 99

M

MIST 172

P

PGM-FI警告灯 84, 678
POWERスイッチ 161
パワーモードの切り換えかた 161

S

SRSエアバッグ 46
エアバッグシステム警告灯 57, 86

U

USBジャック 226

V

VSA(ビークルスタビリティアシスト) 366
VSA OFF警告灯 87, 367
VSA警告灯 87, 367
VSAモード設定 119

W

W(ワット数) 697

ア

アームレスト 191
フロントシート 191
リヤシート 191
アームレストスルー 199
明るさ設定 118
アクセサリー 645
アクセサリーソケット 202
アクティブコーナリングライト 167
アダプティブドライビングビーム 169
アダプティブドライビングビーム表示灯 .. 93
安全支援情報 116
安全支援情報警告灯(オレンジ) 90
安全支援情報表示灯(グリーン/グレー) 101

衝突軽減ブレーキ(CMBS)警告灯（オレンジ）... 89
衝突軽減ブレーキ(CMBS)表示灯（グレー）... 100
路外逸脱制御機能警告灯(オレンジ)... 89
路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯... 89
路外逸脱抑制機能表示灯(グレー)... 100
安全なドライブのために... 37
安全に関する表示... 32
安全のための確認事項... 37
アンチロックブレーキシステム(ABS)
ABS警告灯... 86, 559
アンビエントメーター... 103

イ

一酸化炭素の危険性... 79
イモビライザーシステム... 155
イモビライザーシステム表示灯... 94
インフォテインメントシステム... 220
インフォメーション表示灯... 96

ウ

ウィンカースイッチ(方向指示器)... 163
ウィンドウォッシャー
ウィンドウォッシャー液の補給... 622
ウィンドウォッシャースイッチ... 172
ウィンドーの開閉... 157
ウェアインジケーター... 629
運転
シフト操作... 350
パワーシステムの起動... 342
ブレーキ操作... 550
運転支援情報... 108

エ

エアコン... 209, 636
エアクリーンフィルター... 636
エクスペリエンスセレクションダイヤル... 217
オートエアコンの使いかた... 210
窓の曇りや霜の取りかた... 213
エアバッグ... 46
SRSエアバッグ... 46
エアバッグシステム警告灯... 57, 86
エアバッグのお手入れ... 58
サイドエアバッグ... 52
サイドカーテンエアバッグ... 55
ニーエアバッグ... 49
エクスペリエンスセレクションダイヤル... 217
エクスペリエンスセレクション設定... 307
エマージェンシーストップシグナル... 562
エンジンオイル... 621
エンジン油圧異常... 676
推奨エンジンオイル... 621
エンジン作動表示... 109
エンジン油圧異常... 676
エンジンルーム内のメンテナンス... 618
ウィンドウォッシャー液の補給... 622
エンジンルーム内のメンテナンス項目... 618
推奨エンジンオイル... 621
ボンネットを開ける... 619
冷却水の点検と補給... 675

オ

応急修理剤(タイヤパンク)... 650

オーディオ 221
Android Auto™ 268
Apple CarPlay 264
Bluetooth®オーディオを聴く 258
Googleアプリおよびサービス 275
Honda Total Care 261
USBデバイスによる音楽/ビデオ再生について 254
Wi-Fi接続 262
明るさやコントラストを調整する 240
エクスペリエンスセレクションダイヤルを設定する 306
エラーメッセージ 326
オープンソースライセンスについて 332
音質を調整する 239
交通情報を聞く 246
再生ソースの切り替え 237
システムアップデート 241
商標、使用許諾について 334
情報 327
初期化 311
設定 285
ディスプレイオーディオ画面 230
テレビを観る 247
時計設定 238
パワーフロー 272
ハンズフリーテレホンについて 313
プロファイル設定 283
ユーザー情報 279
有線接続による音楽再生 251
ラジオを聴く 243
オーディオリモートコントロールスイッチ 227
オートエアコン 210
オートドアロック/アンロック 151
オートハイビーム
オートハイビーム表示灯 93
オートマチックブレーキホールド 555
オートマチックブレーキホールドシステム表示灯 96
オートマチックブレーキホールド表示灯 .. 96
オートワイパー 173
オーバーヒート 673
オープンソースライセンス 698
オドメーター 111

カ

カーゴフロアボックス 199
カーブ路外逸脱早期警報 415
外気温表示 104
鍵(かぎ) 135
ガソリン 611, 697

キ

キー
Hondaスマートキー 135, 137
Hondaスマートキーの電池が切れたとき 667
解錠してもドアが開かない 29
キー閉じ込み防止装置 145
キーナンバータグ 136
キーレスエントリー 143
後席ドアが開かない 29
電池交換のしかた 633
内蔵キー 136
キー閉じ込み防止装置 145
キーナンバータグ 136
キーレスエントリー 143
急アクセル抑制機能 404
急アクセル抑制機能表示灯 93
給油 611
給油のしかた 611
指定燃料 611
燃料計 102
燃料残量警告灯 86
緊急通報 693

ク

空気圧 697
空気圧測定器による点検 629
グラブレール 3
クリープ現象 349
クルーズコントロール表示灯(ホワイト/グリーン) 100

車の改造..... 646
グローブボックス..... 194

ケ

経過時間表示..... 114
計器..... 80
警告灯..... 83
12Vバッテリー充電警告灯..... 84, 677
ABS警告灯..... 86, 559
ACC/LKASシステム警告灯(オレンジ)..... 88
EPSシステム警告灯..... 87, 680
PGM-FI警告灯..... 84, 678
VSA OFF警告灯..... 87
VSA警告灯..... 87
安全支援情報警告灯(オレンジ)..... 90
エアバッグシステム警告灯..... 57, 86
シートベルト非着用警告灯..... 40, 85
車線維持支援システム(LKAS)警告灯(オレンジ)..... 89
車線変更支援機能警告灯(オレンジ)..... 89
渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)警告灯(オレンジ)..... 88
衝突軽減ブレー キ(CMBS)警告灯..... 89
ドライバーモニタリングカメラ警告灯(オレンジ)..... 92
トランスミッション警告灯..... 85, 682
燃料残量警告灯..... 86
パーキングセンサー警告灯..... 88
パワーシステム警告灯..... 84
ブレーキ警告灯(レッド)..... 83, 679
ブレーキシステム警告灯(オレンジ)..... 84, 681
路外逸脱制御機能警告灯(オレンジ)..... 89
路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯..... 89
警告メッセージ..... 121
エンジン油圧異常..... 676
トランスミッション異常..... 682
ブレーキ性能低下..... 677
けん引..... 690
減速セレクター..... 355

コ

交換
後退灯電球..... 624
後面方向指示器/後面非常点滅表示灯電球..... 624
車外ドアハンドルランプ電球..... 624
制動灯電球..... 624
前面方向指示器/前面非常点滅表示灯電球..... 623
側面方向指示器/側面非常点滅表示灯電球..... 623
デイタイムランニングライト/車幅灯電球..... 623
ハイマウントストップランプ電球..... 624
番号灯電球..... 624
尾灯電球..... 624
ヒューズ..... 683
ヘッドライト電球..... 623
ワイパーブレードラバー..... 625
工具..... 648
降車時車両接近警報..... 446
高精度地図/全球測位衛星システムGNSS(Global Navigation Satellite System)..... 543
航続可能距離..... 112
後退出庫サポート..... 570
高電圧バッテリー残量計..... 103
高電圧バッテリーの特性..... 373
後面方向指示器/後面非常点滅表示灯..... 624
コートフック..... 198
コンビニフック..... 198

サ

サイドエアバッグ..... 52
サイドカーテンエアバッグ..... 55
サングラスボックス..... 200

シ

シートの調節..... 182
アームレスト..... 191
フロントシート..... 182
ヘッドレスト..... 188
リヤシート..... 186

シートヒーター..... 207, 208
シートベルト..... 39
アンカーポイント..... 45
シートベルト使用状況表示..... 115
シートベルトの着用..... 42
シートベルトの点検..... 45
シートベルト非着用警告灯..... 40, 85
シートベルトプリテンショナー..... 41
シートベルトリマインダー..... 40
妊娠中のかたのシートベルト着用のしかた..... 44
シートベルト使用状況表示..... 115
時刻の設定..... 133
室内灯..... 192
指定燃料..... 611
シフト操作..... 350
シフトポジション表示灯..... 94
車外の清掃..... 641
車線維持支援システム(LKAS)..... 489
ACC/LKASシステム警告灯(オレンジ)..... 88
ACC/LKASシステム表示灯(ホワイト/グリーン)..... 97
車線維持支援システム(LKAS)警告灯(オレンジ)..... 89
車線維持支援システム(LKAS)表示灯(ホワイト/グリーン)..... 99
車線変更支援機能..... 522
車線変更時衝突抑制機能..... 438
車速/経過時間..... 113
ジャッキ..... 663
車内の清掃..... 638
車幅灯..... 164, 623
車両接近通報装置..... 358
車両データの記録について..... 32
ジャンプスタート..... 670
渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)..... 456
ACC/LKASシステム警告灯(オレンジ)..... 88
ACC/LKASシステム表示灯(ホワイト/グリーン)..... 97
渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)警告灯(オレンジ)..... 88
渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)表示灯(ホワイト/グリーン)..... 97
渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)設定車速表示..... 105
収納装備品..... 194
瞬間燃費表示..... 112
仕様..... 697
衝撃感知ドアロック解除システム..... 150
衝突軽減ブレーキ(CMBS)..... 384
商標..... 334
ショルダーアンカー..... 43
親水ミラー..... 644

ス

スイッチ
POWERスイッチ..... 161
ドアミラー..... 179
パーキングブレーキスイッチ..... 550
ライトスイッチ..... 164
リヤデフロスタースイッチ..... 174
ワイパー/ウォッシャー..... 172
ステアリング..... 177
スノータイヤ..... 632
スパークプラグ..... 697
スピードメーター..... 102

セ

清掃..... 638
制動灯..... 624
セキュリティシステム..... 155
イモビライザーシステム..... 155
セキュリティアラームシステム..... 155
先行車発進お知らせ機能..... 530
センターコンソールボックス..... 195
前方交差車両警報..... 409

ソ

側面方向指示器/側面非常点滅表示灯..... 623
ソナーセンサー..... 549
ソフトウェア..... 698

タ

タイヤ 628
ウェアインジケーター 629
指定空気圧 697
タイヤの点検 628
タイヤのローテーション 631
タイヤパンク応急修理キット 650
冬期のタイヤ 632
パンク 650

チ

チャイルドシート 62
ジュニアシート 77
乳児のチャイルドシート 63
幼児のチャイルドシート 64
チャイルドプルーフ 149
駐停車操作 563

テ

停止表示板入れ 200
ディスプレイオーディオ 221
Android Auto™ 268
Apple CarPlay 264
Bluetooth®オーディオを聴く 258
Googleアプリおよびサービス 275
Honda Total Care 261
USBデバイスによる音楽/ビデオ再生について 254
Wi-Fi接続 262
明るさやコントラストを調整する 240
エクスペリエンスセレクションダイヤルを設定する 306
エラーメッセージ 326
オープンソースライセンスについて 332
音質を調整する 239
交通情報を聞く 246
再生ソースの切り替え 237
システムアップデート 241
商標、使用許諾について 334
情報 327
初期化 311
設定 285
ディスプレイオーディオ画面 230
テレビを観る 247
時計設定 238
パワーフロー 272
ハンズフリーテレホンについて 313
プロファイル設定 283
ユーザー情報 279
有線接続による音楽再生 251
ラジオを聴く 243
デイタイムランニングライト 166
データの取り扱いについて 32
デフロスター 213
リヤデフロスター 174
点火プラグ 697
電子制御パーキングブレーキ 550
電子制御ブレーキアシスト 561
電池交換 633

ト

ドアの施錠と解錠 135
解錠してもドアが開かない 29
キー閉じ込み防止装置 145
キーナンバータグ 136
キーの種類と機能 135
キーレスエントリー 143
後席ドアが開かない 29
車外でのドアの施錠/解錠 138
車内での施錠/解錠 147
衝撃感知ドアロック解除システム 150
チャイルドプルーフ 149
ドアハンドル 138, 147
ドアミラー 179
冬期のタイヤ 632
スノータイヤ 632
時計 133
ドライバー異常時対応システム 540
ドライバーズサイドポケット 194
ドライバー注意力モニター 450, 454
ドライバーモニタリングカメラ 544
ドライバーモニタリングカメラ警告灯（オレンジ） 92

ドライビングポジションシステム 175
ドライブモードスイッチ 359
トラフィックジャムアシスト(渋滞運転支援機能) 503
トラブルサポート 695
トラブルシューティング
パンクした 650
12Vバッテリーがあがったとき 670
アクセルペダルを踏んでもパーキングブレーキが自動で解除できない 30
運転席ドアを開けるとブザーが鳴る 30
オーバーヒートした 673
解錠してもドアが開かない 29
警告灯が点灯/点滅した 676
けん引してもらいたい 690
後席ドアが開かない 29
走行するとブザーが鳴る 30
パーキングブレーキスイッチを押してもパーキングブレーキが解除できない 30
パワーシステムが起動しない 665
パンクした 650
ヒューズが切れた 683
ブレーキを踏むと音がする 31
ブレーキを踏むと振動する 29
トランク
トランクオープナー 153
トランクが開かないとき 692
トランクの開閉 152
トランスミッション 349
トランスミッション警告灯 85, 682
トランスミッションフルード 697
トリップメーター 111
ドリンクホルダー 196

ナ

ナビゲーション 115
ナビゲーションシステムの現在地について 333

ニ

ニーエアバッグ 49

ネ

燃料 611
指定燃料 697
燃料計 102
燃料残量警告灯 86

ハ

パーキングセンサーシステム 565
パーキングパイロット 587
排気ガスの危険性 79
ハイビーム 165
電球の交換 623
ハイビーム表示灯 93
ハイマウントストップランプ 624
ハザードスイッチ ..... **表紙ウラ**
バッテリー
12Vバッテリーがあがったとき 670
12Vバッテリー充電警告灯 84, 677
容量 697
バニティミラー 3
パワーウィンドーの開閉 157
パワーシステム警告灯 84
パワーシステムの起動 342
12Vバッテリーがあがったとき 670
パワーシステムが起動しない 665
パワーフロー 109
パワーモード
パワーモードオートオフ機能 161
パワーモード警告ブザー 161
パワーモードの切り換えかた 161
パンク 650
番号灯 624
ハンズオフ機能付高度車線内運転支援機能 512
ハンズフリーテレホン 313
携帯電話の接続設定 313
電話中の設定 325
電話を受ける 324
電話をかける 322
ハンズフリーテレホン画面 317
よく使う項目を登録する 320
ハンドル 177

ハンドル位置調整レバー..... 177

ヒ

ビークルスタビリティアシスト(VSA)..... 366
ヒーテッドドアミラー..... 174
非常信号灯..... 649
非常点滅表示灯スイッチ..... **表紙ウラ**
尾灯..... 624
ヒューズ..... 683
ヒューズの設置場所..... 683
ヒューズの点検と交換..... 687
標識認識機能..... 534
標識認識機能表示..... 104
表示設定..... 120
表示灯..... 93
ACC/LKASシステム表示灯(ホワイト/グリーン)..... 97
AUTOモード表示灯..... 95
CHARGEモード表示灯..... 95
COMFORTモード表示灯..... 95
ECONモード表示灯..... 95
EV表示灯..... 95
EVモード表示灯..... 95
INDIVIDUALモード表示灯..... 95
NORMALモード表示灯..... 95
READY表示灯..... 95
SPORTモード表示灯..... 95
アダプティブドライビングビーム表示灯.. 93
安全支援情報表示灯(グリーン/グレー).. 101
イモビライザーシステム表示灯..... 94
インフォメーション表示灯..... 96
オートマチックブレーキホールドシステム表示灯..... 96
オートマチックブレーキホールド表示灯.. 96
急アクセル抑制機能表示灯..... 93
クルーズコントロール/LKASシステム表示灯(ホワイト/グリーン)..... 100
クルーズコントロール表示灯(ホワイト/グリーン)..... 100
減速セレクター表示灯..... 94
シフトポジション表示灯..... 94
車間距離設定表示灯..... 98
車線維持支援システム(LKAS)表示灯(ホワイト/グリーン)..... 99
車線変更支援機能表示灯(ホワイト/グリーン)..... 99
渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)表示灯(ホワイト/グリーン)..... 97
衝突軽減ブレー キ(CMBS)表示灯(グレー)..... 100
ステアリングアシスト表示灯(ホワイト/グリーン/ブルー)..... 98
セキュリティアラームシステム作動表示灯..... 94
ドライバーモニタリングカメラ表示灯(グレー)..... 101
ハイビーム表示灯..... 93
ハンズオフ機能付高度車線内運転支援機能表示灯(ホワイト/グリーン/ブルー)..... 98
方向指示器/非常点滅表示灯..... 93
ライト点灯表示灯..... 93
レコメンド型車線変更支援機能表示灯(ホワイト/グリーン)..... 99
路外逸脱抑制機能表示灯(グレー)..... 100

フ

ブースターケーブル..... 670
ブザー
運転席ドアを開けるとブザーが鳴る..... 30
走行するとブザーが鳴る..... 30
踏み間違い衝突軽減システム..... 398
フューエルリッドの開けかた..... 611
フューエルリッドが解錠できないとき.... 691
ブラインドスポットインフォメーション.... 369
プラズマクラスター..... 216

ブレーキシステム 550
ABS(アンチロックブレーキシステム) 559
アクセルペダルを踏んでもパーキング ブレーキが自動で解除できない 30
エマージェンシーストップシグナル 562
オートマチックブレーキホールド 555
警告メッセージ 677
電子制御パーキングブレーキ 550
電子制御ブレーキアシスト 561
パーキングブレーキスイッチを押しても パーキングブレーキが解除できない 30
フットブレーキ 554
ブレーキ警告灯(レッド) 83, 679, 681
ブレーキシステム警告灯 (オレンジ) 84, 681
ブレーキを踏むと音がする 31
ブレーキを踏むと振動する 29
ブレーキフルード 697
ブレーキ警告灯(レッド) 83, 679
ブレーキシステム警告灯(オレンジ) 84
フロントシート 182
アームレスト 191
シートヒーター 207
フロントシートヘッドレスト 188
フロントセンサーカメラ 545

へ

平均車速表示 114
平均燃費表示 112
ヘッドアップディスプレイ 122
ヘッドライト 164, 165, 643
アダプティブドライビングビーム 169
電球の交換 623
ハイビーム表示灯 93
ライト点灯表示灯 93
ヘッドレスト
フロントシート 188

ホ

方向指示器(ウィンカー)
方向指示器/非常点滅表示灯 93, 163
ホーンスイッチ 1
歩行者事故低減ステアリング 430
ポップアップフードシステム 59
ホンダセンシング360 374

マ

マスタードアロックスイッチ 148
マップランプ 193
マルチインフォメーションディスプレイ 106
表示の切り換えかた 106
マルチビューカメラシステム 574

ミ

ミラー 178
自動式防眩ミラー 178
ドアミラー 179
バニティミラー 3
ルームミラー 178

メ

メーター 102
アンビエントメーター 103
外気温表示 104
高電圧バッテリー残量計 103
渋滞追従機能付アダプティブクルーズ コントロール(ACC)設定車速表示 105
スピードメーター 102
チャージメーター表示(CHARGE)/ 減速度表示(DECEL) 103
燃料計 102
標識認識機能表示 104
マルチインフォメーション ディスプレイ 106
メモリーボタン 176
メンテナンス 614
Hondaスマートキー 633
エアコンのお手入れ 636
清掃 638
タイヤの点検と整備 628
ボンネット内のメンテナンス 618

メンテナンスに関する注意事項..... 617
メンテナンスを安全に行うために 616
ライト類の点検と整備 623
ワイパーブレードラバーの点検と整備.... 625

モ

モーションマネージメントシステム..... 368

ラ

ライトスイッチ 164
アダプティブドライビングビーム 169
ハイビーム表示灯 93
ライト点灯表示灯 93
ライト類の点検と整備 623
制動灯電球..... 624
前面方向指示器/前面非常点滅表示灯 電球 623
側面方向指示器/側面非常点滅表示灯 電球 623
デイタイムランニングライト/車幅灯 電球 623
ハイマウントストップランプ電球 624
番号灯電球..... 624
尾灯電球 624
ヘッドライト電球 623
ラジエーター..... 673

リ

リアシートリマインダー 187
リザーブタンク 675
リムサイズ..... 697
リヤシートヒーター 208
リヤシート..... 186
アームレスト 191
リヤデフロスタースイッチ..... 174
リヤドアサンシェード..... 201

ル

ルームミラー 178

レ

冷却水..... 675
オーバーヒート 673
補給..... 675
レーダーセンサー..... 547
レコメンド型車線変更支援機能..... 515

ロ

ロービーム..... 164
電球の交換 623
路外逸脱制御機能警告灯(オレンジ) 89
路外逸脱抑制機能..... 421
路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止 警告灯..... 89
路外逸脱抑制機能表示灯(グレー) 100

ワ

ワイパー/ウォッシャー..... 172
ワイパーブレードラバー..... 625
ワイヤレス充電器 203

お車についてのお問い合わせ、ご相談は、まずHonda販売店にお気軽にご相談ください。
下記アドレスより最新のHonda販売店を検索することが可能です。
Hondaホームページ　https://www.honda.co.jp
（Hondaホームページにある検索ボックスに『販売店』と入力してください）

携帯電話からは、携帯電話用Hondaホームページをご覧ください。
https://shopsearch.honda.co.jp/auto/area/
※：QRコード読み取り機能付きの携帯電話をお持ちの場合は、右のQRコードをご利用ください。
ご利用にあたっては、お持ちの携帯電話取扱説明書をご確認ください。
QRコードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。

お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記のお客様相談センターでもお受け致します。

本田技研工業株式会社　お客様相談センター

フリーダイヤル　0120-112010（イイフレアイオ）

受付時間　9:00～12:00　13:00～17:00

電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

お車に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速に対応させていただくために、あらかじめ、お手元にお車の車検証をご準備いただき、下記の事項をご確認のうえ、ご相談ください。

① 車検証記載事項：車両型式、車台番号、原動機の型式、登録番号、登録年月日
② 車種名、タイプ名、走行距離　③ ご購入年月日　④ 販売店名